

た

だ【助動詞】 1) 文末に有って強調を表す 行くダ (行きますよ) 来んダ (来ますよ) (南) 2) 断定を表す (志、鳥、多、名)

たあ【名詞】 田 (志摩市全域、鳥、員、三、鈴市、鈴郡、安、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、北、南、熊) [会話] タア。たんぼの稲の根、ぐんぐん伸びるたんぼ。タア言うて タアだけ言う時や (は) タア言うて。田の草 (除草) の時は たの草言うて (言います)。タア刈り タア植え言うて。

だあ【感動詞】 どうれ。人に物事を請求する時などに言う語。(志) [会話] ダアまあ言うてなあ。これええ (呼び掛けの語。これこれ) 言うて言うのを、ダア言うねなあ (言うのです)。だれえまあ言うて、だい (どれ) 言うのをなあ だれえまあ言うて。見せて呉れまあ だい (どれ)。だれええ 見せえまあ (見せなさい) とかなあ。だれえ言わんと (言わずに) ダア、ダア言う。ダア なとしとんねえど (何して居るのですか)。

だあ【名詞】 汚れている事。不格好な事。だらし無い事。[会話] わがた (自分)は、ダア みたいん (のような) しておって (居ながら)、人のした事 汚ながんの (がるのを) だめなへんじん。ダア みたよん (ように) しとる (している) 言うな (のは)、だらし無い事を、汚れたきもん (着物) 着たり、しょびたれた (貧乏くさい) みたいな (ような) ふう (格好) しとると (していると) ダアや (だ)。

…**だあ【接尾語】** です (志)

たあい【名詞】 正体。手応え。たわい [会話] あや まあ (彼は) しょお (根性) な (が) 無い、タアイも無いよおな にげや (人間だ)。

たあいない。たあいねえ 手応えがない いとも簡単だ たあい参照

たあうえ【名詞】 田植。水田に稲の苗を植えること。(鈴市、張、伊、北) [会話] わしらげや (私の家は) みずたで (水田、水が多くて)、タアウエ しょお言うても、雨な (が) 降ると 植えられやせん (植えられません)。

たあかき (田播)【名詞】 田植え前に田の土をならす事

たあかく 田植え前に田の表面をならす

たあかり (田刈り)【名詞】 稲刈り (志、員、桑郡、三、鈴市、安、北) [会話] 稲刈り、タアカリ 言うね (のです)。

たあきりかぶ【名詞】 稲の刈ったあと、稲株 [会話] 株は畑の、木の株やら (とか)、タアキリカブ (田の切り株)、切り株やなあ (です)。

たあくら【名詞】【数詞】 二度。ふたくら。ふたくらの前の子音が消えて、た、が、二拍化した (志) [会話] ふたあくら (二度) 言うの (のを) タアクラ、とおくら (一度) タアクラ言うにげ (人) な (が) 有るやんかい (有ります)。ひとつくら (一度) 言うのを とおくら言う人な、そして 二つ言うのを たあつ言うにげ な あんね (有るので)。

たあご (たご) (担桶)【名詞】 担い桶。水や肥などを入れて担う桶。たごおけ、肥え桶。(志) [会話] たご 言や (言えば) ええのん (よいのに) タアゴ言うてなあ。たご 持てこい (持って来い) 言わへんけど (言わないが)、タアゴ持て来い 引っ張らんで (なくて) ええ (よい) 時や 引っ張んのなし (引っ張るのですし)。

たあし (たわし、たはし)【名詞】 束子。たわし。藁や棕櫚の毛などを束ねて作り、器物をこすって洗う道具。(志 (志島 国府)、鳥 (国崎、答志)) [会話] 束子を タアシ言うんやろなあ (のでしょう)。タアシ言うにげ (人) な (が) あんねてや (有るので)。

だあだあ【形容詞】【副詞】 大量に水が流れる様 転じて、浪費する時にも使う (志 (布施田))

たあつ【数詞】 二つ (志 (布施田)、鈴市、南) [会話] とおつ (一つ)、タアツ 言うてな。一つ、二つ言や (言えば) ええよおなもんやけど (よいようなものだが)、とおつ、タアツ言う にげ (人間) な (が) 有るやんかい (有ります)。

たあど (田人)【名詞】 田の仕事を手伝って呉れる人。(志 (布施田)) [会話] たあ (田) の てつたいん (手伝いに) 来てくれると、タアドな (が) 来てくれて言うて。タアド たのどて (頼んでいて) 言うて。

たあなねてた 稲が風などで倒れた [会話] タアナネテタ、起しん (に) いかな (行かなければ) はざ

ん (いけない) 言うて。

たあのぼん【名詞】 稲が稔る頃、雀などを追いに行く役目。見張り。

たあのむし(田虫)【名詞】 蝻虫、螟虫。昆虫類のうち主として蛾の幼虫で、草木の茎、柄の内部に喰い込むものの総称。にかめいちゅう。稲の蝻虫、にかめいがの幼虫。稲の葉鞘や茎の内部を喰う虫。[会話] タアノムシ 言うて うんかも 有るしなあ (有ります)。それから はあ(葉) 喰う(食べる) がつたぎ(蝗) もやし(ですし)、せこがこも皆 稲 喰たるけど(食べてやるが)。羽虫のこお(子) わいて(発生して)、油引いといて(ておいて) かりおったやんかい(狩る、拂いました)。藁を 皆 虫な(が) くだんの(食べてしまうのです)。ちっちゃあい(小さい) 虫な(が) おってなあ。羽虫な(が) わいて(発生して) かりん(に) 行くね(行くのだ) 言うてなあ。竹の筒い(へ) 石油入れてなあ、ほいで(それで) ぼとんぼとんと一人落ちてくと(行くと) 一人後から 笹のはあ(葉) で かってくと(行くと) 羽虫な(が) 水い(へ) 落ちると、油な(が) 浮いとる(て居る) もんで(ので) 死んでくの(行くのです)。そんにして(そんにして) 取りおったなあ(取って居ました)。

たあぶしん【名詞】 田の修理 [会話] 畑を なおしたり(修理したり)、たあ(田) をなおしたり すると、畑普請や(とか) タアブシンや 言うて。

だあべえ【名詞】 だらしな人

だあや【形容詞】 1) だらしな事。2) ぐったり。末語“や”は、だ、ですを表す [会話] 1) だらしな事。だめない(駄目な) 人を、あや ダアヤなあ(だ) 言うて(言います)。汚のお(汚く) したり(して居たり)。だべそや(だ) 言うてなあ。だべそ言うのも 一緒の意味や(です)。一緒やけどなあ(ですが) それい(それへ) こお(粉) 付け 餡付け いろいろ言うて ダアヤてやら(とか) だべそやてやらなあ(とか)、だらしないてやら 皆 一緒やわい(です)。だらしな事 あっっちゃ言いこっちゃ言い(あ、言いこう言い) あげん(あんなに) 言い こげん(こんなに) 言いすんの(するのです)。2) 疲れてぐったりしとる(して居る) 時は くだばつとられ(て居る) くだばつて ダアヤやれ 言うね(言うのです)。

たあら(たわら、たはら) だあら【名詞】 俵、米ダア

ラ。(志(立神、甲賀、国府)、鳥(鳥羽 坂手)、伊、桑市、桑郡、員、鈴市、一、松、度、尾、南) [会話] タアラ言うて、籾ダアラ、米ダアラ、麦ダアラなあ(です)。切り干しの タアラとか。昔や(は) 皆 タアラに 詰めよったもんで(て居たので)、てぐさ(天草) でも 蓆のおといて(編んでおいて)、てぐさは 乾かして そして(そうして) 足で 踏み込んで、てぐさの丸や(だ)。てぐさは まる言うけどなあ(言います)。そんでも(それでも) 皆 タアラに詰めて、なあ(縄) で縛って うくり(送り) おったの(居たのです)。米やどき(など) 入れるのは 藁でなあ きちんと(丁寧に) 編んでなあ 二重タアラにしてなあ、米な(が) 漏れんよおに 裏側と内側となあ 二重に米は しょったなあ(して居ました)。タアラが済んでたや(流行しなくなったら) こんだ(今度は) 吠になってなあ まあ 今しゃ(今は) かんぶくろ(紙袋) 紙の袋になつたり ナイロン袋になつたりなあ。昔や(は) タアラ ゆう(くる) のんのお(のに) ふたあり(二人) が両方で引っ張って 足で ぼんぼんと 蹴つといて(ておいて) あれしのかかった(しぬくかった)。あや(あれは) 相手な(が) 無いと 一人でなあ ころばかしといて(転がしておいて) ぼんぼんと蹴って、そして あっっちゃ(あちら側) へ くるくるとして縛って しめえおったの(締めて居たのです)。いつとこ(五カ所) ゆいおったもんなあ(結んで居ました) 米は ほかんのは(他の物は) みいとこ(三カ所) なあ(です)。一番(初めに) 真ん申しといて(しておいて)。真ん中と みいとこ(三カ所) すんねけど(するのですが)、米はなあ いつとこ(五カ所) 縛りおったの(くくって居ました)。ふたあり(二人) ですると 楽なんけどなあ(楽なのですが) 両方持つとて(持って居て) 足で ふたんな(二人が) 蹴りもして 締めて 一人で 持つとると(て居ると) こやつて(こうして) 十文字にして 一人で ぼんぼんと蹴って すね(膝) で蹴ったり 足で 蹴ったり あれすんの(するのは) しのかかった(しぬくかった)。

たあらゆう(俵結) 俵を縛る 俵をくる [会話] たあら(俵) をなあ、からげん(くる) のを、ユウ言うの(のです)。みいとこつなあ(三ヶ所づつ) 二人で あっっちゃして(あちらして)、足で蹴りやう(合う) のを、タアラユウ言うの(のです)、

てつとて(手伝って) くれ(下さい) 言うてな、ころばかして(転ろがして) 足で たっかい(高い) とこ(所) 蹴りすると しまつてくの(しまつて行くのです)。二人で、あつちや(あちら) から蹴り こつちや(こちら) から 蹴りすると、どいらい(大変) よお(よく) 締まるけど(が)、一人ですると こつちや から 引っ張といて(ておいて) しても 弛るめたて(てしまつて) なかなか 出来やへんの(出来ないのです)。灰、入れて、たあら(俵) しても(くくつても) ゆうてかぶるは はいだあら言うて。灰だあら しばると、一杯 灰かぶるもんで(ので) ゆうてかぶるはいだあら 言うて、なんか(何か) いなん(要らぬ) 事言うとお前 言うたやんか(言つたでないか) 言うて 罪かぶんの(るのを)、そいなのおをな(そんなのを) 言うて かぶるは はいだあら言うて。たあら も蹴つてするもんで わがと(自分が) 皆 かぶる やんない(でしょう) 灰な(が) ぱつぱつとすると。それを譬えてなあ言うてあんの(言つて有るので) もの言う 言うのと タアラユウのと、人のいなん(要らぬ) 事言うて 尻もろたり(不足貰つたり) するやんない(でしょう)、それを、ゆうてかぶるは はいだあらや(だ) 言うね(言うのです)。

たあり【名詞】 二人(志(布施田))

たある【名詞】 樽(志、北) [会話] 樽の事を タアル言うね(言うのです)。結婚式ん(に) タアル入れたね(のだ)、タアルいれ やてな(だそうだ) 言うてな。サカダアル言うて さかだる言や(言えは) ええよおなもんやけど(よいのに)。

たあるいれる 婚約が整い、樽入れをする。正式の夫婦と認められる。たるいれ参照

たあるしめす 酒を飲む事を言う

だあれも 誰も、だれ、誰、古くは、たれ、だれは近世以降、不定称人代名詞。名を知らない人や、不定の人をさして言う。だれもの形で下に打消しの語を伴う。“も” 不定を表す語について全面肯定、全面否定を表す。極端な事物を提示し強調を表す。詠嘆、感動の意を表す。下に否定の語を伴い、打消しの意を強める。[会話] ダアレモ おらせん(居ない) 言うのも言うしなあ(言いますし)。ほいて(そうして) だれんも おらせん、言うたりのお(言うのです)。だれんも おらざつた(居なかつた) 言うな(のは) よお(よく) 言うのお(言います)。だ

れんも言うのな(が) 多いなあ(です)。あの家いたけど(行ったが) だれんも おらんで(居なくて) 言うて、よお言うねてや(言うのです)。ダアレモ言うのは あんまり(あまり) 使わせん(使いません) だれんも 言うな(のが) 多いなあ。

たあん 下さい [会話] 下さい言うのを、俺も一つタアン 言うてなあ、おなが(女は) 言わせんけど(言はないが) 男らな(が) タアン言うてな。

だい【名詞】 1) 代、一代、一世、親の代。2) 言語の初めについて、どれどれ。3) 踏み台。物を乗せる平たいもの。(志(国府、布施田)、鳥(国崎)) 4) 大、物の形が大きいもの。5) 場所、屋敷から変化したか 第 6) 誰(志、鳥、阿、張、度、北、尾、南、熊) [会話] 2) ダイマア 言うてなあ、だれまあとか、ダイマア言うてなあ。男の人ら(人達)に 言うのは ダイマア言うのなし(言うのですし)、おなご(女)の人らに 言うなあ(のは) だれまあ。ダイマア言うのは 丁寧な言葉でだれまあ言うのは ちよいとなあ(少し) だだくさな 言葉や。目上の人にやなあ(には) ダイマア言わな(なければ)、だれえ言う事は わいと(自分)より目下のもん(者)に 言う言葉や(です)。ダイマアエ 言うのは 丁寧な言葉で だれえまあ言うのは ちよいと(少し) ぞおらく(粗雑)な言葉や。1) ダイ、言うな(のは) 親のダイや(だ)、兄貴のダイや言うて 代代のダイ。物も ダイ言うしなあ、2) ダイ言うて ちよいと(少し) 見せて呉れ 言うよおな時ん(に) ダイマア ちよいと 見せてくれ(下さい) 言うしなあ(言いますが)。だだくさに言うとお ダイ 見せえまあ(見せなさい) 言うてなあ、ざつば(雑把、しまりが無い)言葉なあ(です)。3) どこやかや(何処かへ) 登んのん(るのに) ダイ持て来いまあ(持って来なさい) 言うて、踏みダイの事なあ(を)。今し(今) あげぞこ(上げ底) 言うけど(けれど) なんやかや お菓子や(とか) なんやかやの下に ちよいと 入つとる(て居る) 底 あれも ダイやわい(です)。荒布や もお(藁) かずいて(獲つて) 積むのもなあ ダイ。ダイにそや(それ) きい(木) も やつたり(しておいて) 表藁もやつたり(敷いたり) しとり(湿気) な(が) こんよお(来ないように) 木でダイ 組んで 荒布のダイに しよおやんか(しましよう) 言うて。その時は 下い(へ) 敷く しきもん。しきもん(敷物) 下へ しいて それ しゆら

あげるのをなあ ダイ。しゅら 言うのは ダイの事を言うんやわい(言うのです)。しゅらあげる言うのは ちよいと 隙間を開けるの(のです)。隙間開けて しとかんと (しておかないと) すぐにびたびたになって 湿気な (が) あがる 言う訳や(事です)。そんで (それで) 下い (へ) しゅらあげて言うて。そすと 積むと にえじたな (が) 出来やせんのなあ (出来ないのです)。しゅらあげて しとくと (しておくと)。にえじた 言うななあ (言うのは) ぼおし (積み上げた物) の下の 一番下をなあ (下です)。しっかりと 締つとるやんな (締って居るでしょう)。そやよつて (だから) にえじた 娘の子ん (に) 呉れ (やれ) 言うて 昔の人らな (が)。しっかりと締つとるもんで (ので) こやつて (こうして) ほぐすと 一杯になるやんな (でしょう)。よっけ (ようけ、沢山) になるもんで (ので)、にえじた 娘の子ん (に) 呉れ (やれ) 言うて、昔の諺 (いいぐさ、例え) や (です)。にえじた 娘の子に呉れ 言う時は、かさ (容積) は 一緒みたいこ (のよう)に しとでも (して居ても) 芯ごと (内から) 締つとるもんで (て居るので) 下はよけ (沢山) 有るもんで 上面は締つとらへんもんで (て居ないので) かさ (容積) は よけ (沢山) 有るよおに しておつて (して居て、見えて) 少ないんやんか (のです)。そすと ちよいと でおつて (少しで有りながら) にえじたは よけ有るもんで。そんで (それで) にえじたは かわい (可愛) もんで 娘の子ん (に) 呉れ (やりなさい) 言うて、なんでもな (何でも) にえじた 娘の子ん (に) くれよお (やりなさい) 言うて。此の時 湿気な (が) 上って腐つてくの (行くの) 防ぐ びたつとすると 土から 真水 (マミズ) も上るし 徴な (が) わいたよおに してくんねてや (来るのです)。にえじたは そやもんで (それで) にえじた こさえまい (作らない) 言うて しゅらあげて ダイやつて。

だいいち (第一) 【名詞】 元来、元々、一番始め、まづもつて、他の事は別として。[会話] ダイイチに まあ そやれ (それ) 言うて、一番に 一番の事。一番に 始めにする事なあ (です)。ダイイチに それを 先にせな (しなれば) 言うてなあ。仕事始めにする事をダイイチに。其れから先にせえまあ (しなさい) 言うて、よお言うやんかい (よく言います)。ダイイチ お前な (が) ええやら (良い

か) わり (悪い) やら (とか) そいな (そんな) 事も使う。喧嘩しとると (して居ると) ダイチあんな (貴方が) わりいんやんか (悪いのだ) 言うな あ (言います)。なんでも (何でも) 仕事したりする時なあ (に) ダイイチそれから先い (に) して、始めやな (なければ) はざんわれ (駄目だ) とか、一番にする事を だいを付けて。

だいいおじょう (だいいおうじょう、だいいわうじょう)

【名詞】 大往生 立派に死ぬ事 安らかに死ぬ事

たいがい (大概) 【副詞】 1) 大略、概略、あらまし、殆んど、大部分、ある程度、適当な加減、ほどほど、一般的で有る事。ありふれて居る事。ふつう、たいてい、すっかり、いかげん、目分量。(志 (浜島 布施田)、鳥、松、阿、張、伊、南、熊) 2) 普通でない事。はなはだしい事。ひととおりでない事、又そのさま。(志 (鶴方、神明、志島、阿) [会話] 1) タイガイ言うのは おおかた言う事やなあ (です)。けんと (見当) で まあなあ。言うて、目分量でなあ タイガイ 此の位あんなあ (有ります) 言うて 目分量つける事を タイガイ言うなあ (言います)。タイガイ タイガイしとかんかれ (しておきなさい) 言うてなあ 大体言う事や (です)。

たいがいに 【副詞】 1) 大体 2) 程程に いい加減に (志、鳥、松、張、伊、南、熊) 3) 多分 (志、阿、張、名) [会話] 1) たいがい、あんな (彼の) 言うこた (事は) 嘘や (だ) 言うて、おおかた嘘や (だ) 言うのとな、2) 仕事でも、タイガイに しとけえ (しておきなさい) 言うて、いつ迄しとるとなあ (していると)、おしまいにせえ (しなさい) 言うのも、タイガイに せんかい (しなさい) 言うて。ほどほどに しとかんかい (しておきなさい) 言うね (言うのです)。最後までなあ いちがいに (一途に) しとらんと (していなくて) タイガイに しとかんかい、言うの (のです)。そして くどくと 喋つとると (していると) ま、タイガイに (に) しとけまあ (しておけ)、言うたよおな事ばつか (ばかり) 言わんと (言わずに) 言うてな。ま、その辺でやめとけ (やめておけ) 言うの。

たいがいやなあ。たいがいやのお 1) なんとなく非常識である。2) 大体その程度である事。[会話] 2) タイガイヤノオ 言う時は その位でええわな (よろしい) 言う事も有るし (有ります)、1) そして (そうして) なんやら (何か) 意地の悪い事したり こんじよ (根性) の悪い (悪い) 事 言うた

りすると タイガイヤナア 言う場合も有るしなあ。
2) そすとまあ あんまり (あまり) しちくどお (うるさく) したり、なあごお (長く) したりすると
まあ たいがい しときやええのん 言うて。1) 常識ない言う時も 使うしなあ (使います)。

だいがさ (台傘) 【名詞】 傘袋に納めた大きな傘。葬式の時、主導師に覆ぶせる赤い色の大きな傘。タテカサ (立傘) の訛りか、タテガサ 長柄の傘をすぼめて袋に入れた物 貴人の行列に立てて持つ (志 (布施田)、度 (小俣)) [会話] 葬式の おりんなあ (時に)、和尚さんに 覆ぶせん (せるのを) ダイガサ。

だいから 【副詞】 ねつから、全く、初めから だい、台参照 [会話] ダイカラ 話しにならん (ならない)。最初から話しにならん、言う事を 言うのな あ (言うのです)。だいで お前な (が) わりいん (悪い) やんか (のだ) とか、言うの (言うのです)。だいで まあ お前な (が) 間違とる (て居る) やんかい (です) とか お前な (が) 始め 言い出しやんかい とか、そいな (そんな) 時んなあ (に)。ダイカラ。だいで お前な (が) わりんやわい (悪いのだ) 言うてなあ 一番わりね (悪いのだ) 言う事を。

だいがわり (だいがはり) (代替) 【名詞】 その家の主人の代が替る事。次の世代に家計を引き渡す事。[会話] ダイガワリした言うて、しんしょもちな (世帯主が) それ譲る やんない (でしょう) そすと (すると) 代な (が) 替ったよつて (から) 言うてな。爺やんな (が) 兄貴にしんしょ (身上) 渡した言うて 世な (が) 変わったんよつてん (のだから) 俺は なんも (少しも) 言わせんどお (言はないぞ) 言うてな、代な (が) 替れば世な (が) 変わる言うてな。

たいき (大気) 【形容詞】 さっぱりした性質、性格気が大きい 心が大きい 大胆である [会話] あのひた (人は) 心な (が) ひろおて (広くて) タイキや (だ) 言うなあ (言います)。気な (が) おつきいて (大きくて)、大胆で言うなあ (言います)。あのひた (人は) タイキで どいな (どんな) 事でも ぼんぼん 言うて、気な (が) おつきいなあ (大きいです)。そいな (そんな) 時ん (に) タイキや (だ) 言うの (のです)。

たいぎ (大儀) 【形容詞】 1) 手間が掛って面倒な事。骨の折れる事、又そのさま。2) くだびれてだるい

事。何をするにもおつくなさま。3) 他人の苦勞をねぎらう語。4) 沢山の費用のかかる事、又そのさま。[会話] 3) タイギで 御座った言うて、時代 もんで (物で) 言うて来るやんかい (来るで有りませんか)。2) タイギタイギ 言うてなあ。あゝえらかった (大変だった) 言う事や (です)。大変やつた (だった) 言う事やなあ (です)。1) えらい (疲れた) 言う事を 大変やなあ (だ) 言うて オオタイギで御座った言うてなあ 年寄の人ら (老人) 言うて来るやんかいなあ (来ます)。よけ (多く) 骨折った時んなあ (に)。えらかつと (疲れると)、あゝ オオタイギで御座った言うてなあ、仕事よけ (多く) した後とか言う時ん (に)、時々使うなあ (使います)。オオタイギ ものすごお (ものすごく) 仕事した時に オオタイギやつた 言うて。

たいきもん 【名詞】 気性のさっぱりしている者 大気者

たいぎやつたのお、たいぎやのお 大変でした 御苦勞様でした [会話] タイギヤノオ (です) 言うてな。えらかった (大変だった) 事をなあ。仕事をなあ えろお (大変) よけ (沢山) してもろてなあ (貰らつて)、タイギヤツタノオ 言うてな、今で言や (言へば) 御苦勞さん言うけど (が)、おおたまえらい (大変) 骨折らしてのお ほん (本当に) えらかったのお (大変でした) 言う訳やけどな あ (ですが)、それを オオタイギヤツタノオ 言うてな、えらかったのお、大変でした言う事をなあ タイギヤツタノオ 言うて。

だいきらい (大嫌) 【形容詞】 非常に嫌うさま。[会話] ほんどん (本当に) 嫌いや (だ) 言うのな (です)、ダイキライや (だ) 言うて。べつんも (特に) 嫌いなよん (ように) いやな人を、おおた、あのひた (人は) ダイキライや (だ)、すかん (好かぬ) 人やなあ (だ) 言うのを、おおた だい (大) 好かんわ 言うてなあ。どいらい (大変) 嫌いなのおを (のを)、おおた あのひた ダイキライやわなあ (だ) 顔も見たくないなあ (のです) そいな (そんな) 人は。

だいくあがり 【名詞】 大工が家を建て終ること、終つた後の祝宴 新築祝 (南、熊) [会話] 家、建ててなあ、終ると、ダイクアガリ もして みんな (皆) よおだ (招待した) 言うてな。家な (が) きまつて (建て終つて) 入る前ん (に) ダイクアガリ もして言うてな、大工さんよおで (呼んで) そして、親

れてして ヤキナマスや (だ) 言うて、うまかよおったね (美味かったのです)。塩のさいら も入れやへんと (ないと) うまない (旨くない)。さいら をなあ 塩したのおを (のを) 切って ナマスん (に) しとんの (しているのです) あれ入れやったら (なかつたら) ナマスな (が) ちよいと (少し) 頼りないの (のです)、気な (が) 抜けたよん (ように) しとんの (しているのです)。さいらのなあ 塩したのおをなあ 骨、抜いといて (ておいて) 塩水い (へ) つけといてなあ (浸して) すると、背中な (が) あおお (青く) きいんと ひかんね (光るのです)、さとす (砂糖酢) い (に) 漬けといて (浸しておいて)、そして、それ切つてなあ、ナマスい (に) 入れると うまいんてや (旨いのです) また、あんな (あれが) 入いっとなせんと (ていないと) うまない (旨くない)。昔や (は) よお (よく) あげ (油揚げ) や (だ) とか、蜜柑も入れてしよおったね (して居たのです) 串柿も入れてすると 旨いんけどな (旨いのです) みてびき 言うのは 刺身一皿と 煮付け一皿と ナマスと、そんで (それで) みてびき。みてびきで、ちよいと (少し) 御神酒 頂いた言うやんない (言うでしょう)。まあ 嫁もろた (貰った) よつて (から) みてびきも作つて言うて、みてびき作ると どいらいなあ (大変) 祝い事 はれんなんの (立派になるのです)。

だいこのきりづけ (大根切漬) 【名詞】大根を薄く切つて酢に浸したものを 塩漬けにしたもの。

たいこばし (太鼓橋) 【名詞】まん中が高く、半円形をした反橋。その形が太鼓の胴に似ている所から。【会話】タイコバシ てや (と言えよ) まるう (丸く) なつたの (のを)。朝熊の嶽い (へ) 行くとタイコバシな (が) 有つて、子供らな (が) 死ぬと嶽い (へ) 参いんのななあ (参るのにです)、そすと タイコバシな (が) 有つて 太鼓みたよん (のように)、まるう しとて (していて)

だいこばたけ (大根畑) 【名詞】大根畑。大根を作っている畑。【会話】だいこ (大根) な (が) 播いて有る畑、ダイコバタケ。冬至は だいこ 引くと (抜くと) すいすい なんどお (なるぞ) 言うて、だいこを、冬至に引くと、すう (鬆) な (が) たつてく (入つて行く) 言うて、そやよつて (だから) 冬至に だいこ 引くなよ (抜くな) 言うて。

だいこめし (大根飯) 【名詞】大根を入れて炊いた雑炊 (員、鈴木、松、度、伊) 【会話】ダイコメシ、

おじや。美味いんてや (のです)、葱入れて、おしんな (が)、ダイコメシ。味噌ですや (すれば)、美味いけどなあ (けれども)。ダイコメシも、なんも (なにも) せんと (せずに) しらだき みたよん (のように) おしんな (が) しとたやんかいなあ (していました)。だいこ (大根) 千切り、しといて (しておいて) 味噌で おじやん (に) して食うと 美味いんてや だいこの甘味ななあ (が)、そして蕎麦挽いて 蕎麦のうちこして それい (それへ) 入れると また美味いんてや (のです)。

だいこやくしゃ (大根役者) 【名詞】演技の下手な役者。大根はどのようにして食べてもあたらなところから、あたらな俳優を言った。【会話】下手なのおをなあ (のを) ダイコヤクシャ 言うてなあ。だいこ 言うて おめく (大声を出す、わめく) やんかいなあ (ます)、下手やとなあ (だど)。だいこ まあ すうとして ふし (節) も無いもんで (ので) 一本調子で、こおみ (香味) な (が) 無い 言うよおな事。こおみな (が) 無い言うのはなあ なんも (なんにも、少しも) 味もそつても無い 言うよおなのおやわい (のです)。ダイコヤクシャで なんも (少しも) こおみな (が) 無い。なんも (少しも) 色気付けん (ずに) 歌、歌とても (歌つても) 一本調子で ひとつも (全く) こぶしな (が) 廻らん言うてなあ 棒読み みたいん (のように) しとると (して居ると) なんも こおみな 無いなあ、声ばつか (ばかり) で こおみな 無い言うのなあ (のです) そいなのお (そんなのを)。

たいさん (大産) 【名詞】難産 [会話] どいらい (大変) 難儀な産 (出産) やわいなあ (です)、荒い産やわい (です) タイサンは。

だいさんざい (大散財) 【名詞】多くの金を使う事。多くの金品を用いて人にふるまう事。【会話】大振舞い すんのを (するのを) ダイサンザイ 言うやんかい (言います)。嫁どり (結婚式) したり、初午して 大祝いすんのを (するのを) おおぶるまいや (だ) 言うて、いよおつたやんかい (言っていたではありませんか)。

だいじ (大事) 【名詞】心配事 変わった事 気を付ける事

だいじ 大切に

だいじか (大事) 心配ない、差し支えない、よろしい。構わない。「か」は否定。だいじない参照 (志 (布施田)) 【会話】ダイジカ そいな事 (そんな事)

言うて。だんねえ (構わない) かまわせん (構わない) 言う事なあ (です)。今しで (今で) 言うてと大事ない言うのを、ダイジカ言うて。ダイジカ言うし だんねえわれ (構わない) 言うてなあ。そいな こた (事は) ほっときゃええんな (放っておけばよろしい) だんねえやんか (です) 言う。ダイジカレ そいなもんなあ (そんな物) したたてて (してしまっても) 言うてなあ。なんやかや 壊したたりして もなあ (てしまっても) そんに (そんなに) 言うの (のです)。ダイジカレ 言うてなあ。ダイジカも ダイジカレも一緒や (です)。一緒やけど そのに げ (人、人間) によってなあ 言い方な (が) 違う けど (けれど) 意味は一緒やわい (です)。ダイジカレ そげん (そんなに) したたてて (してしまっても) 言うてなあ。

だじがる (大事) 【他ラ五】 1) いかにも大切そうにする。心配しているような様子をする。2) 可愛がる。[会話] 1) なんもかも (全部) 大切 (に) すんのをだ (するのを)、昔のにげ (人間) な (が) ダイジガッテ なんも (すべて) 勿体のおて (なくて) よお使わんと (使わずに)、しまいにや (には) 皆 ほらな (捨てなければ) はざん (いけない)。ダイジガル、勿体ない言うて、よお 無茶 苦茶に使わんとなあ (ずに) たほて (貯えて) たほて したや (ら)、今しん (今に) なってしたや 皆 ほつたんね (捨ててしまうのです) ダイジガルは大切にする言うの (のです)。なんもかもな あ 子供でも ダイジガルし、物でも ダイジガルしなあ、道具やろと (であらうと) きもん (着物) やると ダイジガッテ、なんも (なにも) せんと (せずに) しまいにや 皆 ほられたるやんない (捨てられてしまうでしょう)。食うもん (物) でも その通りで、おなご (女) は わりもん (悪い物) ばつか (ばかり) 食うて、男や年寄りにや (には) ええもん (よい物) や (とか)、珍らしもん (物) を 先い (に) 食わして (食べさせて) それの余ったのおを (のを)。賢い婆な (が) 頭やつたや (やったら) おおた 俺みたよおな (のような) もん (者) に こいな (こんな) お頭呉れて言うて、そげん (そんなに) 言うもんで (ので)、こんだ (今度は) おお (尾) やつたや (ら)、俺みたよな もん に、こいな おおさん (尾、王さん) 呉れて言うて、したや (そうしたら) いっち (一番) しまいん (終りに) なつたや (ら) 真ん中の

ええとこ (よい所を) 食わして (食べさせて) くれて。頭のええ (よい) 婆さんで 俺ん (に) こいな (こんな) 頭や (だとか) おお (尾) ばつか (ばかり) おこして (よこして) 言うて、はざん (いけない) もんで (ので)、俺みたよな もん に こいな お頭付けてくれて、有難いなあ言うて こんだ (今度は) そげん (そんなに) 言うもんで (ので) おお やれ (やらう) おもて (思つて) おお (尾) やつたや (与えたら) 俺みたよな もん に おおさん (王様) 付けてくれて、有難いなあ言うて、ま、こんだ ごおなわいて (腹が立って) 来て、まあ 真ん中を 本人は、その真ん中な (が) 欲しかった もんで (ので)。あんごし (馬鹿な) のお (者) は なんど (なんだ) こげな (こんな) 頭、骨ばつか (ばかり) で くわよかれ (食べられない) 言うたり、こいな (こんな) おお を おこして (よこして) みい (身) な (が) なんも (少しも) 無いのん (のに) 言うたんね (言ってしまうのです)。

だじかれ かまわない。だじない だじか参照 (志 (片田)) [会話] ダイジカレ、そげな (そんな) 事 言うたてて (言つても)、そいな事 言うたてて、ええやんかい (よろしい) なんも (何も) ほつとかんかれ (捨てておきなさい) 言うのなあ、ダイジカレ言うて。なんも ダイジカレ ほつときや (ほおつておけば) ええんない (よろしい) そげん (そんなに) 言うたてて 言うてな。ててもん言うね、いくら 言われたてて、ほつとけ (ほおつておけ) 言うね (のです)。

だじかれえ 1) 構わないのか よいのですか 2) 構わない [会話] 1) そいなもん (そんなもの) ダイジカレエ言うて、だじかれ言うて、言うてな 尻、切つたたよん (ように) 言う人も有るし、だんねえやんかあ (かまわなでないか)、言うに げ (人) も有るしなあ。2) ダイジカレエ言う時に かまわん (かまわな) 言う時と、だんねんかれえ、そげん (そんなに) しても言う時も有るしなあ、そげん (そんなに) しても ええんかれ (よろしいですか) 言うのな だんねんかれえ (かまわな) のか 言うてな カレエになると、そんなにしても ええんか (よいのか) 言う事なあ。疑わしよおな とこや (ところ) そいな (そんな) 事しても ええんかれ 言うて、そいな (そんな) 事したら ま、怒られる様な時ん (に) 使う言葉やなあ (です)。

たいしこ【名詞】集まり。大師講（志（越賀、片田）、度、尾）

だいじこ 構わない。[会話] 大事無い 言う事、ダイジコ 言うね（言うのです）。そいな（そんな）事したてて（しても）ダイジコ、わよ（貴方）言うて。そいな事 せんてて（しなくても）ダイジコ言うて、せんでも（しなくても）ええわい（よろしい）言うのなあ（です）。だいじかれ 言う時も有るしなあ。ダイジコも だいじかれも一緒や（です）。そんな事 してもいいですよ言うのを そいな事しても、だいじかれ言うね（言うのです）、そいな 事しても ええんかれえ（よいのですか）言うて、おお だいじかれ じょおと（上等）やれ（だ）言うてな。

だいじこ。だいじこお（大事子）【名詞】大切な子供。可愛い子供。だいじんこお参照 [会話] 大事のこお（子）言うのなあ ダイジコオ言うてなあ、ダイジコオ やもんなああれ（だから）、のげやなああれ（お前の家は）一人子で言うて、大事の子供言うの ダイジコオ。

たいした【副詞】たいそう。はなはだ。タイソウ（大層）のタイ（大言海）[会話] こや てんぼなもんや（物だ）、言うて びっくりするよおな、タイシタもんや 言うね（言うのです）。

たいしたこと【名詞】大変なこと。一大事。[会話] とと（夫）は びっくりして こや（これは）タイシタコトや（だ）、これやよってん（これだから）米な（が）無いよおん（ように）なつてくね（なつて行くのだ）。（すがりのぐも参照）

たいしたもんや 立派な物だ。貴重な物だ。すぐれた者だ。[会話] おおた そや（それは）タイシタモンヤなあ言うてな。おどける（驚く）時んなあ（に）、大変なもんや（物だ）言うのをな、タイシタモンヤなあ。こいな（こんな）立派なもん（物）を もろてなあ（貰って）言うのを、おおた こや（これは）タイシタモンヤんかあ（でないか）言うてな。こやま（これは）てんぼな（大変な）もん（物）やなあ（だ）言うたりな。

たいして【副詞】とりたてて言う程、さほど。

だいじとる 用心する（志（布施田））[用例] 風邪の後やもんで（なので）ダイジトツテ 寝とんねよお（寝ているのです）。

だいじない。だいじねえ【形容詞】大事ない。心配する事はない。さしつかえない。構わない。大事：物

事の根本にかかわるような重要な事。一大事、大事業、大それた企、大変な事件、深刻な出来事、困難な事、手ごわい事、生死にかかわるような危険、病気や傷の重い事、不都合、支障、大切なさま、重要なさま。粗末に扱わないよう気をつけるさま。

（桑市、上、阿、張、名、南）[会話] そいなもん（そんな物）ダイジナイわれ（です）言うて。だんないわれ（構わない）言う（言います）。ダイジナイ言うて 言うのを だんないわれ 言うね（言うのです）。そいな事 したても（してしまっても）だんねえわ 言うて。ええやんか 言う事を、失敗したても そいなもん まあ ええわ（よろしい）言う事なあ（を）、だいじかれ言うて ダイジナイワ 言うてなあ ダイジネエ 言う 無い言うのを ねえ 言う（言います）。

だいじのこお【名詞】大切な子供（志（布施田））

だいじのとこ【名詞】男女の性器（志（布施田））

だいしゃりん（大車輪）【名詞】一生懸命になる事 非常に忙しく働く事

だいじゅん【名詞】円形、楕円形の金属性の容器に台と柄のついたもの。炭火を運ぶのに使用する だいじゅんのうの訛 [会話] 火鉢の火種に ダイジュン入れて いけん（いけに）いきおった（行って居ました）。

たいしょ【名詞】大将。その集団の指導者。（員、張、名）[会話] せんだち（先に立つ人）さんな（が）有って せんだちさんな（が）タイショで 札所札所を うって歩いた。

たいしょ【名詞】1）在所。（志、鳥（答志）、阿）2）郷里 田舎 ざいしょの訛 [会話] 2）生まれた ダイショ 生まれたとこ（所）在所の事を ダイショ。故郷の事なあ あや（彼は）ダイシャ（存所は）和具やてなあ（だそうだ）言うて、故郷の事を そげん（そんなに）言うなあ（言います）。

たいしょお（たいしょう たいせう）（大将）【名詞】主人（志（鶴方、神明、志島、甲賀、国府）、鳥、桑郡、阿、張、名）

だいしょお（だいしょう）（大小）【名詞】大きい事と小さい事。大きい物と小さい物。[会話] おつきい（大きい）ちっさい（小さい）。ダイショオ ひつくるめて幾ら言うて、おら（俺は）こおて来たね（買って来たのだ）言うて。大は大で買うと ねえ（値）な（が）ええもんで（高いので）、ダイショオ ひつくるめて こおて 来た言う時な（が）有

るやんかい(有ります・有るで有りませんか)。大も小もごみん(まぜて)して、こおて来た言うの(のです)ひっくるめて、こおて来た。ダイショオを言うて なんやかや(いろいろ)買う時んな(に)

だいじょおかん(だいじょうかん)(大政官)【名詞】

気儘者。わがまま者。(志(越賀、鶴方、神明、立神、国府、甲賀)) [会話] ダイジョオカン言うど、わがと(自分) なんもかも(なにもかも) せなはざん(しなれば駄目だ)とか、わがと 大将ぶんの(ぶるのを、振舞うのを) あやまあ(彼は) ダイジョオカンやよって(だから) 言うて(言います)。気儘な人や(です) 一口に言うど。あやまあ(彼女は) ひとり娘(一人娘)で ダイジョオカンに育つとて(て居て)言うてなあ。気儘育ちの事 言うんなあ(言うのです)。ダイジョオカンで誰が(の)言う事も 聞こかれ(聞かない)言うてなあ。

だいじょおぶ(だいじょうぶ)(大丈夫)【名詞】 大変強い事 安全な事(志)

たいしょかぶ【名詞】 その仲間の有力者 幹部 大将株

だいしょごしょ 大変な(志(片田)) [会話] ダイショゴシヨやれまあ(だ)言うて。えらい(大変な)風邪引いて、ごおごお言うて 熱な(が)して、おおた ダイショゴシヨ やったなあ(だった)言うて。死んだり生きたりの時 ダイショゴシヨの風邪引いて言うて。

だいじんぐ【名詞】 大神宮。伊勢の内宮と外宮の総称。ジングウの末尾省略 [会話] お伊勢さんの事なあ 大神宮や(だ)言うて、大神宮 言うて”う”迄引つ張らんと(ずに) ダイジング言うて”ぐ”で 切ったんね(切ってしまうのです)。大神宮 言うて べつんも(特別に)有難い。ダイジング 言うて 河豚の釣 切ったよん(ように) ぶつつと 切ったる(てやる) にげも(人間) 有るもんなあ(有ります)。

だいじんこお【名詞】 大事の子供 [会話] 大事の子供 言うの、ダイジンコオ、やもんなあれ(だから) のげや(お前の家は) 一人子や(だ) よってん(だから) 言うてなあ。

だいすかん 嫌いだ 好ましくない [会話] あのひた(人は) 大嫌いや(だ) 好かん人やなあ(だ) 言うのをな。おおた ダイスカンナア 言うて。

だいすき 大変すく事 最も好む事

たいそ。たいそお(たいそう、たいさう)【形容詞】

1) 大層、大変、費用のかかる事。甚だしいさま(鳥(坂手)、三、鈴市、阿、張、名、伊) 2) 大義、おつくう、気が進まない。(名、南) 3) 骨の折れる事 苦勞 [会話] 1) タイソなもん(物) やなあ(だ) 言うのは、タイソな もんやなあ 言う時も有るけど。なんか(何か) 変ったもん(物) や(とか)、よけ(沢山) 見ると タイソなもんや 言う時も有るけど(有りますが)。こや(此れは) タイソな ごっつお(御馳走) やなあ(だ) 言うたり、ほおた こや(此れは) おおごっつお(大御馳走) やなあ(だ) 言うて、昔の人は 言うわな(言います)。こやまあ タイソな事やなあ(だ) 言う人も 有るしなあ(有ります)。タイソな人や(だ) 言うよおなのおは(のは) だんなし(旦那衆) みたいな(のような) 人ななあ(を) そお言う(言います)。だんなし ぜん(銭)無し。

たいそがる 1) 労を惜しむ。面倒くさがる。嫌がる。

2) 疲れた様子を示す。[会話] 1) タイソガル言うど、ものすごお(大変) めんど(面倒) くさがるとか、そげな(そんな) 仕事 おら(俺は) よおせん われ(出来ません) 言うよおな 意味やなあ(です)。タイソガル言うてな、仕事 せえ(しなさい) 言うとな、おら ま そげな(そんな) 仕事 よおせん われ、そげな むつかし しごた(仕事は) 言う様な意味やてや(です)、ものを たいそ(大変な事) に取ってする事を 言うんやろなあ(言うのでしょうか)。あんまり(余り) えらい(大変だ) おもたんのなあ(思ってしまうのです) ま どいら い(大変) えらい 仕事 やろ(だろう) おら(俺は) よおせん(出来ない) おもたんのなあ、それを タイソガル 言うんやろん(言うのでしょうか)。

たいそな【副詞】 大変な 沢山(志(布施田)) [会話] そやま(それは) タイソナ 事やなあ(だ) 言うてな 大変な事やなあ(だ) 言うのをな そお言うの タイソナなことやなあ。

たいそなこと【名詞】 1) 大袈裟な事(上、阿)

2) 大変なこと [会話] 2) 大変な事 言うのを タイソナコト。

たいそもない とんでもない。めっそも無い [会話] とんでも無い言うんか、そいな(そんな) 事してもらわんで(もらわなくて) ええ(よろしい)。タイソモナイ、そいな(そんな) こた(事は) して もらわんでも ええやんか(よろしい) 言う様な時

んなあ (に)。

たいそらし【形容詞】いかにも大袈裟である、仰々しい。[会話] えらいそおんなあ (だ) 言う事やるな あ (でしょう) タイソラシなあ言うのな 大袈裟や (です)、タイソラシよおな事 言うて言う。

だいそれた 度はずれである。とんでもない。おそれ多い。[会話] ダイソレタ事 言うたり、したりすんのをな (するのを)、大袈裟な事 言うて 太平楽な事言うたり したりすんのを そげな (そんな) ダイソレタ事言うて。生意気な事 言うのをな、ダイソレタ事言うて。そいな (そんな) 事 よお言わんわ (言えませんが) そいな ダイソレタ事なあ おおぎよおし (大仰しい) えらっそおん (偉そうに) 言うのをな。

たいたい【対対】【名詞】 1) 二つの物が等しい事 同等 対等 (志 (布施田)、上、阿、張、名) 2) 高さの高低の無い事

だいたい【橙】【名詞】 ミカン科の常緑小高木、枝、葉は密生し、枝には棘を散布し、葉は厚く透明な油点がある。葉身は長さ6~8cmの卵状長楕円形、先はとがり、縁は波状か鈍い鋸歯状、葉柄には広い翼がある。初夏、葉腋に芳香のある白い五弁の花が咲く、果実は球状で冬に黄色に熟し、翌年の夏になると又緑色にもどる。果実は酸味が強く苦味がある。果実が年を越しても木についていることから代々永続 などの意に解して正月の飾りなどに用いる。[会話] かぶちはなあ ふさ (へた) な (が) まるくたいし (丸いし)、ダイダイ言うんなあ (のは) 房 (へた) な (が) 桔梗ん (に) なっとな (なっているのです)。かぶちは ほおず (へた) な (が) もじけてて (もげて行って) まるくたい やんない (でしょう) ダイダイ言うのなあ ほおず な (が) 桔梗になっとな ね (なっているのです)、そんで (それで) 見分けんね (けるのです)。

だいたい【代々】【名詞】 何代も続いて居ること。[会話] ダイダイ言うな (のは) 家の代、代な (です) あの家や (は) ダイダイ じょおし (漁師) な (が) 商売でなあ言うのな (です)。

だいたい【感動詞】 どれどれ。だい参照 [会話] だい言うて、だい (どれ) 見せえまあえ (見せなさい)、だい わしも (私も) ちよいと (少し) くれえ (下さい)、だいで止めとかんと (ておかずに) ダイダイ 言う時な (が) 有るんなあ (有るのです)。ダイダイ わしらも ちよいと 見せてくれえ

言うたり、ダイダイ わしらも ちよいと くれえ 言うたり。

だいたいこつぱり。だいたいごつぱり 全部、残らず、すべて。(志 (布施田)) [会話] ダイダイゴツぱり言うな (のは)、全部なんも (なにも) 残らず、根こそぎやられたた (てしまった) 言うのを、ダイダイゴツぱり やられたた。

たいたて 1) 炊いてしまって 煮てしまって (志) 2) 焚いてしまって [会話] 1) 煮るもん (物) をなあ こやれ (これ) これま タイタテ ま あ (てしまって) おとつしや (あああ)、生で くお (食べよう) おもたのん (思ったのに) 言うてな。煮る 言うのを タイタンネ (てやるのです)。2) 其処ん (に) かこてあつた (しまつてあつた) 薪皆 タイタテ しょんがつぎい (正月の薪) ん (に) 取つと いて (ておいて) 有つたや (ら) 皆 タイタタ やんかあ (てしまつたでないか) 言うて。ひい (火) 燃やすのも たく 言う、ひい (火) 焚いてくれ まあ (下さい) 言うて、ひい (火) あたる のん (当たるのに) はよ (早く) ひい 焚いてくれ 言うて。磯から来て おおた さぶい のん (寒いの) に はよ 焚いてくれ まあ (下さい) ひい (火) を 言うて、風呂 汲んで たい とけよ お (ておけ) 言うて、薪で 焚く時や な (です)。

だいだらばし【名詞】 大太郎法師 不在の巨人。幻の巨人。[会話] ダイダラボシ 言うな (のは) 所 (場所) の事言うね (言うのです)。江田の先をダイダラボシ言うんか (言うのですか)。土地の事 な あ (を) ダンダラボシ 言う (言います)。そこい (其処へ) ダイダラボシ 言うて どいらい (巨きな) 坊主 な (が) 出て、そんで (それで) 其処を だんだらばして やら (とか) 言う ね (言うのです)。やっぱし (矢張り) 大坊主に関係があ んの (有るのです)。ダイダラボシ言うて どいらい 坊主で。

だいたん【大胆】【名詞】【形容詞】横着 凶々しい 厚かましい

だいて 出して (志、鳥、三、鈴市、伊) [会話] 出して 言うけど、ダイテ言う人も 有るんなあ (有ります)。ダイテ言うて あぜこぜ (なまっている) の人な (が) 言う わい (言います)。

だいで【副詞】 1) 非常に、はなはだ、全然。てんで 2) 初めから。[会話] 2) ダイデ お前 な (が) ま ちごと る (間違っている)。

たいどく【胎毒】【名詞】 乳児に顔や頭に出出来る皮膚

病。胎内で感染した梅毒によると考えられていたが、先天性梅毒によるものは稀で、膿痂疹によるものが多い。母体内で感染した病气。(南) [会話] 親のタイドカ (胎毒は) 子な (が) 受ける言うて、親なタイドクやと (だと) こお (子) な (が) タイドクで、此処い (頭へ) びって (膏薬) はよおったわい (張って居ました)、そして 親な わり (悪るい) ことすると そして こお (子) もわり事すると、親のタイドカ 子な (が) 受ける言うて、あの家や (は) 親な (が) わりよって (悪るいから) こお (子) もなあ 言うんなあ (言うのです)、腹の中から もおて (貰って) 来た毒 タイドクや (です)。

だいどこ 【名詞】 1) 台所。だいどころの略。食物を煮炊きして調理する部屋。くりや、勝手、主人の居る場。(志摩市全域、鳥、桑市、三、鈴市、鈴郡、津、一、安、飯、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、熊) 2) 金銭のやりくり、家計 [会話] 1) ダイドコ 言うて勝手の事をなあ、ダイドコ 言いおった の (言うて居たのです)。ダイドコ 勝手は勝手で 勝手やけど (ですが) 亭主な (か) 座るとこ (所) なあ (です)。飯喰う時ん (に) 家の大将 (主人) な (が) そこい (へ) 座って、勝手の方は おなごらな (女達が) 座って 畳 敷いてしたなあ (しました)。よせじきな (を) してなあ。よせじき言うて 畳をせんで (つめて) あんの (有るのです)。よせじきなあ 此の位ばかりの (ばかり) のおで (ので) 畳な (が) 曲ってくもんで (ので) だいぶたつかい あんで (少し高い。あれで) 二寸角位の もんやのお (物です)。よせじき 言うて 畳を 敷くやんな (でしょう)。よせじきな (が) こんだけ (これだけ) 落ちとる (て居る) とこ (所) は 板の間やんか (です)。お勝手に おなごらな (女達が) 座って、そこで食べて。ダイドコは畳一枚 あがとる (上かって居る) とこ (所)。ダイドコで 頑張とる 言いおったわい (言っていました)。勝手にダイドコ。よせじきで 畳せんで (詰める、押える) 畳のへり (縁、端) な (が) 曲ってくもんで (行くので) 登ると そやもんで (それで) 皆 よせじきな (が) やってありおった (して有りました)。そしていって (そうして) 北口 言うて 又 ダイドコのこちら (西北) に 一枚敷き (畳一丈) ばかりの (ばかりの) 板の間がしてあって (作って有って)、今しゃ (今は) あいな (あんな) 家や (は)

無いけど (無いけれど)。あや (あれは) すぐんと (すぐに) 畳 行くと はざんもんで (いけないので) あんして (あのようにして) 板間な 有りおったんわいのお (有ったのでしょうか)。廊下みたいな (ような) もん (物) やのお (です) 縁にしてあんの (有るのです)。ここな (が) ダイドコになつとると (なつて居ると) 寝間 (寝室) が こお有つて 小寝間な (が) 此処に有つて 此処が北口で、はいて (そうして) 此処に 佛さんな (が) 有つて 佛さんの次な (が) 座敷で、ほいて又 此処に おおと (大戸) 言うて、ちよいと (少し) 表向いて そこに 三枚敷きやら (か) 四枚敷きやら よんじよお (四畳) 敷き位の とこ (所) が有つて、そこが 大戸で あんまり (あまり) よけ (沢山) お客な 来とると (来て居ると) そこから入つて。こちらに こにわ (小庭) が有つて、小庭入ると すぐに きよくば (焚き木置き場) な (が) 有つて、くど (物を煮る場所) な (が) 有つて、そして 此処に ダイドコがこお有つて、くどのこつちやに 勝手なあつて。昔の家は みきりずま (三部屋) 言うて なあ、みきりにして有ると お客さんな (が) 来た時は ダイドコで すんねけど (するのですが)、ほやけど (しかし) みきりやなしん (でなくて) ふたあきり (二部屋) にして有ると 飯喰うとる (食べて居る) とこ (所) へ お客な (が) くんで (来るので) どいらい (大変) わりかりおった (悪かった)。

だいなし (台無) 非常に悪いさま。よくないさま。困るさま。(員) [会話] ダイナシやなあ (だ) まああや (あれは) 言うて、いかなあ 言う事を 駄目やなあ (だ) 言う事を あやまあ (あれは) ダイナシや (だ) 言うて なあ (言います)。しゅら 台にしとんのん (して居るのに) 台な (が) 無いと、下のもん (物) な (が) 腐つてく (て行く) ダイナシや (です)。ダイナシで 腐つてた (て行った) よつて (から) 駄目になる事よつて ダイナシ。

だいなしよおなり どっちみち [用例] ダイナリ ショオナリ あんな (彼へ) 借金、こつちやへくんねやれ (こちらへ来るのだ)。

だいなん (大灘) 【名詞】 はるかな沖合。外洋。(志(布施田)) [会話] 沖のダイナンで なた (鉈) 一丁 (いっちょ) 捨て (捨て) 言うの。沖のとなかの事を、ずうと 沖の事を ダイナン 言うの なあ (言います)。ダイナンへ 流されてた (て行った) 言うやんない (でしょう)。

だいな【**名詞**】来年。来年の訛、約(志、鳥(国崎)) [会話] 来年の事を ダイネ 言うねなあ (言います)。来年の事言うと 鬼な(が) 笑う言うね (言うのです)。来年ゆや (言えば) 普通やけど (ですが) ダイネ言うてなあ、まあ (もう) ダイネ来い言うて なんやら (何か) 気にいらん時ん (に) お前みたよな (のような) もな (者は) ダイネ来い言うて言うやんかなあ (言います)。

だいなざらいね【**名詞**】翌々年 来年の次の年 らいねん さらいねんの訛、約 [会話] ダイネサライネ。来年言うのを だいなんや 言うけどな (言います)。ダイネサライネ言うて 次の次の年を二年先や (です)。ダイネサライネ言うて んを言わんと (言わずに) ダイネサライネ言うね (のです)。

だいなつ (大熱)【**名詞**】病気などで非常に高くなった体温、高熱。[会話] 熱な (が) 高い事を ダイネツや (です)。おおた こやまあ (これは) ダイネツやなあ (だ) 言うて、熱病で ま こや (これは) どいらい (大変) 熱な (が) あられ (有ります) 四十度も有ると ダイネツやなあ 言うてな。

だいなん【**名詞**】翌年 来年 らいねんの訛(志、鳥、三、鈴市、鈴郡、松、張、度、伊、尾)

だいなんぶつ (大念佛)【**名詞**】1) 大勢の人が集まって大声で念佛を称える事。2) 盆に新亡者の霊をまつる、部落一同の念佛会。(志(布施田)) [会話] 2) 盆の十三日をダイネンブツ。ダイネンブツ ひと ねんぶつ言うて おめく時 (呼ぶ時) 大念佛 言うてなあ。“なもでやなもで やさやさ てんてこてん” 言うてなあ、昔や (は)。始め 名前くつといて (順次読みあげて) 後で なもでやなもで ひと ねんぶつ 言うといて (ておいて)、やさやさてんてこてん あや (それは) かね (鐘) のなんのを (鳴るのを) 真似すんやんかい (するのです)。てんてこてん 言うな (のは) 鐘が 鳴るやんかい (鳴ります)。鐘の鳴る音を てんてこてん 言うて、口で 鐘鳴らすのあ (鳴らすのです)。やさやさは つくくしとる (吊るして居る) もんで (ので) 歩くとなあ 鳴って、一念佛 言うて言うにげ (人、人間) な (が) なあ (名) 読むの、あれを読む人 しゃほんよみ (写本読み)。写本よおで (読んで) そいで (次に) 死んだ人の戒名言うといて (ておいて) そすと 鐘をかんかん叩く やさやさてんてこてん言うて。

たいびよお (たいびょう、たいびやう) (大病)【**名**

詞】重い病気、重病。[会話] 重い病気を タイビョオや (だ) 言うてな。

たいびよおにん (たいびょうにん) (大病人)【**名詞**】重い病気を患っている人。[会話] どいらい (大変) 病気な (が) 重いのなあ (です)。あや (彼は) まあな タイビョオニンやのんな (だのに) 言うてな

だいぶ (大分) 大部分、おおかた、数や量の多い事。かなりの程度。(志(布施田)、員、津、名) [会話] “さ”と“しや”の発音な (が) 出来ん (出来ない) もん (者) な (が) ダイブ あんね (有るのです)。

だいぶと【**副詞**】随分 だいぶん (安、上、阿、張、名) [会話] ダイブト言うな (のは)、だいぶ (大分) よお (よく) なって来た 言うのを、あのひた (人は) ぐあい (調子) な (が) わり (悪る) かったねけど (ののだが)、まあ だいぶ よおなって来たてわい (そうです) 言う人も有るし、ダイブトよお なって来たてわい 言う人も有るし。だいぶん 言うのを ダイブト、ダイブトよお なって来たてわい 言う人な (が) 有るやんかい (有ります)。だいぶん言うのを “ん” 言わんと (言わずに) ダイブト よお なって来た言う人な (が) おんねてや (居るのです)。

だいぶに【**副詞**】随分 ひどく (張) [会話] 随分よお (よく) なって来た言うのを、ダイブニ よおなって来たてわい (そうだ)、だいぶとと言う人も有るし、だいぶ言う人も有るし同じ意味やけどなあ (だが)。

たいへらく【**名詞**】太平楽 好き勝手な事や でたらめな言い分 又それを言う事。勝手 気儘な振る舞い 又そのさま [会話] タイへらく言うな (のは) 大胆 (横着) な人やわい (です)。だな (誰が) おつても (居ても) 誰ん (に) も えんりよ (遠慮) せんとな (せぜに)、言いたいよん (ように) 言うのをな、タイへらく言うの (のです)。そして (そおして) 食うもん (物) でも 食べえ (食べなさい) 言わんでも (言わなくても) えんじよ (遠慮) せんと わがとから (自分から) ひゅつひゅつと 食うやんない (でしよう)、タイへらくな人やなあ言うて、へらこない (厚かましい) 人をなあ。あのひた (人は) タイへらくな人で なんも (なにも) えんじよ せん (しない) 人やなあ (だ) 言うて わりい (悪い) 言うて のぶとい

(図々しい) 言うよおなのおやわい (のです)。たいき (気が大きい) 言うよ 聞きよいけどなあ (やすいが) だいたんな人やなあ (だ) だいたん 言うよと どいらい (大変) ききのくい (聞きぬくいのです)

たいへん【副詞】随分(熊)

たいへんに【副詞】随分だ 甚だ(志)

たいほお (たいほう、たいほう)【名詞】大砲 嘔吐き。(多、上、阿、張、名)

だいまあ、**だいまあえ**【感動詞】どれどれ [会話] ダイヤモンド 言うて、人な (が) 仕事しとると (していると)、ダイヤモンド だれまあ言うて だらまあわい (あなた) なの (のを) 見せて くれまあ (下さい) 言うて。

たいむし【名詞】ごかい。磯に住む環形動物で多毛類に属し、一般に釣りの餌としてよく知られて居る虫である。長さ5~12cm、巾0.5cm、関節の数は70~130位、色は淡紅、若しくは黄味のある紅色で、体の前端部では背側が黒味を帯びて居る。背面正中には縦に走る血管が、体壁を透して紅色の線となって見える。吻は前端に鋭い一對の顎を有す。鯛釣りの餌にしたところから [会話] タイムシ 言うな (のは) えさ (餌) の事 言うね やんな (言うのでしょうか)。 うずむし (いさぎ)、 うず (いさぎ) 釣りん (に) 行くと 掘りん (に) 行く あの むしか (ですか)。 タイムシ 言うな うず 釣りん (に) 行く時 掘りん (に) 行きおった (行って居ました)。 わしやなあ (私は) 漁師のもり (世話) すんの (するの) えらい (大変) よって (だから) ブリキ屋 やったの (嫁がせたのです)。 年中 漁師のもり (世話) して なあ わしや (私は) こいな (こんな) はずや (だ) 無かったに おもて (思って) むし掘りに 行きよったの (行って居たのです)。

たいや (速夜)【名詞】法事。葬儀の後、又は毎年命日の前夜にする宴会。(志(鶴方)) [会話] 死んだ日 葬式した後で タイヤ 言うて みんな (皆) 寄って 骨折った (手伝った) 人ら、骨折つてもおた (貰った) よって (から) 言うて、ごっつお (御馳走) して タイヤよばれた (招待された) 言うて、年忌やなんやら (とかに) 前の日に タイヤ する言うて、タイヤのよさ (夜) 墓参りは朝して なあ よさ (夜) 念佛と 御経貰うのなあ。

たいやく (大役)【名詞】責任の重い任務。婦人の出

産。[会話] タイヤク 仰せつけられて 言うて なことおや (仲人親) すると さいご (その時)、タイヤク おおせつかって 言うやんかい (言います)。 女の産 タイヤク 女のたいやか (役は) さん (産、三) と言う 子供のしょんべは (小便) しい (尿、四) と言う 牛につけたわ にい (荷、二) と言う。

だいやみ (大闇)【名詞】真つ暗闇(志(布施田))

たいらげる (たひらげる) (平)【他カ下一】食べ物や飲み物を残らず食べつくす、又は飲みつくす。[会話] タイヤゲテ 来た言うてな、まあ なんもかも (すべて) しゃなぐって (残さずさらえて) 来た 言うたりな、皆 おんな (俺が) タイヤゲテ 来た言う。 食べるもん (物) やったら (だったら) 全部 食べた (食べてしまった) 言う事をなあ。物でも そおやるな (そうでしょう)、全部 もてきや (持って行けば) まあ タイヤゲテ タレ (て行った) 言うてな。

だいらよお (たいれふ) (大漁)【名詞】収入の多い事 漁の多い事だけでなく、すべての事に使用する(志) [会話] ダイリョオ は よけ (沢山) 漁した のおを (のを) ダイリョオ。魚でも鮑でも、そして農作物でも よおけ (沢山) 獲った時 になあ、ダイリョオ やなあ (だ) 言うの (のです)。みいり (収入) が多い事。たあ (田) の もん (物) でも、畑のもん でもな 沢山 獲れる となあ おおた ダイリョオ やったなあ (だった) ことしや (今年は) 言うね (言うのです)。海のもの (物) ばかや (ばかりで) なしん なあ (なくて)。

たいろく【名詞】中心人物 芯(志(甲賀))

だいわり (台割) (第割)【名詞】場所を決めること。海藻を獲った時干す場所を決めること。だい(第)参照

たいわんぼうず (たいわんぼうず) (台湾坊主)【名詞】1) 冬の強い南風 2) 冬の低気圧(南) 3) 円形性禿髮症 明治二十七、八年戦争で台湾に出征した兵士がかかった所から

たうち【名詞】田を耕すこと

たうちがに (田打蟹)【名詞】もずくがに イワガニ科の中形のカニ、各地の河口や河川に住み、かなり上流まで登る。甲羅はほぼ四角形で長さは約5cm、体色は暗緑褐色、鋏足は大きく淡褐色の柔らかい毛が縦状に生える(三重県) [会話] タウチガニ 言うな (のは) ずがに の事 なあ (です)。ずがに 言うの (のを)。よお (よく) 釣りん (に) 行きよ

たんなあ (行つて居ました)。くろい (黒い) ひげな (が) 生えたのなあ (のです)。あたりまえの匍うがに (蟹) と違う ひげな (が) 生えて、くろい のなあ (のです)。タウチガニ ずがに 言うて よお (よく) 言いおつた (言つて居ました)。

たおす (たふす) (倒) 【他サ五】 1) 病気になる。健康などをそこなう。悪化させる。(志 (布施田))
2) 立つて居る物を横にする。3) 殺す。[会話]
2) 棒 タオス、食いたおされた、張りたおされた、
1) 病氣したりすんのも (するの) タオス。あのひた (人は) 体の具合 (様子) な (が) わりいて (悪くて) タオレタンてない (そうだ) 言うてな。脳梗塞やどけで (などで) たおれたのおも (の) タオス言うんけどなあ (言います)。具合 (調子) な (が) わり (悪く) なつた だけ (でも) タオレタン テワレ 言うてな、病氣になる言う事をなあ。

たおれ (たふれ) 【名詞】 散財

たおれた 1) 病氣になつた 2) 破産した

たおれる (たふれる) (倒) 【自ラ下一】 病氣などで体がそこなわれて伏す。わずらう。[会話] タオレルは 病氣になつた。タオレル しゅんぜん (寸前) やなあ (だ) 言うて えらい (大変) 無理しとると なあ (していると)、あや (彼は) ま あんげんして (あんなにして) しとる (している) おりにや (時には)、ま タオレンド (るぞ) 無理しとる (している) 時々なあ (に)。

たか 【名詞】 1) 岸に近い海。(志 (浜島、布施田、立神、志島、甲賀、安乗)、北、尾) 2) 海から陸をさして言う。高い所の意 高の意か (志 (御座、立神、志島、甲賀、安乗)、鳥 (国崎、鈴市、度) [会話] 1) タカのがにいそ (やどかり) の タカ。タカのがにいそ タカン (に) ほおとんね (匍つて居るのです)。がにいそ な (が) 言うて、ないざ (波打ちぎわ) の事をなあ タカで がにいそ な ほおとられ (匍つて居る) 言うて。あつさい (浅い) とこ (処) おえぐもんを (泳ぐ者を) タカでま あ がにいそ 押えとられ (採つて居る) 言うて。

たか (高) 【名詞】 1) 多寡、数量の程度、又その程度の限界。(熊) 2) 最後のなりゆき、結局。3) 多い事と少ない事。4) 収穫の量。[会話] 1) 多いか少ないか タカナ (が) 知れとられ (知れて居る) 言うて、4) とりダカ (取高) 言うやんかい (言います)。取ダカも言うし タカナ (が) すけない (少ない) と タカナ (が) 知れとられ 言うしな

あ。よけ (沢山) 獲ると 今日のとりダカ よかつた なあと か 言うてなあ。ほと (すると) すけない と、今日はタカナ (が) 知れとられ 言うて。

たが (籬) 【名詞】 桶の輪。竹などを裂いて編み、輪に作つたもの。桶や樽などの外壁を堅く締めるのに用いる。[会話] 桶のわあ (輪) タガ。桶のわあの事 タガ 言うやんかい (言います)。タガ な (が) ゆるんで来たや (とか) なんや (なんとか) 言うて。タガ な (が) ゆるで (ゆるんで) 言うて、わあ (輪) が ゆるで 来た時の事を。

だか (高) 【名詞】 名詞又は形容詞の連用形について、ある数量、金額などの総量を示す。取れダカ、売上ダカ。たか参照

たかあがり (高上り) 【名詞】 1) 上座に座る事。高い所に上る事。2) 思い上る事。身分不相応に上座につく。[会話] 1) タカアガリしてなあ ししくだめの タカアガリ言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。たつかい (高い) とこ (所) あがると、あやれ (あれ) ししくだめのタカアガリしたなあ言うて。ししくだめ 言うななあ (のは) 磯ばたの 潮 な (が) 干いて かんからこ (乾燥した状態) ん (に) なつてく (なつて行く) 峠 (一番高い所) でも おんね (居るのです)。ししくだめはなあ 峠 ん おる もんで (居るので) たつかい とこ 登ると、ししくだめのタカアガリ言うの (言うのです)。磯 もん (物) や けど なあ (ですが) 水 ん (の) 中 い (に) よけ (多く) おらんと (居ずに) 潮 (海水) な (が) なん もの お ても (少しも無くても) 峠 ん (に) おる んやんかい (居るのです)。そ や もんで (それで) ししくだめのタカアガリ言うて、たつかい とこ 上つ とると (て居ると) よお (よく) 言う わい (言います)。上座におつてもなあ あや (彼は) ししくだめのタカアガリ や (だ) 言うしなあ。高いとこ 登つ と ても (て居ても) あや あ れ ま あ ししくだめのタカアガリ や なあ 言う の (言うのです)。水 な の お ても (が無くても) 島 な (が) 乾 い と ても 波 な (が) 満 ち て 来 て す と か かん ね けど (かかるのだが)、峠 に ほん に や が つ と る 時 でも 上 い (に) 座 つ と る も んで (て居るので) そ んで (それで) タカアガリ 言う ね や る な あ (言うのでしょうか)。

たかあしぜん (高足膳) 【名詞】 脚付きの一人前の膳 (志 (布施田、立神、甲賀、国府、安乗)、熊) [会話] タカアシゼン 言う な (のは)、たつか あ い

(高い) 膳な (が) 有って、猫のてえ (手) みたよん (のように) なつとんの (なっているのを) 猫足膳。そやけど (しかし) タカアシゼン 皆 猫足やわい (です) 猫のてえ (手) みたよん して。

たかあしだ (高足駄) 【名詞】 足駄の齒の高い物

たかあしふむ 踏み違える (志 (布施田)、上、阿)
[会話] タカアシフム。石や、くぼみ へこんだ (へこんだ) とこと (所と)、たっかい (高い) とこと 有ると タカアシフンデ、あぶのおて (危なくて) 言うて、タカボチ言うの (のです)。たっかい ねえやか (のだろうか) 思うと、へこみな (が) 有って そこい (へ) ごぼつと 足な (が) 行く時な (が) 有って、足 突っ込んで (でいて) がたつとしてく (して行く)、そすと タカアシフンデ どいらい (大変) 危なかったよお言うて。平な (だ) おもとんのん (思っているのに) へこみな (に) 有ると それい (に) 足やつたて (入れてしまつて) その時ん (に) 足くじいたりすんねてや (するのです)。タカアシフンデ 足くじいたたよお (てしまつた) 言うて。

たかいたかい (高高) 【名詞】 子供をさし上げて、あやす動作 (張)

たがいちがい (たがひちがひ)。 **たがえちがえ (たがへちがへ) 【名詞】** 1) 反対にする事。間違っている事。2) たがいちがい、双方から入りかわること。かわるがわる。(志 (布施田)、上、阿) [会話] 2) タガエチガエ うちちがえ (打ち違い) ん (に) なる事なあ (です)。あんた (貴方) な (が) そっちや (そちら) 向いて寝るし わしや (私は) こっちや (こちら) 向いて寝ると、うちちがえて寝た言うて。あとさし ん (に) 寝た言う。タガエチガエ言うて あとさしん (に) ねんのなあ (寝るのです)。うちちがえて寝た 一つの床え (に) 言うてなあ。頭並べて ねんの (寝るのが) わり (悪い) 人はなあ うちちがえて あとさし寝た言うてな。狭い家や (は) よお (よく) あとさしん (に) 寝るやんかい (寝ます)。

たがえる (たがへる) (違) 【他ア下一】 1) 間違える 2) 交換する

だかえる (だかへる) (抱) 【他ア下一】 1) 抱く、抱きかかえる。(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、甲賀、安乗)、鳥 (加茂、鳥羽)、員、鈴市、鈴郡、安、津、一、上、阿、張、名、北、南、熊) 2) 会計を持つ。3) 買いしめる。[会話] 1) ダカエル言

うのなあ (は) あしこに (あそこに) 横倒し (倒れて) ん (に) なつとて (て居て) だきやげて (抱き上げて) 来た。抱きあげる言うのを 2) 実際に 抱くのやなしに (でなくて) 今日の会計は わし (私) が 拂うわい (拂います)。そげん (そんな) 言う時も 有るなあ (有ります)。全部わし (私) が ダカエル言うて。3) ぼおぬきしたとか、買いしきつたる (買い占める、全部買う) 事を 抱いたるわ おんな (俺が) 言うし (言います)。まあ、全部 おんな しきる (全部占める) 言う事を、おんな (俺が) ダカエル みな (全部) 言うて。ぼおぬき 言うななあ (のは)、かみじま (地名上島、当地より東の地方を指す) の人らな (が) ふご (藁で編んだ運搬用の容器) にのてなあ (担つて)、なんやかや (何彼) 蜜柑でもなんでも 売りん (に) 来よつたわい (来て居ました)。そと (すると) それごち (それ全部) 一荷ごち (全部) 買おたる (買ってやる) 言うのなあ (言うのを) ぼおぬき買おたるわ 言うしなあ (言います)。しきつたる 言うな (のは) 皆 (全部) こおたる (買ってやる) 言うの (言うのです)。にのて (担つて) 来ただけ おんな (俺が) みな こおたる 言うのなあ (言うのです)。おんな (俺が) みな しきつたる言うて。

たかが (高) 【副詞】 結局。せいぜい それはたいした意味を持たない。問題にするに足りないと言う気持ちを表す。[会話] タカガ 知れとる (て居る) 言うのかい (ですか)。それやつたら (だったら) タカナ (が) 知れとんなあ (て居る) 判つとる (て居る) 言う事なあ (です)。そいな (そんな) のおなら (のなら、だったら) タカガ 知れとるわれ (て居る) せいさい (せいぜい) まあ言うて 判つとる事やなあ (です)。

たががしれとる、たかなしれとる 精々その程度だ簡単だ。

たかがしれる せいぜいその程度の物、事である。簡単に出来る、たやすい。たかが参照

たかぎいのぼらな、ずくしはくわれん (じゅくしはくはれん) 【俚諺】 選り好み、望みを大きくしなければよい物は手に入らない。[会話] えりごのみ (選り好み) しとると (して居ると)、タカギイノボラ ナズクシャクワレン言うて。ええ (よい) 人を このまなやんない (好まなければ) 好みさいしや (さええすれば) ええ とこい (所へ) 行き当るのを 言うんやるなあ (言うのでしよう)。タカギイノボラ

ナジュクシハクワレン 言うねよって (言うのだから) 下ん (に) 居ってや (ては) 渋柿ばっか (ばかり) やけど (だが、) とおげ (頂上、上) い (に) 行きや (行けば) 熟柿も有る 言うよおなもんで あや (あれは) はざん (駄目だ) こや (これは) はざん 言うとる (言ってる) うちん (間に) ええの い 行き当る 言う事やろん (でしょう)。

たかぎいのぼる 身分不相応な高望みをする。[会話] タカギイノボラナ (なければ) ずくし (熟柿) は食われん言うて、嫁 貰らう のでも あの家や (は) 金持ちやのんなあ (だのに) 言うて、金持の家ばっか (ばかり) 狙うと、たかぎ狙ろて 言うて。タカギイノボットテ (ていて) いくら何処から 貰らいん (に) 来ても 行かせん (行かない) 言うて 嫁ん (に) 行くもん (者) は 言うし。タカギイノボットテ ぼったり おちんねやれ (落ちるのだ) 言うてな、貰らい手な (が) 無いよん (ように) なっくて くんやれ (行くのだ) 言うのをな。タカギイノボットテ ぼったり 落ちたんてわれ (そうだ) 言うて、嫁ん (に) 貰らい手な (が) 無いと言よおった (言っていました)。そんでもなあ (それでも) タカギイノボラナ (なければ) ずくしは食われん言うてな、たまに (時として) ずくしも 当んのも (当るのも) 有るしなあ。

たかぎのずんばい【俚諺】手がとどかない。高望みをして手が足らわない。[会話] タカギノズンバイ 手たらわずやわい (です)。手たらわん言う事やわい。にやわん (似合わぬ) よおなのい (のへ) てえ (手) かけると、高木い登ってまあ言うて。

たかげた (高下駄)【名詞】1) 足の高い下駄。あした。(志 (浜島 御座)、鳥 (答志)、松、桑郡、三、員、鈴市、津、多、名、伊、南) 2) 値を高くつける。[会話] 1) はあ (歯) な (が) ついとんのなあ (付いて居るのを)、履いて よお歩かんで (歩けなくて) タカゲタ。2) そいて (そうして) なんやかや (何彼) すると 下駄履いた 言うやんかい (言います)。あやまあ タカゲタ履いて あや (あれ) 言うてなあ、ねえをかける (高値をつける) 言う事を あやまあ (彼は) どいらい (大変) タカゲタ履いとんねどお (履いて居るのだ) 言うてなあ。かけ値する事をなあ タカゲタ履く。かけ値するねえ (値) よお (よく、高く) いれる (買う) 言うのも 有るし (有ります)。なんやかや (種々) 物 こおても (買っても) まあ 五十銭でこおた (買った

た) もん (物) を 一円でこおた (買った) とか言うのを、タカゲタ履く 下駄履いて言うて。べっぺ はねる事を 下駄履いて言う (言います)。べっぺ はねる 上前はねるのなあ (のを) 五十銭で こおたもん (買った物) 八十銭ですとか 一円ですとか言うて べっぺ 上前はねんの (るのを) べっぺ はねる。あやまあ (彼は) べっぺはね (上前をはねる人) やよって (だから) 言うて よお (よく) 言うわい (言います)。

たかごし (高腰)【名詞】腰の位置が高い所にある事。中途半端な座り方。[会話] 舟ん (に) 乗っても タカゴシかけると ぐらぐらするよって (から) 下へ むかえ (座れ) 言うて。

たかぜん (高膳)【名詞】膳に足のついたもの。(南) [会話] 本膳 言うて タカゼン。猫足い (に) うるし塗ったのを 親の椀やとか (だとか) 壺ひら (皿) やとか (だとか) 綺麗なして タカゼンへ 据えんの (据えるのです)。

たかだい (高台)【名詞】高い所 山頂 (南)

たかだか (高々)【副詞】せいぜい、十分に見積もってもたいした事はない。(志 (甲賀)) [会話] あのぐらいのなあ にげ (人間) なら、たかな (が) しれとられ (知れている) するこた (事は) 言うてな、頭な (が) ええこた (よいことは) のおて (無くて) おってん (居て)、えらっそぶって (偉そうにして)、べつんも (特に) よお (よく) するよん (するように) 言うてするやんない (でしょう)、そやけど (しかし) 脳 (知恵) な (が) 無いもんで (ので) そのした事な (が) ええ (よい) 事しやへんの (しないのです) あんな (彼の) するこたまあ 判つとられ (ている) たかな (が) 知れとられ言うて ま 見通したんの (てやるのです)。タカダカ 言うのも たかなしれとる 言うのも 一緒や (です)。

…**たかて** …でも、いたカテ、したカテ (安、一)

たかてぶね【名詞】四艘の舟で網を引く時、陸の方から魚を網に追い込む舟。[会話] てぶね 言うのは、真網と逆網とあって、タカテブネ おきてぶね言うて 石を積んどて (で居て) 石で、魚 追うのなあ (追うのです)。

たかとおど (たかとうろう) **たかとおろお**【名詞】高灯籠。新佛の有る家で七月七日から十六日迄、門前に柱を立て、灯を燃やす灯籠。(三重県全域) [会話] タカトオド 言うんかい (言うのですか)。タ

カトオド 言うな (のは) 初盆 (昨年の盆から今年の盆まで亡くなった人) のうちや (家は)、かど (門) に つけるやんない (でしょう)。杉のはあ (葉) となあ ぼんぼり (雪洞) みたいな (のような) のお (のを) 揚げるやんない。あれを タカトオド言うてなあ (言つて) 初盆の家な (が) 使うのお (のを) タカトオド。

たかとび (高飛) 【名詞】 遠方に逃げさる事。ちゅうてんまい参照 [会話] どこやかやい (何処やへ) タカトビ してくと (して行くと)、逐電してた (していった) 言うやんかな (言います)。

たかどまり (高止) 【名詞】 お高くとまる事、尊大にかまえる事。

たかなしれとる 1) 程度が判っている 限度が判る 2) 簡単だ [会話] 1) あんな (彼は) 口ばつかで なあ (ばかりで) なんな (なにが) よおしよおない (出来るものか)、タカナシレトラレ (ている) あんな (彼が) 言うたててなあ (言つても) 言うて。

たがなゆるどる。たがなゆるんどる 1) 緊張していない 2) 馬鹿だ

たかなる 高くなる (南、熊)

たかに (高荷) 【名詞】 高く積みあげた荷物。[会話] 船やどきい (などに) 荷積むやろ (でしょう) あんなまり (あまり) タカニ になると ぐらぐらする。

たかのがにいそ。たかのがにえそ。たかのがにへそ **【名詞】** 1) 小さなやどかり。たか参照 2) 泳がない者 [会話] 1) ガニエソ。ガニエソや (で) なしん (なくて) ガニエソ ガニエソ言うね (言うのです)。ガニエソ ガニエソ ガニヘソ。わしら (私は) ガニヘソや (だ) 言いおつた (言っていました)。わしら ガニヘソや (と) 言うて みな (全部) 人によって 違う (違います)。

たかのつめ (鷹爪) 【名詞】 1) 唐辛子の一変種 果実は円錐形 又は円筒形で2~5 cm、上向きにつき赤熟する果肉は薄く、種子と共に極めて辛い (鈴市、久、一) 2) 茶の出たばかりの新芽 上等な茶の名 [会話] 2) タカノツメ言うて ちやあ (茶) な (が) 出て来た、ほん (本当に) ちよこつと してくんのをなあ (少しして来るのを) タカノツメん (に) なつて来たれ (来た) まあ じつきん (じきに) 摘まな (なければ) はざんな (いけない) 言う、ちよいと (少し) めぎんで (芽を出して) くんのを (来るのを) タカノツメ 言うのなあ (です)、よお (よく) 似とるわい (似ています)

またな。タカノツメのうちん (間に) 摘むと 上茶ん (に) すんのや (するのです)。はあ (葉) な (が) 巻いとる (ている) うちんのおや (間のです) タカノツメ。1) とんがらし (唐辛子) の ちつちやあいのなあ (小さいのです) タカノツメ。

たかのは。たかのはあ 【名詞】 鷹の羽鯛。タカノハダイ科の海魚、全長約 40 cmに達する。体は側扁し、体側に九條の黒褐色をした太い斜走帯が有る。各鰭は、黄褐色で尾鰭に白い小円紋がある。食用にする。ひだりまきは、たかのはより色が淡く、黄色が強く鮮やかである。(志、度、南) [会話] 魚。魚ひだりまき、ひだりまきの親やなあ (です)。ひだりまき言うな (のは) ちつさいのなあ (小さいのです)。ひだりまきと みぎまきとあんなのか (有るのですか) あんで (あれで)。ひだりまき言うななあ (のは) ちよいと (少し) きい (黄) がかつた よおなちつちやい (小さい) の、あれ言うなあ (言います)。タカノハアは 茶色みたよおな (のような)。

たかのぼり 自分の分以上に振る舞う事

たかばい (高遣い) 【名詞】 赤ん坊が膝をつかずに尻をあげて這う事。[会話] タカバイ言うな (のは) たっこお (高く) 尻あげて這うの。タカバイな (を) して来た。よつばいすんの (するのを) すね (脛) で 這わんと (這わずに)。

たかばつとる 高くなっている

たかばり 【名詞】 高張提灯 提灯に長い柄をつけ高く上げる物 (上、阿)

たかばり (高張) 【名詞】 高くなって居る事 高くなっている所

たかばる (高張) 【自ラ五】 高くなって居る。[会話] タカバル 荷物な (が) もやがる (盛り上がる)。

たかびく (高低) 【名詞】 高い所と低い所

たかべ 【名詞】 タカベ科の海魚。全長25 cmに達する。体色は青褐色で背部に黄色の顕著な縦帯が走る。肉は柔らかく美味。

たかばち 【名詞】 高低 つまずく。小さな穴に足を取られてもつれる。ぼちは穴 [会話] タカボチ 言うな (のは) たつかい (高い) とこ (所)、くらがり (暗い所) で なんも (何も) 無いおもて (思つて) 歩いてく (て行く) やんな (でしょう)、そすと たつかい (高い) のおな (のが) 有つて こおして (蹴いて) すると ほおた (あゝ) タカボチ踏んで危い言うの (言うのです)。そしといておつて (それでありながら) あがつた (上に) 思うと、又

ほとんど落ちるもんで (ので) タカボチ踏んで 危ないなあ言うて 凹凸な (が) 有るとなあ タカボチ踏んで危ない言うて。

たかぼちふむ 躓く。たかあしふむ参照

たがまあし (たがまわし、たがまはし) **【名詞】** たがを廻して遊ぶ子供の遊び わまあし参照

たかまる (高) **【自ラ五】** 高くなる

たかみ (高) **【名詞】** 高い所。小高い所。[会話] 娘な (が) 嫁に 行かんと (行かずに) おると、始めのうちや (間は) タカミ (へ) 登って (ていて) 貰いん (に) 来て、くれんとおつて (くれないで居て)、貰い手な (が) 無いよおん (に) なって来ると、もちうりや (持ち売り・押し売りは) 出来やせんし (出来ないし) 鯛のぶえん (不塩) で おきや (置けば) さがる言うて。

たかめる (高) **【他マ下一】** 高くする

たが ゆるめる 気楽にする (上、阿)

たからもん (宝物) **【名詞】** 1) 大切な物。子供。

(三、鈴市、一、松、伊) 2) 性器 [会話] 1) タカラモン言うて、大事のもん (物) を あや (あれは) 家のタカラモンや (だ) 言うてなあ (言います)。娘でも 息子でも まあ ひとら娘 (一人娘) やどきや (などは) 一人息子やと (だと) あやまあ (あれは) タカラモンやれ (だ) 言うて。大事のもんと、子供と。なんでもだ (なにでも) 大事のもん (物) を宝。珍らし (らしい) もん とか。

たかり (集) **【名詞】** 1) 集まり。群。2) 人を強迫して金品を手に入れる事。[会話] 1) 人な (が) 寄つとると (集まっていると) タカッて来たね (のだ) おおた ま タカッて来たんよお (来た) 言うやんかい (言います)、人ダカリ。なんか (何か) 安いもん (物) 売りん (に) 来るとさいご (その時)、われ (自分) かお (買おう) 言うて まあ 人ダカリで たかつとて (ていて) まあ おらな (俺の) てえい (手に) 入いるかれ (入いるもの) か 言うて。

…**たがりや** **【名詞】** 動詞についてそれをしたがる人を表す くれタガリヤ、もらいタガリヤ

たかる (集) **【自ラ下二】** 1) 集まる。一つの所に集まる。寄り集まる。(志 (布施田、甲賀)、鳥、員、三、津、安、一、松、多、度、尾、北、南、熊) 2) だます。偽る。人を脅したり、むりに頼んだりして金品をとりあげる。強要する 3) 一生懸命にする。 4) 鳥や蚊などがとまる (上、阿、張、

名) [会話] 1) タカル。人な (が) 寄って来る事な あ (です)。寄って タカル言う事も 有るしなあ (有ります)。2) だます事も タカル 言うの (言います)。たかられた 言うて。酒呑んで あれ (彼) に たかられて言うて よお (よく) 言うやんかい (言います)。おごつてくれとか 一杯呑ましてくれとか 言うのなあ (言うのを) タカル 言うてなあ (言って)。集まるも 一緒やわい (です)。人な (が) タカッたらレ (て居る) あやれ言うて。4) そいて (そうして) 蠅 (ハイ) な (が) なんや かや (何彼) すわると (止まる) 蠅な (が) タカル 言う (言います)。“蠅な タカルよおな 嗅い ほぼ (女隠) さげて さすも ささぬも 有るものか” 言うて。蠅は 一匹でも タカル言うしなあ (言います)。一匹すわつたら (とまつたら) 蠅な (が) タカッたらレ (て居る) 言うしなあ、人な (が) よ け (多く) 寄つとんのおを (寄って居るのを) ほお た (お) タカッたらレ 言うしなあ。人ダカリな (が) えらい (大変だ) 言うて 言うんよつて (言うのだから)。

だかれる (抱) **【自ラ五】** 1) 抱きかゝえられる。だく、いだくの転。腕でかかえる。抱く。2) 男と女が肉体関係を持つ。3) 会計その他の費用を受け持ってもらふ。だかえる参照 [会話] 1) 人に 抱かれてく (て行く) のは ダカレル 言うし、わがと (自分) 抱くとなあ 抱いた言うし (言います)、人に抱いて貰うのおを (のを) ダカレル 言うなあ (言います)。3) 抱くのも一緒に 費用全部 あの人に 持ってもおた (貰った) とか。皆 おんな ダイタルワ (てやる) 言うて わがと (自分が) 持つ事を おんな ダイタルワ (てやる) 言うて みぎれのええ (金拂いのよい) 人は、おんな (俺が) ダイタルワ (持てやる) 言うて、そんなら (それでは) 頼むわ 言うた時な (が) ダカレル になるわけや (です)。あの人に 抱いてもおて (貰って)。2) 今しのこらら (子供達) 聞くと よさり (夜) ダカレル 言う意味に 取るやろなあ (でしょう)。それや (それで) 無いね (無いの) よつてんなあ (だから)。金銭の問題か しなもん (品物) の問題や よつてんなあ。昔の人ら (は) 言わせんもんなあ (言いません) ダカレル 言うよおな事なあ (を)。そや (それは) 寝る 言いおつたなあ (言っていました)。あの人と 寝たとか 寝やした (寝させた) とか 言うけど (けれど) 今しみたいに (今の

ように 抱いて呉れ言うのなあ (のは) 子供抱くのお (のを) 言うぐらいやわい (です)。“抱いて 寝もせな (しなければ) いとも呉れず つなぎ船かよ 沖なかれ (で)” 言う (言います)。つなぎ船かよ (ですか) 沖なかれ (で) 言うて 部屋の真ん中で 寝とる (て居る) 事や (です)。こや (此れは) 船が もよとんのおを (連れ合って居るのを) もやい船の事やろなあ (でしょう)。つなぎ船やよってんなあ (だから)。船は かしばた (岸壁) に ついとんねけど (着いて居るのだが) そやけど (しかし) 男とおなご (女) と おっても (居ても) 抱いて呉れやへんし、寝ても呉れやへんし (呉れないし) 船な (が) かせ (岸壁) に にはい (二艘) 並んで 着いとる (て居る) よおな 例えやわい (です)。

だかかせ 抱きなさい せ、は、しなさい (志)

だきおとる 抱き合って居る 性交している

たきぎ (焚木) 【名詞】 薪、燃料。かまど、炉などに燃料として焚く細い板や割木。(志 (鶴方、布施田、志島、浜島)、鳥 (長岡、鳥羽)) [会話] きい (木) 切って からげて (束ねて) 置いて有るの (のを) タキギ言うて。家で きよくば (薪をおく所、木置き場) 言うて。きい 入るとこ (所) 一杯詰めて きよくば 一杯きい 入れとけよお (ておけ) 言うて 飯 炊かんならんもんで (炊かなければいけないので)、ほおた (あゝ) きよくば からやんかれ (空でないか) 言うて、二階から降して なあ 焚きおったの (居ました) タキギな (が) きれて (なくなって) 来たれ (来ました) 言うてなあ。

だきこむ (抱込) 【他マ五】 1) 自分の物として、かかえて離さない。金品を多く持って居て離さない。2) 腕の中に抱かえて入れる。3) 自分の仲間に引き入れる。4) まきぞえにする。[会話] 3) ダキコマレたんてわれ (のだそうだ) あの人ん (に) 言うて。上手言うて おんな (俺が) 言う事 聞いたや (ら) 金な (が) 儲かるとか、なんとか言うて ダキコム。そすと、そのわりん (に) のおて (無くても)、失敗に終わったよおな時の事を言うのなあ (です)。あの人ん (に) ダキコマレテ よわつたれ (困った) 言うてな。1) ダキコンドテ (でいて) 離させん (ない) 言うて、品物をだいてて (ていつて) 隠して離させん。おんな (俺が) ダイタルウ (てやる) それ、皆、言うて 皆 ダイタルウ 言うて、こおて (買って) くれる 人な (が) 有るの

を ダイタル言うてな 全部こおてくれる (買ってくれる) 人なあ。

だきしめる (抱締) 【他マ下一】 強く抱く 抱いて離さない

たきだし (炊出) 【名詞】 施餓鬼の一種 資産家の家に死人が出た時、町の辻辻で飯を振る舞う事。[会話] 金持ちの家な (が) 死んでくと (行くと)、タキダシや (だ) 言うて、大きな ほんだい (御櫃) 飯も一杯しといて (入れて)、ちっさいの (小さいのへ) 移して、辻辻もてて (持って行って) もち (握り飯) 握って、子供らん (に) 接待しよおったの (して居たのです)。施し言うて 金持ちやもんで (なので) みんな (皆に) 施する。金持ちでも欲な家は しやせんけど (しないが)、気な切れた (気前のよい) 家な (が) そげんして (そんなに) して。

たきづき (焚突) 【名詞】 夜、燈火をつけて魚を突きに行く漁 [会話] タキヅキ言うてな、ガスランプ点けて、よさり (夜) 魚、突きん (に) 行くんやんかな (行くのです)。魚な (が) めえとんね (見えているのです)。かがみ (覗き鏡) で覗いとんねよって (ているのだから)。よさり ガス点けて そして おえんで (泳いで) くんのを (来るのを) 突くんやろなあ (のでしょう)。

たきつけ (焚付) 【名詞】 火をおこす始めの物。薪や炭などにすぐ火が燃えつくように用いる 枯柴やこっぱ等。(志 (布施田、阿) [会話] タキツケん (に) 使う 松の葉 松ごみ 柴ごみは 焚きで (焚いている時間) な (が) のおて (無くても) 松ごみ 焚きよおて (やすくて)。

たきつける 【他カ下一】 煽動する (志 (布施田、甲賀))

たきづめ 続けて火を焚いて居ること。[会話] かったい (堅い) もん (物) いどらしとくと (蒸さしておくと) 二十分も三十分も タキヅメん (に) しとんのおより (しているのより)、さつと 十分位炊いて 火 消して ほとらしとくと (蒸さしておくと) その方な (が) やわこお (柔かく) なんのなあ (なるのです)。

たきつめる 水分がなくなる迄炊く (南)

たきで 【名詞】 焚いている時間 [会話] タキデな (が) 有るやんか (でないか) この きい (木) は言うのかい (ですか)。いまめ や (だ) とか、樫や とか 堅木やもんで (なので) タキデな (が)

有るし、ぞおき (雑木) は、じっきん (すぐに) ほかほかと燃えてて (ていつて) タキデな (が) のお て (無くて)

だきみ【名詞】鳥の胸部の筋肉 (上、阿)

たきもん (焚き物)【名詞】薪、燃料、焚き物、燃料として焚く物。たきぎ、まき。(志 (片田、甲賀、国府、越賀、鶴方、神明、立神、志島、安乗)、鳥 (神島 桃取 坂手 答志 菅島 鳥羽)、桑郡、桑市、員、三、鈴市、多、上、阿、伊、尾、北、南、熊) [会話] タキモン 言うな (のは) たきぎ の事。タキモンな (が) まあ (もう) なんも (なんにも) 無いよお なつてて (なつて行って) 言うてなあ、たきぎな (が) 無いよお なつてくと (なつて行くと)。タキモンな (が) のお て (無くて) 畑 いて (行って) いもがら (芋殻、さつま芋の茎) など (でも) もてこい (持って来なさい) 言うてなあ。畑 いて、いもがら もて来たり (持って来たり) がや くた (雑物) もて 来たりして。芋がらやなあ (とか) 麦藁 や (だ) 言うて みな (全部) 焚きおつた の (焚きました)。がやくた やてやら (とか)。工場 いても (行っても) 松葉 のごみ (落ち葉) を 昼休み 一服 (休憩) やどきに (などに) 掻き集めん (集めに) いて (行って)。

たきもんべや【名詞】薪置場 母屋の屋根裏 (志 (浜島)、鳥 (加茂 菅島 長岡) 伊) [会話] タキモンベヤ きよくば 言うねやんかい (言うのです)。きよくば のごみ を 皆 放り出したら 汚いわれ (です)。猫 の糞 たれて 言うて。はぎ (葉木) な (が) いちわあつ (一束づつ)、入る よん (ように) なつとて (なつていて)、あらくたい (大きい) のお (の) から あらくたい のお から てえ (手) でしやなぐつて (取つて) 焚くと したじや (下は) 灰 みたよん (のように)、土 みたよん なつて。きよくば のごみ も ひとばか (少し) さらえ たらな (取つてやらなければ) はざんわれ (いけない) 言うて そすとまあ 掴んで来ると猫の糞の塊

だきやう (だきあう、だきあふ)【抱合】【自五】互いに抱きつく 抱き合つて居る

だきやげる (抱上)【他ガ下一】抱きあげる。抱き上げるの訛 [会話] なんでも (なにでも) 抱えて上げる事を ダキヤゲル。

だきよとる 抱き合っている 性交している

たきりよお 燃料 薪 (志)

たぎる (沸)【自ラ五】1) 沸騰する。2) 腹を立て

る。[会話] 1) 煮えタギットラレ (て居る) 言うやんかい (言います)。物 な (が) 沸騰して もの す ごお 煮えとる (て居る) 時を 煮えタギル 言うやんかい。湯 気 な (が) ふうふう しとると (していると) 煮えタギル 言うの (言うのです)。

たぎれる 途中で列などが切れる。とぎれる。[会話] 葬式 しととも (していても) 列 な (が) とぎれた な あ 言うて、葬式 な (が) 切れる。タギレル と 又 葬式 な (が) あんねかして (有るとみえて) 切れた な あ 言うて。

たく (焚) (炊)【他カ五】1) 炊く、煮る、米などの穀物を釜などで、水分が全部吸収されるように煮る。(三重県全域) 2) 茶を沸す。味噌汁を作る。(志、南) 3) 焚く、火を燃やす。ある物を燃料として火を燃やす。4) 風呂の水を入浴出来る迄 加熱する。(志) [会話] 2) ちゃあ (茶) タク、しる (味噌汁) タク 言うて。煮る事を、タク 言うの (のです)。飯 炊いとけよお (炊いておきなさい)、ちゃあ 炊いとけよお 言うてなあ。御飯 タク (炊く)、かやくた (雑物) や (とか) なんや かや で (色々の物) 焚かな (焚かなければ) はざんねやんか (いけないのです)。御飯 タク の な (のが) 苦 になり よつた (苦痛になりました)。飯 も 炊かんと おつて (炊かずに居て) 言うて。そして 茶 でも かんす (罐子、湯を沸かすのに用いる青銅製又は真鍮製の器、茶釜) で 茶釜 で 別ん (に) タク ん やんかい (炊くのです)。ちゃあ (茶) は、ちゃあ で てん どり 言うてなあ 鉄 の 文福 茶釜 な (が) 昔 や (は) 家 一軒 になあ ちゃあ (茶) タク 時 や (は) あん で (あれで) ちゃあ 炊 いて。茶釜 や 罐子 や 言うてそして こび しゃく (小柄杓) で か えて なあ (移し替える)。⁴⁾ 風呂 も タク 言うなあ (言います)。風呂 も 焚いとけ (ておけ) 言うて、沸 す 事 なあ (です)。ごみ くた (ごみ) や、なん か を (とかを) タク ね も んで (焚くので) 飯 も 炊き もて (ながら) 風呂 も 焚いとけよお 言うて。風呂 沸 す のお は (のは)。炊 いた のお な (のが) 冷 めた のお を (のを) も い っ ぺん (今一度) タク の は わか す。お つ け (味噌汁) でも まあ (もう) 冷 めて た よ つ て ん (冷めて行ったから) ちょ いと (少し) 沸 せ 言うて 炊 け 言 わ せん の (言わないのです)。一 番 始 めに 作 る 時 は タク で、その 炊 いた のお な (のが) 冷 めて た (て行った) のお を タク 時 を 沸 す。沸 して せ な (しなければ) う ま ない わ れ (美味しくない)

言うてなあ (言います)。朝は 味噌汁炊いて 昼はそれを沸かして 二度炊きすんのは (するのは) 沸す言うのなあ (言うのです)。がっこ (学校) から来て、さい (副食) な (が) 無いと 朝の残りをなあ 冷めとおても (たくても) それ かけて (御飯にかけて) うまかりおったなあ (美味しかったのです)。畑へ行って (行って) ちゃあ (茶) タクと ちゃえん (茶畑) のきい (木) へしょつといて (折って) それを ふるといて (振っておいて) 菓籬へ ちゃえん (茶の木) を突っ込んでいて (でにおいて) そすと (そうすると) 茶の匂な (が) よおて (よくて) うまいの (のです)。あれのはあ (葉) を 枝ごち (ごと) 持て (持って) 来といて (来て) ちゃえん (茶の木) 入れて、炊いて飲むと、匂な (が) よおて うまいのおな (のが)。

だく【名詞】 楽 らくの訛

だく(抱)【他カ五】 1) 物を抱える (志) 2) 男女が情を交わす 3) 費用を持つ

たぐい(たぐい) (比) (類)【名詞】 一緒に居る者。仲間。[会話] あいらな (の) タグイや (は) どくな (ろくな) 事 しょおかれ (するものか) 言うてな。仲間の事。あいらな (の) タグイや (は) 皆 あげな (あんな) よおな 仲間ばっか (ばかり) やなあ (だ) 言うて、仲間言うのも一緒やわい (です)。

たくしあげる【他ガ下一】 1) 言いつの事。無理を言う事。2) まくりあげる (員) [会話] 1) 言いまくって (つのつて)。そいな (そんな) 事 言うたら (言ったら) はぎをか (駄目だ) やら (とか) 言いまくるのを、タクシアゲル言うの (のです)。2) きもん (着物) を腰まで タクシアゲル あや (あれは) はぼるや (です)。はぼる言うのは きもん (着物) も はぼれまあ (なさい) そや (それ) ぞろぞろ 引きずつとんのん (て居るのに)、昔や (は) 尻 はぼって言うてなあ 尻 つぼってはさけて (挟んで) 尻も つぼれまあ 言うたり、はぼれまあ言うたりなあ。雨な (が) 降る時や (は) 必ず 尻 はぼってなあ、着物やよって (だから) なあが長い (長い) よって。

たくしこむ【他マ五】 ものを引き寄せて入れる。自分のものにする。自分の物として離さない。欲が深く他人に与えない。(志 (布施田)) [会話] タクシコンドンネ (でいる) なんもかも (なにもかも) 言うて。かこする (しまっている) 事をなあ、なんも

かも 皆 タクシコンデ あやれ (あれ) 言うて。隠す事を、タクシコム 言うて。なんもかも、わがとこい (自分の所へ) 引き込んで 隠しとんのをな (ているのを) タクシコム わがと (自分が) 皆言うて 人ん (に) させまい (やらない) 言うて、わがと ばっか (ばかり) しとんのをなあ (しているのを) ま わがと (自分) ばっか タクシコム言うなあ (言います)。

ダクダ【名詞】 ラクダ (動物) (三、鈴郡、鈴市、松、多、尾)

だくだい 落雷、次項参照

だくだい【名詞】 落第 らくだいの訛 (三、鈴郡) [会話] ダクダイ坊主 言うて かまよおった (からかいました)。雷な落ちてても **ダクダイ** (落雷) や (です)。ダクダイすると、今しや (今は) ダクダイ させやせんけど (させないが)、わしらな (私達が) がっこ (学校) の時や (は) 三人 よつたりいつ (四人づつ) 落ちてきよおったなあ (来て居たのです)。そしてまあ、ダクダイした言うて **わり** (悪るい) **もんでなあ** (ので、おおた てえねん (丁寧) に **なるとんねなあ** 言うて。

だくな 楽である。らとだと訛 (志) [会話] 仕事な (が) あんまり (あまり) えらい (大変でない) とこ (所) はなあ、ダクナ。ちん (給与) こぎや (値切れれば) みい (働か) こぎる (怠ける) 言うて、**ダクシヤ** (楽すれば) 賃 (給金) な (が) やすいわれ (安いです) 言う。仕事な (が) えらい (大変な) 家は 賃もよけ (沢山) 貰られるけど (が) 仕事な (が) **ダクナと** 賃こぎや、みいこぎる言うて。働きな (が) えらい とこい (所へ) 行きや (ば) ぜん (銭) よけ 貰られるけど (が)、おらげ (俺家) 仕事な (が) **ダクデ** (楽で) 言う家や (は) こぎられんの (値切られるのです)。そやよって (だから) 働きな (が) えらい 家や (は) 働きもえらい 代りになあ、賃もこぎらんと (値切らずに) 呉れるしなあ。

たくなみ(企)【名詞】 企らむ事 悪い計画

たくなむ(企)【他マ五】 たくらむの転 企てる 特に悪事を計画する たくむ参照

たくまし(逞)【形容詞】 1) たくましい、しっかりして居る。力強い。勢いが盛んである。(志 (布施田)) 2) 欲が深い [会話] 1) タクマシ。えらい人 (よく働く人) は がしがし働くし、とろくさいな (のは) とぼんととして (して) **仕事よおせ**

ん (仕事が出来ません)。

たくまれる 計画される。悪計をめぐらされる。[会話] タクマレル言うな みんな (皆) な (が) 相談して 一致して やったるか (やっつけてやろうか) てや (言えば)、やったるか (やっつけてやろう) 言うて、皆 企くんで (企くらんで) かんまえとんね (構えているのです)。

たくみ (巧) 【名詞】 計画 特に悪計 (志 (布施田))

たくむ (巧) 【他マ五】 計画をめぐらす。計画的にする。謀る。企てる。(志 (布施田)) [会話] あくばい (悪友) やれ (だ) あや (彼は)。なんえでも (なににでも) 首突っ込んで わり事ばっか (悪い事ばかり) タクム。

たくらべる (比較) 比較する。くらべる。た比ぶ。たは接頭語 [会話] あれとあれを タクラベル。くらべる言うのを タクラベテみよまあ (見なさい) 言うて。較べる事をなあ (です)。

たくらみ (企) 【名詞】 たくらむこと。計画、陰謀、多く良くない事を計画するのに用いる。[会話] あんな (彼が)、たくらどんねやれ (らんでいるのだ) 言うてな。考えとる (ている) 言う事をなあ、あんな (彼が) タクラミで あいな (あんな) 事 すんねどお (するのだ)、あんな (彼が) しいそおな (しそうな) 事やれ (だ) 言うてな。

たくらむ (企) 【他マ五】 くわたる。計画する。多く良くない事を計画する場合に言う。タクムの延 (大言海) [会話] タクラム、考 してなあ、だんどり (準備) しとる (している) 言う事や (です) わり (悪い) 事を タクロンドンネ (らんでいるのだ) あや (彼は) 言うて、あんして (あんなにして) したら 金な (が) もおかんなあ (儲かる)、どげん (どんなに) したら 金な (が) もおかんな 言うて、そいな (そんな) 事ばっか (ばかり) タクロンドンノヲなあ。

…**たくられる** 盛んにされる ひどくされる (北) [会話] 引ったクラレル 言うて。ひったくたね (ていったのだ)、ヒッタクラレタねよお (のです)、まあ 持っとたや (ていたら) 言うてな。しゃくつてた 言うてなあ、

たくりこむ 【他マ五】 自分の物として離さない …たくる参照

たぐりこむ (手繰込) 【他マ五】 引き寄せる 手許に寄せて自分の物のする

たぐりつく (手繰付) 【自力五】 たどりつく。探し出

す。訪れる。まといつく。辿りつく 有りつく [会話] 飯 タグリツクね (のです)。腹な (が) へって がっこ (学校) から来て、はよ (早く) 家い (に) 行て (行って)、飯くわな (食べなければ) おもて (思って) 麦や芋でも そんでも (それでも) 旨かったね (のです)。今し (今) の米、食うより、旨かよおったの (旨かったのです)。みいり (収入) な (が) ええとこ (よい所) えろで (選んで) あんな (彼が) 行くねよってん (行くのだから) 言うやんかい (言います)。ええとこ (よい所) ええとこい タグリツクと みいり な (が) ええとこ ばっか (ばかり) まあって (廻って) 言うて。

たくる (手繰) 【他ラ五】 1) 手許に引き寄せる
2) 奪い取る

…**たくる 【他ラ五】** 動詞の連用形について動作を猛烈な勢いで、或いは繰り返し、又徹底的に行う意を表す。盛んにする。走りタクル。ひつタクル。(志、鳥、津、一、松、上、阿、張、度、伊、北、熊) [会話] 飯を タクツタ 言うて、腹へらしとんのか して (て居るのか) あやれ (あれあれ) タクリコム ない (込みます) 言うて、ほぼり込む (頬張り込む、ロー杯入れる) とか、タクリコム とか。よけ (あまり) 急いで 喰う事を タクル 言うなあ (言います)。慌てて食べて 腹へらして (すかして) あやれ タクンネ (たくるのだ) 言うて、急いで食べて 腹一杯食べる事 腹一杯食べて いそいそと (少しあわただしい状態) タクリコンデ 言うてな (言います)。ヒツタクル 言うのはなあ 人の持っとる (て居る) もん (物) を しゃくりとばし といて (強く引つ張って) ヒツタクリ 言うて、それ 鞆 を ひつタクラレタ 言うやんない (言うでしょう)。それも一緒に 人の持っとるもん を しゃくんの お を ひつタクッテ おこしたね (よこしたのだ)。ううた (ああ) あんな (彼が) 此れ出したや (たら) ひつタクッテたねよお (行ったのだ) 言うて すと (すると) どいらい (大変) 気持ちな (が) わり (悪い) のな (のです)。しゃくられると ひつタクラレタ 言うてなあ。しゃくる言うのは 勢いよお (よく) 引つ張る言うので 人の持っとんのお を ひつタクル 言うて、ひきもじいた とか ひつタクル とか 言うてなあ (言います)。走りタクルなあ、走りまくってく (て行く) とか 言うしなあ (言います)。走りタクル 言うのも はよ (早

く) 走りまくってけ (て行け) 言うて、せいで (急いで) 行くのを そして (そうして) まいこましてけ (て行け) 言うて。

たぐる (手繰) 【他ラ五】 両手を交互に動かしたり、網状のものを繰ったりして、手もとに引き寄せる。手で順々に引き寄せる。[会話] そや (それ) 網もたぐつとけ (ておけ) 言うてな。網な (が) 伸びとると (ていると) たぐつとかな (ておかなければ) はざん (いけない)、危いやんかあ (でないか) 言うて。両方の手で 引っ張って わあ (輪) にして すんの (するのを) タグル言うて。

たくろどる 企んで居る 考えている。[会話] わり (悪い) 事をタクロドル 言うて。

たくろんどる 企んで居る 考へて居る 隙を狙って居る。[会話] わり (悪い) ことを、なつとしたら (どうしたら) あれを 手ん (に) 入れるか おもて (思つて) 考へて しどる (している) ことを、タクロンドル 言うて。

たくろんどんね 企だてているのだ 考えているのだ

たくわえ (たくはへ) (貯) (蓄) 【名詞】 1) 貯蔵品。たくわえた物。2) 財産としてたくわえておく金、預貯金。[会話] ② タクワエな (が) なんも (全く) のおて (無くて) 言うてな。ぜん (銭) 貯めとらせん (ていない) 言うのを、なんの (何の) タクワエも 無しん (に) おとっしや 今迄 おつたんか (居たのか) 言うて。タクワエな (が) よおせん と (出来なくて) かせんだ (稼いだ) だけ、ばつぱつ と 使こたる (てやる) 言う事をな、タクワエな (が) わり (悪い)。タクワエて あんねよつてん (有るのだから) 少少 病氣したてて (しても) がいん (あまり) 心配せんで (しなくて) ええわれ (よろしい) 言うて、よけ (沢山) 貯めとる (ている) 人は、おら (俺は) まあ タクワエもないねよつてん (のだから)、病氣したら ひまのかあやれ (大変だ) 言う。タクワエ言うのは 金でも 物でも 貯めてあんのを (有るのを)。

たくわえる (たくはへる) (貯) (蓄) 【他ア下一】 後の用のためとっておく。物品や金銭などを集めてしまっておく。[会話] たぼつとく (しまつておく) 事を、タクワエル言うて。たくわえ も なんも (少しも) のおて (無くて) 言うて、金も貯めとらんと (ていなくて)。なんもかも (すべて) とつとかな (しまつておかなければ) はざんわれ (駄目だ) 言うて、たくわえとかな (ておかなければ) い

かんわれ (いけない) 言うのを な、とつとけよ (取つておきなさい) そや その ぜん (銭) も つこたらんと (使つてやらずに) 言うて、たくわえとけ 言うのを、とつとけ 言うてな。まあ そげん (そんなに) とつときの (とつておきの) きもん (着物) お茶も やのふき (屋根葺き) も着てなあ言うてな。

だくん 楽に、正座などをくずす意。[会話] おおい ぎ (胡座) かいて、おっかい (大きく) なつて ダクン 座つてくれえ (下さい)。

たけ (葎) 【名詞】 きのこ (志摩市 (各地)、鳥、桑郡、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、安、津、一、飯、松、多、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] タケ狩りや (だ) タケ狩りや 言うて 松茸 きのこの 事を。“山へ出るのは 松茸 きのこ 前に出るのは ちんぼこに おめこ” 言うて (言います)。

たけ 【名詞】 高さ 身長 (北) 着丈 [会話] タケな (が) みじこおて (短かくて) ちんちくりん になつてた言うて おら (俺は) まあ 腰な (が) 曲つとる (ている) もんで (ので) タケな (が) 引きずつとる (ている) 言うて、せえ (背) の事を。タケな (が) 伸び過ぎて 言うのも有るし、おらまあ (俺は) タケな (が) ちぢかんでて (縮んでいつて)、身長のを。きるもん (着る物) こしやえる (作る) 時も タケは幾らで言うて 寸法のを タケ言うのなあ (です) 高さとか長さとかを、計る言う事やなあ (です)。

たけ 【名詞】 朝熊山 (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、伊)

だけ (丈) 【副助詞】 名詞、丈 (たけ) からの転。それに限定する意を表す。それが限界で、それ以上には及ばないと言う意を込めて程度を表す。(志) [会話] そんダケ (それだけ) のもん (物) 言うて、ちよいと (少し) すけない (少ない) と、そんダケ え言うて。そんダケやそこら呉れて言うて。ちよおいと (少し) 呉れると そんダケ やそこらのもん 言うて、そんダケ やどけ (その位など) なんどお (なんだ) 言うて、ちよいと 呉れると。ちよいと 言うのと ちよおいと 言うのは ちよいと 言うのは ちよいと (少し) すけないの (少ないのです)。ものすごい (大変) すけない (少ない) のは ちよおいと 言うの (のです)。

たけかわ (たけかわ) (竹皮) 【名詞】 筍を包んで居る鱗片状の皮。成長するにつれ自然に脱落する。食物

を包んだり、裂いて、笠や草履などを作ったりするの用に用いる。[会話] 竹のかわ、タケカワ言うてな。昔や(は) かいしきの代りになあ 竹のかあ(皮)を乾したのおを(のを) 延べて、しばって(束ねて) 有つてなあ、飴でも かしん(菓子) でも 皆、タケカワ え 包みよおったね(包んで居たのです)。そすと ひつつかんで ええやんない(よいでしょう)。遠さい(に) 行くのん(に) 弁当包むのも 竹のかあを 包んどると(でいると) また旨いね(旨いのです)、竹のかあ はなあ。あやまあ(あれは) 筍を取らんと(取らずに) すつとしたのおの(の) かあ を はんで(剥いで) 孟宗の筍、抜いたらんと(てやらずに) そんな(それが) 竹ん(に) なつてくやんない(なつて行くでしょう) それの かあ を 一枚つ 乾いたのおを はんで くざけて(水に浸して) 伸ばして、じっばん(立派に) たとで(豊んで) あんねてや(あるのです)。下駄すげんのも(鼻緒つけるのも) タケカワ(皮) くざけといて(浸しておいて) それ、下駄の藁い(へ) 捲きよおったね(捲いて居たのです)。じよおり(草履) 作つても あれを ひとこんして(一重して) きれ(布)の代りん(に) 捲いて。昔や何処やかやい行くと トイレの草履が、皆 竹のかあ(皮)で してありよおったやんかい(有つたで有りませんか)。

たけさわ。たけざわ(たけざは)(竹竿)【名詞】 竹の竿。たけざお 1) 洗濯物を干したりするの用に用いる。2) 舟を操つるの用に用いる。3) 鳥や昆虫を採るの用に用いる。4) 漁をするの用に用いる。用途により太さ、長さ、形が異なる。[会話] 1) タケザワ。物干しざわ(竿)。タケザワ しよおったしなあ(していました)。2) 魚 つんのも(釣るのも) つりざわ(竿) 竿の事。

だけしか だけより(度、北) [会話] こんダケシカ 無いね(無いのです)。こんダケシカ くれらったね(呉れなかった)。こんだけ(これだけ)のもん(もの) なんどお(なんだ) 言うて。

ただけし(猛猛)【形容詞】 1) 悪事に対し反省心がない。ずうずうしい。ずぶとい。2) 気性、行動が荒々しい。3) さわがしい。[会話] 3) たけらし言や(えば)、人な(が) 言うとてもなあ(ていても)、わがと(自分が) タケダケシ 差し出口して よけ(沢山) さえずんのを(喋べるのを) タケダケシて(しくて) まあ あんな(彼が)。要らん事ば

つか(ばかり) 言うて、差し出がましい よおなもんやわい(ものです)、タケダケシて 言うてな。あや(あれは) よけ(沢山) 差し出口するもんで(ので) かか(妻) な(が) たけらし言うて、とと(夫) な(が) 喋つても(ていても) かかな 突つ込んで来て(横槍入れて) 喋ん(る) ので、あの家や(は) かかな(妻が) タケダケシてなあ言うてな、たけらし言う人も有るしなあ。

ダケツト【名詞】 ラケット(志、南)

たけつとる 1) 大声を出して居る 叱つて居る 2) 勢い込んで居る さわいでいる 3) 陰茎が膨起している [会話] 2) 早よ寝くされ(早く寝なさい)、いつ迄もタケツトラント言うて。

たけでつば(たけでつぼう)【名詞】 竹欵砲。玩具の一つ。女竹の筒に紙、杉の実を玉にし、別の玉を押し出して空気の圧力で飛び出るようにしたもの。てつぼうの末尾母音の省略 [会話] タケデツポ こさよおつたやんかい(作つて居たでありますか)。汚い紙 嗜んどい(でおい) たり、かぶろのもも(実) 取りん(に) 来てなあ、ぼんぼんと よお(よく) いよおつたやんかい(射つて居ました)。

…**だけど【接続詞】** けど参照。だけれど、だけど、だけれど、だけれども。前文で述べた事柄に対し、それと反対の事柄、又は前文から当然予想される結果に反する事柄を示す後文を導く。そうであるが。(阿)。

たけとる すぐれている 盛りを過ぎて居る [会話] 子供らが ひねこし事言うと、あや(彼は) タケトルなあ たけて来たれ言う。

たけのこ【名詞】 医師になつたばかりの者

たけのこいしや【名詞】 藪医者よりまだ下手な医者 藪医者にもならぬ程なる意(大言海)(員)

たけのこめし【名詞】 筍を入れた炊き込み御飯

たけのよお(たけのよう)【名詞】 竹の節。竹のよ(節間)の延 [会話] タケノヨオを伝う言うて、昔は天刑病(ハンセン氏病) かつたい病(ハンセン氏病)の人と 竹で吊ると タケノヨオを伝う言うて、うつる(感染する) 言う事を。竹で 吊りもんすんな(するな) 言よおつた(言っていました) 竹で吊りもん(物) するとなあ ちい(血)と、ちい(血)と、タケノヨオ伝う言う意味でなあ。天刑病 かつたい病のもん(者)と 吊ると、うつる言うて 言よおつたね(言つて居たのです)。竹の節の事を だ ヨオ言うねけどだ(ののですが) 管なら ぼんぼ

ら(穴)のとこ(所) な(が) 管やけど(だが) ヨ
オ伝う言うんよってんなあ(のだから) その節も
突き抜けて来る言う意味やろんなあ(でしょう)。

たけまいり【名詞】 朝熊岳に登り 死者の霊を祭る事
(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安
乗)、度、伊)

たけらし(猛)【形容詞】 猛々しい。やかましい。そ
うぞうしい。がさつ参照 [会話] タケラシ 言う
のは ばちくた(よく喋る) 言う にげ(人間)を。

たけられる 激しく叱られる 言われる(志、三)
[会話] タケラレル言うて 怒られる事。おなごら
(女) な(が) 大きな声で おめくのなあ(わめく
のを)、あやれ(あれ) たけつとられ(ている) 言
うてな。大きな声で おめきやあるいとと(叫ん
でいると) あやれ たけつとられ まあ言うて。

たけり【名詞】 よく喋る人。よく騒ぐ人。[会話] よ
け(沢山) きゃんきゃんたける にげ(人間)も、
あや(彼は) はちくた(お喋り) やよってん(だか
ら) タケリやなあ(だ) 言うて。

たける(長ける)(開ける)【自カ下一】 1) 十分にそ
の状態になる。たけなわになる。盛りの状態。時期
を過ぎる。十分に備わって居る。すぐれて居る。
2) 野菜などが成長し過ぎて食用に適さなくなる
(志(立神、国府、鶴方)上、阿、張、名、北、尾、
南) [会話] 1) うまあけてく 終り言う事やなあ
(です)。まあ タケテタレ(て行った) あやれ
にげ(人、人間)も まあ 嫁ん(に) 行きそこね
て(そこなって) おると(居ると) あや(彼女は)
タケテキタレ(来ました) まあ 言うて。娘な
(が) 嫁ん 行きそこねて おると なあ タケトン
ネ(て居る) 言うて。子供らな(が) ひねこし(大
人ぶった) 事言うて あや タケテキタレ(来
ました) 言うてなあ、あや タケトルな(て居
る) 言う事も 有るなあ(有ります)。さえとる
(冴えて居る) 言うけどな(言います)。さえとる
言うのを タケル言う事も有る。2) なんやかや
(色々) 稔ってて(てしまつて) 稔り過ぎて おっ
てく(落ちて行く)と タケテタ。筍やどけでも
(などでも) おつきい(大きく) になると タケル言
うて。おつきい なつて はざん(駄目) な、よお
ん(ように) なつてくと(行くと) タケテタ。畑で
ホーレン草や、なんやかや 作つて有ると さかり
(最盛期) 過んでくと(過ぎて行くと) まあ タケ
テキテ とおぐんで 来たれ 言うの(言うので

す)。ともぐんで来た言うのは とお(臺)が立つ
穂が出たり 花が咲いて来たりすんの(するのを)、
とおぐんで来る言うてなあ(言います)。種になつ
て来る事を。とおぐさ てや(とは) 臺が立つ 立
つ手前の事をなあ とおぐんで来たまあ言うて、臺
な(が) 出て来た言うの(ののです)。出たると(出
てしまうと) 出て来た言うの(言います)。その出
る前に とおぐんで来た。

たける(猛)(哮)【自ラ五】 1) 大声で叱る。じたば
たする。荒々しく行動する。激しい勢いで動く。感
情が高ぶる。興奮する。(志(片田、布施田、浜島、
鶴方、神明、立神、甲賀、国府、志島)、鳥、北)
2) 色情をもよおして興奮する。[会話] 1) タケル
とか 怒鳴るとか 言うて 怒る言う事を。わり
(悪い) 事するとなあ タケラレタよお言うて、大
きな声で おめく(叫ぶ)のを タケル言うて。2)
犬や猫な さかりなついて来るのは(発情して来る
のは) さかり(発情) な(が) ついて(して来
て) まあ、ついて来たかして(と思えて) タケット
ラレ(て居る) 言うやんかい(言います)。よけ
(多く) 鳴くと タケル言うの(ののです)。

…**だけん【接尾語】** だけに。[用例] あいな事(あんな事) したダケン

たけんま【名詞】 竹馬 うまと発音しない 初午もは
つんま(志(鶴方、浜島、国府、立神、安乗)、鳥
(神島、答志)、桑郡、桑市、安、津、一、多、
名) [会話] 竹で こしやえんのお(作るのを)。
タケンマ よお(よく) しおおったなあ(して居ま
した) 冬になって来ると よお タケンマ乗つてな
あ。たつかあい(高い) のお(のを) 乗りおつたけ
ど(乗つて居たが)。今し(今の) の子ら(は) よ
おこさえんのなし(作れないのですし)、しとる
(して居る) あい(時間) な(が) 無いねわい
(無いのです)。塾や塾や(だ)、今しの子ら(今の
子は) 勉強ばっか(ばかり) なあ 可哀想なくらい
やなあ(です)、今しの子らなあ。

たこ【名詞】 凧 竹などで作った骨組みに紙を張り、
糸をつけて風を利用し、空高くあげる物。(鳥、桑
市、四、員、鈴郡、亀、安、一、飯、松、多、上、
阿、張、名、度、伊、南、熊) [会話] タコタコあ
がれ 天まであがれ 言うのは、昔や(は) タコノ
ボシ しよんがつ(正月) ん(に) になると タコノ
ボシで。

たこ(蝸)【名詞】 地固めに用いる用具 固い丸太を

切った物に持つ所を付けた物 (度、南)

たご【名詞】 肥桶。肥料を運ぶ桶。方言に非ず諸国通用の俗諺なり。彼桶の形田胡浦の潮を汲む桶の形になる故に田胡浦桶なり。略して田胡桶と言うに又略して田胡とばかり云。小便を受ける桶をたこ桶と言うも方言なるや。答 此は方言にあらざ諸国通用の俗諺なり。是農家早苗を執り田を植える事をなすものを田子と云て和歌に詠めり。此田子の用いる器ゆへに田子桶と言うを略してたごけ、又たこと言うなり。(毎事問) (志 (浜島、越賀、鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥 (長岡)、阿、張、名、北、尾、南、北) [会話] タゴ こえ (肥料) 持つタゴ、たんご たあご。たあご言うね (言うのです) タゴ言うねなら (言うのなら) ええねけど (よいのですが) たあごや (です)。

たこお【形容詞】 高く (桑郡、北)

たこくらげ【名詞】 茶色のくらげ

たごしらえ (たごしらへ) (田捨)【名詞】 水田を整え田植えの出来る状態にする (南)

たごたごしとる 1) 桶などに入っている液体が揺れている状態。2) 締りの無いこと [会話] 2) 酔おて しっかりしたとこな (所が) のおて (無くて)、ひよろひよろ したよん (ように) しとるとなあ (していると)、タゴタゴ しとんない (しているのだ) あやれ (あれ) 言うて、力な (が) 無いよん しとると。1) 担いえ 水入れて タゴタゴして たんごりこして (あふれて) 落し藁入れて言うて、こえ (肥料) 担うと 落し藁 入れな (なければ) タゴタゴと揺れるやんかい (揺れます)。揺れて水な (が) いぐくのおを (動くのを) タゴタゴシル言うの (のです)。たんごりこす言うね (言うのです)。たんごりこして 跳ばれ (跳ぶ) 言うて、ちよいと (少し) すくで (藁くず) でも まるけて (丸くして) 入れると たんごりこさせんねけど (溢れないが) 水 取りん (に) 行くと きい (木) の はあ (葉) を へしよって (折って) それ 浮けると そげん (そんなに) タゴタゴしやせん (しません)。

たこつく 費用が多くかかる

たこつけ【名詞】 鰯魚に行く事 (北)

たこて【形容詞】 高くて (四、上、北、熊)

たこなる 高くなる (安、北、南)

たこのあきない【名詞】 損得のないこと、商売してあまり利益の無いこと。[会話] タコ アキナイ (売) る時や (は)、一杯 二杯言うて 売るやん

かい (売ります)。そやよって (それだから) いっばい いっばい (利益の少ないこと) タコノアキナイ言うの (のです)。

たこのおお (たこのおう) (尾)【名詞】 尻につける尾。平衡を保つためにつける。[会話] タコノオオ 言うのは、尻い (へ) むいて (対して) ぶらさげとん ねかい (て居るのですか)。きれ (布) を つなげ (継いで) 手拭や まいかけ (前掛け) の わり (悪い) のおを (のを) きさいて (切りさいて) つないどいて (ておいて)。

たこのぼし【名詞】 尻。[会話] 尻、尻あがれ 天まであがれ言うのは 昔や (は) タコノボシ。

たこぼおず (たこぼうず たこぼうず) (蛸坊主)

【名詞】 僧を卑しめて言う語。[会話] タコボオズ言うたや (言ったら) おっさんぶう (和尚) の事を言うんやろな (言うのでしょうか)。おっさんぶ おしもりぶ へんじかんじぶ 言うて おっさんに かまよ おったね (からかっています)。おっさんの事を タコボオズ言うんやろな、おっさんの事を わり (悪るい) 言葉で。親坊主にや (には) よお言 わんねけど (言わないのだが) こそ (小僧) に そげん (そんなに) 言うてな かまよ おったね。

たこまあし【名詞】 蛸が食べた鮑の殻。[会話] タコマアシ言うな (のは)、島の下ん (に) 鮑な (が) おるやんない (居るでしょう) そすと 蛸な (が) それへ入ってて (て行って) 足で こしよぐって (くすぐって) 鮑 取って 剥いて 喰たんの (食べてしまったのです)。

たごめる 1) 失敗した。おしまいだ。 2) 曲げる [会話] 2) 枝をなあ 曲げて くんのなあ (くるので) タゴメル、たらいのくいのを (たらいにくいのを) 取ん (る) のを、タゴメエ タゴメトイテ (ておいて) 取れえ (取りなさい) 言うてな。なりもん (果物) でも 峠ん (頂上に) なつとんな (なっているのは) 取られやせんやんない (取れないでしょう) 鎌で タゴメテ 来といて (来ておいて) とれえ 言うてな、曲げといて 取れ言うのな (のを) タゴメトイテ 取れ言う。

たこや 炊きましよう [会話] 味噌汁 言わんと (言わずに) しる (汁) タコヤ言うて。

たごや (田小屋)【名詞】 田にある農具を入れたり、一時的に稲を入れたり、又農作業中に休憩したりする小屋。[会話] タゴヤい (へ) 行くと、藁がきや もんで (なので) タゴヤみたよななあ (のようだ)

言うて 藁ぶきの家見ると。

たごわった 失敗した [会話] タゴワッタ なんか (何か) しくじった時ん (に) タゴワッタよお 言うて。たごな (が) はっしやんどるとなあ (乾いて居ると) 水入れても 漏るやんな (でしょう) そいな (そんな) 時ん (の) のおを (のを) タゴワッタ 言うて。たごなあ (を) 頂いてくと (頭に乘せて行く) さいご (その時) わあ (輪、たが) な (が) はっしやんどるもんで (乾燥して居るので) 底な (が) 抜けてて (て行って)、そすと こえ かぶ ったり (頭から浴びる) する事が有ってなあ そおする事から 来とんねやろなあ (来て居るのでしよう) タゴワッタ言うて。

たし (足) 【名詞】 たしまい 足し。不足分を補う事。(志 (浜島)、熊) [会話] タシにせええ (しなさい) 言うて、なんかなあ しそい (志添、心づけ) みたいな (のような) 事すると、ちよいとやけど (少しですが) タシン (に) してくれえ (下さい) 言うて、やる時ん (に) 米をやりおったんやろなあ (あげて居たのでしよう) 米の事やわい (です) タシマイ言うて。しなもん (品物) でも 言うけど (けれど) 米をした事を 言うたんやろなあ (言ったのでしよう)。そんで (それで) タシマイ言うんやろなあ (言うのでしよう)。

たじ 【名詞】 1) おかもち。食物などを入れて運ぶ道具。(志 (鶴方、神明、立神、志島、国府)、鳥 (鳥羽)、多、阿、伊) 2) 食品保存の暖房具 [会話] 2) タジ 言うな (のは) 昔、かつて (台所) ん (に) 置いて 有りおったわい (有りました)。言うとなあ (言えば) ほいろ みたいん (のように) してあんねなあ (有るのです)。火鉢のあっさあい (浅い) のおへ (のへ) ひい (火) 入れて それを 底い (へ) 入れといて (ておいて) ふち (周り) を張って 空気な (が) 出やん (出ない) よおん (ように) して、そしてまあ 入れとくと (ておくと) ぬくぬくしとて (して居て) そいなのおを (そんなのを) タジや言うて (と仰いました)。火を入れるとなあ ほこほこと 冬はぬくとお (温かく) しとんの (して居るのです)。そいで 何も入れんでも (入れなくても) そいな (そんなのを) 置いてて (て居て) かつての残りもん (物) やどけ (など) 入れとくのん (ておくの)に) タジ入れとけ (ておけ) 言うて言うわい (言います)。ほいろ 言うな なあ (のは) ちゃあ (茶) を 今しや (今は)、皆

電気でするけど (するが) 昔や (は) ほいろ 言うて 赤土で粘って くど (火を焚く所) にして そこい (そこへ) 炭入れといて そこい 鉄板みたいな (のような) のお (のを) しといて ちゃあ (茶) をすんの (するのです・作るのです)。ほいろ で ちゃあ (茶) 煎る言うやんない (でしょう)。ちゃあ (茶) かける時 ほいろ いかけた ちゃあ は うまい 言うて、ほいろで 煎つといたのを もおどいて (揉んでおいて) 又 干し もお では 又 干し い してなあ。昔 言うたてて (とところで) 十年や二十年ばか (程) 前も しおおった (して居ました)。家で 皆 こさえよおったの (作って居たのです)。家のちゃあ (茶) は うまいねてや (美味しいのです)。

だし (出し) 【名詞】 1) 出し汁の事。出し汁を取るための昆布、鰹干、煮干など、だし汁。鰹節、昆布などを煮出したうま味の有る汁。2) 山車 3) 人に利用される。手段 方便 口実 理故 利益を得るために利用する物。[会話] 1) 鰹のダシ、煮干のダシ、鰹のダシ、うまいやんかい (です)。2) それから お祭りの時ん (に) ダシ (山車) な (が) 出る、ねり (練り) な 出んねてわい (出るのださうだ) 言うて、山田 (現、伊勢市) い (へ) 大祭りん いたや (行ったら) 新道い (へ) ねりなでんね (が出る) 言うて 出しもん (物) な (が) する言うのを。ねる (布の一種) な (が) 出んね (出るのだ) 言うたや (たら)、なかね (腰巻き、ねるで作る) かおやねえ (買いましよう) 言うた (言いました)。昔や (は) ねるのなかねな (が) どいらい (大変) 楽しみやったんやんかい (でした)。冬になると ねるのなかねも よお買わんと (よく買えなくて) 言うたなあ (言っていました) そのねるのなかね 買うのな (のが) どいらい たいき (大義、困難) やったの (だったのです)。大阪で買うと 三十銭 っで 買われんねけど (買えるのだが)、その三十銭 が もったいのおて (なくて) よお買わんで、そやよってん ねりな (が) 出んね (出るのだ) 言うのを 出しもんな (が) 出んのを (出るのを)、ねるや (だ) 言うて。ねるのなかね や (だ) 言うて。3) あれん (彼に) ダシン (に) しやれて (された) 言うて ダシン (に) おおた (逢った) 言うて、よお言うなあ (よく言います)。あんな (彼が) こげん (こんなに) したもんで (ので) おらも (俺も) こげん した言うて ダシン (に) した言うて、ダシ

ん おおて (会って) 言うてなあ (言います)。¹⁾
ダシ取んのん (取るのに) ダシジャコ 言うんかい
(言うのですか) 煮干やなあ (です)。鰯を釣って
来ると 鰯を焼いといて (ておいて) それ干してな
あ 一斗鐘へ。粉で こまこお (小さく) しといて
なあ (しておいて) そして それを 匙一杯つ お
つけ (味噌汁) 炊く時ん (に) 入れると どいらい
(大変) うまかりおったねてや (旨かったのです)。
まあ 今日日 (きょうび)。近頃は そいなん (そん
なのは) ねえしだ (有りませんし)、煮干し言うて
鰯のちっちゃいのな (小さいのを) あれを するけ
ど (が)、昔や (は) 鰯をこおて (買って) 炊いと
いて (ておいて) 骨抜いて (取って) ぜめ 取っと
いて ほおろくで煎って ほん (本当) こお (粉)
に しといて それを しゃじ (匙) ん (に) 一杯
つ おつけやどけん (などに) 入れると うもおて
(おいしくて) そいな (そんなのを) ダシや言う
て (と言います)。

だし【名詞】西風 陸地より海に向かって吹く風 地
方により方向は異なる (志、伊)

ダジオ【名詞】ラジオ (阿)【会話】ラジオの事を
ダジオや (だ) 言うてな ラジオ言うにげ (人) も
有るけど (が)。

だしがら (出殻)【名詞】煮出してだし汁を取った後
のかす

だしき【名詞】座敷。(志 (片田、志島)、鳥 (石鏡
浦村)、員、三、鈴郡、松、上、阿、張、名、度、
南)【会話】座敷 言うのを ダシキ 言うてなあ、
ダシキン (に) 一杯 広げて。

だしぎたない 金を出すのに、けちけちして居る。出
ししぶる。(南)【会話】ダシキタナイ家は ほん
とん (本当に) ことわり言うのも上手で。

だしくずし 少しずつ済ます事。なしくずし。【会話】
借金しとてても (していても)、ちよいちよいと (少
しずつ)、ぼちぼち (ぼつぼつ) 出すのを ダシク
ズシに さしてもおて (させてらつて) 言うて、ひ
とくらん (一度に) どんと よお出さんし (出せない
ので)。

だしこ (出子)【名詞】1) 煮出して、味付けにする
干した雑魚。だしじゃこ、煮干。(南) 2) 鰹節の
形を整えるのに削ったもの【会話】²⁾ダシコ 言
うな (のは) 鰹節 削ったのおを (のを) ダシコ言
うて。よお (よく) 売つとるやんかい (売って居る
で有りませんか)。ダシコ入れて 炊いて美味いわ

れ (です) 言うてな、削り粉の事をな ダシコ言う
て。

だしこんぶ (出昆布)【名詞】煮出して、味付けに使
う昆布。【会話】昆布。飯いも (にも) 鰯すんのん
(するのに) みな あれ入れて炊くね (炊くので
す)。鰯や (だ) てこねすんのんなあ (するのに)
昆布を切ったの入れて 皆 炊くん (炊くのです)。
天理教い (へ) 行くと よお (よく) ダシコブこ
おて (買って) 来る。

だしじゃこ (出し雑魚)【名詞】煮干し。(南)

だしたてた 送り出してやった【会話】じょおし
(漁師) ダシタテタタ よつてん (から)、これか
ら 畑い (へ) 行かな (なければ) 言うて、送り出
した言う事を ダシタテル言うのな (です) 旦那さ
んな (が) 会社い (へ) 行くのでも、送り出すのお
を (のを) ダシタテル、娘でも そおや (そうで
す)。ダシタテタタ言う時は 送り出した言う事
なんもかも (すべて) 用意してなあ。

だしたてた 送り出した 送り出して【会話】何
処い (へ) でも 行く時んなあ (に) 出てくと (出
て行くと) ダシタテタテ、旅い (へ) 行くのでも、
きもん (着物) や、なんかも (とくすべて) ちゃん
として (きちんと) したてて (整えてしてやつて)
やるもんでなあ (行かすので) ダシタテタテ言うて。

だしたてる 送り出す【会話】だれんも (誰も) あ
の家や (は) おなごでな (女手が) ねえし (無いの
で)、支度 (用意) してくれるもん (者) ねえし
ダシタテル にげや (人間が) のおて (無くて) 言
うてなあ。

だしたる 1) 出してやる 2) 離縁する (志、鳥
(相差)【会話】¹⁾わしな (私が) ダシタルわい
(ます)、あんたな (貴女の) 借金も言うのも 一
緒や (です)。なんやかや (いろいろ) こおて (買
って) したのおを (のを)。²⁾嫁さん ダシタル
おらげや (俺の家は) あいな (あんな) 嫁や (は)
気に入らんよつて (から) ほりダシタル (てやる)。
戻したんのを (てやるのを)、嫁も ダシタンて
ない (そうだ) あの家や (は) 言うてな。戻されて
来たのを ダサレテ来たんでわれ (来たそうだ)。

たして 1) 加えて 加える (員) 2) 加えて下さい
足して下さい

たしない (足無)【形容詞】1) 数量が少ない。乏し
い、物が少なく困窮している。(志 (浜島、布施田、
鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安樂)、鳥

(鳥羽)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、安、津、一、多、上、張、名、度、伊、北、尾、南、熊)
2) 貴重だ。

たしないもん【名詞】 少ない物。貴重なもの。[会話]
ないもせんもん (無い物) そげん (そんなに) よけ
(沢山) ばあばあすんな (するな) 言うて タシナ
イモン ないもせんもん。

たしなみ(嗜)【名詞】 日頃の心がけ。つつしみ、節度。[会話] タシナミな (が) ええなあ (よい) 言うて、ミダシナミな (が) ええなあ 言うて。きちんとしとると (していると) あのひた (人は) じょおく (いつも) ミダシナミな (が) よおて (よくて)、きちんと しとてなあ (していて) 言うてな。

たしなめる(審)【他マ下一】 叱る いましめる

たしまい(足米)。たしまえ(足し前)【名詞】 不足を補う物 たしまえ (伊、南) [会話] 葬式でも 欠損な (が) 行くと (生じると)、だいが あいたか 言うて。あいたら みんな (皆) な (が) タシマイ せな (しなければ) はざんなあ (いけない) 言うて、割りあうのを。あいたら みんなな しそい せな はざんなあ 言うて。タシマイの事を、しそいや 言うて 不足にしたのを 足すことや (です)。

だしもん【名詞】 1) 出し物。山車や踊りの行列など、祭りの催しもの。2) 芝居などの演題 [会話] 1) よさり (夜) ん (に) ダシモンな (が) 出てくんの を (くるのを)、ねりな (が) 出る 言うて。

だしやう(だしあう、だしあふ)【他ワ五】 出し合う
互に金銭などを出す

たしよお(多少)(たせう)【名詞】 数量。程度の少ないさま。[会話] タシヨオは こげん (こんなに) しても ええけどな (よいが) 言うて、少々は 言う事な (です)。タシヨオ 言うなな (のは) あんまり (あまり) 量も多ないし 少々の事なら 言う事 やなあ (です)。

だしよた 出し合った 各人持ち寄った (桑郡) [会話] わりやいする (割合する)。わしも (私も) 十円出すの (から)、あんた (貴方) も 十円 出せえ (出しなさい) 言うて、出しやい (出しあい) する事をなあ、ダシヨタ。

だしよて 出しあつて。[会話] 集銭 しよおや (しましよ) 言うて、みんな (皆が) ダシヨテ すんの (するのを) 集銭

たす(足)【他サ五】 不足分を補う。[会話] あんな (あれが) 足らんよつて (から) だい (どれ) わし

な (私が) タシタルわい (足してあげます) 言うて。足らん時んなあ (に) みんなな (皆が) せんでも (しなくても)、わしな (私が) タシタルわい 言うて、そお言う場合になあ タス 言うて、たしまい (不足を補う) する事を タス 言うね (言うのでず)。

だす(ダス)【名詞】 ダス網 真珠養殖の貝を入れて海中につるす網 [会話] ダスアミ 言うて貝を活ける 四角な網な (が) 有るやんない (有るでしょう) あれダスや (だ) 言うやんかい (言います)。

たすからん 大変困る 非常な迷惑を受ける

たすかり(助)【名詞】 助かる事。救われる事。[会話] 今日はまだ てつとでもろて (手伝ってもらつて) たすかつたよお (助かりました) 言うて、仕事よおせん (出来ない) おもたや (思つたら) お前な (が) 来てくれて タスカリ やったよお 言うて。

たすかる(助)【自ラ五】 骨折りや負担が少なくてすむ。楽になる。[会話] 仕事な (が) きまらせん (終らない) おもとのん (思っているのに) お前な (が) 来てくれて きまつて (終つて) たすかつたよお 言うて言うのを タスカル。

たすけやい(たすけあい、たすけあひ)【名詞】 助けあい。互に援助しあう事。[会話] タスケヤイ やよつて (だから)、もろたり (貰つたり) やつたり かためごとやよつてん (御互い様だから)。

たすける(助)【他カ下一】 家計の一部を負担する。収入を家計に繰り入れる。たすくの口語。[会話] てつとて (手伝つて) やんのをな (やるのを) タスケル。たすかつた言うのは、てつとて もらつて (貰つて) たすかつた 言うしなあ。てつとて もろて (貰つて) よかつた 言うて。あれ (彼を) タスケン (助けに) いかな (行かなければ) 言うのはな、てつたい (手伝い) に行くとか、お金出したる (てやる) とか、そお言う時や (です)。

たずねあわす(たづねあはず) (尋合)【他サ下一】 あちらこちら尋ねて 聞き合わせる 問い合わせる

たずねごと(たづねごと) (尋事)【名詞】 相談。探し求める事。[会話] タズネゴト。あんなな (貴方が) わしらん (私達に) たずねる、そいな (そんな) 事やな (です)。たずねて、どこや (何処とか) かやい (何処とかに) 行く事を タズネゴト。あの人な (の) とこい (所に) 行くねけど (のだから) よお知らんね (よく知らないのです)、あしこい (あすこへ) いて (行つて) たずねて こおかい

なあ (来ようか) 言うてな、問おて こおかいな 言うのをな。

たづねとる (たづねとる) 【他ラ五】 問い合わせて居る

たづねまある (たづねまはる) (尋回) 【他ラ五】 あちらこちらを尋ねて、探し求める。[会話] 聞きにまある事を、問いにまある事を タズネマール言うて。あの人な (が) お前げ (家) い (に) こらったかい (来ませんでしたか) 言うたや (言ったら)、俺家い (に) 来たけど (が) 又 何処やらい (かへ) 出てたれ (出ていった) 言うたや、又 その家い (へ) あの人な (が) こらったかい 言うて たづねる 問いまあんのを (回るのを) タズネマール 探しまある言うてな。

たづねもん (たづねもん) 【名詞】 1) 尋物。探し求める物。2) 尋ね者、犯罪者 [会話] ① あんたげん (貴方の家に) なにそれな (が) 無いかい (有りませんか) 言うて あられ (有ります) 言うたや (言ったら)、それ 俺家い (へ) わけてくれえ (下さい) 言うてな、探し求める物。 なんでも (何でも) こおたり (買ったり) もおたり (貰ったり) 求めるもん (物) をな、タズネモン言うて。 ② わり (悪るい) 事して タズネモン (者) やてわい (だそうだ) あや (彼は) 言うてな。

たづねる (たづねる) (尋) 【他ナ下一】 探す

だすやる。だすやるん 出すでしよう

たそく (多足) 【名詞】 足の数の多い事。1) 不足を補うもの。たしまえ。(志 (浜島、布施田)、上、阿) 2) 手助け (志 (浜島)) [会話] ② タソク言うのは、家い (へ) ぜん (銭) かせんで (稼いで) 家を援ける事を タソクする、家 タソクせな (しなければ) 嫁んも (にも) やらせん (やらない) とか、ぜん稼がな (がなければ) はざんよつて (いけないから)、やらせんとか言うて、昔や (は) 嫁ん (に) やるまで (行く迄) 家ん (へ) タソクせな 言うて。家い (へ) 稼いで かね (金銭) 入れる事を タソク言うて。かかって来て (一人前になって) 少々家い金入れんのなあ (入れるのを)、かかって来たれ (来ました) 言うて。おらげ (我家) 子供らな (が) かかって来て 楽やれ (だ) 言うて。子供らな かかって来たけど (けれど) なんも (何も) タソク してくれやせん (して呉れない) 言う家も有るし (有ります)。

…**たた** 動詞について完了形。してしまった。やって

しまった。した。やった。(志、熊) [会話] あれしタタ、あれん (彼に) くれタタ、こげん (こんな)に 言うタタ、言うてな。物、やんのもなあ (やるのも) くれタタ もの言うのもな 言うタタ言うてな。してやっても 仕事もしタタ言うしな してやった言う事をな しタタ言うのなあ。あんな (彼が) こげん (こんな)に 言うたや (言ったら) おかして (面白くて) わるタタよお まあ言うてな。

ただ (徒) (只) 【形容詞】 普通の (志 (布施田))

たたき 【名詞】 1) 田畑で液状の肥料を入れるため、石灰、粘土等で、たたき固めたこえ壺。(三和土) 2) 粘土や石灰で叩き固めた所。タタキツチ (叩土) の略 (志 (甲賀)、阿、張、名) 3) 魚や鳥の肉、骨等をたたいて摺り身にしたもの。又それを団子にして、汁に入れる。(志 (布施田)、鳥 (鳥羽)) [会話] ① タタキ 言うのは 畑いでも (へでも) 大きい壺 (穴) 掘って 石灰と土とを 練つといて (ておいて) 皆、叩いてしよおったもんで (して居たので) あれ タタキ (三和土) 言うんやろ (言うのでしょ)。今しや (今は) コンクリで するけど (が) 昔や (は) タタキ言うのは 石灰と 赤土 (粘りのある赤色を帯びた土) をふるたの (振ったのを、小さいのを) 練つて そして それを塗って ぺたぺた叩いて (ておいて) そいといて (そうしておいて) 又、うわぬり (上塗) ん (に) 立派ななあ (に) 石灰練つて すべりよお (滑らかに) しよおった (しました)。そんで (それで) あや (あれは) うちちやれいんやわいなあ (壊れやすいのです)。ちっきん (すぐに) 土な (が) 取れて きよおつたの (来て居ました)。今しや (今は) 皆 セメンやけどなあ (です)。昔や (は) タタキや (だ) 言うて、叩きおつたの (居たのです)。きい (木) の そり返つたよおなのおで (ので) ぺたぺたの (のを) 叩いて (ておいて) うわぬりしおつたの (して居たのです)。② 地面 固める時も 有るしなあ (有ります) タタキ言うて ① つぼ (壺、穴) 掘つといて (ておいて) 畑へこえ (肥料) 入れんのん (入れるのに)。大きな 二枚敷 (畳二丈敷) ぐらいのなあ しとる (して居る) 家も有るしだ (有りますし) ちっちやあいの (小さいのを) しとる家も有るしだ。昔や こえがめ (肥瓶) の代り ん (に) タタキしといて (しておいて) それい (へ) つね (日常) の せせなげ (洗水) やどかなあ (だとか) こやし (肥料) を 皆 ためこんど

いて(貯めて)、ひま(暇)ん(に) になって来ると
(時間に余裕が出来る)と 麦のこやしん(に) すん
のん(するの)に タタキ みな しときおったわい
(して居きました)。畑な(が) ひととこ(一ヶ
所)に よけ(多く)有ると タタキ こさえとい
て(作っておいて) 家い(へ)でも しとくしなあ
(しておきます)。³⁾ 魚やなんや ちあい(血合
い) 叩いて タタキ、魚のタタキ言うのなあ(ので
す)。あれも うまいやんかいなあ(美味です)。タ
タキん(に) しといて(しておいて) あら(粗、魚
を三枚におろした肉以外のもの)を叩いたり、骨の
よけ(多く)あるもん(物) 叩いたり、タタキン
(に) すると、うまい。団子汁い(へ) 入れんのも
(入れるのも)あれも タタキなあ(です)。今し
や(今は) ジャッキで ねったるけど(ねってやる
が)。

たたきあみ(叩網)【名詞】 漁法の一つ 二つの船が
張った網の中へ 他の一隻の船が海面を叩いて 魚
群を追い込む方法

たたきがい(叩)【名詞】 足もとを見て、安く買う事。
(志(布施田)) [会話] 市場へ かけんと(通さ
ずに) 現金な(が) ほしおや(欲しい時は) こそ売
り(内緒売り) すんねやんかい(するのです)。現
金で くれんねやんかい(くれるのです)。そやけ
ど(しかし) 安いんやんかい(安いのです) タタキ
ガイ みたよなもんや(のようなものです)

たたきころす(叩殺)【他サ五】 撲り殺す たたつこ
ろす参照

たたきさがす 1) 激しく叩く 2) 遊び歩く(志
(布施田))

たたきすえる(叩据)【他ア下一】 激しく叩く [会
話] ええいまあ ごおなわいて(腹が立って) タ
タキスエタタレ(てやった) 言うて。撲ったる(て
やる) 事を。そして ほこりな(が) 有って、おら
(俺は) まあ タタキスエタタ。蓆 たたくと タ
タキスエタラな(なければ) はしか な(が) 落ち
んで(落ちなくて) まあ 蓆も タタキスエタタ、
いくら叩いても、はしかな(が) 落ちんで 言うて。
なんべんも なんべんも 叩く事を タタキスエル。
タタキスエル言うて、物凄いい力入れて叩くね(叩く
のです)、こいな(こんな) 時や(は)。

たたきだいく(叩大工)【名詞】 仕事が下手な大工。
[会話] あや(彼は) タタキダイクやてや(だ)。
大工の腕の わり(悪るい) のおを(のを) そそく

り大工や(だ) 言うたりな、どこやかや(あちこ
ちら) ちよいちよい(少しづつ) わり(悪るく) な
って来たところ(所)を、なおしてくれ(下さい) 言
うて、なおして貰うのなあ そそくり大工や(だ)
言う。どいらい(大変) 大きな家は よお建てんよ
おな(建てられないような) ちよいちよいの大工を
タタキダイク言うの(のです)。タタキダイク言う
と 下手な 言う事や(です)。ふご大工や(だ)
言われやせんしなあ(言えないし)、下手なのおを
(のを) ふご大工や(だ) 言うやんない(言うでし
ょう) あや(彼は) ふごも ふごやけど(だが) ば
たふごやれ(だ) 言うてな。

たたきびしゃく 1) 叩き潰す 2) 激しく叱る

たたきまくる 激しく叩く。[会話] タタキマクルと
か 叩きすえたとか 激しい時やなあ(です)。

たたきやい(たたきあい、たたきあひ)(叩合)【名
詞】 たたきあい。叩合、互いに叩きあう事。なぐり
あい、喧嘩。[会話] タタキヤイしとられ(してい
る) 言うてな、撲りやい(あい) しとる(してい
る) 言うのを、タタキヤイしとられ 言うて。喧嘩
しとんのをなあ(しているのを)。

たたく(叩)【他カ五】 1) 叩く、なぐる、打つ。
(志(国府)、鳥(坂手)尾) 2) 喋る [会話]
¹⁾ 肩 タタク、頭 叩きすえたれ言うて。頭 叩か
れた、尻も叩きまくったろん(てやろう) 言うて。
叩きまくられた言うのは、力入れて いっしょおけ
んめ(一生懸命) 激しい(く) 撲られた言うの(の
です)。叩いてくれ(下さい) 言うのは おとなし
いし、叩きまくられた言うのは ものすごお(大変、
物すごく) 叩かれた。叩きすえたとか 叩きまくっ
たとかなあ まあ激しい時やなあ(です)。

ただぐい(ただぐひ)(只食)【名詞】 御飯を食べず
副食のみ食ふこと、又その逆

だだくさ【名詞】【形容詞】 物を粗末にする事。又そ
の人。丁寧でない事。整頓せずにだらしないさま。
又そのようにしている人。(志(片田、浜島、布施
田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乘)、
鳥(鳥羽、桃取、答志)、桑郡、員、三、鈴市、安
津、松、多、上、阿、張、伊、北、南) [会話] 物
を粗末にするとなあ よけ(あまり) ダダクサン
(に) すんなまあ(するな) 勿体ないのん(のに)
言うて、粗末ん(に) する事を、ダダクサするとか、
野暮にしたりすると(丁寧にしなないと) そげん(そ
んなに) ダダクサン(に) すんなまあ。ダダクサな

よってん (なのだから) なんもかも しなもん (品物) も丁寧ん (に) すや (すれば) ええけど (よいのに) こや (これは) たっかい (高い) もんやどお (物だぞ) 言うて。ええもん (よい物、高価な物) を ざっぱ (雑把、粗略にする) ん (に)、ほっちらばしたり (放り散らかしたり) すると、丁寧にし よまあ (しなさい) こいな (こんな) ダダクサな事 せんと (せずに) こや (これは) たっかい物やどお (だぞ) 言うて。

だだくだり 【名詞】 非常に激しい下痢 (上、阿) [会話] 腹下しかい (ですか)。腹下し びいびいやよ お (だ) 言うたりなあ、水みたよん (のように) ぎあつとすんのなあ (するのを) ダダクダリ。

ただごと (徒事) (只事) 【名詞】 あたりまえのこと。世の常の事。[会話] タダゴトやねえわれ (でない) 言うな、大変な事やれ (だ) 言うのをな。こや まあ (これは) タダゴトや (で) ないどお (無いぞ) 言うてな、えらい (大変な) 事を。心配事とか しぞこない (し損ない、失敗) したたか (してしまつたか) すると、こや タダゴトやないわれ (でない) 言うてな。タダゴトやない 言うのは 大変な事や (だ) 言うの (のです)、病気でも あの人な (が) 病氣したね (したのだ) 言うけど (が)、あや (あれば) タダゴトやないど、どいらい (大変) 熱な (が) すんねてわれ (するそうだ) 熱な (が) 下がらんわてや (ないと) 言うてな。タダゴトだけん (に) になると 当たり前の事。えらい事や 言う事を、タダゴトやないわれ 言うて、それや (だから) タダゴトは 普通の事や (です)。

ただごとならん 大変だ、普通でない

ただごとやない 大変だ。普通では無い (志 (布施田)) [会話] こや (これは) タダゴトヤナイやんか (です) 言うて、えらい事 (大変な事) やなあ (だ) 言うのな (のです)。大変な事 言うのんなあ (言うのを) タダゴトヤナイわれ (でない)、こないな (こんな) 事 するてや (とは) 言うて。病氣な (が) ものすごお (ものすごく) 重そおな時、こげん (こんなに) になると タダゴトヤナイど (ぞ) 言うて、ひいひいとなあ づつなそおん (苦しそうに) しとる (して居る) とか 痛そおん しとるとか 言う時ん (に)、こや (これは) タダゴトヤナイやんか (でないか) 言うて。あんまり (あまり) 痛がったり、普通より苦しん どる (で居る) 時んなあ (に) タダゴトヤナイわれ (でない)、ほ

つとかれやせんわれ (放っておけない) 言うてなあ。あの人な (が) 顔色変えて とばくらかしてたれ (走って行った) あや (あれば) タダゴトヤナイん どお (でない) なんか起つたんど (起つたのだ)。あやまあ きよおざめがお (興ざめ顔) して 行くやんかあ (行きます) 言うて。きよおざめ顔 言うて 驚いたよおな顔しとる (して居る) きよおざめ顔 して いかれ (行く) あやま (あれば) タダゴトヤナイねやれ (でないのだ) 言うてなあ。

だだこね 【名詞】 無理を言う子供 [会話] てっかきんのを (無茶言うのを)、子供な いくら たらしても (なだめても) 聞かせんと (ないと)、あれもしてほし (欲しい) 此れもしてほし、あれせな (しなければ) やや (嫌だ)、これせえ (しなさい) 言うて、泣いとんのが (ていのが) 有るやんか (有ります)。あいな (あんな) のを、ダダコネ 言うの (のです)。ダダコネて 出来ん (ぬ) 事して おこせ (よこせ) 言うて ダダコネて まあ、なんどかやどお (何かだ)。

だだこねる 【動詞】 子供が自分の願望がかなえられない時、親などに無理な我儘などを言い張つてすねる (桑市、三、上、阿) [会話] ダダコネ 言うのは、甘えんぼ (坊)。てっかきつとる 言うのを、ダダコネる 言うて。ごねる (無理を言う) 事を、てっかきつて あやれ (あれ) 言うて。

ただごめ 【名詞】。ただまい 1) 糯米 普通の食事に用いる米 うるちまい 餅米に対して (鈴市、鈴郡、安、一、飯、上、阿) 2) 玄米 [会話] ① タダゴメ、ただまい 言うのは くろ (玄米) の事なあ、くろまい (玄米) 言うて、タダマイ 言うの 搗いてない意味やなあ (です)。¹⁾ そして 餅 搗くのはもちね (餅米) で 普通の米を タダマイ 言うて。餅搗く時や (とか) 赤飯する時は もちごめです、御飯炊いたり 鮭したり すんのは (するの)は タダマイ なあ (です)。ただまい 言うの (のは) 普通の米 言う事やけど な (だが)、そして 搗いてないくろまい (玄米) 言うのも、くろまいで こおて (買って) 搗いてもろた (貰つた) 言うの (のです) 搗かんと (ずに) あんの (有るのを) 買うとなあ。搗くのん (に) 世話なよつて (面倒だから) 白米 こおた (買った) 言うて、搗いてあんの (有るのを) となあ。

ただごめ 【名詞】 自分が金を出さないで飲む酒 響応されて飲む酒

だだしけ【名詞】激しい風雨

たたずまい (たたずまひ) (佇)【名詞】生活 生活の
仕方

たたっころしたろん 叩き殺してやるぞ たたっころ
す参照

たたっころす【他サ五】叩いて殺す。又叩くを強めて
言う語。叩き殺す。[会話] タタッコロシタロン
(てやるぞ)、あまめ(ごきぶり)でも、出て来た、
はよ(早く)タタッコロシタレ(殺してやれ)言う
て。あんな(あれが)また勾配(行動)な(が)は
よおて(早くて)、たたこ(叩こう)おもうとち
ゅっと逃げてくんやんかい(て行くのです)。は
よ(早く)タタッコロシタレ、そやれ言うてな。子
供でも言う事よけ(あまり)聞かせんと(聞かない
と)叱る時ん(に)タタッコロシタンド(てやる
ぞ)言うたりおったわ(言ってやりました)。

だだびろい (駄々広) (徒広)【形容詞】大変広い、
とりとめもなく広い。徒広い。だだひろいの音便
[会話] ダダッピロイ言うて、だんだらびろい 言
うて、こや(此れは)だんだらびろいなあ 言うて。
ダダピロいなあとかなあ、ものすごお 広いとなあ
ダダピロイとか だんだらびろいとか言うてもの
すごい 広い事をダダッピロイ だんだらびろい。

…たたてて してやっても(志(布施田))

たたな 立たなければ(北)

…たたない してしまった[会話] おおた(ああ)
こやれ(これ)まけタタナイ(こぼした)、ちゃあ
(茶)を言うて。あげん(あんなに)言うタタナイ、
言うたたけど(が)まあこや(これは)ちごとら
れ(違っています)言うのを、こげんして(こん
なに)して言うね(言うの)やったのん(だったの
に)あげんして(あんなに)言うましもた(失
敗した)事したれ(しました)言うてな、言い間違
いしたるとなあ(してしまうと)。

ただならん 普通でない 大変だ 程度が甚だしい

ただの 普通の

ただの 無料の

だだばしり (直走)【名詞】夢中になって勢いよく走
る事。(志(浜島、布施田、鶴方、神明、立神、甲
賀、国府、安乗)) [会話] はだしか(裸足)で
あやれ(あれ)ダダバシリ してかれ(して行く)
言うて 走ってく(て行く)事をなあダダバシリ、
だんだんばしりで まあ言うて。急いどる(で居
る)時んなあ(に) 走って来るのをなあダダバシ

リやたら(だとか)、だんだんばしりやたら 言う
てな。

ただばたらき【名詞】骨折り損。報酬無しに働く事。
(志(布施田)) [会話] タダバタラキ。ちん(賃
報酬)もらわんと(貰わずに)働くと タダバタラ
キやったよお(だった)言うて。タダバタラキで、
あほ(馬鹿)みたいなかったよお(のようだった)
言うやんかい(言います)。いくら働いても ぜん
(銭)もくれやせんし(呉れないし)タダバタラ
キして あいなもんやれ(あんなものだ)言うて、
ぜん(銭)もらわんと(貰わないと)よお言うわい
(よく言います)。

だだびろい。だだびろい(徒広)【形容詞】広い、大
変広い。だだびろい参照 [会話] ものすごお
(大変)広いとなあダダビロイとか だんだらび
ろいとか言うて。

だだぶり【名詞】大雨の降る状態。雨が激しく大量に
降ること。じゃじゃぶり参照(志(鶴方、神明、甲
賀、国府、安乗)、阿、張、名、南) [会話] 雨な
(が)ざざ降りとか じゃあじゃあ降りとかダダ
ブリ言うたり うなし(同じ)意味やけど(だが)。

だだばだ【名詞】【形容詞】乱雑なこと しまりのな
い事(志(布施田、鶴方、立神、甲賀、国府、安
乗)員)

ただまい (唯米)【名詞】ただごめ 1) もち米に対
し、普通の米。うるち米(志(浜島、鶴方、神明、
甲賀、国府、安乗、立神)、鳥、桑郡、桑市、員、
鈴市、亀、津、安、一、飯、松、多、上、阿、度、
伊、北、尾、南、熊) 2) 玄米(志(立神)) [会
話] 2) タダマイ言うのはなあ、搗かんと(ずに)
ある米を、粳 取ったた(てやった)後の、タダマ
イで それを搗くと白米で、糠 取って。あの玄米
の事 タダマイ言うの(のです)。今で言うと 玄
米。昔は タダマイもろて(貰って)とか、白米も
ろて(貰って)とかなあ。玄米言うな(のは)タダ
マイの事や(です)。1) そんななあ(それで)もち
まい(餅米)言うのは 餅 搗くのでな タダマイ
言うのは ただ御飯炊いて 餅ん(に)ならせんね
やんか(ならないのです)それを タダマイ言うの
(のです)。もちまい言うのは 餅ん(に)搗いた
り、あられん(に)したりするもんで(ので)もち
ね 言うんけどなあ(言うのですが)御飯炊くのは
タダマイ。

ただみ【名詞】植物。たまの木 [会話] タダミノキ

イ (木) へ 登って、タダミのきい (木) 言うな (のは) ほらんどのきい (木) の事を言うんやんかい (言うのです)。

だだもり 【名詞】盛んに水の漏れるさま。ざざもり参照 (志 (布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、上、阿、熊、北) [会話] 雨な (が) 降ってくるよお (ように) 漏ってくんのを (来るのを)、ダダモリ言うて、桶な (が) はっしやんどて (乾燥して) ダダモリやれ (だ)。

だだもれ 【名詞】水漏れの甚だしいこと

ただもん (只物) (只者) 【名詞】普通の物、人。時に打ち消しの言葉を伴う。[会話] こや (これは) ただのもん (物) や (だ) 言うて、ただの肉や (だ) 食うたんか (食べたのか) 言うて。ただもろ (で) 貰って 来ると、タダモンや (だ) 言う。お金出さんと 貰うのを な タダモンや (だ)、ただのもん (物) や (だ) 言うのな。あや (彼は) まあちよい (少し) と タダモンやないどお (でないぞ) 言うて なんか (何か) 企みしとる (している) 様な 形勢な (が) 有る人を、あや (彼は) なんやら (何か) タダモンやないどお だいぶ (大分) 一物あられ (有る) あや 言うて。

…**たたや** たたら、(し) てしまつたら。[会話] 今し (今) の 嬢な (が) わりよってん (悪いから) 言うて戻しタタヤ、こんだ (今度は) どけな (どんな) ええ (よい) 嬢 貰えるか おもたや (思つたら) はこたれ (糞たれ) もろた (貰つた)。

たたらふむ 1) つまづく、踏み損なう。2) 地だんだを踏む。(志)

たたりごと (崇事) 【名詞】1) 神佛や怨念によってこうむるわざわい。2) うらみ事、悪口。[会話] 2) 〇〇、なだ (沖) いて (行つて)、人魚のいお (魚) 釣ったや (ら)、人魚のいお (魚) な (が) 色々な タタリゴト 言うもんで (ので)、いやらしな (て) 放したたや (て) やったら、さてもひんそな (貧相な) 〇〇 肌一枚な (が) 千両千両 言うといて (ておいて) いた (行つた)。

たたる (崇) 【自ラ五】神佛 悪霊が害を加える

ただれ 【名詞】爛れる事

ただれめ 【名詞】 臉の赤く爛れた目、慢性結膜炎

ただれる (爛) 【自ラ下一】乱れる。皮膚や肉が腐つてくずれる。[会話] ちゃちゃくらかす言うのは タダレテクル事なあ (です)。タダレル言うな (の

は) 乱れる言うの (のです)。

たたんで 1) 折り曲げて。2) 破産して [会話] 1) きもん (着物) タタンデ、蓆タタンデ。2) そす と しんしよ (身上) も タタンダてわれ (そう) だ 言うて、しんしよしまうと (破産すると) あの家や (は) 商売な (が) あわんで (合わなくて) タタンダてわれ 言うてな。

たち (質) 【名詞】氣質、性質、人は十人十色で、いろいろな性質を示すものである。その中でも感情や情緒の特性に型が有る、これが氣質である。(志 (布施田)) [会話] タチな (が) わりいて (悪くて) あや (彼は) 言うて。素性のわり (悪るい) にげ (人間) を なあ、なんか盗みしたり、嘘言うたりする にげ やなあ (です)。あや (彼は) タチな (が) わりいて はざんな (駄目だ) 言うてなあ、あや (彼は) 人ん (に) 喧嘩したり、えらい (大変) タチな (が) わり 男やなあ (だ) 言うてな。人を たばかつたり (だましたり) すると、あや (彼は) タチな わり ねよってんな (悪いのだから) 言うて。不良の事やいなあ (です)。わり (悪い) 事をするのを タチなわりねよってん あや まあ (彼は) なにして来るやら (か) 判らせんねどお (判らないのだ) 言うて。タチなわりよってん あいな (あんな) 事すんねやんかれ (するのだ) 言うて、性格な (が) わり 言うのを タチな わり 言うの (のです)。

たち 【名詞】系統。血統 [会話] その家の 血統を言うんか、タチな (が) わりねよって (悪るい)のだから 盗みの血統とか、病気の血統な (が) わり (悪るい) 家やよってんなあ (だから) 言うて。

たち 【名詞】仲間。[会話] あいら (彼等) のタチな (が) 言うて、仲間を言うけどな (が)。

たち (立) 【名詞】1) 建物の高さ。(志 (布施田)) 2) 海の深さ [会話] 1) タチな (が) たっかい (高い) 言うて、家な (が) たっかいと、あや (あ) れは タチな (が) どいらい (大変) たっかい (高い) 家やなあ (だ) 言うけど (言います)。たっこお (高く) する事を タチな (が) 高い 言うて (言) います)。

たち 【名詞】たちいお たちうお 体は著しく延長側 遍し、尾部は長く後端は紐状で終わる。口は大きく、下顎は上顎より前方に突出する。腹鰭と尾鰭を欠く 臀鰭鰭条は極めて短く殆ど皮下に埋没する。側線は 単線で、後半部は体中央よりやや下方を腹縁に沿つ

て走る。全長1.5mに成る。体色は銀白色。(志)

だち【名詞】 らち、埒、進み具合。ダ行とラ行の混合。

(志) [会話] ダチな (が) あかん 言うて、ダチ なあかん 言うのは 仕事な (が) 進まん 言う事 やなあ (です)。そげん (そんなに) しとたら (していたら) ダチな (が) いかせんわれ (行かない) 此の方が 早いわれ (早いぞ) 言う時 ん (に) ダチ や (と) 言うのなあ (言います)。手なねばいと ダチないかん 言うて、てえ (手) な (が) ねばい (粘) 言うて 手な (が) おっそい (遅い) 事を 手なねばい (粘) 言うの (のです)。手ぬるい 事を 手な (が) ねばおて (粘くて) 言うて (言います)。

たちあがる(立上)【自ラ五】 1) 蒔いた種が芽を出す。(一、松、度、伊) 2) 出世する。状態がよくなる。[会話] ② あの家も おちこんでたや (落ち込んでいたら)、そんでも (それでも) タチア ガッテ 来たなあ。子供らな かかotte (手伝いして) 来たや (ら) 言うて。家な (が) ちよいと (少し) めえ (芽) な (が) 出て来ると、タチア ガッテ 来たよおななあ (ようだ) 言うて。① 蒔いた種な (が) めぎんで (発芽して) くんのなあ (来るのも) タチア ガッテ 来て 言うて。

だちあかん 涉らない。だちあく参照(志(神明、立神、国府、鳥、一、久、松、度、伊))

だちあく 決着がつく。終る。[会話] こやまあ (これは) ほん (本当に) ダチナ (が) アカン なあ 言うて、涉どらん 言う事を、ダチアカン なあ 言うて、此のしごた (仕事は) 手間取る なあ 言うて、ダチナ アカン なあ。ダチアク 言うのは 仕事な (が) 涉る 言う事 なあ (です) ダチアク 言うし。

だちいく 涉る。[会話] ラチアク も 一緒の事や (です)。仕事な (が) 涉った なあ 言うの な (です) ダチイク。

たちいた(裁板)【名詞】 裁縫をする台。裁物をする時に台として使用する板。[会話] 裁縫する時 ん なあ (に)、タチイタ。たまのきい (木) で したの おや (のとか)、いちよおのきい (木) ですると なあ 最高のタチイタや (です)。へら引くも ん (の) で なあ へっこみのくい (へこみにくい) のおを (のを)、タチイタや わな (です)。裁縫 習い ん (に) 行くの ん (に) たまのきい (木) で こしらえて もろたけど (貰ったが) 銀杏のきい (木) は なかなか ととのわせん (手に入らないのです)。タチイタ に 一番ええん けど (よいのだが)、筋 な

(が) へっこんで かんで (へこまないで) 傷 な (が) つかんで (つかなくて)、きれ (布) な (が) 傷 んで なかなか 銀杏のきい (木) は 無い の (のです)。

だちいた 涉った

たちいわい(たちのいはひ)(立祝)【名詞】 長い間、留守をする時(入替とか仕事とか遊学等で)旅立つ前の祝い。たちぶるまい [会話] どこやかい (どこかへ) 旅 立 つ たり、働 き ん (に) い た り (行ったり) する 事 を た び だ ち (旅立ち) 言うて。その前に ちよ つ と (少し) ご つ つ お (御馳走) して タ チ イ ワ イ。ま あ (もう) 行 く ね よ つ て (行くのだから) そ や (それ) ま め (健康) で い て こ い よ お (行って来なさい) とか、昔 や 皆 兵 隊 い (へ) い た り す と (行ったりすると) タ チ イ ワ イ や (だ) 言うて、皆 な (が) ご つ つ お して 祝 い お つ た わ い (祝って居ました)。タ チ イ ワ イ や (だ) 言うてな。タ チ イ ワ イ い (へ) よ ば れ て て (呼ばれて行って、招待を受けて) 言うて、昔 や (は) 丁 寧 に そ げ ん (そんなに) し お つ た け ど (して居ましたが)、働 き ん (に) 行 く の に ち よ い と (少し) い て も (行っても) タ チ イ ワ イ や (と) 言うて し よ お つ た け ど (して居ましたが) き よ お び や な あ (今日日、此の頃は) ご つ つ お な (が) 珍 し な い よ つ て (から) し や せん け ど (しないが)、昔 や (は) ご つ つ お な (が) 珍 し か つ た し (ので) し よ お つ た (して居ました)。そ す と タ チ イ ワ イ の時 ん (に) 餞 別 も お て (貰って) く ん の (来ます)。餞 別 も も ろ て (貰って) は な む け や (と) 言うて、は な む け も せ な (しなければ) は ざ ん わ い (駄目だ) 言うて。餞 別 を は な む け 言うて。

たちうなぎ【名詞】 こけうつぼ ウツボ科の海魚。ウツボは体は長く側扁する。胸鰭と腹鰭はない。背鰭と臀鰭は尾鰭と連続する。鱗は無い。体および、鰭は肥厚した皮膚に覆われる。鰓穴は小さい。歯は鋭い。コケウツボ 口裂は大きい、両顎は湾曲し完全に閉じられない。体は暗褐色で苔状の不規則型の淡褐色斑紋が3縦列に並ぶ。上下両顎歯はすべて鋭い牙状歯で、2、3列をなす。

だちがあかん。**だちがいかん** 涉らない。(久)

だちがいく 涉る。(志、鳥)

たちかた【名詞】 肩胛部。肩の部分。(志(布施田)) [会話] ひ き つ け て く と (て行くと) タ チ カ タ 押 さ え て。

たちぎぎ (立聞) 【名詞】 盗みぎぎ。立ち止まって他人の話をひそかに聞くこと。[会話] タチギキしてまあ 言うて、わしらな (私達が) 喋っとんの (ているのを) 外で 聞いとると (ていると)、タチギキして言うてな。内緒で しとんのおをなあ (しているのを)、とお (戸) 開けて 聞かんと (聞かずに)、立ってみとんの (しているのを) タチギキしとて (して) まあ 言うてな。

たちぐい (たちぐひ) (立食) 【名詞】 立ったままで食べる事

たちぐらみ (立眩) 【名詞】 立ち上がる時に、目眩のすること。(志 (布施田)) [会話] きゅっと 立ってなあ めえ (目) な (が) くらくらと する時な (が) 有るの (のです)、タチグラミ なあ 目舞い タチグラミ。

たちご (立子) 【名詞】 巢立ちの子の略。雀の子、飛べる前。小鳥の雛 (北) [会話] 雀のタチゴや言うて (だと言って)。綿毛な (が) 取れてくと (行く)、羽な (が) くろお (黒く) 出て来るやんない (でしょう)。そすと 雀のタチゴや 言うて。

たちしょんべ 【名詞】 立小便 便所以外のところで立ったままする小便

だちなあかん。だちないかん 涉らない。決着がつかない。(志 (布施田)) [会話] ダチナアカン 言うのは 手間取る事。

だちないく 涉る。だち参照

たちなわり 性格が悪るい。[会話] ちょいと (少し) 指な曲がる (盗みをする) 人はなあ、あや (彼は) まあ生れつき しょおな (性質が) わりね (悪るいのだ) よってん (から) 言うてな、タチナワリ とかな。タチナワリ 言うて、にげ (人間) の 素性のわり事 なあ。性格な (が) わり、タチナ ワリイテ (悪るくて) まあ あや (彼は) 言うてな。

たちね (立根) 【名詞】 樹木の根の、まっすぐ縦に生えて居るもの。よこね参照 [会話] きい (木) でも タチネは 底 (下) へ行くし、横い (へ) ねえ (根) な (が) 張ると 横根が 張とて (ていて) 言うて。タチネ 言うのは 底い (下へ) いて (行って) しん (芯) からしとんのおを (しているのを)、もと (中心) ののおを (のを) タチネ。

たちはだかる。たちはちやかる 【自ラ五】 1) 邪魔をする、邪魔になる 2) 両足を開いて立って居る

たちぶるまい (たちぶるまひ) (立振舞) 【名詞】 出立の祝い たちいらい参照 (志 (鶴方))

たちばおちよう (たちばうちやう) (裁包丁) 【名詞】

たちもの包丁、裁物包丁。裁ち物をするのに用いる、刃の広くて丸い包丁。

たちまあり (たちまわり、たちまはり) (立回) 【名詞】 1) 喧嘩 まわりの訛 つかみあい、取っ組みあいして暴れること。2) 相手に対する行動の上手、下手。通、ふるまい。[会話] ₂) 人に タチマアリ よお (よく) 行く人を、あや (彼は) 利口で タチマアリな (が) よおて (よくて) 言うて。人に上手 言うて する人を、タチマアリな (が) ええなあ (よい) 言うて。

たちまありさき (立回前) 【名詞】 よく行く所。行く先。[会話] あんな (彼が) 何処其処い (へ) 行く やんかてや (行くでないかと言え) この家いも (にも) よお (よく) 行くなあ (行くのだなあ) 言うのをな、タチマアリサキや (だ) 言うのな (です)。遊びん (に) いたり (行ったり)、用事ん (に) いたり よお する家 を タチマアリサキや (だ) 言う。

たちまある (たちまわる、たちまはる) 【自ラ五】

1) あちらこちら歩きまわる。たちまわる 2) 喧嘩する。3) ふるまい [会話] ₁) あんな (彼の) たちまありさき 行て見よまあ (見なさい)、探す時んなあ (に) あんな 行きそおな家 を言うのを、あんな タチマアル様なとこ (所) 探してみよまあ 言うて。タチマアル 言う時は、あつちや (あちら) こつちやい (こちらえ) 歩く事をなあ、あんた げい (貴方の家に) いたり (行ったり) あつちや (あちらの) の家いたり、こつちや (こちら) の家 いたり すんのをなあ (するのを) あの家らも 行く やんか 言うのを タチマアル やんか (でないか) あしこらい (あすこらへ) 言うてな。

たちまい 【名詞】 建前、たてまえ、家屋建築で主要な柱や梁、棟木などを組みあげる事。(志 (布施田)) [会話] たてまい言うのを タチマイや (だ) 言うて、今日は あの家な (が) タチマイやて (だそうだ) 言うて。

たちめ (裁目) 【名詞】 衣服として仕立てるために、布を裁断した部分。切った布の切れ目。[会話] たんもん (反物) でも 裁ち切ったとこ (所) タチメ。

たちめし (立飯) 【名詞】 葬儀の出棺前に位牌、前、後、水、飯の五役が立ったまま、一杯の飯を一本箸で食べる事。たち飯のたちは出立するまぎわを表す、たちは (立端)。たちめしと、いちぜんめし (一膳

飯) 一膳飯、本来一膳飯は神や貴人に供えるもので、高杯や椀に飯を山の様に盛ってふるまった。此の様な食物の供え方は、古い寺社の祭儀に残存し、又民間の行事にも見かけられる。一膳飯は人生に三度供されると言われて居る。即誕生、婚礼、死亡時がこれである。しかし誕生、婚礼の時のものは、次第にすたれ、現在は死亡の時にのみ、全国的に見られるに過ぎない。死者が有ると、前庭で飯を炊き、それを茶碗に盛って箸をその飯につき立て、死者の枕もとに供える。こうした死者の飯の連想からであろうか。一膳飯は喰わぬものとの俗信が各地にある。[会話] 葬式の 出てく (出て行く) 時ん (に) タチメシ、役 (五役) する 人な (が) 一本の箸で タチメシ。そやもんで (それで) 一本の箸でなあ 死んだ時 みたよん (のように) 飯 喰うな 言うて。きい (木) と竹とすると 死んだ時 みたいん (のように) 骨拾う。そやよつて (それだから) 木と竹とで 喰うやない (食べてはいけない) 言うて 嫌う (嫌います)。子らな (子供達が) そや (それ) やるわ (あげます) 言うて じっきん (すぐに) 挟み ん (に) 来て、そおすと (すると) ものすごお 嫌うのな (嫌うのです)。骨拾う 時んなあ (に) きい (木) と竹として 四方を拾う のんなあ (のに)、わし (私) な (が) 挟んでやると、あんたが (貴方が) 挟んで 取つてなあ、壺 (骨壺) い (へ) 入れんねやんかい (入れるのです)。そすと又 わしな 此の隅 (すみ) 取つて あんたん (に) やると あんた (貴方) な (が) 挟んで、そんで (それで) 箸と箸と 挟むな言うて、きい (木) と竹と喰うたら はざん (駄目だ) 言うて、嫌いおつた (居ました)。そすと (そうすると) 死んだ時 んなあ (に) 枕もと い (へ) 御飯よそて (よそつて) 箸 な (が) 立てて有る やんない (でしょう)。きい (木) と竹と すんの (するのです)。そやもんでなあ (それだから) 嫌うの (のです)。子供の時や (は) なんも (何も) 知らせんしするもんで (知らないので) 大人の人ら 嫌うの (のです)。そいな (そんな) 事したら はざん 言うて。タチメシ 一膳飯 喰わんもん (食べないもの) 言うのも、立つ時ん (出発する時に) 一膳より 食べやせんもんでなあ (食べないので、一膳飯喰うな (食べるな) 言うて。そやもんで (それだから) もりまねでもすや (すれば) ええの (よいのです)。せな (しなければ) いかん言うけど (けれど)、いつでも 一膳やけど (で

す) 今しや (今は)。もんのでも (よそうのでも) ひとしゃくし (一杓子、一度で) めつたん (滅多に) もらせん (よそいません) ひとしゃくし飯 は もらせんけど (よそいませんが)。皆 ちよいちよいつ (少しずつ) そえもり するけどなあ (します)。一膳飯 言や (言えば) 皆 一膳飯やわい (です) 今しやなあ (今は)。どこい (へ) いても (行つても) 一膳つ より 食べやせんわな (食べません) 今しや。お代り言うて そげん (そんな) に する にげ (人、人間) も 無いもんなあ (ありません)。ひとしゃくし飯 言うな (のは) いっぺん (一度) 一杯 ごしつと (もつて) くつとして そや (それ) 言うて すんのんなあ (するのです)。そえもり 言うのは ちよいと もりまね すんのな あ (するのです)。

たちもはいもならん 体の自由が利かない 身動きが出来ない 体以外にも使う (志 (布施田))

たちもん 【名詞】 のけ者。邪魔著。敬遠される人。[会話] むつかしなあ (むつかしい者は) タチモン しやれるやんかな (されるではありませんか)。あのひた (人は) なんも (なにも) 言わまいやんかな (言わないでおきましょう)。あのひた (人は) したいよおん (ように) さしとこやんかな (させておきましょう) 言うて。

たちもん 【名詞】 1) 着物の裁断 (志 (鶴方) 2) 建物。建築物。[会話] ① きるもん (着る物) 裁つ時も、タチモンする言うし。② 家、建て んのおも (るのも) タチモン言うし。タチモン な (が) よけ (沢山) 有ると こやなあ (所だ) 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います) 家な (が) よけ (沢山) 建つとると (ていると)。家 そのものも言うし、きもん (着物) やどけも (なども) 言うしなあ (言います)。

たちやい (たちあい、たちあひ) (立会) 【名詞】 立合い (北)

たちやいにん (たちあひにん) (立会人) 【名詞】 証人 **たちやう** (たちあう、たちあふ) 【自ワ五】 立合う 1) 証人として互の間に入る 2) 争う

たちやがる 【自ラ五】 立ちあがる [会話] 麦 蒔いて くさむぎ (芽の出た時の麦) のうちん (間に) 根な (が) 張る よおん (ように) 言うて、こかしおつたの (倒して居たのです) そんな (それが) タチヤガツテ 来ると 又 こかして。

たちよい しのぎやすい 日なタチヨイ 経過が早い

(阿)

たちよた 立合った

だちん (駄賃) 【名詞】 小遣い銭 労働に対する賃金 (上、阿、南)

たつ (立) 【自タ五】 1) 沸騰する。(煮えタツ) 2) 身震いがおこる。(おぞげがタツ) 3) 棘がささる (志、鳥、多、伊賀地方、北、南) 4) 旅に出る 5) 損をする 損なタツ 6) 海の深さを言う (多くヒロ 尋で表す) 7) 雄弁で有る。弁なタツ 7) 盛りを過ぎる [会話] 2) おぞげ (全毛) がタツとか、おぞげみぞげ言うてなあ。おぞげな (が) タタレ (立つ) みぞげな (が) タタレ 言うて。おぞげみぞげな (が) ヨダツ (立つ) よな (ようだ)。ヨダツ言うの (のは) 腹な (が) 立って なつともかつとも (なんともかんととも) しょおなない程 タツのを おぞげみぞげなヨダツわれ、まあとおな湧く時なあ (腹の立つ時です)。1) 煮えタツトルヤんか (たつて居ます) 煮えタツトル 煮えくり返つとる 言うて、湯気な (が) ぼんぼんしとると (していると) あやれまあ 煮えくり返つとられ (て居る) ちゃあ (茶) な (が) 言うてなあ。にえ (煮え、贅浦、通称にえ) くり かねって (返つて、帰つて) たしから (榎柄…地名) 戻つた言うて、熊野の事を言うて 贅言うところ (所) なるやんない (有るでしょう) 榎柄な (が) あるやんない。そやもんで (それで) にえくりかねって たしから戻つた言うて。

だつ (駄津) 【名詞】 ダツ科の海魚、全長約1mになる。体は側扁し、細長く、両顎は口ばし状に細長く前方へ飛び出し、鋭い歯を持つ。体の背方は濃青色、腹面は銀白色、食用とする。[会話] 口のなあが (長い) ダツの ひもん (干物) で くちばかやれ (ばかりだ) 言うて、みい (身) は あんねけどなあ (有るのだが) 口な (が) なあごおてなあ (長くて)。

たつかあ 【形容詞】 高く。たつこおに同じ。[会話] タツカアしとる (している)、たつこお (高く) しとる 言うのな (です)。ぼおし 積んだや (ら) たつこお 積んで、梯子掛けな (なければ) はざんよお (駄目だ) 言うて、高い言うのを たつかあい (高い) 言うね (言うのです)。物凄いい たつかあい (高い) 事を、たつかあい (高い) 言うね。たつかあい 言うな (のは) ちよいと (少し) 普通やけど (だが)、買ひもん (物) に いても (行つても) あ

の家や (は) たつこおて (高く) 言うて、ねえ (値) な (が) ええと (高いと)。

たつかい (高) 【形容詞】 高い。空間的に基準面よりかなり上に有る。音や香りがひどい。序列、価値が上である。数量的に多い。(志、鳥 (浦村)、一、度、伊、北、南) [会話] あのうちや (家は)、店でも タツカイなあ (値段が上だ) 言うし (言います)。なんでも 物な (が) 上ん (に) あがつると (て居ると)、タツカイとこん (所に) 言うしなあ (言います)。高い言う事を タツカイね (のです)。店 な (が) ねえ (値) な (が) ええと (よいと) あの 家や (は) タツコオテ 言うて、あの 家や なんでも タツカイ。昔なあ 和具が一番高いのは 〇〇の店 と、△△△ どん (殿) の 鼻や (だ) 言うて、鼻な どいらい (大変) 高かった。〇〇なあ (が) △△ と 並んどて (で居て) 買ひに行くと 〇〇は タツカいてや (のです)。一尺いくらや 言うてなあ △△で こおたや (買ったら) こんだけ (此れだけ) やったのん (だったのに) 〇〇こんだけや (此れだけだ)、そやもんで (それで) タツカイ評判な たつとてなあ (立って居ました)。そして 一番ひつくい (低い) のは 〇〇な (の) 頭と どこやらの (何処かの) やしき (屋敷、土地) や (だ) 言うて。〇〇の爺さんな (が) 誰でも 頭さげて 今日は 今日は 言うもんで (ので)、頭な (が) ひつくい (低い) もんで (ので) 一番 ひつくいのおは 〇〇の 頭と どこやらの 屋敷や 言うて。

たつからかす 燃えたぎらす。(志 (布施田)、北) [会話] 焚木を くど一杯くべて ひい (火) どん どんするのを タツカラカス 言うし (言います)。昔 なあ (は) 米の飯 釜一杯つ よつけ (沢山) 炊くと なあ 米の飯 タツカラカシと た (て居た) 言うし なあ。火を どんどん 燃やすと タツカラカス 言うて。

だつきよ 【名詞】 辣菲 ら と だの訛 (志、鳥 (石鏡)) [会話] ダツキョ、らつきよ 漬け、らつきよ らつきよ 生らつきよ 剥いても 剥いても 皮ばかり や (だ) らつきよの 事や (です)。

だつきよお 辣菲 (志、鳥、度)

たつくり 【名詞】 たづくり (田作)、小さな片口鯛を素干しにした乾物を、炒つて甘辛い蜜をからめたもの。(伊賀地方、伊) [会話] タツクリ (たづくり) は、正月に 煮干の ちっちゃい (小さい) のを ほおろくで 培つといて (ておいて) さと だまり

(砂糖醤油)で とんがらし (唐辛子) 入れて タツクリ。

たっこお 高く。[会話] 下屋 (したや・床下) な (が) 物置きみたよん (のように)、床 タッコオ しといて (しておいて) なる (丸太) も 皆 突っ 込んで。

たっし (達) 【名詞】 上からの通知。知らせ。[会話] タツシな (が) 来た言うてな、知らせな (が) 来ると、お前家も タツシな (が) 来たかい (来ましたか) 言うて、わし家も (私の家も) きたよお (来ました) 言うて。通知な (が) 来る事をなあ タツシな (が) 来た言うてな。普通の通知や (で) 無しん (無くて) 役場やどけから (などから) 来るのおを (のを) タツシな (が) 来た言うて。

だっし 【名詞】 だっちに同じ。物事の区切り、結末、多くは悪い方に使う。とんでもない。

だっしもない 1) とんでもない (志) 2) 乱雑だ 散乱して居る [会話] 1) ダツシモナイ事 してし もた (してしまった) 言うて、えらい (大変な) 事 したた (してしまった) 言うとな こやまあ (これは) ダツシモナイ事 してしもたよお (しまった) 言うて 失敗したるとなあ (してしまうと)。

たっしや (達者) 【形容詞】 元気 健康について言う

たっしや。たっしやよお 【感動詞】 大変だ。あああ。[会話] ワタツシヤ、タツシヤ、男の人らな (が) おなご (女) 見ると、別嬪さん見ると ええ (よい) 別嬪さんやなあ (だ) 言うて、器量の (が) わり (悪い) と、タツシヤ あ顔見よまあ (見なさい) らっしもない顔やなあ (だ) 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。タツシヤ 言うて アタツシヤ こやま (これは) なんど (なんだ) 言うて なんでも (何でも) わりもん (悪い物) 見ると。

たった 【副詞】 ただ。わずかの量。ただの訛 (大言海) (桑市、鈴市、松、上、阿、張、名、伊、北、尾)

たった (立) 【名詞】 立ち上るの幼児語。立つ、人がその体を垂直にする。(志 (布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、上、阿、張、尾) [会話] む ことと (座って居て) よお (よく) 立たん時 (立たない時) タツタ よおせんねよお (出来ないのだ) 言うし (言います)。子供らな (達が) ほおといて (這って居て) 立ちかけて来たら、タツタタツタ 言うて、タツタせえよお (しなさい) 言うてなあ (言

いました)。

たった 足りた

…**だった** しなかった。らったと発音される事も有る。(せ) ざったの訛。動詞の未然形について、打消しの過去を示す。(志、鳥、津、度、伊、尾) [会話] セダツタ。今日は あれ するつもり やったのん (だったのに) よおセダツタ (出来なかった) 言うて。今日はひま (時間が) のおて (無くて) よおセダツタ、今日は ごっつお (御馳走) しよお、おもたのん (思ったのに) よおセダツタとか 言うてなあ。よおしなかった言うのを セダツタ言うの (の) (です)。よおセダツタ言わんと (言わずに) セラツタ言う ヨオセラツタ とか言うて。

たったいまし 【名詞】 ただいまの転、ほんの今し方、今と言ってもいいくらいの時に、今すぐ。たった、唯、わずか、ほんの。(志 (越賀、浜島)) [会話] すぐの事を タツタイマシ。タツタイマシ言うた事 忘れたて (てしまつて)。今や (で) なしん (無くて) 今しや (です)。タツタイマシ 言うた事やのん (だのに) 忘れたたか (てしまつたか) 言うて。タツタイマシ したばかやのん (ばかりだのに) とか言うて。タツタイマシ 飯 喰うたとこやよお (ところ) (です) 言うて。タツタイマシ、仕事い (へ) かかった (始めた) とこやよお 言うて。

たったする 立ちあがる 立つ 幼児語 (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)) [会話] 子供な (が) 立ちかけて来ると、あや (あれ) タツタシテ来たれ (来た) 言うてな。這えば立て 立てば歩めの親心 言うて。

たっち 【名詞】 立つ事を言う幼児語。[会話] タツチ せえ (しなさい) 言うてな、はよ (早く) タツチして 見よ (見なさい) 言うてな。立てえ (立ちなさい) 言うのをな、タツチ (立つ) せえ 言うたりな。

だっち 【名詞】 埒、らち、物事の区切り、又は結末をつける事。[会話] らっちもない事 (とんでもない事) してしもた (しまった) 言うやんかい (言います)。らっち ダツチ だっしも無い事してしもた 言うて 失敗したた (してしまつた) 事なあ (です)。

たっちせえ 立ちなさい 幼児語 たっち参照

だっちび 【名詞】 子供、小さな子供を罵って言う

たっちん 【名詞】 立つ事 幼児語 (上、阿)

たって 【副詞】 是非 断つての意 (広辞苑) (志 (浜島)、津)

…だって しないで

たった 1) 立って行った 2) 経っていった (時間が経って 物の本質が失われた) 3) 発って行った

たつとい【**形容詞**】 尊い

ダツバ (ラツバ)【**名詞**】 線舵室。Rattle から来た語。[会話] 船の ダツバ言うて、舵取るとこ なあ (所です)。船長 な (が) おると こ (居る所を) ダツバ言うて なあ (言います)。ダツバ言う人も有るし らつとば言う人も有るし (有ります)。だ だあやないんかい (だでないのでしょうか) わしら (私は) だ言うわ (言います) ダツバ。”ぬしさんは ダツバで 一人 寝る 波はブリッジ拂えども ぬしの写真は離しやせぬ”言うのも言うけど (言うけれど)。

たつとぶ【**尊**】【**他バ上一**】 尊ぶ。うやまう。[会話] しょおろさんを 奉り 大事 ん、先祖を タツブ わけや わい (わけです)。

たつとる 立って居る、建って居る

だつの ひもん【**俚諺**】 口上手で誠実のない事。口ばかりで実行の伴なわないこと、又その人。[会話] 口ば っか (ばかり) 上手 ん (に) 言うて な、あや (彼は) ダツノヒモン やど (だ) 口ば っか や (だ) 言うて な、口 な (が) 五寸も なあ がい (長い) もん で (もので) そんで (それで) みい (身) は さい ら (さんま) と一緒に 丸切り ん (に) すると みい (身) は あん ねけど (有るのだが)、ひもん (干物) に したと (してしまうと) 口ば っか で みい は なん も (少しも) 無い よん (ように) なくて くの (いくのです)。

ダツバ【**名詞**】 ラツバ。だ と らの訛 (志) [会話] とつくり (徳利) から そん なり (そのまゝ) 飲む ダツバ 飲み すん のを (するのを) 口飲みした。

たつばい【**名詞**】 様子、態度、姿勢、風采、外見 (志 (布施田)) [会話] あの タツパイ 見よ まあ (見なさい)、格好の わり (悪い) 事 な (です)。格好 わり 腰曲げたり ひね くつたり しると (ひねったりしていると) ふう てい (風態、外見) の、着る もん (物) わり の しと ると (して居ると) あの婆の タツパイ 見よ まあ。この時 や (は) 姿や衣装 やけど (だが)、ええ ほお (よいほう) では 使 わせん の (使わないのです)。タツパイ言うのは。形のわり時に 形 な (が) わり いすと (悪くすると) あの タツパイ 見よ まあ 言うて。タツパイ 言

う時と なつ そお 言う時と。なつ そお な (が) わり なあ (悪い) 言う時、そお ごお (顔つき) な (が) わり なあ (悪い) 言う (言います)。なつ そお な わり なあ 言う時 顔 (顔つき) が わり なあ (悪い) 言う時、顔とか体が 体も弱 つと るけど (て居るが) たいが い (大体) 顔 な (が) わり (悪い) 時を、なつ そお な わり なあ 言う なあ (言います)。顔色がわりとか した時を なあ。タツパイ言うのは 体の かた (形) の わり 事 なあ (です)。タツパイ 見よ まあ 言う (言います)。

だつ び【**副詞**】【**形容詞**】 1) たつぷりの転。満ちあふれる様。十分なさま。ずぶぬれ。2) 汚したり、散らかしたりして居るさま。(志) [会話] ① ダツ ビ ダン ロク ん (に) して言うて、汚したり 広げたりして みぐる し (見苦しく) しと ると (していると)、あや れ (あれ) ダツ ビ ダン ロク や れ (だ)。汚したり 広げたり しと る時 ん (に) あや れ ま ダツ ビ ん (に) して そこ らを (其のあたりを) 言うて。そして ② 茶 や ど け (など) ま け て も (こぼしても) あや れ まあ、ま け て ダツ ビ ん し た れ (した) 言う け ど な (言います)。ちゃ あ (茶) ま け て 水 浸 し ん (に) なるのも。子供 ら な そこ ら 汚すと よけ 汚す な まあ そや あれ そこ ら ダツ ビ ん し て 言う て。子供 ら な (が) 広げ たり 汚したり すると。

だつ び だん ろく【**形容詞**】 汚している。乱雑に広げて居る。だつび参照

だつ ぷ り み ち【**名詞**】 完全に満潮になった状態。(鳥) [会話] 満潮で 一杯 ん (に) になった時は ダツ プ リ ミ チ や (です)。

たつ ば【**名詞**】 たにし (田螺)、田に住む巻貝。タニシ科に属する淡水産の巻貝 殻は右巻で各螺層の膨らみは強い 外面は緑褐色ないし黒褐色で、殻口に角質の薄い蓋が有る。(志摩市全域、鳥、三、四、鈴市、安、一、久、飯、松、多、上、名、度、伊、南、熊) [会話] タツ ボ 田螺の 事 なあ (です)。タツ ボ ガ ラ 捨 て (捨てて) 言うて なあ タツ ボ の 事 を なあ タツ ボ ガ ラ や (です)。あれを 捨 て なあ う ち や つ て (壊して) う で て (茹でて) 塩 で も お ど い て (揉んでおいて) 山 椒 味 噌 で あ え て 喰 う と (食べると) う も お て (おいしくて)。そ や も ん で (それで) タツ ボ な (が) “山 椒 く さ れ (腐れ) 味 噌 腐 れ お ら げ (我家) の か か (嫌) の 口 腐 れ” 言うて タツ ボ な (が) 鳴 く 言う て。味 噌 あ え ん (に) して 喰 わ れ る も ん で (食べられてしま

うので。山椒入れて、匂うもんで 山椒入れると
うまいねてや (おいしいのです)。きいきいやら
(とか) からから ころころ言うて 鳴く言うて。
蛙やなあ (は) ござらばござれ言うて鳴くのなあ
(のです)。かえりや (蛙は) ござらばござれ 言
うて これきりこれきり言うて、あんたらな (貴
方がたが) 通ると まいすこいて (おべっかを使っ
て) これきりこれきり 鳴くぬ (のだ) 言うてなあ。
蛙な (が) ござらばござれ ござらばござれ もお
これきりこれきり言うて 蛙な (が) あや
(あれは) めん (雌) の蛙な (が) ござらばござれ
言うんかい (言うのですか)、おんた (雄) の蛙な
(が) もお これきりこれきり言うんかい、な
んやら (何か) そいな事 (そんな事) 言うやんか
い (言います)。めんの蛙は 来い来い言うて 呼
ぶんやろなあ (なのでしょう) おん (雄) をなあ、お
ん (雄) は聞いて行く時ん (に) になると、もお こ
れきりこれきり。

たつぽ 上を向いて寝ている事 [会話] タツポかや
した言うて、あおぬいとん (仰向しているのを)
だんばら (大きな腹) かやしとると (出している
と) あやあれまあ タツポかやしとられ (返してい
る) かいだり かったんなあ (疲れたのだなあ) 言う
て、腹出して あおぬいとて (仰向いて) はらぶう
(仰向いて) しとるとなあ (していると) タツポか
やしとられ かいだり (だるい) かったんかして
(かっただのか) 言うてな。

たつぽかえす。たつぽかえる。たつぽかやす 寝ぐる
いをする。タツポカヤス (寝ぐるいをする) と関係
有る語か [会話] タツポカエス。どちらい (へ)
なつとして (どうして) 寝たら ええやか (よい
か) 思う程 かいだりて (疲れてだるくて) こちら
い (へ) 返り あっちい (へ) 返り すんの (する
のを) タツポカエス。

たつぽがら 【名詞】 たにし。たつぽ参照

たて (立) 【名詞】 間、系列。(志 (布施田)) [会話]
あいら (あの人達) の タテやんかい (です)。あ
いらの タテな (が) 違うんよってん (違うから)
言うて、あや (彼は) おら (俺と) 一緒のタテやも
ん 言うて。あやまあ おら と一緒のタテ や
(だ)、あや (彼は) もひとつ (もう一つ) 下のタ
テや てや (です) 言うなあ (言います)。そすと
仲間 言う事やなあ (です)。

たて 【名詞】 小さくて深い箆 [会話] タテ 言うて

味噌漉しの ふっかい (深い) ざある (箆) を 突
つ込んどくね (でおくのです) 味噌ん (の) 中い
(に)。そすと それいなあ (それに) しよい (醬
油) な (が) 溜まんね (溜まるのです)。

たて 【名詞】 むしろで作った大きな舐

たて (立) 【名詞】 【接尾語】 幾通り。物事の度数を数
える語。種類について言う [会話] 種類な (が)
幾種類も 有る言うの (のです)。魚も 鯔や 鯖
や たかべや 言うて いくタテも、にげ (人間) で
も 賢いのも あや (有れば) あんどし (馬鹿) の
おも (なもの) 有って、いくタテも 有るやんかい
(有ります)。器量のええ (よい) のも あや、わ
り (悪るい) のも有るし、いろいろ あんのを (有
るのを) いくタテ 言うのな (です)。

たて 【名詞】 魚名。きゅうせんの一種。体側に1~2
條の黒色の縦線が有る。あおだて あかべら参照
(志)

…**たて** 出来たばかりを表す、出来タテ、獲レタテ

…**たて** 【接尾語】 してしまつて [会話] 人のもん
(物) を 焼いタテ とか、仕事しタテ とか なんや
かや (いろいろ) 物を 運んだんのを (運んでやる
のを) もて (持つて) タテ そして うちやつ (壊
して) タテ、まあ言うたりな。

たてあう 1) 混雑する 2) 競争する (志 (甲
賀))

たていそ (建磯) 【名詞】 鮑、海老などを一定区域を
限定し、その場を禁漁とし、一定の期間のみ採集を
許可する事。禁漁区、又その場所の解放。[会話]
タテイソ、きんぎょおく (禁漁区) の事をなあ、タ
テイソや (だ) 言うてな。

たてうす (立臼) 【名詞】 臼。餅搗きをする臼。地上
に据え立てて用いる (志) [会話] 餅、搗く臼、タ
テウス。

たてかえ (たてかへ) (立替) 【名詞】 1) 他人に代わ
って支拂う事 2) 代価を金銭以外で支拂う事

たてかえる (たてかへる) 【他ア下一】 代わりに支拂
う (熊)

たてぐ (建具) 【名詞】 戸、障子、襖など、すべて室
を区切るために取りつけて開閉するもの。[会話]
唐紙とか 障子とか タテグなあ (です)。

たてぐち 【名詞】 たてつけ。戸、障子などの互の隙間。
[会話] 雨戸しめると タテグチな (が) あいて
(開いて)、戸の細目 (隙間) から 風な 入った
り 雨な (が) 入ったり。

たてぐや (建具屋) 【名詞】 たてぐを作る人。[会話]

タテグヤ、障子やガラス戸 こさえる (作る)、建具を、こしらえる人をタテグヤ。

だてこき (伊達) 【名詞】 派手な装いを好む人。洒落者。

だて、伊達、人目につく意の立つから。俠気を見せる事。人目にふれるような派手な行動をする事、又派手な振舞いで外見を飾る事。こきは、するを言う こく から (志 (布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、阿、員、一、久、飯、多、上、張、北) [会話] ダテコキ 言うのは、お洒落する事をな ダテコキや (だ)。昔の人ら”茶縞着る奴あ (は) ソコダテコキや (だ) けとん 巻く奴あ 浮気もん (者)” 言うて ダテコキ 言うのは お洒落する事なあ (です)。昔の人ら な (が) 茶縞は あんで (あれで) よかったんやろなあ (よかったです)。 そんで (それで) 茶縞着る奴あ ソコダテコキや (だ)、けとん 巻く奴あ 浮気もん (者) 言うて 昔の人ら 言よおったん (言って居た) よって (から)。昔 や (は) じっばん (立派に) すると おおた (ああ) ダテコイテ 何処い (へ) 行くんどい (行くのですか) 言うて、さっぱりしとると (して居ると) 言よおった (言っていました)。 ソコダテコキ 言うのは ねっからの (根っからの) 生まれつきの (生来の) ダテコキや (だ) 言うよおな事 やる (でしよう)。

だてこく (伊達) 身なりなどを飾る。めかす。

(志 (神明、立神、甲賀、国府)、張、南)

たてこます 勢いよく走る。[会話] タテコマシて た (て行った) 言うて、走りきってくと (て行くと)。 タテコマシてたれ (行った) あやれ言うて、勢いして (勢いよく) 走ってく のをな (のを)、タテコマス 言うて。嬉こんで タテコマシてたれ (行った) それ 持ったや (たら) 言うなあ (言います)。 ちん (賃、駄賃) 呉れたら まあ 嬉して (しくて) タテコマシて まいこんでたれ たてこんでたれ とか。

たてこむ (立込) 【自マ五】 こみあう、多人数が一ヶ所に集まって混雑する。家などが密集する。いろいろな用事、仕事が一時に重なる。

たてごや 【名詞】 建具屋。戸、障子、細工物を作る人。[会話] ○○ みんな (皆) な (が) あれ (○○) きろて (嫌って)、おぞげ立ておったね (身振いして居ました)。 あんな (○○が) タテゴヤの △△ さんに惚れて、おおた (あゝ) 高木のずんばい (手

がとどかない) やれ (だ) 言うて。

たてこんでく 急いで走って行く、急いで走り去る

たてじる 【名詞】 味噌をといただけで、実の入って居ない味噌汁。がんじる。[会話] お盆でも れいく ぜん (霊供膳) へ もる (よそう) その時ん (に) 味噌 へ水落して とくだけ を がんじる。 タテジル 言う な (のは) 味噌 を水で とくのなあ (溶かすのです)。 炊かんと (炊かずに) 水で といた (とこした) のおをなあ (のを) タテジル 言う の (のです)。 盆中 タテジル して 供え とる なあ。 葬式や とか (だとか) ほとくさん (佛さん) へ 供えんな (供えるのは) タテジル。 れえく (霊供) の膳へ 供える時ん (に) タテジル しとくの (しておくのです)。 水で 味噌し といて だしも入れんと (いれずに) 小皿い (へ) ちよいと (少し) すんのをなあ (するのをなあ) タテジル。

たてつけ (立付) 【名詞】 戸、障子の開閉の様子。[会話] とお (戸) や 障子 が しゃん (きっちり) と、しまらんと (閉じないと) タテツケ な (が) わり いて (悪くて) とじり (後) な (が) あいたれ (開いている)。

たてつづけ (立続) 【名詞】 次から次から切れ目なく (志 (布施田))

たてづな 【名詞】 海底で目印になるもの。[会話] 錨 を落し といて なあ (ておいて)、タテヅナ し といて (しておいて) 行か な (なげれば) わから せんや んない (ないでしょう)、その落した とこ な (所が)。 そやも んで (それで) 落したら はよ (早く) タテヅナ し とけよ お (しておきなさい) 言うて、錨 でも なん でも 重たい (重い) もん (物) 底い (へ) 落すと そのま あり (周囲) を探す よ んなあ (ように) それを タテヅナ 言う の (のです)。 舟 で 顔 あ ろ と て (洗っていて) いち に ちや (或る日) 入れ 歯 落した て (てしまつて) はよ (早く) 茶碗 放 り 込め 言う て 茶碗 すぐ ん (に) 放り 込 んで 茶碗 の周囲を 探 すと 入れ 歯 な (が) お つ と る (落ちて) 言うて、目印 ん (に) 茶碗 放 り 込 んで、やう ちな (一同が) そ こ い つ た や (潜つたら) 茶碗 の周囲 し た や (探したら) 有 つ た の (のです)。 そ や よ つ て (だから) タテヅナ も その 通り で その タテヅナ 方面を 探 すと お と し も ん (落し物) しても、すぐ ん (すぐに) タテヅナ し と け 言うて。 そ し て (そうして) お お び (鮑) 見 付 け て も な あ、こ や (これは) 取 り の く う て (にくくて) 取 ら れ や

せん (取れない) 思うとなあ、腰綱 といといてな あ (ほどいておいて) 荒布のもとい (根元に) しば つといて (くくりつけて) くんの (来るのです)。まあ やい (おい) おおび (鮎) 見付けたけど (が) よお取らんもんで (取れないので) 潮な (が) 濁つとる (ている) もんで、タテツナ しと いて (しておいて) 来たよお言うて。潮な (が) 濁 つとて (ていて) わからせんもんで これ解いて しばらな (くくらなければ) めったん (絶対) よお (よく) 探さんやんかい (探されません)。そやもんで (それで) 腰綱 引き抜いといて 荒布 しば つといて (くくっておいて) くんね (来るのです) そすと (すると) それ目当ん (に) 行くとなあ 探 されんの (探されるのです) それ せらつたら (しなかつたら) 潮な (が) 濁つとたら (ていたら)、ま 絶対 其処い (へ) よお行かんやんかい (行けません)。そやよつて (だから) タテツナ しとか な (しておかなければ)。目印になるもん (物) をするよおん (ように) しいろい (白い) もん (物) でも、なんでもなあ (何でも) 落しとくと (ておくと) それ 目当ん (に) 探すと ちっさいもん (小さい物) でも 探されんの (れるのです)。

たてつば (建坪) 【名詞】 建物の面積。(南) [会話] この家や (は) いくつば 有る 言うてな。間口な (が) 二間、横な (が) 八間 言うて、坪数をはか んの (はかるのです)。柱の建つとる (建っている) とこ (所) を けんすう (間数) にして、はか んのなあ (はかるのです) タテツボな (が) 幾坪、四十坪。今し (今) の タテツバ (たてつばは) 五十坪や 百坪や言うて、前にや (は) 四十坪の家や (だ) てわれ (そうだ) 言うてな おどけよおった の (驚いて居たのです)。四十坪や (だ) 言うて 大きな家や (だ) 言よおったね (言うて居たのです)。今しや (今は) 四十坪あ 納屋や (です) 皆 大きな家でやんない (でしょう)。

たてて わざわざ、あらためて。(志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、国府、甲賀)) [会話] タテテ 行かんでも (行かなくても) ことずけや (れいば) ええわれ (よろしい) 言うんかい (言うのですか)。タテテ れえ (御礼) に 行かな (なければ) はざん けど (いけないが)、まあ れえ (御礼) も よお行かんと (行かずに) おんね (いるのです)。タテテ れえ (御礼) にも 行かな はざんねけど まあ よお (よく) 行かんと なあ (行かずに) 言う

て、道中 (通行中、道路) で おおた (逢った) 時 ん (に) れえ (御礼) 言うたり、断り (あやまり) 言うたりすると タテテ 言うて タテテ れえ ん (に) いこ (行こう) おもとんねけど (思っているのだが) まあ よお 行かだつた (なかつた) 言う 事やわい (です)。改めて 行かな (なければ) い かんねけど (いけないのだが) 言うのを タテテ。

…たてて **【接続詞】** ても、てもを逆説の否定に使用 ゆうタテテ (言っても) 泣いタテテ (泣いても) (熊)

たてどい (たてどひ) (堅樋) 【名詞】 縦樋。軒下の横の樋に集まった水を下に流す縦の樋。[会話] 屋根の横い (に) 掛けるのおわ (のは) 横やんない (でしょう)。それを 下い (に) 流さな (なければ) はざん (いけない) やんない、それを タテドイ 言うの、横に しといて あんのは (しておいてあるのは) 樋や (です) 筒ん (に) なつとんのを (なっているのを) タテドイ 言うね (言うのです)。

たてなあ 【名詞】 海女が海底の獲物の近くに結びつける綱。獲物を獲る目印に、それを頼って行く。たてづな参照 [会話] タテナア 言うて いそなあ をなあ 其処のねきい (近くに) しばつといて (くくっておいて) くんの (来るのです)。そすと (すると) その いそなあ 頼つてくと (て行くと) 其処い (へ) どんと 行くやんない (でしょう)。潮 (潮流) な (が) 速かつたりすると、タテナア すん の (するのです)。綱 つたいもて (ながら) まあ 底い (へ) 行くね (のです)、底い (へ) いてなあ (行って) おおび (鮎) しょおてや (獲ろう思えば) 此处で 獲つたよつてん (から) こつちや (こちら) むいて ほおてけ (匍って行け) おもて (思つて)、ほおて (匍って) 来て こんだ (今度は) こつちや むいて あれい (あすこへ) いたよつて (行ったから) こお行く、こんだ (今度は) 下い (へ) 下る 言うてな それをまあ、潮 (海流) な (が) 速い となあ、タテツナ しといて (しておいて) かづくと (潜ると) さいご ええんでや (よいのです)。潮 (潮流) ななあ (に) 流されてくと なあ (て行くと) 有つたとこい (所へ) よお 行かん やんかい (行けないでしょう) そやもんで (それで) タテナア しとくの (しておくのです)。桶の なあ (縄) を、腰い (へ) つけとんの (ているのを) ほどいて それ しばつといて (くくっておいて) くんの (来るのです)、其処い (へ) しとくと

(しておく) 桶な (が) 流れてかへんよって (て行かないから) それん (に) つられておって (つかまっています) また 底入ってきさいしゃ (て行きさえすれば) 鮑な (が) おるとこい (居る所へ) 行かれるもんで (ので)。

たてなが 【名詞】 髪飾り。[会話] タテナガ、紙で此の位ばかの (ばかりの、5~10cm) 巾で すつとして (まっすぐで) はす (斜) にしてあってそれに 色々の ええ (絵) な (が) 書いて有って、ちよおちゃん (蝶結び、髪結び方) しとんのおを (しているのを) 両方から通して くるんやんかな (来るのです)、そしといて (そうしておいて) あと (残りは) リボンみたよん (のように) して。

たてね (立値) 【名詞】 表でだって示される値、定価。[会話] 値段な きまっとん (決まっているのを) タテネ 言うんやろな (言うのでしょうか)。十円なら十円 きめてあんのをな (有るのを) こや (これは) タテネ こんだけ (これだけ) やよってん (だから) 言うてな。 こんだけ しか (より) 負けてくれやせん (くれない) やろど (だろう)、タテネな (が) こんだけ やもん (だから) 言うて。 そやけど (しかし) 負けてくれ (下さい) 言うて こぎる (値切る) 人な (が) 有って。

だてのうすぎ 【名詞】 寒いのに伊達のため薄着している事

だてのさかりでちんばひく 【俚諺】 人目を引くため、いろいろな事をする。[会話] “ダテノサカリデチンバヒク” 言うて、そいなときやなつとしたら (そんな時はなんとしたら) めえ (目) 引いて貰われる かゝな (か) おもて (思つて) あつかい (赤い) しごき リボンに引いて結んで (大きく蝶結びにして) しいろい (白い) 前掛け白いひぼやんない (紐でしょう)。紅白で、又 綺麗なんてやなあ (なのです)。 しょおしょお (少々、少し) 器量な (が) わりいても (悪くても) よお見えんねてや (よく見えるのです)。 そやもんで (それで) 伊達こきや (者は) そやつて (そうして) 伊達こきおつたの (居たのです)。伊達の盛り やもんでなあ (のです) なつと (何と) したら ええどおもて (よいか思つて) 跛も引いて見たり 伊達な (が) こおじて (昂じて) 跛ん (に) なつて 昔や (は) そげん (そんなに) 言いおつたのなあ (言つて居たのです)。ダテノサカリデチンバヒク 言うて、やつして (綺麗にして) あやれ言いおつた。 やつし ころ

ばかして (転ばして) 伊達こいて、ひんつくつてしとんの (うわべよく見せてして居るのを) 言うのなあ (言うのです)。

たてばき 【名詞】 畳をまくつてする大掃除。(南、北、熊) [会話] 畳 まくつて 掃除 すんのを (するのを)、冬は 煤はき 言うて、夏 ん (に) なると タテバキ しょおや (しましょう) 言うて。夏は はえ (梅雨) な (が) 済んでから ひえ (湿気) な (が) あがるよって (から) タテバキ したらな (してやらなければ) はざんわれ (いけない) 言うて。畳まくつて干すのを タテバキ。

たてひざ (立膝) 【名詞】 一方の足を立てて座ること。(熊) [会話] むこつて (座つていて) はんぶ (半分) 立つのをなあ、タテヒザして言うて。片一方の時も タテヒザして かたひざ あげとられ (あげている) 言うてな、かたひざ言うの かたつぼ (片一方) しとる (している) 時は

たてふね、**たてぶね** (立船) 【名詞】 わざわざ仕立てて、借り切りにした船。[会話] タテブネ かな (ですか)、やいんやいん言うて、おや (俺は) がっこ (学校) い (へ) 行く時分 (頃) よお忘れん おもた (思った)。そのタテブネで 行くのん (のに) わがとら (自分達) カバ (カバー) 覆つて寝ておつて (居て)、巡航船や (で) ないんよって (ないから) 和船やよつて。そしといて (そうして) その人ら やいんやいん 言うて 頼方い (へ) 迄 漕ぐねよつて 一時間から うえ (以上) かかるなあ (かかります)。二時間 近おも (近くも) かかるわい (かかります)。 にちよ (二丁櫓) で やいんやいん 言うて 漕んどんねよつて (で居るのだから)。 そげんして (そんなににして) タテブネ 皆 たので (頼んで) いきよおつたの (行つて行たのです)。 今し (今) みたよん (のように) ピュッと乗つてかれやせんし (行けないし)、よい (宵、前夜) から、あした (明日) 行てくれえ (下さい) 言うて たのどいて (頼んでおいて) そしてすると (そんなにすると) にちよ (二丁櫓) で やいんやいん 言うて 漕んできよおつたねのん (漕いで行つたのです)。 こや (これは) わざわざしたてて 行く船、したて たので 行く。その人らは 頼みん (に) 来ると 行くよん (ように) しとんねけど (して居るが)、頼みん (に) 行かな (なければ) じよおく (いつも) 出やせんね (出ないのです)。 頼みさいしや (頼みさえすれば) 出てくれんねけど (くれる

のだが)。そやもんで(それで) タテブネ 頼もや(みましよう) 言うて頼むの(のです)。行くよん(ように) になると。わしら(私達) それ 安一船(船名)の発動機(エンジンを付けた舟)頼んで。そいな(そんな) 発動機なあるかい(は有りません)。わしらな時や(は) 巡航船な(が) 無い時でそして その二丁で 漕んでく(で行く) 人らをたので わがとら(自分達) 帆 覆せてもろて(貰って) 覆って すくどた(かくれて居た) 事な有るなあ(有ります)。発動機 言うのは 今しの(今の) 機械船や(です)。発動機や(と) 言うて 和船のちょいと(少し) おっきいのおへ(大きいのおへ) 機械な(が) 据えて有って ポンポン言うて発動機や(だ) 言よおったの(言うて居たのです)。私らな(が) はたちだい(二十才〜、現在八十六才、約六十年前)の時に 安一丸や ちんかんの あの人の人らな(が) 二はい(二艘)の 発動機して タテブネして 楢宮さん(浜島町に有る子さずけの神様)に 参ってたり(行ったり)、なんやかや すんのん(するのに) 乗せて もらえおったわな(貰っていました)。白バイ(白タクの誤り)やわい(です)。今して(今で) 言うとなあ。巡航船は巡航船で あんねけど(有るのですが) 巡航船へ 乗らんと(ずに) タテブネでいて(行って)、今し(今)で言うと 白バイやてや(です)。巡航船になつてからは ちんかんらな(が) 巡航船のめえ(目)ぬすで(盗んで) しょおったの(して居たのです)。そいらな(その人達が) 周次どんの 今しの(今の) あの店屋ん(に) 入り込んで(で居て) お客な(が) 来ると こそとと(こっそりと) 引き込んで 巡航船な(が) 出とる(て居る) あい(間、あいだ)に それまあ ぬすで 行きよおったね(行って居たのです)。

たてまい(たてまへ)【名詞】 たてまえ 立前 表向き的事 たてまえ参照

たてまい【名詞】 1) 建前、上棟式。たちまい参照 たてまえ参照(志(浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、多、名、北、南) 2) 中心になる人。[会話] 1) 家建てる タテマイも有るし 2) なんやかやしてもなあ しん(芯、中心)になる人をあの人 タテマエにして 言うてなあ。世話して呉れる人を あの人を タテマイにして みんなな(皆が) 相談した言うて よお(よく) 言うやんかい(言います)。中心になって 世話してくれる人

を タテマイ。あの人 タテマイん(に) しいて やうちな(一同が) なかま(共同) でしょおや(しましよう) 言うてなあ。家 建てる タテマイ。タテマイ言わんと(言わずに) たちまい 言うの(です)。

たてまえ(たてまへ)【名詞】 上棟式(志(浜島)、熊)

たてまえ(たてまへ)【名詞】 表向き [会話] タテマエな(が) こんだけ(これだけ) やもん(だから) 言うやんかい(言います)。値段を きめるとなあ、タテマエ こんだけ(これだけ) で売とんね(ているのだ) 言うて よお(よく) 言うし、そして、家 建てんのおでも(建てるのでも) タテマエや(だ) 言うし。今日は タテマイで てったいん(手伝いに) いたよお(行きました) 言うて。

たてまつり(奉)【名詞】 1) 精霊送り 2) 敬遠 [会話] 1) しょおろさん(精霊)の タテまつり言うて、盆の しょおろ流し(送り)を しょおろさんを タテまつり言よおったなあ(言っていました)。2) 人を あがめる時でも あの人 タテまつトカナ(まつっておかなければ) むつかしねよつて(のだから) 言うて、よお(よく) 言うけど(言いますが)。むつかし(むつかしい)人は まあごちゃごちゃ言うて 引っ掛けて来るもんで(ので) あやまあ(彼は) たてとかな(ておかなければ) はざんなあ(駄目だなあ) 言うて。人ん(に) たてられるよおななあ(のは) はざんわい(駄目です) 言うて、むつかしなあ(のは) たちもん(仲間はずれ) しやれるやんかな(されるで有りませんか)。あのひた(人には) なんも(なんにも) 言わまいやんかな(言わずにおきましょう)、あのひた(人は) したいよん(ように) さしとこや(させておきましょう) 言うてなあ。敬遠されとる(て居る) わけや(です)。そそらげとかな(ておかなければ) はざん 言うわけや。そそらげとかな、はざん言うのはなあ おだてる(煽てる) 言う意味やけど(です)。おだてて タテまつり 言うて、上手言うて おだてて そやしとく(ほめておく) 言う事や(です)。口上手 言うて、そやすのおを(のを)。あんた(貴方) なんしたてて(何をしても) えらいし(人より上だし) なんさしたてて(何をさしても) えらいし なんでも有るしなあ言うて その人を あげまくつてなあ(おだてあげて)、それを そそらげる言う(言います)。ほんとに(本当

は) 心では こいな人 (こんな奴) おもとても (思
 って居ても) その人が むつかしもんで (ので) ま
 あ そげん (そんなに) 言わな (なければ) いかん
もんで そお言う場合を そそらげる 言うの (の
 です)。ほんとに タテマツルんねなしん (のでな
 くて)、ほんとに えろおて (偉くて) タテマツツ
テ もらうんなら (貰うのなら) ええんけど (よい
 のだが)、むつかしもんで、うるさいもんで たて
とかな あかんなあ (駄目だ) 言うて、そいなのお
は (そんなのは) はざんわい (駄目です)。その人
あんた (貴方) 賢い賢い言うて もの言わさせ
ん訳や (です)。そげんして (そんなにして)、そや
しとくとなあ、おだてとくの (ておくのです)。機
 嫌が悪るなつて来ると、いかんもんで、言や (言え
 ば) 除けもん (者) にするよおな もんやわい。あ
 のひたあ (人は) 除けもんに しときや (しておけ
 ば) ええわれ (よろしい) 言うんけど (言うのです
 が)、それを 言われやせんし (言えないので) し
よしよりあげて あんた (貴方) えらい あんたえ
らい 言うとくと (言っておくと) 嬉しんどるやん
かい (で居ます)。あんたな (が) なんもかも (す
 べて) してくれやこそ (してくれるから) 言うて、
そやして。そんな人に限つて 又 そんで まにう
けとんね (本当だと思つて居るのです)。ほんと
 (本当) や (だ) おもて (思つて) 御機嫌な (が)
ええねてや (よいのです)。

たてまつる (奉) 【他ラ五】 1) 精霊送りをする。

2) 敬遠する。

たてむすび (縦結) 【名詞】 帯や糸の両端が、上下の
 縦に出るように結ぶ事。両脇が本体と十字になる結
 び方。(南)

たてもん (建) 【名詞】 1) 建築物 2) 穀類の殻を
 風に当て、吹き分ける事。たてる。[会話] 1) 家
 建てると、あの建物は ええなあ (よろしい)。此
 のタテモンは わりなあ (悪い) たら (とか) 言う
て、家な (が) 建つとると (て居ると)。2) こおぼ
し (穀類を日に当てる事) したあと 風にふかす。
 タテル。小豆たてたり、豆たてたり 粃でも こく
と (脱穀すると) ほこりな (が) 有るもんで (の
 で) たてて いれて すんのを (するのを) タテモ
ンする。

たてもんする 穀類を風の方で実と殻と選別する
 [会話] 風で ふっからかして (吹かせて) 汚いも
ん (物) を。タテモンスンの (するの)に あらし

(嵐) な (が) のおて (無くて) 言うて、風な
 (が) 無いと。そすと (すると) あらし な (が)
ええと (良いと) 今日は タテモンスンの ん ええ
ひいや (良い日) なあ (だ)、あらし (嵐) な
 (が) よおて (よくて) 言うて (言います)。浜い
 (へ) 皆 たてに 来よおったね (来て居たので
 ず)。浜い来ると 風な (が) ませ (南風) な
 (が) 吹いて ゆうませ (夕方の南風) な (が) 吹
いて来ると、はよいけえ (早く行きなさい) どん
ど こどんやよお (です) 言うて。にのて (担つて) 浜
い (へ) 皆な (が) たてん (に) 来よおつて (来て
 居て)。今日は あらしやよつて (だから、風が吹
 いて居るから) どんどこどんや (だ) はよ行けてや
 (行きなさい) 言うて たてんのん (たてるのに)。
あらし (嵐) な (が) 無いと だち (らち) な 行
かんで (行かなくて) ちよいとんのおでも (少しの
 物でも) あらし (嵐) な (が) 無いと ほんとん
 (本当に) ごおなわいて来て (腹が立って)、忙し
て (忙しくて) 気な (が) もめて。今日は あらし
よおて タテモンスンの ん (するの)に ええ ひい
 (日) やなあ (だ) 言うて、風な (が) 吹いとる
 (て居る) ひい (日) は。タテモンは 風にふっか
らかす (吹かす) のを、タテモン 言うしなあ (言
 います)。つぶもん (粒物、穀類) たてる時は あ
らしな (が) ええの (よいのを) 考えて (て居
 て) あらし な (が) よおて (よくて) 今日は タ
テモンスンの ん ええ日や 言うの (のです)。あ
 らし言うのは 風。台風のあらしと 又 違う。常の
 (日常の) 風な (が) あろなつて (荒くなつて) 来
たのなあ (のです)。

だてら 【接尾語】 だてはたてだてし (心を立て通す。
 意地を張る) のだて、らは助辞。身に似合わない事
 をするのを言う語。身の分際に似合わぬ事をするの
 に言う語 おなごダテラ

たてる (立) 【他タ下一】 1) 開てる。雨戸、障子な
 などをしめる。(桑市、上、阿、南、熊) 2) あおつ
 て。殻やちりを取り除き、穀物などを精選する。
 (志 (神明、立神、甲賀、国府)) 3) 設置する。
 4) 仲介人を頼む [会話] 1) とお (戸) タテルと
か、4) 人もタテル 言うやんかい (言います)。嫁
 貰らうのん (に) 人タテタネ (立てたのだ) 言うて
な、むこおの家いなあ (へ) 交渉に行く時 んなあ
 (に) だれそれ (誰) たので (頼のんで) 人タテ
タネ (のだ) 言うて。喧嘩しとる (している) 時 ん

(に) なかだち (仲介) も、人な (が) 立って、仲直りしたね (したのだ) 言う。1) 雨戸を 開めたり すんのも (するのもの) あけたてもせな (しなければ) いたまれ (悪くなる) 言うて、開けたり 閉めたりすん (するのを) あけたて言うの (のです)。あけたてせな (しなければ) 言うて、閉める事を タテル言うねな (のです)。

たてる 舟を進行方向に向ける

たてる 風呂を沸かす (桑市)

たてる 鼻緒を上げる (南)

たてる 生活する 暮らしをタテル

たてる【他ダ下一】 木造船の船底についた海草、貝類をこすり落し、材の中の虫を殺し、又含まれた水分を除くため、藁などで船底をあぶる事。(志) [会話] 舟タデル。舟を半年も 浮かとるとなあ (浮かべていると) のりな (が) わいて (付いて) ぜんぼ (ふじつぼ) な (が) 着いて来るもんでなあ (もので、上げてなあ、ぜんぼ こそげといて (けずりとしておいて) 柴で焚くの、舟タデル。休みな (が) 二日も三日も続くと 今日ハ フナタデやよお (だ) 言うて、柴 買いん (に) いて (行って)、舟 焚くね (のです)。そすとなあ (すると) のりも暫くつかせんし (付かないし)、ぜんぼも つかせんし そおすると かあるう (軽く) なって、こぎやい (漕ぎくらべ) しても早い。舟を かたつぼつ (片一方づつ) かたげといてなあ (傾けておいて)、こっちやの (こちらの) 裏もこすり、こっちやい かたげてな (傾けて) こっちや こすりしてな 底を 皆 なあ たわしや、棒ずりてこそげて、のり 取つたり ぜんぼ とつたりしといて (しておいて) 焚くの (のです)。

たと 立とう [会話] 体をタト言うても、腰な抜けてて (て行って) 立たれやせん (立てない)

たとい (たとひ)【副詞】 若し 万一 かりに (安)

たとえ (たとへ)【名詞】 譬、例。わかりやすく引きあいに出した語句。(安) [会話] タトエばの話や (です)。タトエバナシ なんでも (何でも) これ よお (よく) 似とんなあ (似て居ます) 言うて、うなしもん (同じ物) 此れと よお 似たよおなもん (物) やなあ (だ) 言うて、タトエんの (例えるのを)。そのほか (他) のもんと較べて。話でも タトエ話 言うて 嘘話でも ほんどん (本当に) みたよん (のように) 言うて タトエ話 言うな (のは) よおするやんかい (よくします)。

たとえことば【名詞】 他の物に例えて言う言葉。直接言わずに間接的に言う言葉。[会話] タトエコトバ。あや (あれは) こおやわい (こうです) 言うてな、たとえば、言葉でも、たとえて言うと 言うし。しなもん (品物) でも あれに たとえてすると なあ言うて 言うしなあ (言います) 較べる事やなあ (です)。

たとかれ 1) 立たない 2) 経たない [会話] 1) あいなもん (あんな者) やとたてて (雇っても) なの役にもタトカレ

たどき (田刻)【名詞】 稲刈りの時期

たとだ【動詞】 畳んだ [会話] 畳む言うのは、たとむ言うね (言います)。タトダ言うね (言うのです)。

たとで たたんで。[会話] きもん (着物) タトデ、しもとかな (しまっておかなければ) はざんわれ (駄目だ)。

たとどいた 畳んでおいた [会話] タトドイタか (畳んでおいたか) 言うと タトドイタわい 言うてな。

たとどいたか 畳んでおいたか 畳みましたか。たとどいた参照

たとどけ 畳んでおけ。たとむ参照

たどぼ【名詞】 おたまじゃくし。[会話] おたまじゃくしの事を どぼ 言うの (のです)。タドボ言うて 腹な (が) おつきいて (大きくて) 尻な (が) こけとると (やせていると) タドボン (に) よお (よく) 似とるなあ (似ている) 言うて。

たとむ (畳)【他マ五】 1) 折りたたんで小さくする。(志 (立神)、鳥 (加茂)、員、鈴郡、鈴市、安、一、久、松、多、上、阿、張、名、度、伊) 2) 片付けて、あと始末をする。終る。[会話] 1) 畳む。布団 たとんどけ (畳んでおけ) 言うやんかい (言います)。たとんどけ (でおけ) 言うのをな、きもん (着物) も、たとどけ (でおけ)、蓆もたとどけ、上敷も干してあんの (有るのを) たとどけ 言うてな 畳んでおけ言うのを たとどけ言う。畳むと、タトムと一緒に事やけどな (だが)。畳む言うのを タトム言うの (のです)。たとだ (畳んだ) 言うね (言うのです)。たとどいたか (でおいたか) 言うと おお (はい) たとどいたわい (でおきました) 言うてな。

たな (棚)【名詞】 船腹の横板。(志、鳥、北) [会話] 船の横板。こべり、船の上に 横のどんがらの上に ほっそお (細く) 付いとんの (て居るのは) こべり

言うし。横に タナバラ言うて 大っきい (大きい) のおな (のが) 腹ん (に) してあんの (あるのを) あれ タナや (と) 言うなあ (言います)。タナ、タナバラ言うてなあ 腹ん (に) なるやんない (でしょう) どんばらん (に) なつとるところ (なつて居る所) を。タナバラへ 穴あけられて言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。とびやげられたり (衝突されたり) すると、タナバラい (へ) とびやげられて言うて 船のまわり (周囲) の事を タナバラ言うのお (言います)。底はしき船のしき言うんなし (言うのです)。そして 横は はら (腹) タナバラ 言うてなあ (言います)。

たな【**名詞**】暗礁の張り出して居る部分

だな【**誰**】【**代名詞**】1) 誰が。2) 否定する語。いやだ。[会話] ₂) ダナなあ 言うの (ののです)。それ もて来て呉れ (持って来て呉れ) 言うたや (言ったら) ダナなあ かいだり (かいだるい) のん (のに) 言うて、嫌や (だ) いややれ (嫌だ) 言う事を ダナなあ 言うの (ののです)。それ したて (してやって) 呉れるかあ (か) 言うて、おら (俺は) ダナなあ うそかいだり (大変だるい) のん てら、うそおもたい (大変重い) のん てら (とか) 言うてなあ。₁) ダナ するやい (するものか) 言うてなあ。₁) ダナ そいな事 (そんな事) 言うたんど (言ったのですか) 言うて 言うのも言うし、ダナ そいな (そんな) あんどし (馬鹿な) 事 言うたんど。その時は 誰が 言うんなし (言うのですし)、そして ₂) ダナなあ 言う時や (は) わがと (自分) したない事を 言うのなあ (ののです)。ダナなあ 言う時は 誰が そいなもん (そんなもの) すんねてどお (するのだ) うそかいだりのん てら うそ重たいのん うそせせかし (面倒くさい) とか言うてなあ。

…**たない**。1) しました。2) したくない。行きたくない。(志、熊)

たないた【**名詞**】船の側板(度)

たないも【**棚芋**】【**名詞**】発芽した後の芋 [会話] 芋の芽が沢山出て、そして それを 切ったた (てやった) 後の芋を タナイモ言うの (ののです)。種にして有る 芋やもんで (なので)、それを タナイモや (だ)。芋苗床 (発芽させる場所) 入れて つこた (使った) 後の芋なあ (です)。そすと (そうすると) みい (身、中身) な (が) おて (無く) かすかすで うまないの (うまありません)。

そんでも (それでも) 戦時中は 皆なあ 盗みんき よおった (盗みに来て居ました)。他処のにげ (人、人間) な (が) タナイモ 盗みん (に) 来よおった。芋苗おろして あんの (あるのを) 盗できおったねんなあ (盗んで行ったのです)。

だなえ【**誰**】誰が。否定の時、疑問の時、両方用いる。だな参照 [会話] だな (誰が) そいな (そんな) 事言うたんど (言ったのだ) ダナエ言うてな、だな (誰が) そいな事 言うたんど 言うて、あんなだ (彼がです) 言うて、知らんわれ (知りません) 言うとや (言っておれば) ええん (よいの) けど (だが)、なあ (名前) さいてなあ (さして) 直接 あんな (彼が) 言うたれ (言いました) 言うてなあ。これ しとけよお (しておきなさい) 言うて ダナエ言うて、嫌や (だ) 言うのを したないと (したくないと) ダナエ言うて、おら (俺は) したない 言うのを、だな (誰が) 言うて、だな するやい (するものか) 言う訳やなあ (です)。そんでおつて (それでいて) 人な (が) すると だな (誰が) すんねど (するのだ)、だな (誰が) したんど (したのだ) こや (これは) 言うて。

たなおち【**棚落**】【**名詞**】果実、野菜等が熟し過ぎて居る状態。(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、上、阿) [会話] タナオチや (だ) 言うて。西瓜でも なんでも あからみすぎ てくと (熟し過ぎると)、こや (これは) タナオチ しとんなあ (して居る) 言うて。まあ (もう) 旬な (が) すんでとんのおは (行って居るのは) こやまあ (これはもう) タナオチやわい (だ) 言うて、なんでも 熟な (が) 過ぎると タナオチや (と) 言う (言います)。

たなおろし【**名詞**】1) 残り物の売拂い(熊) 2) 他人の失敗 あるいは有る事無い事を言って酷評する事

たなご【**名詞**】ウミタナゴ科の海魚。全長約 25 cm、形はクロダイに似るが口先が尖る。体色は黒紫色のものと、赤褐色のものがある。卵胎生魚。(志、鳥、南、熊) [会話] タナゴ食うと こお (子供) な (が) 出来やせん (出来ない) 言うて、おなご (女) は食うな (食べるな) 言うてな、口からもおけんね (出産するのです)。そやもんで (それで) おなごは タナゴ食うな 言うて。

だななあ【**誰**】誰が。否定する時、俺はしたくないと 言う意味で使用。[会話] ダナナア 言うの (の

す。それ もて (持って) 来てくれ (下さい) 言うたや (言ったら) タナナア、かいだり (疲れている) のん (のに) 言うて、嫌や (だ)。嫌やれ (嫌だ) 言う事を、タナナア言うの (のです)。タナナア言う時は 誰が、そいなもん (そんなもの) すんねど (するのだ)、うそかいだり (疲れる) のん (のに) てら (とか) 言うてなあ。

たなばたけ【名詞】 棚畑 下から上へ棚の様になっている畑 [会話] タナバタケ、だんだん畑言うてなあ、山を 皆 畑い (に) つつくもんでなあ、下から上むいて (向かって) だんだん (次第に) となあ。

たなばら【名詞】 船の横腹 たな参照 (志)

たなもと (棚元)【名詞】 1) 台所。(志 (船越)、津、上、阿、張、名、伊) 2) 台所の流し場。他国にて流しと云ひ、走りと云ふ物を吾党に棚本と云ふは方言也。是も水流しの必ず人家の棚下に有る故に称し来るなるべし。流しも走りも皆水を流し走らすより云ふ也 (伊勢の浜荻)。はしり 走 台所の流し、食器食物などを洗った水を洗い台の隅の小穴から下へ走り流すところからいう。(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、津) [会話] タナモト 言うなあ (言います。)²⁾ ながし (食器洗い場) の事。タナモト しもとけよお (仕舞っておきなさい) 言うて。ご飯食べた後の 茶碗やお皿や (だ) 言うて 洗うのを タナモト しもとけ 言うて。飯 喰うて すぐでも (すぐに) おらげの (私の家の) 嫁や (は) タナモト しまおとも しやへんねない (しないのだ) 言うて、えてこい (おはこ、十八番) やったやんかい (でした)。どすわつとて (大きな顔で座って居て) 座つとると (て居ると)、婆ら あげんしとらんと (あんなにして居なくて) タナモト しもといて (しまっておいて) すや (すれば) ええのん (よいのに) 思とても (思つて居ても)、嫁さんら (が) どすわつとると ほん (本当に) タナモトも しまおとせんと (せずに) あえん (あんなに) どすわつとんね (て居るのだ) 言うて。

たなもん【名詞】 種物。たなは、たね (種) の転。たね (種) 発芽のもととなるもの、種子。(志 (布施田)) [会話] タナモン言うと、なんやかや (色々) 豆の種や (とか) 小豆の種や 麦の種 言うて がんがん (鐘) へ いれこ (小さな容器、タナモンいれや (だ) 言うて。瓢箪に タナモン よお (よく) 入れよおったやんかい (入れて居たで有りませんか)。タナモンいれや (と) 言うて。いろいろ

ろの種をなあ 皆 紙い (へ) 書いて 此れは 何ん (何) の種言うて そして一つの がんがんへ入れんのなあ (入れるのです)。タナモン入れ言うて 種のもん (物) 入れんの (入れるのです)。タナモン言うと、種や (です) なんやかやの種、そやよつて (だから) 波切の タナモンやな (が) たなもん たなもんの言うて売りんきよおった (売りに来て居ました)。

たなもんや【名詞】 種子の販売を業とする人。[会話] 種 売りん来る人ら タナモンや、花の種とか、野菜の種をなあ、たなもん 言うてな、よお波切から売りん (に) きよおったやんかい (来て居たではありませんか) いろいろのたなもん言うて。

たにあい (たにあひ) (谷間)【名詞】 山と山との間 谷 転じて物と物の間にも言う

たにばら【名詞】 深い谷底 (志 (布施田))

たにやい【名詞】 たにあいに同じ

たにんず【名詞】 多人数 大勢

たぬき【名詞】 ゆりうつぼ 赤褐色の地肌に白斑紋が有る。全長 80 cm その顔が狸に似てるので たちうなぎ参照

たぬき【名詞】 空惚けている事。その人 知つて知らぬ振りをする (北、尾)

たぬきごぼち【名詞】 狸を獲らえるわな。[会話] 狸な (が) おるもんで (居るので)、タヌキゴボチ かけよおつて (仕掛けて居て) そすとまあ (すると) 踏んだて (でしまつて) 足やられんのな (傷つけられるのが) あよおつたりなあ (有りました)。

たぬきね (狸寝)【名詞】 寝たふりをする事。そら寝。[会話] 寝たふり タヌキネ。ごおごお 軒かいて タヌキネのこと すらね (空寝) 言うんやわい (言うのです)。

たぬきねいり【名詞】 寝たふり

たね (種)【名詞】 精子。子種。[会話] タネ 男の人ら (は) タネも有つて、播きつけんねよつて (つけるのだから) 今しや (今は) タネや (が) よけ (沢山) あつても もおけやせんけど (産まないが)、昔や タネな (が) 有るだけ 皆 もおけよおつた (産んで居ました)。芋だね 盗んでも コダネは盗むな。コダネ盗むと そのタネん (に) よお (よく) 似とる (ている) よつてなあ (から)。あやれ あや (彼) あんな (彼の) 子やよつてんなあ (だから) よお似とんなあ (似て居る)。それやよつて (だから) 芋ダネぬすでも (盗んでも) コダ

ネヤ (は) 盗むな言うんやれなあ (言うのだなあ) 言うんやんかい (言います)。その時のタネは 子ダネヤ (です)。それも 皆 タネヤよってんなあ (だから)。なんやら それ 歌な有るんやんかい (有ります)。「かあさん 此の穴 なんの穴」言う と「坊やよく聞け 此の穴は 坊やが通った トンネルだ」言うて 歌な (が) はやりよおったのお (流行して居ました)。(ある日かあちゃんと寝た時に、変な所に穴がある。かあさん此の穴なんの穴、坊やよく聞けこの穴は、坊やが通ったトンネルだ)。

たねあぶら (種油) 【名詞】 菜種油。あぶらな属。植物の種子から庄搾抽出法で採取した半乾燥性の脂肪油。潤滑油、焼入れ油、切削油、頭髮等に使用し、食用にも供す。又、燈明にも用いる。なたねあぶらの略 (大言海) (北) [会話] 菜種の油なあ (です) タネアブラ 此処らはなんも (少しも) 菜種の油 とららった (取らなかつた) 伊勢の方い (へ) 行くと 菜種な (が) よけ (沢山) 植えて 有りおったんやんかい (有ったではありませんか)。たあ (田) い (へ) 皆 播いといて (ておいて) それ取って。しよおじ油 (精進油) や (だ) 言うて、菜種を 油ん (に) ともし油 (灯油) ん (に) 使よおったもんで (使って居たので) よけ (沢山) 菜種 とよおったわい (取って居ました)。菜種油言うてあれ 皆 ともしおったもんで (灯して居たので)。菜種の油を しよおじ油や (だ) 言うて 神さんへなあ おとおめよ (燈明) あげる時んなあ (に) としみ (灯心) を 脇へのたらしといて (横たえておいて) それい ひい (火) つけんの (付けるのです)。ほっそおい (細い) 燐寸の棒 みたよなのおを (ようなのを) としみ言うて。

たねいも (苗芋) 【名詞】 種とする芋。早春に発芽させる場所に植え、発芽させた芽を切り取って、畑に移し植えるため発芽させる芋。[会話] タネイモ。芋苗おろす言うのをな タネイモとつくわ (囲っておく) 言うてな 器量 (格好) の ええ (よい)、ぼら (穴) の あいとらせんの (ていないのを) タネイモん (に) 言うてな。あんまり (あまり) おつきない (大きくない)、ちっちゃない (小さくない) のを たいがい (平均) ん (の) のおを ええよおな (よいような) 傷の無いのおを (のを) タネイモん (に) とつとくんやんかい (しまっておくのです)。

たねうま (種馬) 【名詞】 養子。婿養子。[会話] 養

子 (婿養子) もなあ (です)。タネウマもおた (貰った) 言うて嬉ぶけど (が) タネウマ きょうびや (今日日、最近) タネウマな (が) なかなか からくられんで (探せなくて) ととのわせんね (人手出れないのです) 雌牛は よけ (沢山) 有るけどなあ (が)、タネウマ よけ 無いねてや (無いのです)。

たねきん。たねせん (種銭) 【名詞】 1) お金を貯めようとする時、そのもととなる銭。2) 仕事を始める時の資本金。[会話] タネゼン言うけどなあ (言いますが)。ほおびき (宝引) 引く時ん (に) タネセンや (だ) 言うて、ぼら (穴) な (が) あいとる (ている) ぜん (銭) を、いぼ (紐) い (に) 通して、じゃらじゃら言うて。2) タネゼン、商売する ぜん を タネキン 元手言うんかい (言うのです)。

たねちがい (種違) 【名詞】 兄弟姉妹の内、母が同じで父が違う事。異父兄弟姉妹。(志 (布施田)) [会話] こお (子供) でも、男の親な (が) 違うと、あや (彼は) タネナ (が) チゴトンネ (違っているのだ) 言うて、男の親な (が) ちごとると (違っていると)、あや (彼は) 種な (が) 違うねてわれ (違うのだそうだ) 言うて。腹な (が) 違うと 腹違いの兄弟や (だ) 言うてな。

たねて 東ねて [会話] 上手ん (に) タネエヨオ (なさい) 言うて、車へ、積んだり、担うのおに (のに) 上手ん (に) タネント (ないと) 途中で すっこけて来てなあ 道で脱線する時な (が)。そやよって (それだから) 上手ん (に) タネエヨオ 言うて。上手ん (に) からげとけ (くくっておけ) 言うのをな、上手ん (に) タネな (なければ) そや (それ) みちなか (途中) で ばらけてくど (ばらばらになるぞ) 言うて、下手なと (だと) しゆるしゅると いちわあつ (一束づつ) 抜けて来たりして、そやもんで (それで) 上手ん (に) タネエヨオ 言うて。さいら (秋刀魚) 開いて 干物ん (に) して、タネテ 籠い 皆 詰めて なあ (縄) で荷作りして 市へ持てきおったんやんかい (持って行ったではありませんか)。

たねる 東ねる (志 (布施田、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (加茂)) [会話] タネル言うの (のは) 東ねる。

たのおだ 頼んだ (志、度)

たのき 【名詞】 狸 (志 (布施田、磯部、浜島、甲賀、立神)、鳥 (坂手 菅島)、桑郡、桑市、員、三、四、

鈴郡、鈴市、津、一、久、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] 狸。タノキのきんだま 八畳敷。狸の事 タノキ。人間でも ほけたよおな事言うと タノキシとて (して居る) あや (彼は) まあ言うて。 すら (空とぼけて居る事) しとると、 あや (彼は) タノキやよって (だから) 言うて。昔はなあ タノキの きんだま 八畳敷 あの子の きんちゃかあ (巾着は、女性器) 八丈縞 言うて。

たのし (楽) **【形容詞】** たのしい。愉快である。[会話] タノシ言うな (のは)、愉しみやなあ (だ) 言うて、嬉しい事をなあ、はりやいなええ (気持のよい) 言うのだ (です)。嬉しい事を はりやいなええ (気持がよい) 言うて、嬉しい愉しい言うのを はりやいな (が) よかった。

たのしり **【名詞】** 田の水が流れ出る所。[会話] びり (鰻の仔) 掬りん (に) 夕飯喰うと、ゆりのと (潮溜) いたり (行ったり)、タノシリ いたり。

たのだ 頼んだ。依頼した。[会話] 口かけといたねえけど (口をきいておいたが)、たのどいた タノダ言うて。

たのだて 頼んでも [会話] あの人ん (に) なん (何を) タノダテテ ゆずう (融通) な効こかれ (効かない)

たのだる 頼んでやる。依頼してやる。くちきき参照 [会話] くちきき言うな (のは) あの家い (へ) 雇て (雇って) くれとか言うて、頼むの (のを) 口ききん (に) たので 言うて、タノダル 言うて。

たので 1) 頼んで、依頼して。2) 頼んで下さい [会話] 1) 頼んで言うのを タノデ言うてな。タノデ あの家い (に) やとて (雇って) もろた (もらった) とかな、連れてて (連れていって) もろた とかな 頼む。わけい (私の家に) たあど (田植え、田刈り) ん (に) 来てくれえ (下さい) 言うて 頼む言うのを タノデ来た、たのどいて (頼んでおいて) 来たれ (来ました)、あした (明日) から来て貰うよん (ように) 言うてな。頼むの (のを) たのどいて 来た言うてな。

たのでえ 頼んで下さい

たのでも 頼んでも

たのどいた 頼んでおいた、依頼しておいた。[会話] タノドイタ。あした (明日) 来て貰わな (なければ) 言うて 頼みん (に) いた (行った) 言うて、タノドイタ。たのどいて (頼んでおいて) 来たよ

ってん (から) あした 来て 貰われられ (貰える) 言うてな。

たのどいて 頼んでおいて [会話] わけい (私の家に) たあど (田植え、稲刈り) ん (に) 来てくれえ (下さい) 言うて 頼む言うのを、たので (頼んで) 来た。タノドイテ来たれ (来ました) あした (明日) から来て貰うよん (ように) 言うて、頼むの (のを) タノドイテ来た言うてな。

たのどく 頼んでおく、依頼しておく。[会話] タノドイテ (頼んでおいて) 来た言うの (のです)。たのどいて来たよってん (から) 上等や (だ) 言うてな 頼んでおく タノドク、頼んどいて来た言うてな。

たのどた 頼んで居た [会話] 村から、タノダの なあ (のです) 請願巡査を。

たのどて 頼んでいて [会話] たあ (田) のてった いん (手伝い) 来てくれると、たあど (田の手伝い) タノドテ言うて

たのまれごと (頼事) **【名詞】** 他人から依頼された事。 [会話] 頼まれた言う事や (です)。おや (俺は) タノマレゴトしとんね (しているのだ) 言うてな、なんおえ (何をですか) 言うたや (言ったら)、田の草 かきん (取りに) 来てくれ (下さい) 言うて 頼まれとんね (ているのだ) 言うてな。

たのまれど **【名詞】** 頼まれた人 雇人 (志 (鶴方、神明、国府、安乗)) [会話] タノマレド。まあ 来てくれ (下さい) 言うて、頼まれとるよって (ているから) おや (俺は) 行くわ (行きます) 言うてな。雇とて (雇って) もろとる (もらっている) 人、おや (俺は) まあ 頼まれとんねよってん (ているのだから) 他い (へ) 行かれやせんわれ (行けません) 言うて。

たのまれもん **【名詞】** 他人から頼まれたもの

たのみ (頼) **【名詞】** 頼む事。依頼すること。力になるものとして、たよりに思う事、又その物。依頼。 [会話] タノミな (が) あんね (有るのです) 言うて、頼む事 依頼すること。

たのみごと (頼事) **【名詞】** 他人に依頼する事柄。(志 (布施田)) [会話] お医者さんに、足な (が) 痛いの (のを) 治してくれえ (下さい) 言うて、タノミゴトして、人に頼むこと タノミゴト。今日はお前も てつとくれ (手伝って下さい) 言うて、頼みん (に) 行く事やなあ (です)。神さんえ信心するのもタノミゴト、願う事なあ (です) 家

内安全まめ息災言うて。

たのみて (頼手) 【名詞】 依頼をする人。物事の処理を頼む側の人。[会話] タノミテな (が) のおて (無くて)、ちややまい (茶摘みに) 行くねけど (のだが)、来てくれ言う家な (が) 無いと、タノミテな (が) のおて 言うてな、雇う人をなあ、タノミテ言うて。

たのみで 依頼する価値。効果。[会話] タノミデな (が) 無い。頼みがいいな (が) 有るわい (有りませ)、あの人やったら (だったら) なん (何) でも出来るよってん (から)、あの人ん (に) 頼んどきや (でなければ) 間違いない言うて。そして ま おおぞらしな (だらしな) 人ん (に) たのでも (頼んでも) 当ん (に) ならせんやんない (ないでしょう)、あいらん (彼等に) たのだてて (頼んでも) 当ん (に) なるかれ (ならない) タノミデな (が) 有るかれ (無い)。

たのみ (頼) 【他マ五】 1) 依頼する。2) 懇願する。[会話] 2) よした、タノムに助けてくれえ (下さい)。あんたん (貴方に) してもらわれやへんかな (もらえませんか)、これを こおて (買って) もらわれやへんかな とか言うて、タノム事を、こおてくれ (買って下さい) 言うて タノムし、仕事すん (る) のでも、仕事してもらわな (なければ) いかん (いけない) もんで (もので) タノムしなあ。依頼する言うの (のです)。たのみや (頼のめば) 乞食も馬ん (に) 乗る言うて、ほんとは (本当は) よお乗らんでも (乗れなくても) 乗って見よ かいなあ (か) おもて (思って) たのまれたら なん (何) でも よおする事 (よくする事) せな (しなければ) 言うて。

たのみし (たのもし) 【名詞】 頼母子講。金銭の融通を目的とする相互扶助組織。組合員が一定の期日に、一定額の掛け金をして、くじや入札に依って所定の金額の融通を受け、それが組合員全員に行き渡る迄行うもの。(志 (国府、甲賀)、上、阿) [会話] タノムシ 言よおったなあ (言っていました)。タノムシ かけんねえ (掛けるのだ) 言うて。タノムシや (と) 言うて それで だまされて 悪質商人らん (達に)。タノムシ掛ける言うて、掛けて 皆ごっそり 持ち逃げしやれた (された) 言うて こなんだ (此の前) テレビで言ううたとてや (言って居ました)。昔や (は) 皆 タノムシ 掛けおってなあ (掛けて居て) 此処らみたよな (のような) 田舎

の人らな (人達が) すんねやろのお (するのでしよう)、百姓どこの人ら。今しても (今でも) する人ら あんねやろなあ (有るのでしよう) 心な (が) おおた (あった) 仲間らな (達が)、そしといて みんなな (皆が) かためん (交代で) 使いやい (使いあい) して。

たのむに お願いしますから

たのむわい 頼みます [会話] 今日は 樽入れ (結納) して、むこお (相手) の人と、こつちやと (こちらと)、親と兄弟で 顔合せしよおや (しましよ) う 言うて、タノムワイ言う事を 初顔合せ。

たのも 頼もう、依頼しよう。[会話] あの家いきや (行けば) 金な (が) あんねやよって (あるのだから) 借してくれ (下さい) 言うて タノモ。

たのもし 【形容詞】 頼もしい 心強い 気強い [会話] あのひた (人は) タノモシ人やなあ (だ) 言うて、なん (何) でも出来るよってん (から) 言うて頼もしい。

たのみに 1) 宜しく願います 頼みます (志) 2) 頼みましょう

たのもん。たのもんね 頼みます

たのんだる 頼んでやる、依頼してやる。くちきき参照 [会話] たのんだる タノンダル 言うのを 口きく言う。

たぼう (たばふ) (貯) 【他ハ五】 大事にしまっておく。たぼる参照 たくはふの略 (大言海) (志 (浜島、甲賀、安乗)、鳥、一、北) [会話] タバウ言うのを たぼる言うねわい (のです)。たぼりむしなつて言うて、人んも (に)、くれんとなあ (くれずに)、こやま (これは) ためとかな (貯めておかなければ) 言うて、しとると (している) ま、それ盗まれたたり (てしまったり) してなあ、たぼり物には 虫がつく言うて。

たばえ 【名詞】 貯えたもの。(志 (布施田))

たばえる 貯える。[会話] 貯めといて (ておいて) 有る、言うんやかなあ (のでしょうか)。たぼる言うて、大事ん (に) して、しもとく (しまっておく) 事を、たぼとて (ていて) まあ言うて。たばねがええ (よい) 言うのは 聞くけど、つばめ (節約する) な ええ 言うて、タバエル言うのもその意味で 言う人が有るのお (有ります)。たばねがよおて (よくて) 言うて、つばめ な ええ 言うのを、あのひた (人は) なんもかも (すべて) つばめ な ええさけん (よいから) ばあばあせん

と(せずに)、しまつ(節約)して、たぼって(貯めていて) あやれ(あれ) まあ言うてな。

たばかる (謀) 【他ラ五】 だます。嘘をつく。盗む。
タクミハカルの略(大言海) タは接頭語(広辞苑)
(志(布施田)) [会話] 人のもん(物) タバカル
と あや(彼は) たち(性質) な(が) わりねよ
つて(悪いのだから)。

たばこ 【名詞】 煙草。一休みする事。[会話] 煙草。
たばこ 言うなあ(言います) タバコ吸う言うてな
あ 煙草言わんと(言わずに) たばこ吸う言うて。
一服も(休憩も) タバコ。タバコにしよおか(しま
しょうか) とか、一服しよおや(しまし
ょう) 言うて。休もや(休みま
しょう) 言うのを、休もや 言
わんと(言わずに) 一服しよおや 言うて。

たばこいれ (煙草入) 【名詞】 刻み煙草を入れる袋
[会話] タバコイレ 腰い(へ) 吊げて、せだ(布
施田) の若い衆、ひよっこひよっこ歩いて、ええ
(よい) タバコイレ、こおて(買って) 腰い(に)
吊げとんねけど(ているのだが) わに皮のええ の
吊げとんねのお(ているのですね) 言うて、だれん
も(誰も) 言わせんもんで(ないので)、越賀い
へ 行くの(のは) どお行くねやかのお(行くの
ですか) 言うて、腰を見せると ええの
お(よいのですね) 言うかともて(かと思って) 腰を振っ
たんけど(ののだが) なんも(なにも) 言わらつた
(言わなかった)。わに皮や言うと 俠客もん
(者) や、金使いな(が) 荒い人らなあ、鱧皮のか
ます吊げとる(ている) 言うて、煙草いれん(る)
のを かますや(だ) 言うて、銀の煙管 食わえて
言うて、そやまあ(それは) どいらい(大変な) だ
んなし(旦那衆) や(です)、銀のけしろ(煙管)
言うて どいらい はれ(立派) やつたね(だった
のです)。

たばこすう 1) 煙草を吸う 2) 休みする(伊)

たばこする 休む

たばこせん (煙草銭) 【名詞】 小使い銭。少額の金銭
[会話] タバコセン言うて 煙草 買うぜん(銭、
ぜに) をなあ。タバコセンも 無いねない(無いの
だ) 言うて。タバコセンな 切れたんかい(たので
すか) 言うて。年寄りの人ら(が) 家の人らな
(が) タバコセンも 呉れやせんねない(呉れない
のだ) 言うて。ちよいと(少し) のぜん。磯(海女
作業) いても(行っても) タバコセンも なららつ
たよお(ならなかった) 煙草代も 出来やせんよお

(出来ない) 言うて。金額が少ない 言うよおな意
味も 有るんやなあ(有るのです)。すけない(少
ない) ちよいとや(少しな) もんで(ので) 金額が
少ない場合を タバコセンもねえ(無い) せんこだ
い(線香代) も ならせんとか(ならないとか) 言
うて。煙草はなあ 四角な箱に はいとんな(入っ
て居るのは) 一番安いのな(のが)、五銭やつたの
(だったのです) 萩で。あやめ 言うのはなあ ち
よいと(少し) ねえ(値段) な(が) ええし(高い
のです)。そすと 巻き煙草では バット。ゴセン
バット(ゴールドバット) 言うて 五銭で 買わ
れよおつたね(買えて居たのです) 一箱。そやよつ
て(だから) 兵隊さんな(が) 五銭のバットも 吸
いかねる 言うて、新兵ん(に) になると 焼芋喰う
て 五銭バットな 吸われやせん(吸えない) 言う
て。歌よおつた(歌って居ました)。

たばこびつ 【名詞】 煙草販売人に専売局から煙草を入
れて持って来る木箱に紙を貼った物 [会話] 煙草
入れて来る きい(木) の箱な(が) 有って。それ
もろて(貰らって) 来て 紙で貼って タバコビツ
や(だ) 言うて、おらげ(俺家) の嫁 タバコビツ
一つ持て(持って) 来たばかや(ばかりだ) 言うて。
煙草屋い(へ) 行くと 煙草入れてきよおつたわい
(来て居ました)、きい(木) の箱い(へ) そすと
(すると) その タバコビツ 五円か十円出して
こおて(買って) 来て 紙、貼って そいなのおえ
(そんなおえ) きもん(着物) やどけ(など) 入れ
よおつた(入れて居ました)。丁寧な家や(は) そ
れい(それへ) 渋 塗って しよおつたけど(して
居ましたが)。

たばこぼん (煙草盆) 【名詞】 灰皿(南、熊) [会話]
竹の筒 立ててなあ、吊げん(る) のな(のが) 有
って タバコボン言うの。灰をこお、こそげん(落
す) のん(のに) ええんやろなあ(よいのでしよ
う)、筒ななあ(が)。

たばね (束) 【名詞】 束ねる事 束ねた物

たばね (束) 【名詞】 稲を束ねた形にしてある菓子。
[会話] 落雁の すわりもん(引き出物) 祝いの時
は 鶴亀 タバネして。

たばね 【名詞】 貯えること、貯えて有る物 [会話]
たくわえとく(ておく) 事やけどなあ(です)。タ
バネな(が) ええ(よい) 言うのおも、貯えとくの
になあ、たぼり(貯める事) な(が) よおて(よく
て) 言うて。なんやかや(いろいろ) とつとくの

(しまっていくのを)すると、たぼり な よおて
言うてなあ。

たばねる (東)【他ナ下一】一つにまとめる

たびだち (旅立)【名詞】旅に出る事。旅行や仕事な
どで家を出る事。たちいわい参照 [会話] どこや
かやい (あちらこちらへ)、旅立ったり、働きん
(に) いたり (行ったり) する事を タビダチ。

たびだつ (旅立)【自タ五】1) 旅に出る 旅行に行
く 2) 死ぬ

たびはだし【名詞】足袋のままを下駄、草履をはかず
に外に出る事 (志 (布施田、立神))

たぶ (たぼ)【名詞】たるみのある肉。[会話] 尻こ
ぶた 言うね (言います)。尻のぶたぶたをなあ、
尻こぶたな (が) 痛おて (痛くて) 言うて。耳タバ
耳のぶたぶたや (と) 言うし (言います)。柔かい
もんで (ので) ぶたぶたしとる (して居る) もんで
(ので) ぶたぶた 言うんやろなあ (言うのでしょ
う)。

たぶさ (髪)【名詞】髪を毛を頭頂に集めて束ねた所
[会話] 頭のタバサ 持って むしくられた (強く
引っ張られた)。

たぶたぶ、**だぶだぶ**【副詞】【形容詞】1) 衣類など
が体に緩る過ぎるさま。(志 (布施田)) 2) 尻など、
たるみのある体の部分。たぶ参照 [会話] 2) 尻の
ダブダブ。ぶたぶたを ダブダブも言う (言いま
す)。1) きもん (着物) も おっきい (大きい) の
着とると (て居ると)、きもん な (が) ダブダブ
んのお (ののを) 着て言うて、体に合わんの (合
わないのを) 着とると おっきいもん (大きな物) し
とると ダブダブしとる (して居る)。

だぶつく【自カ五】1) 物品や金銭が出まわりすぎて
余る。(志 (甲賀)) 2) 服などが大きすぎて隙間が
多い 3) ゆれる (伊) [会話] 2) ダブツク言うな
(のは)、きりもん (着物) がおっきいて (大きく
て) だぼだぼしとられ (している) 言うて。1) 金な
(が) よけ (沢山) 有る家や (は) あの家や、だぼ
つとて (ていて) 金な (が) 言うて、金な (が) ダ
ブツク程あんね (有るのだ) 言うて。2) 着物なだ
(が)、ちっさい (小さい) 体い (へ) おっきい
(大きな) のお着ると、あやれ (あれ) だぼだぼし
とられ ダブツイトラレ 言うてな。

たぶね (田船)【名詞】水田用の小舟。苗や刈り取っ
た稲、肥料などを積んで、水田上を押して運ぶもの。
(志、鳥、桑市、桑郡、亀、松、阿、度、北) [会

話] 稲、刈って積むの (のを) タブネ。タブネ押
すのんなあ (に)、くたばるやんかい (疲れるので
す)、脛な (が) 抜けてく (て行く) 程 かいだり
てなあ (だるくて)、あれ一杯、積んで どんだけ
(どれだけ) でもよけ (沢山) つも (積もう) おも
て (思つて) 積むと、水な (が) よけ 有る 水深
は ええけど (よいが)、かただ (堅田) 押すよん
(ように) になると、しりご (脱肛) 出しゃあるいて
(出して) 押して。前も後ろもなしん (無しに) し
て、真ん中な (が) ついて (地について)、じよお
ふち (両縁) な (が) 上つとらな (ていなければ)
ぺたつとしとたら (していたら)、押さえられやせ
んやんかい (押されません)。そやもんで (それ
で) 反橋ん (に) なつとる (ている) もんで (の
で) あんで (あれで) 走ん (る) ねけど (のだが)、
あんな (あれが) ぺたんとしとたら はしろかい
(走りません)。

たぶらかす (誑)【他サ五】うまい事を言ったり、ご
まかしたりして人をだます。あざむく。(員) [会
話] タブラカス 言うて、騙す事を。あんな (彼
が) タブラカシテテ (ていって) まあ 言うたりな
あ。おなご (女) でも、連れてくと (て行く) ま
あ あれん (彼に) タブラカサレテテ (ていった)
言うて、騙される事を タブラカサレル言うのな
(です)。あや (彼は) おなごだまし や (だ) よ
つてん (から)、あれん (彼に) タブラカサレテテ
んやれ (て行ったのだ) 言うてなあ。おなご (女)
騙すの (のが) 上手な人。

だぶらかす 1) 二重にする。重ねる。だぶらせる。
2) 揺する。[会話] 1) きもん (着物) を はぼる
言う時や (は) なあが (長い) のを みじこお
(短く) して 帯 腰で締めて ダブラカスの (の
を)。

たべごしらえ【名詞】食事の用意。くいごと参照
(熊) [会話] 喰い事 言うと 食事を タベゴシ
ラエする事。

たべごと【名詞】食事 食事の用意 (四、鈴市) [会
話] 食うことやわいな (です)。タベコトもせんな
らんし (しなければいけない) 言うの、お勝手する
ことなあ (です) タベゴトする言うて。食事の用意
せんならん。昔の食事のよおや (用意は) しのくい
わな (しにくいです)、芋 バケツ一杯も切らな
(なければ) はざんし (いけない)、麦やてや (だ
と言え) かしといて (洗っておいて) よまざな

(水を含まさないければ) はざんし、今し (今) みたよん (のように) 米だけ、炊くわけん (に) いかせん (いきません)。がっこから (学校から) 来たら麦も くざげとけよお (浸しておけ) 言うて、昼、来たおりん (時に)、くざげといて (浸しておいて)、こんだ (今度は) 帰って来てから それかして (洗って) よまして あした (明日) の朝、炊くのん (に) よましとくん (ておくの) やんかい (です)。

たべさし【名詞】 1) 食物の食べた残り、残り物 (熊) 2) 食べかけて途中で有る物

たべそ【名詞】 だらしない事、又そのようにしている人。[会話] だらしの無い人を あや (彼は) だあや (だ) 言うて、汚のおしとたり (汚くしていたり)。ダベソや言うて ダベソも 一緒の意味やけど。

たべそめ【名詞】 食べ始め、始めて食べる事。[会話] 子供らな (が) タベソメん (の) 時に、かあるいもんで (軽いので) びくしゃはぎ 喰わすね (食べさせるのです)。

たべたべ 食べながら

たべてえ 食べて下さい (熊)

たべもん【名詞】 たべもの 食物 (鈴市) [会話] タベモン、くいもん (食い物)。くいもんな (が) のおて (無くて) 言うね (言うのです)。くいもんな わりいて (悪くて) あの家や (は) 言うな (言うのは)、芋ぼっか (ばかり) よけ (沢山) 食う家と やんない (でしよう) 米と半半に食う家と、たあ (田) な (が) 有る家やなあ (は) 米と半半にするけど (が) たあ (田) の無い家や 米、買うん よつて (のだから) 茶碗で計ったり、湯呑みで計ったりして、入れんの (入れるのです)。そや (それは) にだし や (だ) 言うて、米な (が) にだし や (です)。芋飯のにだし入れるだけや (です)。そすとまあ、あわすと (混ぜると) あこや なあ (です)。米な (が) それ、まんじゅうん (に) ひとつぼおつ (一粒づつ) とんどる (ついている) やんない (でしよう) 芋いなあ (へ) めつぼな (飯粒が) あげんして (あんなにして) ひつついて しとる (している) ぐらいの事やわい (です)。

たべやい【名詞】 食べる競争 食べあい (熊)

たべやれる 1) 食べられる 食べる事が出来る (志、一、飯、松、多、阿、名、度、伊、北) 2) 生活していける

たべられる 1) 食べる事が出来る (志、三、四、鈴市、

亀、安、津、一、飯、多、上、阿、張、名、度、北、南) 2) 生活出来る

たべりょお【名詞】 1) 食べるもの。2) 食べるだけの量。[会話] 1) 畑で作ったもん (物) 子供らに食べさすのおに (のに) 子供らの タベリョオに作りおつたの (作って居たのです)。

たべんかい。たべんかな。たべんかれ 食べなさい

たば【名詞】 かもじ。加文字。髪文字。婦人が髪を結う時、地髪に添え加えて用いる入髪。[会話] タボ。ケタボ 言うなあ (言います)。タボ入れてとか タボドメ 言うて (言うて下さい)、後ろをとめんのを (止めるのを) タボドメ。入れ髪やなしんなあ (でなくて) 入れ髪は 入れ髪で 髪ずを まとめといて (ておいて)、髪な (が) すけない (少ない) と それい (それへ) 覆せんのおなあ (覆せるのを) タボ言うのな (のです)。はいからん (に) 結う時ん (に) 浮かすの (のを) タボ まるけといて (丸めて) 中い (へ) 入れんの (入れるのを) ケタボや (だ) 言うて。

たばこ【名詞】 煙草。(志 (布施田)、桑市、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、一、松、多、尾、南、熊) [会話] 煙草 タボコ言うなあ、タボコ吸う言うて。

たばこいれ【名詞】 刻み煙草を入れる袋。[会話] タボコイレや (と) 言うて 煙草入れる 込 (袋)。

たばこせん【名詞】 煙草銭 わずかな金 小使銭

たばし 丸出し。(志 (布施田)) [会話] あおたん (女隠) ダボシんして。

だばだば【名詞】【副詞】 1) 船の航跡 2) 波の立っている状態 (志 (布施田)) [会話] 2) 今日風な (が) 吹いて、海な (が) ダボダボしとる (している) てやら (とか) たごたごしとるてやらなあ。1) 舟のいた (行った) 跡で うねり こさえ といてくとなあ (作っておいて行くと) ダボダボ。巡航船な (が) 通つてくと (て行くと) さいご (その時) ちつちやい (小さい) 舟 やつからかされんね (転覆さされるのです) その ダボダボこさえといて いてなあ、かぶらかして (揺すつて)。たんぼ (筏) へ登つとると (ていると) よお (よく) 登つとらんよおん (ていないように) なって来て、むしりついとんね (ているのです) ダボダボな (が) 済むまで。

だばだば【形容詞】 衣服などが大き過ぎて、隙の多い状態 [会話] ダボダボ しとられ (している) 言

うて、おっかい (大きい) きもん (着物)。ダボダボしとる (している) 事を きもん (着物) 着ても、おっかいな (大きいのは) 体に 合わせん (合わない) のをダボダボしとる (している)。

たぼっとく 貯えておく

たぼっとけ 貯えておけ たぼとけ参照

たぼっとる 抱えこんでいる。大事に持って居る。

たぼとく 貯えておく 大事にしまっておく (志、鳥、一、度) [会話] タボトク言うの (の)は、貯めとく (ておく) 言うの (の)です。とっとく (取っておく)、しもとく (しまっておく)、なんもかも (なにでも) 大事ん (に) してなあ、とっとくのを (取っておくのを) なんもかも (全部) タボリコンデまあ言うて。しまとくのを (ておくのを) タボリタボッテなんもかも (全部) あの家や (は) 倉い (に) いて見よえ (行って見なさい)、つみやげとんね (積みあげているのだ) 言うてな。タボリ な (が) よおて (よくて) 言うて。ためん (る) のを な タボル言うの (の)です。娘も タボルト花の色は 移りにけりな いたずらに言うのも 同じで 我が身世にふる眺めせしまに言うて 見とるうちに 花な (が) くたぶれてく (くたびれて行く) やんない (でしよう)。

たぼとけ 貯えておけ 大切にしまっておけ [会話] 貯めとけ (ておけ) 言うの (のを)、タボトケ。タボトケ言うて そげん (そんなに) ひとくらん (一度に) くたらんと (食べてやらずに) タボトカナ (ておかなければ) はざん (いけない) 言うて。

たぼどめ (髪止) 【名詞】髪を結んだ時に止めるピン。髪の毛が乱れないように、はさんでおく叉状の道具。たぼ参照 [会話] たぼ (かもじ) 入れて 後ろを とめんのを (止めるのを) タボドメ。

たぼとる 1) 貯えて居る 2) 抱かえこんでいる たばう参照

たぼら (駄法螺) 【名詞】大言壮語 法螺 (鈴郡) [会話] ダボラ 吹くの (のを)。おっかい (大きい) 事言うてな、針 ほどけ (程) の事でもな、どえろお (大きく) 電信柱 (電柱) みたよな (のような) こと言う にげなあ (人間)、あや (彼は) ダボラフキや (だ) 言うて。そして (そうして) 庭のたて白、蟻な (が) 曳く言うて、蟻な (が) 庭のたて白、よお曳くやてかい (曳けるものですか)。夕べの夢は 大きな夢や (だ) 庭のたて白蟻な曳く、電信柱 (電柱) を杖につき、奈良の大佛さん ちよ

いと (少し) 腰にさげ 富士の お山をば ちよいと 一跨ぎ 近江の湖を ちよいと 一口 二口 みい口 (三口) 半に 吸い上げた なんと皆さん怖い事じゃあござらんか、一の谷から ししな (が) 出た言うて、尻まくといて (ておいて) にわか (我芝居) すんのなあ (するのです)。

たぼらふき 【名詞】つまらない大言を言う人。法螺吹きを強調した語。

たぼり 【名詞】1) 貯え (鈴郡) 2) 余裕 [会話] 1) タボリな (が) のおて (無くて) ぜん (金) も なんも (少しも) ためとらせん (ためていない)。

たぼりもんにはむしなつく。たぼりむしなつく 【俚諺】貯えたものを不幸事に使用される。[会話] ためたのおを (のを)、盗まれたとか (てやるとか)、人ん (に) 借して、損したり、なんやかや (いろいろ) 不幸事で 使わんならんよん (ように) なって来たとか 言う場合になあ。タボリモノニハ ムシナ (が) ツク言うね (言うのです)。タボリムシン (に) クワレタ言うてなあ。ええ方い使うのは言わせん (いいません)、わり (悪い) 方い (へ) 使わんならんよおな事な (が) 出来て来るやんない (でしよう)、そすと タボリモノニハ ムシナ (が) ツク言うて。人に損な (が) かかたりして ぜん (銭) 出さんならんよん なって来ると、まああやれ こおとん (質素に) しとても (していても) タボリムシナ (が) ツイテ言うて。あんまり (あまり) たぼって (貯めて) 人にも義理せんと (せずに) がめついしとるとなあ (していると)、まあ あや (あれば) タボリムシナ (が) ツイタん やれ (のだ) 言うて、使わんならんよん (ように) なって来ると。

たぼる 1) 貯える。2) 自分が持って人に与えない。(志、鳥)

たま (偶) 【名詞】【形容詞】めつたに無い事、またそのさま。まれ。[会話] タマ。タマに言うやんない (言うでしよう)。タマタマ来たのに言うて、タマタマ来たのおに (の)に とつくりと (充分に) 遊んでけ (で行け) 言うて。タマにや (には) 私とこ (所) へも来いまあえ (来なさい) 時々、私とこい (も) (へ) おいで言うの (のを)。おおた (あゝ) タマに来たのん (の)に なんも (何も) あいそ (愛想) な (が) のおて (無くて) 言うやんかい (言います)。

たま 【名詞】たもあみ。柄の付いた円形、又は角形の

粹に袋状に網地を取り付けたもの。魚類を直接とらえる物では無いが、大形の網具で囲んだ獲物を更に掬いあげたり、船上で移し変えたりする時に使用する。玉網の下略か(志〔布施田、神明、立神、甲賀、国府、安乗〕、鳥(鳥羽)、上、阿、度、尾、北、南、熊)〔会話〕魚 すくる(掬う)タマ。どいらい(大きい)大敷やなんやで(などで)使うのもタマ。あれは オオダマ(大だま)言うて、じょおし(漁師)の人らも オオダマ、コダマ(小だま)言うて。大きな きい(木)の粹して、それい(それへ)道具入れて。コダマ 言うて、ひよいとすくんのんなあ(掬るのに)オオダマとコダマと 持ちよった(持って居ました)。男のまん(ものは)きんだま 言うし(言います)。

たま(玉、珠、球)【名詞】 玉、珠、球、弾。球形のもの。丸い形状のもの。丸い球状にしたもの。1) あめ玉 2) 真珠、珠は海中から生ずるたまで、玉が鉱物質であるのに対し、すべて動物質起源もので有る。そのうち、赤珠はサンゴから作られたもので、白珠が真珠である。(志〔浜島〕〔会話〕²⁾ 真珠のタマも有るし(有ります)。てつぽ(鉄砲)のタマ。¹⁾ そして(そうして)食べるタマも有るやんかい(有ります)。脩をなあ タマや(だ)言うて、アメダマや(だとか) クロダマや(とか)言うて。アメダマや 言わんと(言わずに) タマや 言うて、クロダマや 言うて くろい(黒い)タマを、クロダマを こおて来て(買って来て)言うて、よお言よおった(よく言っていました)。くろざと(黒砂糖)で まあう(丸く)して あんのを(あるのを) クロダマや 言うてなあ(言って)。

だま【名詞】 1) 餅の中にある固い粉の塊り。小麦粉を水で溶いた時よく溶けずに出来る粒状の塊 2) 物が多くある事。より集まって居る事。かたまり。3) うそ。〔会話〕³⁾ ダマ くわす。ダマ 喰わした言うのを 嘘。²⁾ ダマン(に) なつとるやんか(なつて居る) 言うやんかい(言います)。なんやかや(何彼) よけ(多く) 有るやんない(でしょう)。こや(これは) ダマン なつとんない(なつて居る) 言うやんかい。¹⁾ 餅のなかん(に) 入つとる(て居る) ちっちゃあい(小さい)粉の塊。つつみ だんごん(に) なつとる(なつて居る) 事を。あの粉な(が) つつみこ なつとんのおを(なつて居るのを) ツツミダマ 言うて、言うんやろな(言うのでしょう)。つつみこや(と) 言うけどなあ(言い

ます)。つつみこ言うのは ころころん(に) 粉な(が) なつとるわい(なつて居ます)。餅な(に) よけ(沢山)粉 つけると その粉な(が) ちい(へ) 入つて 塊まって しとる時な(して居る時が) 有るわい(有ります)。下手なもん(者) な(が) とり粉よけ(沢山) 使うと その時ん(に) ダマン(が) なつとる(て居る) 時な(が) 有るわい。こやまあ(これは) 取り粉な(が) ダマン なつとられ(なつて居る) 言うてなあ。²⁾ そして なんやかや(色々) よつけ(沢山) 有る時でも ダマン(に) なつとられ(なつて居る) 言うて 言うやんかい(言います)。なんやかや そこらい(其の辺りに) 物な(が) 寄つて来て しとると(して居ると)。

たまいれ【名詞】 真珠の核入れ作業。(志〔浜島〕)〔会話〕真珠の タマイレ。核入れすんのを(するのを)。たまくわしや(だ) 言うてな たまくわしん(に) 行くね(行くのだ) 言うて よお言うやんかい(よく言います)。

たまうどん【名詞】 うどんを一食分にまとめた物

たまがい(珠貝)【名詞】 真珠貝。あこや貝 しんじゅがい参照(志〔神明、浜島、布施田、鶴方、立神、鳥〕〔会話〕あこや貝をタマガイ言うてな。珠な(が) はいつとよおつたんてわい(入っていたそうです) 天然珠な(が) かざくと(採取すると) 浦で剥いて そすと(すると) 天然の珠な(が) よお出よおつたけど(よく出ましたが)、今しゃ(今は) 餌 やらな(なければ) はざんやんない(いけないでしょう)。昔や(は) 天然で わいたのおやよつて(出来たのだから) 珠もなあ 天然で ええのな(よいのが) 出よおつた(出て居ました)、今しんな(今のは) 養殖して 飼うねよつて(のだから) 天然の珠は出やせん(出ません)。けしな(が) 入つとる(ている) だけや(だけです)。そして 鮑も 珠な(が) 入つとんねんなあ(入っているのです)。鮑の珠、いの貝に一杯 けしがついとるなあ(入っています)。真珠のけしは ほおろくで 炒つといて(ておいて) やげんで こなしといて(小さくして)、そして(そうして) すると どいらい(大変) 体の滋養ん(に) なんね(なるのだ) 言うて。そして 熱さまし(解熱剤) や(だ) 言うて、風邪引くと、のんどく(飲んでおく)と ええね(よいのです)。

たまがいかずき【名詞】 真珠養殖に用いる、あこや貝

を採取する事。[会話] 真珠のくちあけ (真珠貝採取の解禁) すんの (するのを)、タマガイカズキヤ (だ) 言うてな。

だまかされた 騙された [会話] あれん (彼に) ダマカサレテ、ぜん (銭) も、皆 つこた (使ってしまった) 言うやんかい (言います)。

だまかす (騙) 【他サ五】 だます あざむく (志 (布施田)、上、阿、南、熊) [会話] だます 言うのを、ダマカス、ダマクラカサレタ 言うなあ。あれん (彼に) ダマクラカサレテ ぜん (銭) も、皆 つこた (使ってしまった) 言うてな、よお (よく) 言うやんかい (言います) だまされた 言うのを ダマクラカサレタ。

たまから 【副詞】 最初から、頭からの転。(上、阿、南、熊) [会話] 始めから。タマカラ あやま (彼は) だます つもりで かか つと んな (掛かって居たのだ) 言うて。始めから言う事やなあ (です)。

たまかんざし 【名詞】 かんざし の一、丸い珊瑚珠のついた簪。[会話] 金持ち屋 さんごじゅん (に) して 刺して、結婚式のおり なあ (時に)、いそまげん 結う いて (ておいて) その簪 いっぼ (一本) さいて (刺して) 結婚式 や (です)。年寄りの人ら、五十過ぎると、おたふく ん (に) 結う てなあ その簪 刺す けど (が)、タマカンザシ 言うのは こげ なあ (こんな)、あつかい (赤い) 珠 な (が) ついて、先に耳搔き みた よな (のような) のおして、脚も なあ ご お て なあ (長くて)、金持ち の人ら 銀の脚 するしなあ、びんぼ (貧乏) は 真鍮 の脚。

だまくう だま された。だま される。[会話] だま 喰わして 俺 だま くら か して (だまして) 言うて、嘘 言うのを だま 喰わす。か くれ ん ぼ し ても なあ こ っ ち や (此処) い (へ) 行 く 言う て す ん の を (するのを) だま く わ す 言うて、あ っ ち や (あちら) い (へ) 行 き、こ っ ち や い 行 き す ん の を だま 喰しこなし言うて、よ お (よく) 言 よ お つ た ん な あ (言っていました)。だま 喰わす 嘘 言う事。ほん (本当に) お ら ん (俺に) だま 喰わして言うてなあ。ど こ そ こ へ (何処かへ) 行 こ や ね え (行きましよう) 言 う と ん の ん (言っているのに) 行 か ら つ た り (行かなかったり) すると だま 喰わされたよお言うて。だ ま す 人 の ほ お を だま 喰わす 言 う し (言います) ダマクウ 言う な (のは) だま された方を。

だまくうた 騙された [会話] 騙された言うのを、ダマクウタ 言う の な (です)。だま く わ さ れ た、ダマクウタ 言うてな。

だまくらかされた 騙された [会話] 騙された 言うのを な ダマクラカサレタ。

だまくらかす (騙) 【他サ五】 だます。だま く わ す 参照 (鈴郡、三、松、多、上、阿、北、尾、南、熊) [会話] だま く わ して 俺 ダマクラカス 言うて 嘘 言うのを。

たまくり 【名詞】 刈 つ て、田 に 倒 し て 有 る 稲、麦 を 束 ね る 作 業 [会話] タマクリ 言うのは か ら げ ん の (束ねるのです)。刈 り 干 し ん (に) 刈 つ て な (は) 投 げ 刈 つ て な 投 げ し て く ね (して行くのです) 干 し て あ る や ん か い (あります) その 乾 いた の お を (のを) い ち わ あ つ (一束づつ) か ら げ と い て (束ねておいて) ふ り た ば ん (に) き ゅ つ と し て その 早 い の (のが)。

だまくわされる 騙される

たまくわし 【名詞】 真珠 の 核 入 れ 作 業 た ま い れ を 冗 談 め か し て 言 う 語。[会話] た ま い れ 言 う の を な 冗 談 に、タマクワシ や (だ) 言うて。

だまくわす だ ま す [会話] ダマクワス 言うて、嘘 言う の な (が)、さ も (いかにも) ほん と (本当) そ お に 嘘 言う 人 な (が) お る わ な (居ます)。そ す と (すると) ま あ それ い (に) 騙 さ れ て。そ す と だま く わ さ れ た 言 う の (のです)。い ち が い な (一途な) ま つ た い な (馬鹿正直な人は) 嘘 言うても ほん と ん (本当に) して。

だまけ ぶ ち ま け る。ぜん ぶ ま け る。撒 き 散 ら す。(志 (布施田)) [会話] ダマケ 言う と、蓆 敷 いた 上 い (に) 干 し て あ け て も、ダマケン (に) して 言 う し、ど べ た い (に) ま け た て も (こぼしても) ダマケン (に) し た た よ お (してしまった) 言 う し な あ (言います)。ど べ た い (地面に) ま け た る と (こぼすと) ダマケン (に) し た た ん な (してしまったのだ) 言うて。蓆 の 上 い (へ) 干 し て も そ や (それ) む しろ い (蓆へ) ダマケン (に) し と け (しておけ) 言うて 言 う 時 も あ る し。これは 全部 を あ け と け (空けておけ) 言う事 な (です)。あ の 入 れ 物 か ら それ い (へ) あ け ん の お (あけるのを) ダマケン (に) し と け 言うて。汽 船 石 炭 焚 き お つ た も ん で (焚いていたので) 紀 州 へ 行 く と 石 炭 積 ん で く ん の (来るのです) だ ん べ え (はしけに) ダマケン (に) し と い て (しておいて)。

たまさか【名詞】【形容詞】 しばらくぶり、まれであるさま。[会話] たまに (時々)。たまたま (久しぶりに) 言うのを、タマサカ。たまに言うのは時々。時々やなあ (です)。

だましげんぼす 全部あげ出して干す。

だましこむ【騙込】【他マ五】 うまうまと騙す すっかり騙す

だましもん【名詞】 偽物 [会話] 嘘のもん (物) を、ダマシモン こさえといて (作っておいて) ほんもん (本物) や (だ) 言うて売って。

たまたま【偶】【副詞】 1) 久しぶりに、稀に。(志 (鶴方)) 2) 偶然に。(志 (鶴方)) [会話] 1) タマタマ 言うのを たまさか (久しぶり)。

たまたったもんやない 耐えられない 辛抱出来ない、馬鹿馬鹿しい (志 (布施田))

だまっとても【黙】 1) 言わなくても。2) 何も手を加えなくても、ほおっておいても。[会話] 1) なつとも (なんとも) 言わんと (言わずに) おつても (居ても) 言うね (のです)。ダマツテモ 言う事はなあ ダマツテモ なん (に) でもするこた (事は) えろおて (偉くて) 言うてな、なん (に) も 言わんでも、なん (に) でも おせん (教えなく) でも よお (よく) する言うなあ。

たまな【玉菜】【名詞】 キャベツ (志 (立神)、度) [会話] キャベツの事 昔や (は) タマナ 言よおったんなあ (言っていたのです)。今しゃ (今は) キャベツ言うけど (が)、作りかけた (始めた) じぶんになあ (頃に) アメリカのタマナ 作つとんねてない (作っているようだ) あの家や (は) 言うて。キャベツの事を 名前知らんもんで (知らないので) タマナや (だ) 言うて。

たまに【偶】 稀に 時々。(志、鳥 (鳥羽)) [会話] タマニ恋すや (すれば) 女房持ち。タマニ来たのおに (のに) 言うて、お前もまあ、ちよいと (少し) 仕事も 休めまあえ (休みなさい)、おんな (俺が) タマニ 来たのおに 言うてな。久しぶり言う事を 言うんやろな (言うのでしょうか) タマニ言うて。

たまのきい【名詞】 たものき たぶのき いぬぐす (志 (神明、立神、安乗)) [会話] ただみのきい (木)。ぼらんどのきい (木) 言うてな。真ん中ん (に) ぼら (穴) な (が) あいとる (ている) タダ ミノキイ (木)。あつかい (赤い) もも (実) な (が) なって、その軸を捨て来て めえ (目) え

(に) はり (支柱) こおてなあ (して)、ほすと (すると) めえ (目) え (に) 風な (が) 入いって からからん (に) なつとて (なっていて)、涙な (が) 出て来るまで。タマノキイ (木) 言うな (のは)、ただみのきい (木) の事なあ、そして ぼら んどのきい (言うのです) ぼら (穴) な (が) あいとるもんで (ているので)、真ん中な (が) ぐまんじよより違うの (のです)。ただみ 言うな (のは) はあ (葉) な (が) かつたいわい (堅いです)、そして 白でも ただみの白 たてうすん (搗き白に) ほると (作ると) さいご (その時)、ちやちやくれて こんで (壊れて来なくて) ええの (よいのです)。

たまむすび【玉結】【名詞】 帯、紐の結び方。こまむすび。左右の先端を二度からませて結ぶもの。[会話] タマムスビ 吊がらかすのなあ (吊すのを)。宮さんに 吊つとる (ている) あれを タマムスビ 言うんやんかい (言うのです)。タマムスビする言うて、結婚式のかけのゆお すん (る) のでも 藁でむすんで 魚さいて (刺して) たある (樽) い (へ) ひっかけてくの (ていくのです)。一つは、飾りん (に) なつとて (なっていて) ほどけん (解けない) よん (ように) なつとる (なっている)。

たまらん【不堪】 1) 我慢出来ない。こらえられない。2) 程度が甚だしい。好、悪、善などに言う。ひどく…であると言う感情を表す。[会話] 2) 夏桃、あれを桃や言うて タマランよおん 言うて 喰いおった (食べて居ました)。

たまらんよおん いかにも親げに 大切に

たまり【溜】【名詞】 1) 醤油の一種。味噌を作った樽の中に籠を入れ、それに沁み出た液体。醤油の代用にした。(志、鳥、津、松、南) 2) 醤油 (志 (浜島、鶴方、甲賀)、鳥、桑市、員、鈴市、上、阿、張、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] 1) タマリ言うな (のは) 味噌い (へ) 籠をなあ 突つ込んどいて (でにおいて) すると タマリ汲んで来い言うて。味噌いなあ (へ) たけ (長さ) の なあがあい (長い) 籠な (が) 有って それを 味噌の中へ 突つ込んどくと (でのおくと) その籠で 味噌は渡して、しよい (醤油) だけ その籠ん (の) 中いしとて (にして居て) タマリや (だ) 言うて、よおしよおったわい (よくして居ました)。炊いて 搾る時や (は) それを炊いて 搾ると 又 もお一回炊いて 醤油ん (に) すんのなし (するのです)。味噌

からすぐん(に) 汲んで来ると タマリ。醤油言うのは 味噌炊いて 搾って 又 炊いてすんのを(するのを) しよい。しよい よお炊いとらんで (炊く事が出来なくて) まあ タマリ掬って来た言うて、味噌からすぐん(直接) 掬ってくんのを(来るのを) タマリや(と) 言よおった (言うて居ました)。味噌から すぐん汲んで来る タマリはだ しよからいんやんかい (塩辛いのです)。味噌そのまゝ やよってん (だから) そすと 味噌で炊くな(のは) 水も入れて すんねもんで (するので) そげん (そんなに) どいらい (大変) しよからないの (塩辛いのです)。

だまり【名詞】無口な人(南、熊) [会話] ダマリだ んごの ほとくさん (佛さん) の くいこぼし 言うて。

だまりこむ (黙込) 【自マ五】黙ってしまう 物を言わなくなる

だまりこんどる 黙って居る

だまりさし【名詞】醤油を小さな容器に移すのに用いる片一方に口の付いた容器(熊) [会話] ちよんぐり 言うの なあ (です)。タマリサシ言うて、今しやだ (今は) ガラスでするけど (が)、昔や (は) せともん (瀬戸物)、どひん (土瓶) の ちっちゃあい (小さい) の な (のが) 有って、そんで (それで) タマリサシ。そや (それ) タマリサシ い (へ) しよい (醤油) も 入れとけまあ (ておけ) 言うて、いっしょ (一升) ピンで、だあだあしてなあ 皆 まけたると (こぼしてやると) はざんよって (いけないから) タマリサシ 入れとけまあ (ておけ) 言うて 醤油 を小皿に移す時に入れる ちっさあい (小さい) のを。

だまりべ【名詞】無音の放屁

たまる【自ラ五】積もる 多くなる(上、阿、張、名) [会話] 水な (が) タマル 味噌でもなあ 四斗樽い (に) 味噌仕込むやんない (でしょう)。そすと 味噌こしの籠、それん (へ) 突っ込んで 有ってなあ それん (に) しよい (醤油) な (が) タマンネ (たまるのです)。そすと、それを たまりや (だ) 言うてな。

ダムネ【名詞】ラムネ だ と らの 訛 飲料水 [会話] 昔や (は)、ダムネ や 蜜柑水 な一番飲むもん(物) にすると ごっつお (御馳走) やったね (でした)。

ため(溜)【名詞】1) 貯え。2) 緩み 余裕 [会話] 1) なんも (なんにも) タメとらせん (て居ない)

言う事 かい (ですか)。なんも 貯えが無い言う事 タメとらせん 言うんやわい (言うのです)。なんも ぜん (銭) も タメとらへんわい (て居ない) 言うんかい (言います)。クイダメも しとらんと (して居なくて) 言うて よお 貯え しとらん事を (して居ない事を) クイダメ しやせん (しない) 言うて、たぼり (貯え) な (が) おて (無くて) なんも ぜん (銭) も タメとらせん とか言うて。

だめおす 念を押す。念のためもう一度確かめる。

だめ、駄目。囲碁で双方の境に有ってどっちの地にもならない所。しても甲斐のない事。無益な事。禁止。[会話] ダメオシトカナ (押して置けなければ) 言うて、念押す 言うこと。お前 これを ほん とん (本当に) すんのか (するのか)、ほん とん それを よお (よく) すんのか とか言うて 念押す事を ダメオス。

ためこむ (溜込) 【他マ五】ためてしまっておく。あまりよい意味で使わない。[会話] なんもかも (なんにもかも) タメコンデ まあ言うて たぼつとんのを (貯えているのを) タメコム 言うの (のです)。ためとくの (貯めておくのを)。あの家や (は) まあ なんもかも タメコンドテ (こんでいて)、よれやれ (沢山だ) まあ言うてな。

ためしょんべ (ためせうべん) (溜小便)【名詞】出そうなのをこらえて、膀胱にためた小便。[会話] 小用な (が) したいの (のを)、こらえて こらえて しとんのを (しているのを) タメションベ。そすと まあ よつけ (沢山) たご (担桶) い (に) はんぶ (半分) もたれる (します)。タメションベで まあ 言うて 狸のため糞 言うけど (が) こや (これは) タメションベやなあ (だ) 言うて、しんぼ (辛抱) しとると (していると) まあ 幾らしてもしても出て来てなあ。しやけど (しかし) 年、寄ると、タメションベ 言うよおな こた (事は) めつた ん (絶対に) 出来やへん (出来ません)。若い時は こらえよおったけど (耐えていましたが)、今しや (今は) こらえとたら (ていたら) 皆 ちびつたんの (もらしてしまうのです)。したい時 ん (に) す んな (するのは) しょんべ (小便) と はこ (大便) だけや (だ) 言うねよってんなあ (言うのだから)。

ためしん 試しに(志(布施田))

だめぞお【名詞】駄目な人。[会話] あや (彼は) ま

あ ダメゾオや (だ) 掃除もせな (しなければ)、顔も洗わな (洗わなければ)、風呂も入らな、せん だくもせな、だめのおて (不潔で) 言うてな、ほん (本当に) ダメゾオやれ (だ) 言うてな。汚い事 なあ (です)。ダメナサクで 言うて。なんもかも (何も彼も) 汚したり、汚いきもん (着物) 着たり しとると (して居ると) あや (彼は) だめのおて (であって) 言うて。汚いしとると (汚くしている) と だめない言う (の) (です)。ダメナヘンジン言うのは わがた (自分は) だめのおておて (だめだのに) 人のする事 汚ながって あや (あれは) こげんしとて (こんなにして居て) 汚いてら (とか)。わがた (自分は) だあ (だらしない) みたよん (のように) しておて (して居るのに) 人のする事 汚ながんのを (がるのを) ダメナヘンジン。だあみたよんしとる 言うな (のは) だらしのおしとる (なくしている)、体のふう (風体) も、汚れた きもん 着たり、しよびれた (しなぼれた) みたよな (ような) ふう しとると (していると) あやまあ (あれは) だめないねえなあ (駄目なのだ)、あふうみよまあ (見なさい) てら (とか) 言うて。勝手もと (流し、食器洗い場) い (へ) いても (行っても) 綺麗にして有ると ええけど (よいが)、汚れて 人の見た目では わあっと思うよおなのを だめない。だめのおて あの家 勝手も とい (へ) 行て見よまあえ (行って見なさい) 言う のなあ (の) (です)。ダメゾオ 言うの それも一緒 や (です) あやまあ (彼は) ダメゾオやれ (だ) 言うて 男の人を ダメゾオ。

だめない【**形容詞**】だらしない、不潔である。だめのおて参照 (志 (片田、布施田、神明、甲賀)、鳥 (鳥羽)、阿)

だめなざり【**名詞**】大根漬けなどを、一部をくつつけたまま切る事。[会話] ダメナキリや (だ) とか、百姓切りや とか言うて。だいこ (大根) を切った らんと (切つてやらずに) はすかいに (斜に) つな げて (つらねて) すると、ダメナキリ言うて しよ おった (して居ました)。

だめなさく【**名詞**】不潔な人 しまりのない人 だめ ぞお参照

だめなへんじん【**名詞**】自分は駄目なのに他人を不潔だと嫌う人。だめぞお参照 (志 (布施田))

だめのおて しまりがなくて 汚くて [会話] ダメ ナイ言うな (のは)、掃除すんのな (するのが) 嫌

いな のおをなあ (のを)、きたのおても (汚くても) 平気でおる人、ダメノオテ言うてな。変人のも な (者は) ちよいと (少し) 汚れとると (していると)、あや (あれは) 汚い 汚い言うけど、ダメ ナイ もな (者は) 汚れとても (ていても) 苦にしや せん (気にしません)、平気でおんのなあ (居るの) (です)。

ためる (撓)【**他マ下一**】曲げる 撓める 形を整える (志 (布施田)、張)

ためる 集める 貯める (北)

たもち (田持ち)【**名詞**】田を持って居る人、田を自作して居る人 [会話] 夏 夕方ん (に) なるとなあ タモチの人なあ (が) 虫 寄せんのん (るのに)、ひい (火) 焚きん (に) 行きおったわい (行つて居ました)。

たもと (袂) (手本)【**名詞**】1) 着物のたもと。2) 橋のたもと。そば、ふもと。[会話] 1) きもん (着物の) 角袖の事 タモトや言う (と言います)。2) 橋のタモトも 言うやんかい (言います)。

たもとぐそ (袂糞)【**名詞**】着物の袂の底にたまつた、ちり。タモトクズ (袂屑) の転 (大言海) (上、阿) [会話] タモトグソ言うと 袂の隅に ほこり な (が) 積つとるわい (積つて居ます)。それなあ (それを) タモトグソ。

たもり (田守)【**名詞**】田の見張り役

たもる (賜)【**他ラ五**】下さる。くれる。してくれる。(志、鳥、桑市、四、度、名、南) [会話] おて (手) たんもれ (たもれ、飴の粕たもれ 言うて なあ (言います)。下さい 言う事を たもれ。こ げんして (こんなにして、手を重ねて) お手たんも れ 飴の粕たんもれ言うて 子供の時分 (頃) にや (には) てえ (手) 重ねて なんやかや 貰う時ん (に) になると、お手たんもれ 飴の粕たんもれ言うて。たもれ言うのは 下さい言う事やなあ (です)。タモル言うのは 呉れた もろた (貰った) やなあ (です)。

たもれ (賜) 下さい。たん たもる参照 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀)、鳥 (加茂、坂手、国崎、桃取)、桑市、四、上、阿、張、名、度、伊、南、熊)

たもん (他門)【**名詞**】他の一門。ほかの一族。自分の属して居る以外の宗門。(志) [会話] タモンの香資 言うなあ (言います)。死んだ家ん (に) や んのをなあ (やるのを) タモンの香資 言うてなあ

(言います)。親戚は 香資でするし 一般の家な(が) ちよいちよいつ (少し) やんのを (やるのを) タモンの香資 言うなあ。親戚や (で) ないけど (ないが) つきやい (付合) とか 又 親戚でも うっすい (薄い) のおは (のは)、あんまり (あまり) 濃いのおは (のは) 香資 しょおや (しましよ) う 言うし なあ (言います)。そして うっすうて (薄くて) 従兄や (とか) ちんばいとこや (とか) 言うよおん (ように) となると、うっすい (うすい) もんで (ので) タモンの香資 ん (に) しとけ (しておけ) 言う家も有るし、こいごし (親しく) したる家は 香資で やるしなあ (やります)。タモン 言うのは 親戚一統やなしん (でなくて) つきやい (つきあい) とか うっすい (血縁が薄い) とか そいなのおを (そんなのを) すんのを (するのを) タモンの香資 言うなあ (言います)。

…**たもん** してしまった、してしまったので (志)

たもんのおし (他門香資) 【名詞】 1) 血縁のない人の香資。2) 義理でする香資。義理でする交際。たもん参照 [会話] 1) 香資言ううとタモンノコソシ十銭か二十銭位 やなあ (です)、そやよつて (だから) 五十銭 せらつたら (しなかつたら) よばれられつたら (呼んでもらえなかつたら)。

…**たや**。…**だや** 1) たら、したら、行つたら。2) しからば。[会話] 1) 此れ しタヤ おとつしや まあ (ああ)、今日は、くたばつたれ (疲れた) 言うてな。せんざり (十分) 泣いタヤ、めえ (目) もなんも あかぼや (赤く腫れる) ん (に) なつたれ (なつた) 言うて。せんざり 食うタヤ 腹、下したれ 言うたりなあ。あげん (あんなに) したら、こげん (こんなに) したら しましたら 言うのをな 仕事しタヤ、泣いタヤ、あれくれたタヤ 言うて。

たやす (絶) 【他サ五】 1) あるものを絶えるようにする。絶つ。2) 完全に消費する。失う。[会話] 1) たあ (田) の草の種 な (が) よけ (沢山) おつとるよつて (落ちていから) 此れ タヤシタラナ (なければ) はざんのん (いけないのに) 種 落とすなまあ言うてなあ。1) そして、こお (子供) な (が) 無いと まあ 家や (は) たえてかれ (て行く) 言うてな。

たやすい (容易) 【形容詞】 わけなく出来る。難しくない。容易である。[会話] 簡単に出来る事 タヤスイ。そんな (それが) タヤスウ 出来る事 やろかれ

(ではない) 言う時もあるし、そいなもん (そんなもの) タヤスイわれ (です) 言うて、軽々し 言う時もあるし。

たゆう (大夫) 【名詞】 遊女。[会話] うんなし (同じ) じよろ (女郎) でも、あいなのも (あんなのも) 有るし、なんやら ダユウ 言うて、そおしや (そおすれば) 価段も (値) ええし (高いし) あいな (あんな) 花魁 かお (買おう) 言うたら しんしよ (財産) ふるたて (失なつて) すんのな (するものが) 有るやんかい (有ります)。

たより (頼、便) 【名詞】 1) 力になってくれる物や人。効果を期待出来る物や人。助けになるもの。2) 消息を伝えるもの。連絡、通信など。[会話] 2) タヨリして くれ (下さい) 言うて、どこやかやい (何処、彼処へ)、いても (行つても) 手紙を出せ 言うのをな、タヨリも せえまあ (しなさい) 言うてな、あにんこ (兄) な (が) ま、どこそ こい (へ) いたけど (行つたが)、タヨリ な (が) のおて (無くて) 言うてな、手紙な (が) こんと (来ない) と。1) あんた (貴方)、タヨリ ん (に) しとんねよつて (しているのだから) 頼むでえ (頼みます) 言うて、力になってほしい言う事 やなあ (です)。タヨリにする。

たよる (頼) 【自ラ五】 たのみとする。依存する。[会話] なんでも (何でも) すんばこすじ (少しの事) みたいなのおも (のようなのも) タヨッテ ごつつお (御馳走) して、喰うのな (が) 楽しみやつたの (楽しみでした)。

…**たら** とか、どおたら ことたら

だら 【名詞】 魚を入れる桶。楕円形をし、蓋がきつちりと出来る木製の容器。おおだら (大) とこだら (小) がある。こだら参照 [会話] 楕円形の のおに (のに) 蓋な (が) 付いとんねてや (ているのです) びちつと それを ダラや (だ) 言うて、それい (それへ) 魚入れて 石おそて (押そつて) そこい (そこへ) 置いとけ (置いておけ) 言うて。

だら 【名詞】 植物 木の名 たらなき だらのきい参照 (鈴郡、一、飯、度)

だらあまあ。**だらあまあの** どれどれ。(志) [会話] ダラアマア わいな (貴方の) それ 見せてくれまあ (見せて下さい) 言うて。だいまあ ダラマア 一緒や (です)。

たらう (たらふ) (足う) 【自ハ五】 1) 十分足りる。不足なく揃う。タル (足) の延 (大言海) (志、

熊) 2) とどく。(志(布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)) 3) 取る(三重県全域) [会話] 2) てえ(手) な(が) たらわせん(たらわらない) 言うて たっかいとこ(高い所) たっこおて(高くて) 手な たらわせんとか、ふっこおて(深くて) 手な (が) たらわせんとか、なあごおて 手な たらわせんとか、とどかん時 手な (か) たらわん 言う(言います)。手な (が) たらわせん。足でも 足な (が) とどかせん 言うの(のを)、足な たらわせん 言うて なあ とどかん事を 言うのなあ(言います)。タラウ言うな(のは) 手一杯とどく言う事や(です)。

たらえ【名詞】 盥(志(志島)、鳥(答志、管島)、一、上、阿、張、名、北、尾) [会話] タラエで、じゃぼじゃぼ言うて タラエ 盥や(と) 言うねな(言うのです)。せんだくもん(洗濯物) すん(る) のを タラエや(だ) 言うて 洗濯したり、子供が産まれると、タラエで、ゆう(湯) あぶせて。

たらえ 取れ 取りなさい

たらかす(垂) 垂す。たらす参照 [会話] よだれ(涎) タラカスとか 帯も えごと(充分に) 結ばんと(結ばずに) タラカスととられ(て居る)とか言うしなあ(言います)。頭の髪も えごと ゆや(結べば) ええけど(よいのに) タラカシテ あやれ(あれ)とか さがらかす(さがらす) 事を、タラカス言うのなあ(のです) はな(漢) タラカスとかなあ。

たらかす(詛)【他サ五】 1) たぶらかす、誑かす、嘘を言ったりごまかしたりして、人をだます。(志(志島、国府)、桑郡、三、四、鈴市、安、松、多、阿、張、名、伊) 3) 足りるようにしておく [会話] 1) 物持つとると(て居ると) 俺も呉れまあ(呉れ) おや(俺は) なんしたるよってん(なにをしてやるから) 呉れ 言うのを、くよ(呉れよう、あげましょう) 言わんのを(言わないのを) こっちや(こちら) から 呉れ 言うのを、タラカス 言うて。こらら(子供達) のもん(物)を タラカシテ 皆 取ってた(行った) 言うて 呉れんと(呉れずに) おんのおを(居るのを)、くよとも 言わせんの(言わないのを) 呉れ 言うやんない(でしよう) そいなのおを(そんなのを) タラカス 言うて(言います)。たらす タラカスは 上手 言うて 誑かす。誑かす 言う事やわい(です)。2) 子供らが泣いて

いじつとんのもなあ(駄々こねて居るのも) 大人が 慰めんのおも(慰めるのも) タラカス。タラカシタレまあ(てやりなさい) そやれ(それ) こお(子) な(が) 泣いとられ(泣いて居る) 言うて そいな(そんな) 時も 言うしなあ(言います)。その時は 慰める 気嫌 取ったりとか言うのを。

だらかす 垂れさがらす。垂れ下がって居る。[会話] 萬歳のオ六さん 覆って 来るやんない(でしよう)。まるくたあい(丸いのを) の 後へ ダラカシテ、あいな(あんなのを) こさえて(作って) 子供ら 皆 覆せおった(覆せて居ました)。

だらけ 1) 漠然とした痛み。2) 疲れ。3) 怠ける。[会話] 1) ダラケやめん(に) やめて(病める) まあ あかん(いけない)。しんけえつうな(神経痛が) はいつとんのかして(ているのか)、ダラケンねてや(だらけるのです)。3) 怠けもん(者) や(だ) 言うのを、ダラケとんね(ている) よってん(から) 言うて。

…**だらけ【接尾語】** 名詞につく。そのものが一杯で有るさまを表す。ばかり。そのものが一面について居るさまを表す。まみれ。(志(鶴方)) [会話] 1) ほこりダラケやれ(だ)とかなあ。ごみダラケやれとか、土ダラケやれ 体も そやれ(それ) 言うて なあ。なんやかや 付けとると(て居ると) そいなの(そんなのを) ダラケ 言うなあ(言います)。一杯 付いとる(て居ると)となあ ほこりな(が) よつけ(沢山) 付いとる 時に そいなのおなあ ほこりダラケや(と) 言う(言います)。ダラケや(と) 言うな(のは) よけ(沢山) 付いとる 言う 事を。土まめぐりも 土ダラケも 意味は 一緒やけど(だが) 言いやな(言い方が) 違う だけで、体ん でも(にでも)、しなもん(品物) に でも 一杯 付いとる 時に ダラケや(だ) 言うて なあ(言います)。

だらけとる 1) 弛るんでいる 2) 怠けている 3) 疲れている

だらけやめ【名詞】 だらだらとした痛み。漠然とした鈍痛。[会話] かいな(腕) な(が) ダラケヤめん(に) やめて(痛んで) 言うて、ずくずく やめん のおを(痛むのを) ダラケヤメ。ずくずくと 肩な 腕な(が) そいなのおを(そんなのを) ずくずくやめる(痛む) 言うのを ダラケヤめん(に) やめる 言うのなあ(のです)。どいらい(大変) じゃきじ やきする のおや(のとか) つつんすん のや(する)

ので なしん (無くて) 自然と やめるなあ (痛む) おもて (思つて) すんのなあ (するのです)。

だらける【自力下】 1) 締まりなく弛む。2) 疲れる。怠ける。鈍痛がする [会話] 2) だらけやめ言うんよつて (言うのだから) だらだらと どいらいも (強くも) 痛みもしやせんねけど (痛まないが) ずくずくやめんのおを (痛むのを) ダラケル。2) ダラケル だけは かいだり (かいだるい) ねえけど (のですが) そやけど (それのですが) だらけておこつて (起つて、生じて) ずくずくとすんのなあ (するのを) だらけやめや (だ) 言うて。 にぶう (鈍く) 痛むか 痛ませんか (ないのか) 判らせんよおに (ないように) そこぼつとる (沈んで居る) 言うよおな のおやるなあ (のでしょう)。

…**たらし【接尾語】** …のようだ [会話] 憎くタラシ。 ほんどん (本当に) あんな (彼が) にくタラシわなあ言うて 憎い事 すかん (嫌だ) タラシとか。

たらしこむ【語込】【他マ五】 だます。うまうまどだまして自分の物にする。[会話] なんやかや (いろいろ) 持つとる (ている) もん (物) を、くれえ (下さい) くれえ 言うて、たらして 言うて。皆、あれん (彼に) たらされてまあ、くれ (下さい) くれ 言うて 一つやつても ま くたると (食べてしまうと) も一つ くれえ 言うて、あやれ (あれ) あげん (あんなに) よけ (沢山) 持たしたたのん (てやったのに) 皆、あの子ん (に) タラシコマサレテ 言うてなあ。

たらしとけ【語】 子供などを、なだめなさい。[会話] 泣いとると (ていると)、タラシトケ そやれ (それ) 泣いとられ (ている) 言うてな、いくら たらしたてて (なだめても) 聞こかれ (聞くものですか) あの子な (が) ながなきし (長く泣いている人) でまあ言うて。

たらしとけ【足】 満足しなさい。不十分でもそれで承知しておけ。[会話] 満足せえ (しなさい) 言うのも、タラシトケ。

たらしとけ【垂】 **だらしとけ** 吊しておけ。下げておけ。[会話] タラシトケ 言うて なんやかや (いろいろ) 湿つとる (ている) もん (物) を しじく な 落ちるとなあ、そげん (そんなに) 家ん (の) 中い (へ) 入れてこんと (来ずに) 外で しじく (撃) な (が) たれるまで タラシトケ 言うてな。

だらしない【形容詞】 1) 物事のけじめがつかないで、きちんとしていない。しまりが無い。2) 力が弱い。

人と同じように出来ない。[会話] 1) ダラシノオテ (なくて)、ぜん (銭) 借つたてて (ても) 人ん (に) 戻す事、知らんしなあ。物 借つても 戻す事判からせん (ない) ダラシノオテ、あの家ん (に) なんも (何も) 借されやせんわい (ません) 言うて。そして、ふう でも きちんとなあ しと らんと (していないくて) おおた あふう 見よま あ (見なさい) ダラシナイふう (格好) やなあ (だ) 言うてな。

だらしのおて 物事のけじめがつかなくて、けじめがなくて、だらしない参照

たらす【垂】【他サ五】 1) たれるようにする。下にさがらす。2) 液体などを少しづつ落とす。[会話] 1) ぶらさげる 言うんか さがらしとくのなあ (ておくのです) タラス。2) そして 水な (が) したした しとんのを (しているのを) ま タラス 水 たらしとけ 言うてな。

たらす【語】【他サ五】 1) 子供などをすかしなだめる。(志摩市各地、鳥、津、上、阿) 2) ごまかす、だます。[会話] 1) タラス 子供らな (が) 泣いと んのを (ているのを)、なぐさめん (る) のを なあ タラス 言うの (のです)。2) お前な (が) 持つと んの (ているのを) わしも (私にも) くれえ (下さい) 言うて 一つやつても、まだ も一つ くれえ も一つ くれ 言うのを な タラス 言うね (言うのです)。芋 こおどても (噛んでいても) 噛まして くれえ 言うて、昔や (は) 食うもん (物) な (が) 無いもんで (ので) 生芋、噛んどよおつたわい (でいました)。

たらす【足】 不十分なものを補う。不十分であるが充分としておく。[会話] タラス 言うて 不足しと んのを (しているのを) ま それで しんぼ (辛抱) しとけ (しておけ) 我慢しとけ 言うのをな。

だらすけ【陀羅助】【名詞】 1) 胃腸薬。(度) 2) 目薬にする草 [会話] 2) 草や (です) ダラスケ 言う。その ダラスケな (が) 目薬やつたもん (だったのです) めえ (目) な (が) わり (悪い) となあ ダラスケで 洗うと ええの (よいのです)。とんとめ (慢性結膜炎) ん (に) なるとなあ。1) 胃腸薬で 苦い、ダラスケ ダラスケ 飲んだよお なあ (だ) にごおて (苦くて) 言うやんかい なあ (言います)。あや (あれは) 物凄い、苦い ねてや (のです)。

たらずまい【不足前】【不足米】【名詞】 不足な分。不

足を補充する分。(鳥(鳥羽)、多、上、阿) [会話]
タラズマイに もてきたれ (持って来た) 言うてな、
足して (補って) 貰うのをな。 おぼやんげ (小母さん
の家) な (が) それ 足らん言うたよって (か
ら) タランマイ これ もて (持って) 来たわい
(来ました) 言うてな。タラズマイも タランマイ
も 一緒の事や (です)。

…たらせん 動詞に付いて否定を表す シタラセン、
してやらない (鈴市)

たらたら。 だらだら 【副詞】 【形容詞】 物事がきまり
なく長びくさま。はっきりしなかったり、しまりの
なかったりするさま。坂道など傾斜のゆるやかに長
びくさまを表す語。(志(布施田))

だらだらきゆう だらだらとしていたものが 急に結
着の付く事 (一)

だらだらざか 【名詞】 長く続く坂道。(張) [会話]
ダラダラザカ言や (言えば) ぬうるい (ぬるい、傾
斜が急でない) 坂を ダラダラザカや (と) 言うな
あ (言います)。 あんまり (あまり) けわしないの
を (険しくないのを) ダラダラザカで。

だらつく 【自カ五】 1) だらだらする。ぐずぐずする。
2) 疲れる。 [会話] 2) 体な (が) かいだり (だる
い) のおをな (のを)、 ダラツク。 まあ ものくそ
おて 今日、言うてな 具合なわり (悪い) のを
ものくさい言う。

だらのきい 【名詞】 タラのキ ウコギ科の落葉小高木
高さ6m位になる。幹は直立して多少分岐し、大小
の鋭いとげが有る。葉は二回羽状複葉で長さ0.6
~1cm 若い葉では葉軸や葉柄に細かいとげが有る
小葉は対生し、長さ3~10cm広卵形で先は
とがり縁に鈍鋸歯が有る。夏、茎頂に円錐状に花序
を延ばし、ごく小さい白黄色の五弁花を多数つける。
果実は球形で径約3mm黒く熟す。(北) [会話]
ダラノキイ (木) 言うのは 針な (が) 有って し
えんしえんな (蟬が) 一番 よお (よく) すわる
(止まる) 木なあ (です)。 ダラノキイへ しえん
しえんな 止まったよおななあ (ようだ) 言うやん
かい (言います)。 針な (が) 有って、中に ぼち
(穴) な (が) あいとて (開いていて) 摺りこぎん
(に) する木。山椒の木とは よお (よく) 似とる
(似ている) けどなあ。山椒とは違うねけど (違
うのだが) あれみたよん (ように) 針な (が) あんの
(有るのです)。 あのきい (木) 一体になあ いば
らの棘みたよなのおな (のようなのが) 立っとなの

(立って居るのです)。そやよって (それだから)
買い山 (立ち木を買って薪を作る事) いても (行っ
ても) ダラノキイ (木) な (が) 有ってすと (有
ると) 先い鈍で その爪を 立っとる (立っている
間に) うちに (に) 皆 鈍のむね (背中) で 棘を
落としといてから (ておいてから) 切らなあ (切
らなければ) 持ちも (持つ事も) かたぎも (担ぎ
も) 出来やせん (の出来ません)。 針で 危のおて
(危なくて)。それで 摺りこぎこさえたり (作っ
たり) 下駄でも ダラノキイ (木) の下駄 かある
うて (軽くて) 昔の山桐や (だ) 言よおった (言っ
ていました) だらをなあ。

たらふく (鱧腹) 腹一杯、十分に、あきる程。 [会話]
タラフク よばれて (御馳走になって) 腹一杯 喰
うた (食べた) 言う事なあ (です)。 タラフク喰う
て、おおた (あゝ) げえ申すよお (嘔吐します) 言
うて 満腹した言うのを タラフク言うて、せんざ
り (充分) やとか (だとか) タラフクやとか。 鱧の
腹 おっきいやんかい (大きいです)。 どいらい
(大きい) やんかい。 そやもんで (それで) タラフ
ク言うんやかなあ (言うのでしょうか)。

だらまあ どれどれ。 [会話] わしら (私達) な
(が) 手芸しとると (していると) だれまあ (どれ
どれ)、昔は ダラマア 言うて。

だらまあでら 代表的な和具の方言。 だら (どれ) ま
あ (もう) でら (とか) を連ねた語。

…たらまい てやらない。してやらない。 [会話] し
タラマイやねえ 言うて、 あげなもん (あんな者) な
シタラマイや (仲間に入れたい) 言うね (言うので
す)。 仲間い (に) 入れタラマイや 言うのを、 あげ
な な (のは) 一緒ん (に) 遊んダラマイやんか 言
うて、 わしも (私も) なせてえいえ (入れて下さ
い) 言うとな 意地な (が) わりのななあ (悪いの
が) あいなもん (あんな者) なせタラマイや 言う
てな。 あげなもん に なんも (何も) くれタラマイ
やんか 言うて。

…たらまいや てやらないでおこう たらまい 参照
たらもと (たなもと) (棚元) 【名詞】 流しもと。台所
の流しの有るところ。(志(布施田、立神)) [会話]
タラモト 言うな (のは) 流しの事をなあ (を言
います) 炊事場。 タラモトや (だ) 言うて。 竹で箕、
編んで すがきや (だ) 言うて、 今し (今) のステ
ンレスや (です)。 あれの代りに 下は かめ
(甕) いけて (埋めて) せせなげ (洗水) や

(だ) 言うて 上から 水 流すと その甕い 落ちるよおん (に) その せせなげ 受けとて (て居て) その せせなげ (洗い水) 畑い (へ) 皆 持つねやんかい (持つのです)。あろて (洗って) 水ば つかやけど (ばかりだが)、そんでも (それでも) 皆 畑い (へ) こやし (肥料) や (だ) 言うて 持ちおったの (持って居たのです)。すがき きい (木) で 大工ん (に) こさえてもおて (作ってもらって) しとる (して居る) 家も 有るけどなあ (が)、たいがい (大体) わが (自分) 家で、竹を編んで そして 箒も落ってかんよおに (落ちないように) めえ (目、隙間) も、こまこお (小さく) 編んで そんで、タラモトしまいおったの (しまっていたのです)。すがきや (と) 言うて すがきもあるとけよお (洗っておきなさい) 丁寧に言うて、めつつぼ (飯粒) も 積っとて (て居て) すると みつともないよって (見苦しいから) 言うて、しゅうろ (木の名) を、ほっそお (細く) 編んどいて (でおいて) とじると 腐ってかせんもんで (腐って行かないので) なあ (縄) は、じつきん (すぐに) 腐ってくもんで、しゅうろの ほっそおい (細い) なあ (縄) のおて (なって) 編んで。すがき 言うのは 台こさえて (作って) 木をさんぼ (三本) 真ん中と両ふちと しといて (しておいて) その簀に編んだの (のを) それい (へ) 並べとんね (並べて居るのです)。すがきの下は すぐに、せせなげや (です)。甕や (です)。甕やらんと (せずに) たたき (三和土) ん (に) しとる (して居る) 家もあるけど (けれど)、たいがい (大体) の うちや (家は) 甕いけといて (埋めておいて) そして 甕い そんな (それが) たまると ほん (本当に) 飲むよおなのおでも (のでも) 畑い (へ) こやしや (だ) 言うて持ちおったの (持って居ました)。

たらもとしまう 食事の後始末で食器類を洗いますぐ事。[会話] 茶碗あるたり (洗ったり)、おひつ洗ろたり、鍋洗ろたりすんのなあ (するのを) タラモトシマウ言うの (のです)。飯 喰うた後を 勝手 (台所) を、しまえよお (片付けなさい) 言うのを、タラモトシモトケよお (かたづけなさい) 言うて。茶碗や皿や鍋や 御櫃の 空いたのを 皆 洗ろて。夜学へ行かんならんのん (行かぬばならないのに) 早よ (早く) 行かな (行かなければ) おもて (思つて) 気な (が) もめて (あせて) がしやがしやとすると、えごと (完全に) 洗るときや (洗っておけ

ば) ええけど (よいのに) 言うて、朝ん (に) なると めつつぼ (飯粒) な (が) 付いとると (て居ると) わるわれてのお (怒られて)。

たたらつた 足りなかった

たたらつた しなかった

…**たられ** してあげます

たらわす (たらはす) (足) 【他サ五】 1) 足りるようにする。十分にする。2) とどかせる。(上、阿)

たらわせん 手が届かない 届かない 及ばない たらわん参照

たらわん とどかない。たらう参照 (志 (浜島、神明、立神、国府、安乗)、上、阿) [会話] てえ (手) な (が) タラワん (ない) とか、せえ (背丈、身長) な (が) タラワん とか言うて。とどかん (かない) 事なあ (を) タラワん 言うの (のです)。手な (が) とどかせん とか 捧な (が) とどかせん とか、言う時ん (に) タラワせんない (とどきません) そやれ 言うて 手な (が) タラワせんわれ 捧持て来い (持って来なさい) 棒もタラワせんわれ 言うて、短い事なあ (です)。とどかせんのを (ないのを) タラワん 言うの (のです)。

たらん (不足) 【名詞】 1) 少ない。不足している (志、鳥、員、四、安、一、飯、松、多、上、張、度、北、尾、熊) 2) 馬鹿、おろか者 [会話]

1) タラン 言うな (のは) 少ない事なあ (です)。飯を一杯もらんと (よそわずに) 八分目もって (よそつて) 一杯タランけど (けれど) 言うて。ちよいと (少し) 少けない (少ない) のおを (のを) タラン。からつぼ (空) なら、なんもない 言うねけど (言うのですが)、一膳に ちよつと タランと、タラんわれ (足りません) 言うて、かあるいと (軽いと) さいご (その時) タラン 言うてなあ (言います)。
2) 頭もなあ ちよいと 十銭に つまんわれ (詰む、足らない) タランねなあ (のだなあ) あや (彼は) 言うやんない (言うでしょう)。あや (彼は) ちよいと タランねよつて (足らないのだから) 十銭 つませんよお (つまない) 言うて。ちよいと (少し) おかしな事 言うと あやまあ (彼は) ちよいと (少し) コタランねよつてん (馬鹿だから) 言うてなあ (言います)。

…**たらん** してやらない (志) [用例] 助けタラン (助けてやらない)

たらんかい。たらんかな 不足していますか [用例] もて来た (持って来た) けど、まだ タランカイ

…たらんかい。…たらんかな (女性語)。…たらんかれ してやりなさい [用例] 助けタランカレ

たらんたし【名詞】不足分を補う物 (志 (布施田))

たらんたらんなよにあまる【俚諺】不足するだろうと予想して余分に作ると、結局は残り物が出る。
(志 (布施田))

たらんまい【名詞】不足分 [会話] まあ、わしな (私が) タランマイ出したるわい (てあげます) 言うて。

たらんまえ。たらんまし【名詞】不足分。[会話] タランマシ 足してくれえ (下さい) 言うて、ぜん (銭) でも ちよいと (少し) 足らんと (不足すると) タランマシ (分) 借して呉れるかい (借せて呉れますか) とか、言うてなあ。米でも 何んでも 足らんで (不足して) ちよいと かつたり (貸りたり) もおたり (貰ったり) する時ん (に)、タランマシ 言うて。不足しとる (して居る) 分 言う事や (です)。

たり (人)【接尾語】人を数える語について人員数を表す。ふたり (二人) よつたり (四人)。[会話] ひとり (一人)、ふたり、三人、よつたり (四人)、五人、六人、言うな (言います) かぞえんの (数えるのに)。

たり。だり である。(尾) [会話] かいダリ (だるくて) てまあ おとっしや、体な (が) とけてく (溶けて行く) よおなよお (ようだ) 言うてな、したたり言うて、じとじと しとると (している)、おおた、したたりわれ (です) まあ言うて。

たりとられ 充分に有る、足りている

たりる (足)【自ラ上】十分に有る (志、員、四、安、多、張、度、北) [会話] ま、そんで (それで)、ええやろど (よいでしょう) 言うてな、こんだけ (これだけ) あや (有れば) ええわれ (よろしい) 言うのをな、タリル 十分に有る 言う事やわな (です)。

たりん 不足している (多、度) [会話] 有るかいな (だろうか) 言うのをな、こんで (これで) 足りる かいな (だろうか) 言うのを、こんだけ (これだけで) て まあ タリンけど (が) 我慢しとけ (しておけ) 言うて。

たる (足)【自ラ五】十分に有る。足りる。

たる (垂) たれる 水がタル (志)

…たる【助動詞】【接尾語】してやる。してあげる。する。(志 (布施田、立神、国府)、鳥、桑郡、桑市、

三、四、鈴市、安、津、松、多、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] シタルは、言うね (言います)。おんな (俺が) だれ (どれ) シタルわ、クレタルわ 言うて、おれい (俺家) い (に) モオタルね (貰つてやるのだ) 嫁に言うて。

だる【名詞】空腹で力が入らない状態。だるにつかれる。(伊) [会話] ダルん (に) 付かれた言うて、だるい かいだるい 言うねよつて (言うから)、ダルん (に) つかれんねやんな (つかれるのでしよう)。かいだり (かいだるい) 言うて。どこやかやとおいき (遠方へ行く) する時 御飯食べんと (食べずに) 行くと、そや又 (それ又) ダルん (に) つかれんど (付かれるぞ) 御飯も食べて行かな (行かなければ) 言うて、一口でも食べてかな (食べていかなければ) 言うて、つぶもん (粒物、穀物) 入れると ダルん (に) つかれやせんよつてん (付かれないから) 言うて。あんで (あれで) つきもん (物) な (が) する言うけど (が)、自分が疲れて 来んねわい (来るのです) 腹へるとなあ。ダルん (に) 付かれた 言うな (のは) 腹な (が) へつて いごかれんよおん (動けないように) なつて来るもんで (ので)、ダルん (に) 付かれた 言うんやろな あ (言うのでしよう)。わがと (自分) 腹な (が) へつて たわいな (持ちこたえないように) なつてくんやろなあ (なつて行くのでしよう)。かいだりと (だるいと) 立たれんよおん (立てないように) なつて来るやんかい (来ます)。腹な (が) へつとる時や (は)。そすと 手のひら (手掌) い 米と言う字書いといて 舐え (舐めなさい) 言よお った (言っていました)。つぶもん (粒物) のまじないで 手のひらい 米と言う字書いといて それ舐めると、腰な (が) 立つてくんど (来るぞ) 言よお った。

…だる してやる。動詞につく。てやるの転。(桑郡、三、四、鈴市、伊、南) [会話] 此れ シタルわい 言うて、人の事 手伝う時ん (に) わしらな (私が) 此れ シタルワイ 言うて、てつとタルワイ (手伝つてあげます) とか 言う時ん (に)。シテヤル あんた (あなた) な (が) わしらん (私達に) 此れ して呉れるかい (くれますか) 言うて、頼む時は そげん (そんなに) 言うし シタルワイ 言うて あんたん (あなたに) 仕事 てつたう時ん (手伝う時に)。此の時は 言葉に依つて たるだけやなしん (でなくて) ダル ハコンダル 濁り

も打つなあ (打ちます)。その時の言葉に依って、本でも ヨンダル ヨンダルわい 読んで呉れえ (下さい)。

たるい。だるい (怠) 【形容詞】 1) 不充分である。

2) 転じて馬鹿。3) 疲れる。

たるいれ (樽入れ) 【名詞】 婚約が成立した時、固めとして婿の方から嫁の方へ仲人が柳樽を入れる事。柳樽 二本の手の付いた酒樽。胴は始め平たく、後、細長くなった。朱塗を塗ったりして祝儀に酒を送るのに用いた。(志 (片田、布施田、越賀、磯部、浜島)、北、尾、南) [会話] タルイレなあ 結婚話が決まると 樽だけ入れとこか (ておこうか) 式は延ばしといても (ておいても) タルイレだけ 先い (へ) せな (しなければ) 言うて。話な (が) 決まると タルイレ しよおったよってなあ (して居ました)。そして (そうして) 式も すぐん (すぐに) しても、又 嫌や (だ) とか なんやとか言うて来ると ものいれ (費用がかかる) するやんない (でしょう)、そやもんで (それで) タルイレして ちよいと (少し) 様子見んねやろなあ (見るのでしよう) 昔は、今しや (今は) 結婚式のひい (日) ん (に) タルイレ するけど (しますが)、昔やなあ (は) 樽 下げてきおったの (手で下けて行きました)。そして 遠いとこ (所) や (だ) 言うて、ふたあり (二人) 行てなあ (行つて) てえ (手) 変え (ると (左右に持ち変えると) はざんもんで (いけないので) 一人で行く、おもとおて (重くて) 置いといて (ておいて) 手変えんと (変えずに) やすで (休んで) 行きおったの (行つたのです)。此の時一緒に かけのいお (掛けの魚、同種同大の魚を対にして縄を通して樽に沿える) 樽い (へ) 掛けるもんで (ので)。樽いなあ (へ) 藁を 三つ組ん (に) 組んで 下をたまむすび しといて (しておいて) ふたあつ (二つ) に分けて それを あごた (顎、鰓のとこい (所へ) さいて (刺して) 腹と腹と合わして (合わせて)、そしといて (そうしておいて) 上で結んで たある (樽) の つの (角) い (へ) かけんの (掛けるのです)。今しや (今は) 皆 にのてく (担つて行く) 担のてく (でも (担つて行くのでも) それ 掛けな (なければ) はざんね (駄目なのです)。掛けといて (ておいて) 竹い (へ) 赤白のきれ (布) 巻いといて (ておいて) つつてくけどなあ (吊つて行きます)。昔は皆、手で 持てきおった (持つて行きました)。今

し (今) みたよな (のよな) 大つきな かけのゆ お しやへんよってなあ (しないから) 昔や たいがい (大体) 一尺位やなあ (です)。鯛やてやら (とか) つえてやら (黒鯛とか) そいな (そんな) の しよおったけど (して居ましたが) 今しや (今は) 皆 われめがけて (自分を示すため) おつきい (大きい) のするやんない (でしょう)。ぞろぞろ 引きずんのを (ずるのを) してくよって (して行くから) やんない (でしょう)。タルガエシ (樽返し) 言うななあ (のは) あした (明日) めか 二日三日のうちに (間に) 向うの家い (へ) 母親と二人で 樽もてて (持つて行つて) 礼言うて すんの (するのを) タルガエシや (です)。タルイレの時 樽持てて (持つて行つて) そこの家い (へ) 置いといて (ておいて) 来ると、それを 酒ももろて (貰つて) みんな (皆が) それ頂いて (頂戴して)、隣の方い (へ) も 配つて 昔や (は) そして静まった (落ちついた) とこで (ところで) 二、三日のうち (間) に タルガエシ いてこな (行つて来なければ) はざんなあ (いけない) 言うて、行くの (のです)。母親と伯母さんと行くの (のです)。あんな (あれか) 恥かしんてや (恥かしいのです) 連れられて行くの (のが) タルガエシ。三人で行く。して (そうして) 昔や (は) なんも (何も) 知らんもん (知らない者) もろてもおてのお (貰つて頂いて) 頼もんのお (頼みます) 言うて言よおったけど (言っていました)。嫁さん 恥かしもんで (ので) あらむしろ (新筵) の、ひげむして しょか (する事) が無いやんない (でしょう) ものも言われやへんし (言えない)、そやもんで (だから) 新筵のひげ むしらしとけ (ておけ) 言うて 嫁さんに。それ 川柳で 嫁さんな (が) のの字 書く言う それも 一緒やわい (です)。のの字 書かんと (ずに) 筵にひげな (が) 有ると それでも むしらな (なければ) やんない (でしょう)。そすと (すると) こんだ (今度は) 婿の小父は (婿さんは) 泊りん (に) 行くのんなあ (のに) 舅屋 (嫁の実家) へ 初めて行くのん (のに) 大戸口 (玄関) までいて (行つて) 手掛けんねけど (掛けるのだが) あきよかいなあ (あけようか)、あけまいかいなあ (あけまいか)、戻つて来て 角い (へ) 来て 思案しとんねけど (して居るが)、そやけど 行かな (なければ) はざんし (いけないし) おもて (思つて) 又 いて (行つて) 障子の棧へ手掛けて あ

きよかいなあ あけまい かいなあ 思て そげん
して (そんなにして) いくくら (何度も) 戻った言
うやんかい (言います)。男でも 勇気ないんねて
わい (要るそうです) 初めて行く時。

たるがえし【名詞】 1) 樽入れの返礼。たるいれ参照
2) 漁船が初漁出航を祝って、御神酒を貰った時の
返礼、獲った魚でする

たるがき【樽柿】【名詞】 渋柿の渋を抜くのに、樽で
したものの

たるき【名詞】 足場(屋根裏・床下)にする材木、根
太(志) [会話] タルキも こまこお(狭く) 打っ
といて(ておいて) くれえ(下さい) 持ちな(が)
ええよん(よいように) 言うてな。タルキ打ったの
な(が) あらくとおて(粗くて) まあ 言う家も有
るやんかい(有ります)。安大工ん(に) 普請 す
ると、タルキも あらくとお(粗く) 打って有って
まあ言うて。

たるぐちあけ【名詞】 宴会の最初の行事。酒樽の口を
始めて開き、酒を出す事。はだてる参照 [会話]
一番初めは タルグチアケや(だ) 言うて、一番し
まいは まな板洗い。本祝いする前に タルグチア
ケや(樽口開けだ) 言う事を言うなあ(言います)。
まえ日にすんのを(するのを) 前祝い タルグチア
ケ言うて たある(樽・酒樽)を 口開けて 親戚
中な(が) ごっつお(御馳走)の まえの日にすん
のを(するのを)。結婚式やとか(だとか) 初午や
とか(だとか) 言うて 大祝いする時に 今日
はタルグチアケや(だ) 言うて まえ日に おみき
(神酒) 頂くのはするけど(します) 今日
はタルグチアケや言うて 一番しまや(終わりは) まな板
洗いや(だ) 言うて まな板洗いして こえ持ちし
て 昔やしよおった(して居ました)。

たるごえ【樽肥】【名詞】 魚類の内蔵や骨皮を腐らせる
ため、樽に入れて作った肥料。(志(布施田))
[会話] タルゴエ言うな(のは) 酒樽みたいなのお
な(のようなのです)。魚 喰うた後を たある
(樽) 皆入れんの(入れます)。簗(天井の板) は
ずしたらんと(はずさずに) 口だけ 桶屋で切っ
てもおて(貰って) そして 蓋な(を) するよん(よ
うに) して有って そして 蓋あけといて(ておい
て) 喰うた後 それい(それへ) 入れといて、魚の
あらを。そすと 一杯ん(に) になると すご(蛆
虫)が湧いて来るもんで(もので) 赤土で その蓋
をねつとくの(塗っておくのです) 虫な(が) わか

んよん(ように)。くさいのおは(のは) ほんどん
(本当に) なつとも(何とも) しょおないねてや
(しかたが無いのです)。ちょいと(少し) 飛ばし
ても 何日でも 臭いの(のです)。洗濯しても臭
いの(のです)。あれ なぶると 匂な しゅみ込
んで 臭おて(臭くて)。魚だけやなしん(でなく
て) なんでも、あら(残り)を 放つたる(てや
る) もん(物)を 入れ込むの(のです) 野菜の残り
やどけ(などを) 入れ込んどくと(でよくと) 皆
腐ってく(て行く) やんかい(ます)。うましごえ
とは 又 違うの。うましごえは 野菜の残りや
(です)。畑のちっかい(近い) うちや(家は) う
ましごえい(へ) やるけど(けれど) ちょいと
(少しの) おや(おりは、時は) 魚い(と) 一緒
に入れ込んどくと(でよくと) 皆 腐ってくやんかい。
よけ(沢山) 有るときや(時は) うましごえい
(へ) 入れるけどなあ(入れます)。そやけど(し
かし) おおかた(大体) 魚やわな(です)、樽い入
れる 言うて。まあ野菜の残りや、おかずの残り
ちょいちょい(少し) 残る位はなあ タルゴエい
皆 入れ込んどきおった(入れて置きました)。す
ご 蛆 すごな ほおてくんね(匍つて来ます) タ
ルゴエなあ、どいらあい(大きい) のななあ(の
が)。蠅の子 へつて(産んで) 卵しとる思うと
どつてらかい(大きい) すごん(に) なつて 雨な
(が) 降るひい(日)は どこいでもほおてくね
(匍つて行きます)。そやもんで(それで) よけ
(沢山) 貯つて来ると 赤土で口止めたんの(止め
てやります)。虫な(が) 出てこんよん(来ないよ
うに)。

たるたてる 樽をいれる。縁談のまとまった時、結納
として樽を嫁又は婿の家に持って行って確約する。
樽入れ。[会話] 嫁な(の) 話な(が) きまって、
心な(が) 変わつてこんうちん(来ない間に) タル
ダケ タテトコやんかれ(ておきましょう) 言う。
今しや(今は) 直ぐに、結婚式するけど(が)、昔
や(は) なことおやな(仲人が) ひやつぺやぺんも、
いくくら(幾度)も、貰らいん(に) いても(行っ
ても) ああ とおさん(主人) な(が) おらせん
(居ない) とか、かあさん(母親) な(が) おらせ
ん とか、まだ 若いよつてん(から) とか、文句
言うどて(言っていて)、くれんで(くれなくて)。
それま なことおや 根気にかよて(通つて) こん
ぞせ(苦勞) かかしたねよつて(させただから)、

まあ 気な (が) 変わって こんうちん タアル (樽) ダケ、タテトコヤ 言うて、結婚式や (は) 先ですんねけど (するのだが) たるいれ (樽入れ) を しよおったなあ (して居ました)。タルタテルは、たるいれと一緒に、結納、納めた言う事やなあ (です)。そすと、それから 婿な (が) 泊まりん (に) 行くのなあ (です)。たある いれると、よさから (夜から)。

…たると してやると [会話] 切っタルと、はざん (いけない)。

だるにつかれる 空腹と疲労で動けなくなる。だる参照 (志 (甲賀)) [会話] ダルニツカレル、言うてな。腹へらすと ダルン (に) ツカレンド (つかれるぞ) 言うて、腹な (が) へってへってかいだりて (だるくて) いごかおんのを (動けないのを) ダルン (に) ツカレル言うんかいなあ (言うのでしょうか)。体な (が) いごかせん (動かない)。立つも、這いも出来んよん (ように) なつてくんでや (なつて行くのです)。力な (が) のおて (無くて)。ダルン (に) ツカレタラなれ 手のひらい (に) 米、書いて舐めると、そんで (それで)、飯 食うた言うので、だるな (が) のいてくねてわれ (のいて行くそうだ) 言うて、よお (よく) 言よおったなあ (言っていました)。

たるびらき (樽開) 【名詞】 1) 嫁入りの時、出発直前に柳樽の酒を一同に回すこと。(志、鳥 (答志)、度) 2) 祝宴の時、酒樽の栓を初めて開く事 [会話] ② タルビラキ言うななあ (のは)、初午やどけすと (など、すると)、昔やなあ (は) 樽かけとんね (置いているんだ) あの家や (は) 言うて、三日、四日つなあ 初午ん (に) になると、ゆわよおったわい (祝っていました)。そすとなあ (すると) 樽 一丁つかけて (置いて)、一升買いしとんな (しているのは) こたわせんね (追いつきません)。酒飲みな (が) 親戚に多いと。そすと、そのたある (樽) を、初めて、あけんの (あけるのを)、タルビラキ ん (に) よばれてて (招待されていって) 言うて、今しや (今は) 宿屋でするよつてん (から) たある かける 言うこた (事) 無いけど (が)、昔や (は) 初午や (とか) 嫁どり (結婚式) ん (に) になると 一週間も十日もしとよおったわい (していました)。そすとまあ (すると) 一升買いしとる (している) ぐらい 酒飲みの親戚な多いと、こたわせんもんで、四斗樽のおつきい (大き

い) の (のを) かけといて (置いておいて) その始めに たるぐちあけや (です)。今日は、われとも (貴方も) 来いえ (来なさい) 言うて、濃いもん (血縁の者) や (とか) 親しもん (者) よんで (招待して) 初めてたある (樽) あける時ん (に) タルビラキ 言うのなあ (です)。

だるま 【名詞】 魚名。めだい。イボダイ科の海魚、全長約90cmに達す。体は側扁して長く、目は大きく吻は短くて太い。成魚の背方は青灰色で、腹方は淡い、全体に赤味を帯びる物も有る。(志) [会話] ダルマ うまないんなあ (美味しくありません)。うまないんてわい (まずいそうです)。

だるましび 【名詞】 めばち 目撃 サバ科の海魚 マグロ類の一種、全長約2mに達す。体はよく肥え、目は大きく、ピンナガに似て、胸鰭が長い。背方は黒青色で、腹方は白色。肉は淡紅色で、美しく、特に晩春から秋に美味とされる。(度、南)

だるまや (達磨屋) 【名詞】 私娼を置いている宿。密淫売をする所

たるみ 【名詞】 ふえだいの仲間 くちび

たるみ (弛) 【名詞】 ゆるむ事。ゆるんでいる事。きつくなって居たものが張りがなくなる。[会話] タルミな (が) 来たれ (来ました) 言うやんかい (言います)。体な (が) かいだりと (だるいと) 仕事のタルミな (が) 来たんやれ (来たのだ) 言うたりな、そして きりもん (着物) でも あわせ こさえる と (作ると) 寸法をえごと (完全に) よお取らんと (取らないと) 裏と表と合わすと タルミな (が) 来てまあ言うて。タルミも 呉れとけ (ておけ)、あんまり (あまり) ぴんと 張つとかんと (ておかずに) 言うて 綱 張つた時んなあ (に)。

たるみ 【名詞】 農具 箕の一種 (一、安、松、阿、張、度) [会話] タルミ 言うてなあ みい (箕) の事を めえなあらくたい (目が粗い) のをなあ めえなあおつきい (目が大きい) 他のみい (箕) は、めえ (目) で、こまこお (小さく) ひんねよつて してあるけど タルミはふるたんね (粉、振るってやるのです) 上いなあ (へ) あらな (雑物が) 取れてなあ 下い (へ) こおな (粉が) 落ちんなあ (落ちるのです)。みい (箕) は ひんね 塵取りみたよん (のように) しとんのな (しているのです) ぴゅっぴゅつとひると みい (実) は、こっちい (手元に残って) して 軽いもん (物) 向おむいて (向かって) 吹けてくん (行きます)。そやよつて (だか

ら) みい (箕) でひつたれ言うてな。

たるむ。だるむ (弛) 【自マ五】 ゆるむ、張って居たものがゆるくなる。心、気持ちにしまりが無くなる。だらしなくなる。一方が長くて余る。タユムの転 (大言海) [会話] ダルム ダルンデ来たなあ言うて。にげ (人、人間) でも 怠けると あやまあ (彼は) ダルンどて (で居て) 言うけど (言います)。綱でも 何でも 引っ張ってあんのな (有るのが) 弛で来ると (弛んで来ると)、そや (それ) ダルデ キタヤんかあ (来たぞ) 言うて、しょおね (性根、根性) 入れとけ (ておけ) 言うて 引っ張って ぴんとせえ (しなさい) 言うのを、しょおね 入れとけ 言うて。かたつぽ (片一方) が、なあご おて (長くて) かたいつぱ (は) 短こおて、着もん (物) や、なんやかやでも ダルデキタ言うてなあ、はぐで来た言うたり 皺な (が) 寄って来ると はぐんで来た言うて。あの人ん (に) きもん (着物) こさえてもるたや (作って貰ったら) はぐんで来て みとみのおて (見苦しくて) 言うて 皺な (が) 縫い目な ダルンドンのおを (で居るのを) そんなり (そのまゝ) 入れ込んだると (入れてやると) 皺な 寄ってくんねやてや (来るのです)。

たるもち (樽持) 【名詞】 樽入れの時に角樽をかけた魚と、みてびきを沿え、婿方から、嫁の実家に運ぶ人。普通、父方 母方の伯 (叔) 母が、つとめる (北) [会話] タルモチ頼まれて言う。一番 濃いもん (者) な (が) 行くねよってなあ (行くのだから)、タルモチや (は)。樽 もてく (持って行く) 人を、今しゃ (今は) 吊ってくけど (て行くが) 昔や (は) てえ (手) で 下げてなあ、そして てえ 変えると はざん (いけない) もんでなあ (ので) 休んでなあ かげのゆお、どいらいの (大きなのを) しょおってなあ (して居て)、そやけど (しかし) あんまり (あまり) とおねえけど (遠くないが) まあ 村内だけやよってんなあ (だから) 村言うたてて (言っても) 今し (今) みたよん (のように) 広 ねえしなあ (無いので)。てえ 変えると、はざん 言うもんで (ので) 二人で いて (行つて) 交替に 右手やもんでなあ (なので)、二人 いて (行つて) おもと (重く) なつて来るとなあ。

だるんでくる 弛んで来る [会話] ダルンデクル言うて はぐで (ふくれて) 来たてやら (とか)、ダルデクル。だぼって (余つて) くんのを (来るのを) ダルンデクル。ふたあつ 合わせて 残つてく

ん (る) のを ダルデキタレ (来た)、そやれ (それ) 言うてな。ふたあつ 合わすのん (に)、してあつても きちつと合わんと かたつぽあ (片一方は) 短いし、かたつぽあ なあがいと (長いと) ダルデキテまあ 言うて。ダルドラレ (でいる) そや そか (そこわ) もつと ぴんと張れ言うて。にげ (人間) な (が) 怠けどんのも (ているのも) ダルンドル言うしなあ。あやまあ (彼は) ダルドンネ活 入れたらな (てやらなければ) はざんわれ (いけない)。

たれ 【名詞】 1) 砂糖、味噌、醤油などを混ぜ合わせ甘辛くした汁。流動性は粘液程粘りもなく、溶液より粘り、その中間程度。たれみそよりの転 (大言海) 2) 鮫など魚の切り身を塩水に漬け乾かした物。(志、伊、尾、南、熊) [会話] 1) タレ。鮭のにつめ ぬんのをなあ (塗るのを) タレもつけな (付けなければ) 言うし (言います)。そすと鶏やなんや かやを (何かを) 炊いても、タレを 上手んせな (しなれば) うまないやんかあ (美味しくない) 言うて。につめ しよい (醤油) と、さと (砂糖) や、酒や したのおを (混ぜたものを) ちよいと (少し) とろみ つけんね (つけるのです)、かたくりといて そいなのおを (そんなのを) タレ言うんなあ (言います)。2) タレで 魚のタレやら (とか) 鮫のタレ 干して してあると 美味いけどなあ (美味です) 鮫のタレで 美味いわれ (です) 言うて、塩味やもんで (なので) あつさりと うまいんなあ (美味です)。

たれ 【接尾語】 人を卑しめる語、あほタレ、はなタレ、くそタレ等

…**たれ** 1) してやれ。動詞について動作を促す語。命令する言葉。(志、鳥、北、南) 2) しました [会話] 1) シタレ、撲つタレ、拳骨でむくつタレ、これも したらんかれ (しなさい) 言うて。仕事すんのもなあ (するの) あれ シタレ、これ シタレ言うて 泣いたレ、怒つタレ どづいたレ、食うタレ むくつタレ 言うて。

…**だれ** …たれに同じ。命令形 そうしなさい。

だれ 【名詞】 1) 庇 (志 (布施田)、桑市) 2) 前の髪を張り出す型 [会話] 家の庇も ダレ、オダレ 言うて。倉のおダレやとか (だとか)、家のダレ 納屋のダレへ おいとけ (置いておけ) とか言うて。昔や (は) 皆 割木 (焚木) 置いとりおつて (置いて居て)。雨垂れ落い (へ) 置いとけとか、オダレ

い (へ) へし込んでけ (押し込んでおけ) 言うて。
2) ちよいと (少し) わかいしゅ (若い衆) ん (に) なって来ると、ダレ置いて、言うてなあ じっぱん (立派に) ダレを ぴんとしてなあ 油よけ (沢山) つけて おやいび (親指) 入れて してなあ ダレおいて、おおたえれ 言よおったね (言つて居たのです)。1) 庇のとこ (所) い (へ) ダレ こさえて (作つて) もらおやんか (もらいましょう)。雨な (が) 降り込まんよおん (に) 言うてな、庇よりなあ ちよいと (少し) 出して ひっくうして (低くして) ダレ こさえて (作つて)。

だれ【感動詞】1) どれ。くだされの転か。相手にその動作を頼む意を表す。(志 (片田)) 2) 怒る時の語 (初めに出る)。[会話] 1) ダレ 見せえまあ (見せなさい) 言うてな、ダレ マア 言うてな 子供の時分になあ 子供を ひきしめて (抱いて) 言うし。2) ダレ 言うな (のは) 怒る時も、ダレ そこら こくらん (に) 居つて見よ 言うて。そこらん (其の辺に) おらへん (居ない) まいきつてたれ (きりきり舞いして行った) まやがつてた (舞い上がつて行った)、わるわれたや (怒られたら) まやがつて 飛び出してたれ (行った) とか言うて、走りきつて逃げてくのを (行くのを) まいきつてた。ダレ ど ぐらしたるん (叩いてやろう) 言うて そこらん (に) おつて見よ言うて。

だれえ。**だれええ**。**だれえまあ**。**だれえまあえ**【感動詞】どれどれ。だい参照 (志 (布施田)) [会話] ダレ エ 言うのは わいと (自分) より ちよいと (少し) 目下のもん (者) に 言う言葉や (です)。

だれかて 誰でも 何人でも (津) [会話] ダレ カテ そいな (そんな) 事 すられ (します)。誰でも すられ 言うて。誰やてて (誰でも) すられ 言うのな (です)。誰でも 知つとられ (ている) そいな こた (事は) 言うな (言います)。誰やててな (誰でも) そいな (そんな) もん なあ (ものは) よ お (よく) 知つとられ (知っている) 言うたりなあ ダレ カテ。

だれげ (誰家)【名詞】誰の家 (度)

だれげん 誰の家に

だれこ 誰ですか。誰かの変化。

だれしも 誰でも (志 (布施田))

たれじり【名詞】尻たぶの下がつて居る尻 [会話] 尻 な (が) タレ ジリ や (だ) 言うと、尻 かかえる (支える) もん (物) な (が) してあんねんなあ

(して有ります) タレ ジリ は みとみない (見苦しい) 言うて。

だれぞ 誰か。(志 (立神、国府)、桑郡、桑市、亀、久、阿、伊) [会話] ダレ ゾ 来たか そこん (其処に) ダレ ゾ おるか言うて。尋ねても おん のか い (居ますか) 誰も おらせん (居ない)、ダレ おらせん かい (居ませんか) とか 言う時ん (に) ダレ ゾ 言うて“ぞ” 使うなあ (使います)。ダレ ゾ おる かい (居ますか) だれん も (誰も) おらせん わ い (居ません) 言う (言います)。

だれぞか 誰か (志) [用例] ダレ ゾ かん (に) 聞くと ええ なあ (よいのだ)。

だれぞかん。**だれぞに**。**だれぞん** 誰かに (志 (鶴方))

たれた (垂) 1) 下がつた。吊り下がっている。2) 大小便をする、した。たれる参照 [会話] 2) へ え (尻) タレ タ。は こ (大便) タレ タ。しょん べ (小便) タレ タ て やら (とか)。

たれたた 大小便などをしてしまった。たれる参照 [会話] しょん べ (小便) タレ タ タ。小便してしも た (しまった) 言うの (のを)、しょん べ タレ タ タ 言うの (のです)。しょん べ ち び つ た た れ 言うて ちよいと した な (したのは) ち び つ た た れ 言うて。

たれたたれ 1) 大小便などをしなさい、してしまいなさい。たれる参照 2) 大小便をしてしまった。[会話] 1) そこい (へ) タレ タレ、だん ねえ わ (かまわない) 言うて。いき なり (急に) こ ら ら な (子供が) 尻、振つて来ると、そこい (へ) タレ タレ ま あ せん ち や (便所) い (に) 迄 い と ら (行つていたら) た れ さ が し た ら れ (てやる) 言うて、2) した の お も タレ タレ 言うて まあ お や (俺は) タレ タレ 言うて、しました。

だれだれ【感動詞】どれどれ。相手を促す言葉。[会話] ダレ ダレ 俺 も 見 せ おん な (俺が) 見 た ろ ん (見てやる) ダレ ダレ 言うてな。

だれぢち【名詞】垂れさがつた乳房 (張)

だれど 誰ですか。誰だ。(上、阿、張、名) [会話] ダレ ド そこい (へ) 来た なあ (のは) 言う し な あ (言います)。俺 や ない (です) て や (たとえば) 俺 や て (だ言つても) ダレ ド オ、俺では、わ か ら せん や ん か あ (わからないでないか) 言うてなあ。お つ き い (大きい) 人 ら な (が) 来 る と な あ ダレ ド イ お 前 や (は) あ が み や (貴方は) ダレ ド イ

言うて、何処の人どい (ですか) 言うのをなあ なと (なんと) 言う名前の人か 言うのをなあ こらなら (子供なら) ダレドオ言うて どなたですか言うのを ダレド。

だれどい 誰ですか。誰方ですか。目上の人に使用する。[会話] なと (なんと) 言う名前の人か (ですか) 言うのをな、大人にや (には) ダレドイ言うてなあ 何方ですか言うのを ダレドイ。

だれどお 誰ですか。[会話] ダレドオ言うて、戸とんと叩くと ダレドオ言うて あけん (に) 行く迄 どなたや (ですか) 言うのん (のに) ダレドオ言うて。

たれながし (垂流) 【名詞】 1) 大小便を所かまわずにする事。無意識に大小便をする事。2) 転じて後始末をしないこと。[会話] ① おおた タレナガシやない (だ) 言うて、便所い (へ) よお行かんと (行けなくて) 寝床い したるとなあ (してしまうと)、タレナガシやない (だ) 言うて。大、小便をタレナガシたると。② 後始末をせんと (せずに)、引き摺りさがして、まあ タレナガシ みたよな (のような) 仕事して言うてな。 きりもり (区切り) つけんと (つけずに) すると タレナガシ みたよな 仕事の しいかた (仕方) やなあ (だ) 言うて。

だれなと 誰でも。誰なりとも。(阿) [会話] ダレナト たので (頼んで) 来い。ダレナト、かれなと たので 来て してもらえ 一人よおせな (出来なければ) 言うてな。

だれびより 【名詞】 怠け気分になる日和。暖かくてだるいような日和。(志)

たれめ 【名詞】 目尻の下がっている目 [会話] 目尻 な (が) さがつとんの (ているのを) タレメ。尻 な (が) だれとると (していると) たれじり。

だれもかも 誰も彼も。すべての人 (尾) [会話] ダレモカモ ひらびしゃきんすんねない (激しく叱るのだ) 言うて 誰も、彼も言うのを ダレモカモわ るい殺して (叱りつけて) 言うてなあ。

だれやあか 誰ですか。

だれやか 1) 誰かが。2) 誰ですか。[会話] ② あしこい (あすこに) 来たな (のは) ダレヤカなあ、わからせんよお (判りません)、めえ (目) な (が) めえんで (見えなくて) 言う。ダレヤカ なあ (彼は) だれそれん (に) よお (よく) 似とる なあ (似ている)、歩きぶりな (が) 言うたりなあ。

ダレヤカ言うて 誰か どなたかいなあ (ですか) 言うのを、ダレヤカ なあ あや (彼は) 言うて。ダレヤカ 思たや (思ったら) 言うやんかい (言うのですか)。ダレヤカ 思たや のおかあ (お前か) 言うね (言うのです)。ダレヤカ 思たや おとっしや (やれやれ) あがみ (貴方) かい (ですか) てやら (とか)、のおかあ とか。

だれやかなあ どなたですか。誰だろう。[会話] ここい (此処へ) なんやら (何か) 呉れとんね (呉れて居る) ダレヤカナア 言うて どこの人な (が) 呉れたんかいなあ (の दौरानか) 言うのを、ダレヤカナア こやまあ (これはこれは) なんやら (何か) 呉れとんねよお 言うたり。又 面と向って あんた (貴方は) ダレヤカナア 言うて、聞く時な (が) 有る。 おおた事 (逢った事) 無い人なあ (に) あんた ダレヤカナア 言うて。 私や (は) 誰それやわい (です) 言うて。誰かが 言うよおな意味と、どなたですか 言う意味と。

だれやかや 【名詞】 誰も彼も、だれもかも、皆んな、あの人も此の人も、誰でも。[会話] ダレヤカ やな (が)、今日は寄って来て言うて。友達の事を あれもこれも来る 言う事を。ダレヤカ やな (が) よけ (沢山) 来てまあ言うて。 あんたや こんたや そなたな (が) よけ 寄って来て言うのを、ダレヤカ やな (が) 寄って来て 皆んなな (が) 寄って来てまあ言うて。

だれやさん 【名詞】 誰か。誰かが。

だれやしらんけど 誰か知らないが 誰かが (張)

だれやら 【名詞】 誰か。(志、鳥、四、安、一、飯、松、多、上、張、度、北、尾)

だれやらさん 【名詞】 誰か。(亀) [会話] 名前、知らん もん (者) な (が) 来ると、さっき ダレヤラサン (が) 来たけど (が)、おら (俺は) 知らんわれ (知りません) 言うてな。知らん人を ダレヤラサン (だ) 言う。誰か来たけど (が) 言うのをな、ダレヤラサン (が) 来たけど な (が)

たれる (垂) 【他ラ下一】 1) 大小便をする。涎が出る。涙が出る。放屁する。(志 (船越)、鳥 (鳥羽)、上、阿、張) 2) 垂れる。水滴がしたたり落ちる。一端を止められた紐、布、紙等の他、端が下がる。首や糸などを下にさげる。3) 言うことを卑しめて言う。ぬかす。文句タレル。(志、一、上、阿、張、名、南) [会話] ① しょんべ (小便) タレル、涙タレル。タレル言うのは 大小便をする。② それから なんやかや

(いろいろと) 紐を結ぶと、そやあれ (それ) そのたれとる (て居る) ひぼ (紐) も はさけとけまあ (挟んでおけ) とか言うて。ひぼ な (が) 下つとて も (て居ても) タレル 言うし、なんか (なにか) 物な (が) 下つとて も タレトナ (垂れて居る) そや 言うて。水飴 取つても たれて来たれ 言うて。飴な (が) ダレタ位やなあ 言うやんかい (言います)。あや (あれは) たれる言わんと (言わずに) ダレル言 うなあ (言います)。頭さげるのおも (の) も 頭タレル。頭たらしとられ (たらし居る) 言うて、よお (よく) 言うなあ (言います)。下向く事を さがる とか、タレルとか。1) 尻もタレル 尻へる、尻ひる 言うの (の)です。尻ひつた言うたり 尻へつた言うたり。へると タレルは 卵はへるやし、糞はタレルや し (です)し、洩も下がって来ると タレル。洩たらしや (だ) 言うて、洩たらしよ (奴) 言うて。私たち のかんじべ 出しておこして 臭おて (くて) 尻たれ や (だ)。

だれる【自ラ下】 1) 気持ちに張りやしまりがなくなる。気が緩む、だらける。だらける参照 2) 緩む、たるむ、下がる。たれる。[会話] 2) なんか (なにか) 結んだもん (物) でも 下つて来ると、ダレル そやれ (それ)。下つて来た 言うのを ダレル。なんやかや (何彼) たれて来る事を、ダレル言うて。下つて来たりすると たれて来たれ、さがって 来たれ とか言うて。弛む だるんで来んのを (弛みが出るのを) ダレル言うて。

だれん 誰に。[会話] どなたに もろたんですか (貰いましたか) 言う事を、ダレン もろたんど (貰ったのだ) 言うて、ダレン そいな (そんな) 事 聞いて来たんど (来たのだ) 言うなあ。そいな事 誰でも 言うたられ (言っている) 和具中 言うて

たれんのかい 小便するのですか [会話] しよんべ (小便) タレンノカイ。昔や (は) 道ばたん (に) 皆 しよんべたご (小便壺) な (が) 有つてなあ、しよんべ な (が) しとなつて (したくなって) 来ても、いきなり (急に) 何処い (へ) でも できよおつたけど (出来ましたが) そして 便所でも 道ばたん (に) 有つてなあ、しとなつて 来るとなあ、そげん (そんな) 尻 ふつとらんでもな (振っていなくても) 何処い (へ) でもなあ ちよおず (便所) ん (に) おら してくれえ (居させて下さい) 言うてな、入いてくと、できよおつたけど (出来て居たが) 今しやなあ (今は)、しよんべ な (が) したかつても、なつと

も (なんとも) しよおな (仕方が) ない やんかい (です)。

だれんも 1) 誰も。(志(布施田)) 2) 誰にも。だあれもと同じ。参照 [会話] 1) ダレンモ おららつた れ (居なかつた)。ダレンモ おらなこた (私の事は) してくれやせん (してくれない) てやら (とか)、ダレンモ とんじゃくしてくれやせん (かまって呉れない) とか言うて。誰も 言うのうを (のを) ダレンモ 言うてなあ (言います)。

…**たろ** …てやろう。(志、鳥、桑市、鈴市、亀、一、阿、伊、尾、南、熊) [会話] シタロ、泣いたロ、怒つタロ言う。

たろう。たろお 足る。届く。取る。(志) [会話] タロテくれまあ (下さい) 言うて、取つてくれ 言うの なあ (の)です。高い所の物 タラウ言う、そこ迄 届く。手な (が) たらわせん (たらわれない)、届かせん (届かない) 言うの (のを) たらわせん言うなあ。わたしや (私は) たらわへんもんで (届かないので) もおちよいと (もう少し) いかな (行かなければ) い かんもんで (いけないので)、あんた (あなた) タロテくれえ 言うて 取つてくれえ 言うのを、タロテくれえ 言うてなあ。取つてくれえ (下さい) 言わんと (言わずに) タロテくれえ 言うて。勘定 (計算) の時ん (に) こんで (此れで) たるよん (足りるように) しといてくれえ 言うたり 有るよん しといてくれえ 言うのを、タルよん しといてくれえ 言う時も有るし (有ります)。その時も 金銭な (が) それに タロトルやんかい (達して居ます)。そいな (そんな) 時も言うしなあ。物でも こや (これは) もおちよいと (もう少し) 有ると タラウねけど (たらののだが) 言うたり もおちよいと なけな (無ければ) たらわせん (たらわれない、足りない) けどなあ (が) 言うたり。

…**たろか** してやろうか (三) [会話] おんな (俺) シタロカ言うて

たろかい。たろかな (女性語)。たろかれ 不足している 十分でない たらわれない (尾) [用例] そんだけ やそこら (その程度) もて来たて (持って来て) も タロカレ。

…**たろかい。…たろかな** (女性語) てやろうか

たろて 1) 取つて下さい (志、鳥、伊、松) 2) とどいて [会話] 1) たつかい (高い) とこ (所) ん (に) 有るとなあ、それ タロテくれ (下さい) たつかい (高い) とこ (所) か、遠いとこん 有ると、手

な(が) たらわせんと(届かないと)、それ ちよいと(少し) タロテエ言うてな。取ってくれ ちよいと(少し) 寄せてくれ 言うの(のを)、タロテくれ言うてな。取って下さい言うのを それ タロテエ 言うねんな(言うのです)。

たろてきた 一人前に働けるようになった、成人した

たろてくる 一人前に働けるようになる(志(神明、立神、甲賀、国府))

たろてくれ。たろてくれえ 取って下さい たろう参照

…**たろん** …てやろう。たろに同じ。(志(布施田)、鳥) [会話] おんな(俺が) シタロン言うてな。くれ タロン、言うタロン、どづいタロン、むくッタロン 家い(へ) いて(行って) とおさん(父さん) に、言うタロン言うて、ちっさい(小さい) 時分(頃) に 泣きおった(泣いて居ました)。家い いて かあさん(母さん) に言うタロン言うて、喧嘩して負けると 家い(へ) いたや(行ったら) 言うタロン言うて。

たわい【名詞】 手答え。応答。支え。持ちこたえ。[会話] なんか(何か) しよおね(勢い) な(が) 無い よん(ように)、考え事したよおん(ように) しとる(している) 時な(が) 有るわい(有ります)。タワイ な(が) 無いよおん しとると(していると)、あや(彼は) とぼらんと(ぼんやりと) なんやら(なにか) 考え込んだよおん しとられ(している)。

たわいない。たわいなねえ。たわいねえ。たわいもない
【形容詞】頼み所が無い。手ごたえがない。容易である。たやすい。(志(布施田)) [会話] 力な(が) なんも(何も) 無い。おおたまあ こや(此れは) タワイナイよん(ように) しとんない(して居る) 言うて。ぐたぐたして、しよおね(根性) が無いよん しとると(して居ると)、ぴんとせんと(せずに) しとると、タワイナイよおんなあ(だ) 言うて。喰うもん(物)でも、歯ごたえな(が) 無いと、タワイナイよおんなあ 言うて、あんまり(余り) やいこいと(柔らかいと) タワイナイよおんなあ。手ごたえが無いとか 歯ごたえな(が) 無いとか言うて こたい(こたえ、感じ、應) な(が) 無い事を。

たわけもん(たはけもん)【名詞】 戯者。馬鹿者。阿呆。たわけものの訛 [会話] タワケモン はてなしな(が)、ばかもん(馬鹿者) よ(奴) 言うのをな、タワケモンの はてなしや(は) 言うてな。

たわごと(たはごと)【名詞】 馬鹿馬鹿しい言葉 たわごと

たわめる(撓)【他下一】 1) 曲げる 2) 弛みを持た

す

たん 呉れ、下さい、たもれの転。賜れ、給われ、たもるの命令形。希望、命令の意を表し、補助動詞として用いられる事が多い。なさい(志) [会話] タン タアン 呉れ言うの(のを) タン。それ タン 男の人らな(が) 俺も タン言うて 言よおったなあ(言っていました)。おなごは 言わせんけど(言いませんが)。俺も タアン言うて、だい(どれ) 俺も くれまあえ(下さい) 言うのを、タン タアン 言うて。たもれ言うのは おおて(逢って) たんもれ(下さい) 言うのなあ(のです) それを略して タン 言うんやろなあ(言うのでしょうか)。おおて たんもれ 餡の粕たんもれ言うて、その いわくかい(ですか)、タン 言うな(のは)。タン言うのは 下さい 言う意味が有るし、してタンとか いてタンとか(行って下さい) もの頼む時にも 男の人ら 言うなあ(言います)。して下さい 言うのも それしてタン 言うて、おなご(女) は 使わせんけど(使わないが) 男の人らなあ(が)。

だん(段)【名詞】 階段。高さの逢う台状のものの連がり。高さの高低。

だん【名詞】 1) 台。高さを高くするため、又物を積み上げる時湿気を防ぐため下に敷く物。2) 祭壇。

だん 1) 時 寝るダン 食うダン 2) 事

たんえ 1) 下さい 2) 接尾語 して下さい

…**たんか** たのか、待っとタンカ

…**たんかい** たのですか(志、北) [会話] シタンカイ、行て来タンカイ、食うタンカイ、まあ 休んダンカイ 言うて。寝タンカイ言うのをな よさり(夜) 行くと上品な人ら まあ 休んダンカイ 言うしな、心安いと(親しいと) ま 寝タンカイ言うてな。

だんがられ【名詞】 芋と芋粉を蒸して、搗いて団子にし、乾した物。だんごあられの略か(志) [会話] 芋(薩摩芋) のこお(粉) を びしゃいといて(潰しておいて) 挽いといて(ておいて) ほして(そうして) 芋炊いて、こねといて(ておいて) そして又 もおひとくら(今一度) 蒸して それを 搗くと 真っ黒ん(に) いん(犬) の糞みたよん(のように) なって。それを こんだ(今度は) かがみ(鏡、平らにのぼす) ん(に) しといて(しておいて) 塞の目ん(に) 切んねやんかい(切るのです)。それを ダンガラレ 言うの(のです)。はやもちは 一回芋炊いて 芋の粉入れて こねたると(てやると) はやもち言うて、ふたあくら(二度) 蒸させんの(蒸しません)。ダン

ガラレは 一回こねといて 又 ふたあくらめ (二度目) 蒸してなあ 白でちよいと (少し) 搗いたると (てやると) じっぱん (立派に) とりあう (混じり合う) 言うて それを かがみやとか (だとか) こだら (なまこ、海鼠のような形、紡錘形) に取つといて 切ると、そんな (それが) 乾くと ダンガラレや (だ) 言うて。かがみ言うて 楕円にして びしゃいたんのを (潰してやるのを。鏡餅の形) かがみん (に) 取る 言うしなあ (言います)。こだらん (に) せえ (しなさい) 言うて まるくとお (丸く) して 枕みたよんして (のようにして) なまこみたよんなあ (のように) して それを切って 干すと真っ黒ん (に) いん (犬) の糞みたよん (のように) なんねてや (なるのです)。そやけどなあ美味しいなあ喰うと (食べると) かったい (堅い) けどなあ (けれども)。

だんぎ (談議) 【名詞】 1) 相談する事。2) 掛け合う事。[会話] 1) ダンギする、話やい (話合い) する言う事かい (ですか)。話合いに来る言う事なあ。

だんぎり (段切) 【名詞】 1) 決断する事。2) 終わり。終わりになる事。一段落。[会話] 2) 終りになった言うの だんぎりつけた言うの、1) だんぎりつけな 言うたよおな事 言うとて (ていて) 言うて。だんぎりな (が) きれんで まあ言うて よお言うやんかい (よく言います)。

だんぐい 【名詞】 杭を打つ時、あらかじめ、短かい杭を打つて、後に目的とする杭を打つため、初めに、打つ短かい杭 [会話] だんぐい 言うな (のは) ほっそい (細い) 短かいのおをな (のを)、ちよんざらかしてなあ (尖がらして) そんで (それで) 叩くと、短かいもんで (ので) 叩きよいやんない (やすいでしょう)、そんで (それで) 叩いて、穴あけといて (ておいて) それ 抜いといて、その後いなあ (へ) 杭 突っ込んで つくの (叩くのです) それを だんぐい 言うの、二度打ちなあ (です)。ほっそい (細い) ちっさい (小さい) のおで (ので) 先に (に) 穴あけといて、その 穴 あけんのを (あけるのを) だんぐいや (だ) 言う。

だんご (担桶) 【名詞】 肥桶。(志 (浜島、布施田、片田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎、相差、加茂)、員、安、津、飯、多、度、北、尾) [会話] たあご タンゴの事を、たあご 言うねんなあ (言うのです)。たご 言やええねけど (言えばよいのに) 此処らん (のは) たあご。たあご 持て来い

(持て来い)、こえ (肥料) かえんのん (汲むのに) 言うて。たあご 言う時は こえタンゴ、そして水汲むのは うなし (同じ) 桶でも あれは にない。タンゴは形な (が) 又 ちよいと (少し) 違うの (のです)。ちよいと なかぶくら (真ん中が膨らんで居る) 口な (が) すぼんで (縮まって) たんごりこさん よおんなあ (あふれ出ないように)。にないは 上から下い (へ) 迄 まっすぐ ちよいと (少し) 口な (が) 開いとるし (て居ます)。

だんごじる (団子汁) 【名詞】 小麦粉などの粉をこねて作った団子を、味噌汁やすまし汁に入れたもの。[会話] だんごじるなあ (ですか) おつけい (味噌汁へ) うどん粉 (小麦粉) でも そばのこお (粉) でもこねて、おつけい (へ) 入れると うまいんなあ (美味しいのです)。だんごじる しょおやんかれ (しましょう) 言うて、だいこ (大根) きぞだり (刻んだり)、なあ (菜) きぞだり して 入れといて (ておいて) それい (それへ) 団子こねて 落とすとだんごじるや (だ) 言うて 寒い時や (は) だんごじるな (が) うもおて (うまくて)。

だんごばな (団子鼻) 【名詞】 鼻の先が団子の様に丸い形をした鼻 (熊)

たんこぶ 【名詞】 1) 瘤 (志 (片田)、松、多、尾) 2) 邪魔もの [会話] 2) 目の上タンコブ。目の上のタンコブやてや (だ) 言うて、邪魔ん (に) なる人をまあ 仕事の邪魔や、話の邪魔ん (に) なる、あんな (彼が) まあ、目の上のタンコブやてや 言うて。その人な (が) おると 話も出来やんしなあ (出来ないし) 仕事もすすませんし (ないし)、ちゃちゃ入れん ので まあ あんな (彼が) タンコブやてや 言うて、よお、言うない (よく言います)。1) タンコブ言うな (のは) 瘤やけどなあ (だが)。2) そのなあ ちゃちゃ入れて来て 仕事しても しにくいし 相談事でも しにくい あんな (彼が) 一人来ると タンコブでまあ 言うて 何事も きまらせんね (決まらないのです)。

だんごもち 【名詞】 1) 団子餅 だんが られ 参照 (志 (鶴方)) 2) 団子持。葬列に送り団子を持つ人。[会話] 1) だんが られ だんごモチや (です)。はや餅 言うな (のは) 芋炊いて 芋へ芋のこお (粉) を茶碗一杯入れといて (ておいて) ごしょごしょと こねたと (こねてやると) そや (それは) 芋のはやもち、はや (早く) 作るもんで (ので) はやもち。だんごモチ 搗かな (なければ) はざんわれ (いけない)

言うてなあ ダンゴモチ 搗く時や (は) ちよいと (少し) 杵で搗かな はざんね (いけないのです)。

たんごらかす。たんごりこす 担桶を担っついて居る時、内容を桶からあふれさせる。[会話] たあご (肥桶) は 口な (が) ちよいと (少し) すぼんで (狭くなって) なかぶくらん (中が膨れに) なって、タンゴリコサンよおん (こさないように)。タンゴラカス タンゴリコス 言うな (のは) ぐらぐらゆると (ゆるすと) こぼれるやんない (でしょう) それを タンゴリコス 言うの。

たんころがえす。たんころがす。たんごろこす 担い桶からあふれる。[会話] 餌担に 鯛一杯入れて 若いし (若い衆) な (が) 浦から 走んねやんかい (走るのです)。走ると タンコロカエシテ 鯛も皆 飛び出して来て、それ 拾いん (に) にない 一杯 水 入れると 歩くと じゃぶじゃぶするやんない、それを タンコロガス 言うの。タンゴロコシテ 鯛と水 と 道い (へ) 皆 はき出しとて (放り出して) それを ひろよおった (拾っていました)。たごとごと 揺れんねやろん (るのでしょうか)。水 な (が) 揺れて越すのを、溢れることを タンコロゴス こえ (肥) にのでも (担っても)、歩くと タンゴロゴスやんない (でしょう)。そすと (すると) 落し藁 言うの (のを) たんご (担桶) い (に) すくで (藁屑) を 落し藁を タンゴラカサン (かさない) よおん (ように) 入れんねやんかい (入れるのです)。鯛は そいなもん (そんな物) 入れやせんやんない (入れないでしょう)、そやもんで (それで) いっしょけんめ (一生懸命) で 走るので ばちやばちやして しお (海水) タンゴロコシテ 鯛と潮と 溢れ出て。

だんごんなる 一塊になる [会話] ダンゴナル 言うて、なんやかや (いろいろ) まつなつてくとなあ (こんがらかると)、網でも波な (が) したり (高かったり) 風な (が) 吹いたりすると 網なまあ (が) ダンゴナツテ (なっていて) 弱ったよお (困った) 言うてな。にげ (人間) でも よけ (沢山) ごやごやと 寄つとると (集まっていると)、おおた ダンゴナツタなあ 言うて

たんざく (短冊) 【名詞】 野菜 (根菜) を巾広く薄く切った状態。短冊型の略。[会話] せんぎりや (で) なしん (なくて) ひらくとお (平に) すると タンザク。一糶位かなあ 一糶ちよいと (少し) 足らん位や (です)。八耗 かなあ位の のおを (のを) さんばいずけに。なます言うのは ほっそお (細く) な せんぎりん

(に) すんのなし (するのですし) ちよいと (少し) ひらくとお (平に) すると、さんばいずけや (だ) 言うて 昔や (は) さんばいずけ よお (よく) しよつたんなあ (しました)。人参と だいこ (大根) あれう まかりおったなあ (うまかったのです)、さんばいずけ。

たんさん (炭酸) 【名詞】 1) 重炭酸ソーダ。重曹。2) 炭酸水の略。発泡する飲料水。[会話] 1) なんやかや (いろいろ) 炊くのん (に) タンサン 入れて 小豆でも ひねん (古く) になると、な、にえのくい (煮えにくい) もんで (ので) タンサン 入れて 芋の切り干しでも タンサン 入れると とろとろと とけててなあ (溶けていって)。

だんじこむ (談込) 【自マ五】 要求を入れさせるため、強い態度で相手にのぞむ。強要する。強迫する。[会話] ダンジコム。話しこむ言う事 かい (ですか)。いくら、意見を述べ やい (合い) しても まあ 事な (が) きまらん時やなあ (は)、幾ら ダンジコンデモ まあ はざんわれ (駄目だ) 言うてな、そこの家 いて (行つて) いろんな (色々な) 事 言う、むつかし (難かしい) 事 言うて。

たんじょお (たんじょう、たんじやう) (誕生) 【名詞】 満年。ひとタンジョウ。ふたタンジョウ。(鈴市、鈴郡、一、伊) [会話] 一年経つと ヒトタンジョオ (一誕生) や (と) 言うし、二年目 ん (に) になると フタタンジョオ やなあ。死んだ人は 一回忌や 二回忌 や 言うし、一年経つのを 一周忌。

たんす 【名詞】 落ち葉を集めて立方体にしたもの。箒筥からの語か。箒筥は災時に担いやすい様に、作られたもの [会話] ごみ (落ち葉) 掻いて (集めて) タン スや (と) 言うて 行李 みたよん (のように) して。

たんせえ 【名詞】 丹誠 心を込める事 心を込めて事を行う事 誠、真心

たんせき (痰咳) 【名詞】 痰と咳。[会話] 胆石 言うな (のは) 石な (が) たまんのかい (たまるのですか)、あや (あれは)。それやなしん (それでなくて) 咳 せくのも 言うやんかい (言います)。タンセキ や (だ) 言うて。痰と咳と出る もんで (ので) タンセキ。咳を よけ (沢山) せくと あやれ (あれ) タンセキ かして (と思えて) 咳 せくよおみよまあ (見なさい) 言 よおったやんかい (言つて居ました)。よお (よく) 間違うんけど (間違います)、タンセキ や (と) 言うて、腹の石 や (だ) おもとる (思つて居ます)。昔の人はなあ 咳 せくのを タンセキ や (です)。咳せ

いて 痰な (が) 出る もんで (ので) あや (あれは) あいきの事を 言うんかいなあ (言うのでしょうか) 喘息の事を。喘息や気管支炎なあ (です)。痰や咳な (が) 出るので タンセキ 言うんかいなあ 思うし (思います)、そすと (そうすると) 石な腹い (へ) たまっとると 胆石や (と) 言うし どっちゃ (どちら) な (が) どおかいなあ (どうか) 思う (思います)。

たんぜん (丹前) 【名詞】 どてら。広袖の綿入れ。
(志 (越賀、浜島、的矢)、鳥 (鳥羽)) [会話] タンゼン なあがい (長い) きもん (着物) へ 綿入れん のなあ (入れるのを) タンゼン。 そして (そうして) こお (子) おぶ (ので) タンゼンや (だ) 言うし、ねん ねこ (を)。子供 負ぶ (のは) ねんねこや (と) 言うし (言いますし) 亀のごおた (甲羅) をなあ ねんねこ も こさえな (作らなければ) 言うやんない (言うでしょう)。昔や (は) どおしよ やたらなあ (とか) 言よ おった (言っていました)。どおしよも こさえな (作らなければ) 言よ おったやんかい (言ってるたで有りませんか)。

たんだ 【名詞】 足袋 幼児語 たび (のたを) 重ねた、た (た) の変化した (もの (貝、鈴市、安、津、上、阿))

だんだら (段段) 【名詞】 斑。まだら。縞状にいくつかの色が染め出された模様。[会話] ダングラ すじ (の) きもん (着物) 言うて、縞の あらくたい (荒い) のを なあ、ダングラ すじや (だ) 言うて。昔や (は) 八丈 縞や (です) 言うて、ダングラ すじ んのお (のの) を 八丈 縞や (と) 言うて しよ おったわい (して居ました)。

だんだらこす 多量に 溢れる

だんだらすじ (だんだらすぢ) 【名詞】 布などを、縦に色違いで染めた物。談談筋の訛、或はダングラ (談量) の訛 ダン (談) は種々の色素で組んだ平組の緒

だんだらびろい 【形容詞】 大変広い。[会話] もの すごい (大変) 広い と、広い 事を ダングラ ビロイ。

だんだらぼし 【名詞】 伝説上の巨人。だいだらぼし参照 (志 (布施田)) [会話] ダングラ ボッチ。 ダングラ ボシ。 江田 (地名) の 善一家 と 久蔵屋 の あい (間) の ほっそい (細い) 畑を あしこ (あそこを) を ダングラ ボシや (と) 言う おも とんね よお (思ってる) 居る (のです)。 ダングラ ボシ な (が) 出た やら (とか) 言うて、あしこ に ダングラ ボシ 言う、ばけ もん (化物) な (が) 出よ おったん やろ なあ (出て居たのでしょうか)。

たんたん 【名詞】 あせび。あせみ。馬酔木。ツツジ科の常緑低木 高さ約3m 葉はやや厚く約3~8cm、巾1~2cmで先は尖り 縁には細かい鋸歯が有る。早春下垂する白っぽい提灯形の花が、多数総状に咲く 実は無球形のさやとなり有毒 [会話] タンタン 言う きい (木) な (が) 有る やんかい (有ります)。 提灯 さが らかした (吊した) よおん (ように) しいろい (白い) 花な (が) よつけ (沢山) さがる 木な 有る やんかい、山い (へ) 行く と。 御座 (地名) の人らは あれ を 墓へ さすん けど (供えるのだが) 和具 の人らは あれ を ささせん ねやんかい (供えないのです)。 和具 は あれ さすと (供えると) あら ぼとけ (新佛、死者) な (が) 出来る やら (とか) なん やら (何か) 言うて 和具 の人らは め ったん (絶対に) ささせん ね (供えないのです)。

だんだん (段々) 1) 次第に 副詞 2) 階段 名詞 [会話] 1) ダングラ ン、頭 も 禿 げて 来 た ない (来ました) 言うて。 2) そして (そうして) 坂な (が) ダングラ 坂や (だ) 言うて 梯子 段 でも ダングラ 梯子 言うて、段な (が) 有る もんで (有るので)。 そして 走 つて も ダングラ 走 り や (だ) 言うて 言う やん ない (言うでしょう) だ だ 走 り 言う のを。 段 (階段) と 次第 に 言う 意味 と、ダングラ ン に 次第 にな あ 坂 にな つとん の (なってる居るのを) ダングラ ン に あ が ん の なあ (上る) 言う のと。

だんだん 【副詞】 激しいさま。汗なダングラ出る。

だんだんざか 【名詞】 段が続いている坂。[会話] だ ん だ ん ざ か (段々に) な つ と る (なっている) と こ (所) ダングラ ン ザ カ。

だんだんと 【副詞】 次第に、次々に、[会話] ダングラ ン ト 暖 た か く な り ま し た、ダングラ ン ト ぬ く た く な つ て (暖かくなって) 来 て の お 言う て なあ 次第 に 言う 事。

だんだんに 【副詞】 次第に

たんたんば 【名詞】 卵塔場。葬式場。[会話] だ ん と ば (葬式の葬い場を) タンタン バ や (と) 言う の なあ (言うのです)。

だんだんばしご 【名詞】 階段。梯子。[会話] 梯子 段 で も ダングラ ン バ シ ゴ や (だ) 言うて、段な (が) ある もんで (有るので)。

だんだんばしり 【名詞】 大急ぎで走って行く事。夢中になって走る事。だだ走り。[会話] ダングラ ン バ シ リ 言う て だ だ 走 り 言う 人 も 有 る し (有ります)。

だんだんばたけ (段段畑) 【名詞】 山や丘の斜面を切り

開いてつくった階段状の阜。[会話] ダンダンバタケ、たなばたけを ダンダンバタケ言うてなあ。あれ 山をまあ 皆 畑い (に) つつくもんでなあ (作るので)、ダンダンバタケ、下から上むいて (向かって) だんだんと (次第に) してかな (していかなければ)。

だんち【名詞】【形容詞】 1) 段違いの略。高さなどが揃って居ないさま。食違って居るさま。差の有るさま。(志(布施田)) 2) 格段に違いのあるさま。大差。[会話] 1) ダンチは。ちんばかた言うて 上ん (に) なったり 下ん (に) なったり 短かかったり、なんがかかったり (長かったり) するのを、ダンチ言うてなあ。揃わせん (ない) のを。何でも 揃わせんの (ないのを) ダンチや (だ) 言うてなあ。くい違いも一緒やわいなあ (です) 揃わせんのやよって (だから)。そんで (それで) ダンチん (に) なつとる (て居る) 言うねよってなあ (言うのだから)。たかびく (高低い) の あんのも (あるのも) ダンチやし (ですし) ながみじか (長短) な (が) 有って 揃わせんのも (揃わないのも) ダンチ やんかい (です) 言うしなあ (言います)。2) も一つ どいらい (大変) 違いが有るのを ダンチ。

だんちがい (だんちがひ) (段違い)【名詞】【形容詞】 段に違いの有ること 程度の差の甚だしい事

だんづか (段塚)【名詞】物を多く積みあげた状態。(志(布施田)、名、阿、張)[会話] ダンヅカン (に) 積んだれ (積みました) 言うて、整頓せんと (せずに) 突っ込んで有ると もやげて (盛りあげて) 有るのを もしゃくしゃと なんも (全く、少しも) たたみもせんと (しないと) ダンヅカン 積んどる (て居る) 言うて。ごちやごちやん (に) 整頓せんと (せずに) そんなり (そのまま) 持て来て (持って来て) あけて もやげとくのを (ておくのを) だんづりこんで来たとか だんづりこんでいて (ておいて) いた (行った) たら (とか) 言うて。だんづりこんでいて (ておいて) あられ (有る) 言うて。だんづりこむ 一緒の事や (です) ダンヅカン (に) 積むとか だんづりこむとか 言うてなあ。

だんづりこむ 乱雑に積みあげる。だんづか参照 [会話] ダンヅリコンドンネ (こんでいる) 言うてな、片付けんと (ずに) もて (持って) 来たながり (まま) そこらい (へ) 放り込み 放り込みするやんない (でしょう) おおた ダンヅリコンドンネ 言うてな。もて 来てな (は) 棚い (へ) 置きか 揃えて置きかすると ええんけど (よいのだが)、もて 来たながり

納屋い (へ) 放り込んどき (でおき) 又、なんか (何か) もて 来て も 放り込んどき するとなあ、おおた ダンヅリコンドンネ こやれ (これ) 言うてな。整頓せんと (せずに) 有る事をなあ、目茶苦茶ん (に) 置いて 有る事を なあ。

…**たんで** たので (志、四、伊)

たんと【副詞】沢山。数量の多いさま。たくさん、いっぱい、程度が甚だしいさま。非常に。(志、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、安、津、阿、張、名)[会話] タント 言うのは よっけ (沢山、よけ)。よっけ もろたなあ (貰った) 言うのを タント もろたなあ 言うて。てぬぐいさん 踊っても “おめさん、ばかりに タント タント” 言うて よっけ 見せる事を タント タント 言うてなあ よけ (沢山) の事を タント 言うてなあ。

…**たんど** 1) してやるぞ。するぞ。(張) 2) したのだ なんしタンド

だんと【名詞】墓 (志)

…**たんどお (たんどお たんどお)** 1) してやった。した。行った。2) してやるぞ。するぞ。たんどと同じ [会話] 2) 撲つタンドオ、殺しタンドオ、やっタンドオ、げんこ (拳骨) で、むくつタンドオ、言うたりな。蹴つとばかしタンドオ 言うたり。やっタンドオ、1) おんな (俺が)、やっタンドオ (やっつけてやった)、あや (あれは) 言うて、おれん (俺に) やられタンドオ (やられたのだ) 言うて、わがと (自分が) しといて (しておいて)。

だんとば【名詞】弔い場。たんたんば参照 らんとうばの訛 (志) [会話] 葬式い (へ) いて (行って) きりきり まうの (廻る所)、がん (棺、柩) 据える (置く) とこ (所が) な有るやんない (でしょう)。それ ダントバ

だんどり (段取)【名詞】 1) 計画、手段、方法、準備、物ごとの手順。(上、阿、三、南) 2) 浜へ海藻が大量に打ち寄せている事。又それを拾うこと。[会話] 1) ダンドリ部長 言うてなあ、仕事すんのでも (するのでも) こんだ (今度は) あれして 此れして ダンドリすると。昔の人な (が) 仕事しよおより (するより) ぐん (謀り事) をしええ (しなさい) 言うて ダンドリな (が) ええと (よい) 仕事な (が) 早いし、ええ 仕事も 出来るよって (から) 言う意味で。ダンドリな (が) ええと 仕事な 早いぬ (のです)。ダンドリな (が) わり (悪い) と 此れしたて (してしまつて) こんだ なとすんねど (何とするのか) 言

うとる (言っている) うちん (間に)、ダンドリな (が) してありや (有れば) じゅんじゅんに (次々に) 先い (へ) 進むけど (けれど) ダンドリ せんと おって (せずに居て) 仕事しよお言うのん (に) さあ 道具持てこな (持って来なければ)、此れも持て来なは ざんわれ (駄目だ) 言うとると (言っている)と、仕事のだち (らち) な (が) 行かんけど (行かない)が、ダンドリよお (よく) してあや (してあれば) 仕事な (が) 早い 言うて。ダンドリを 仕事すんのん (するの)に ダンドリな (が) わりわれ (悪い) 言うてなあ ダンドリな (が) 下手やと (だと)。田植えの時や ダンドリな (が) わりと だち が 行かんで (行かなくて) てったいど (手つだいの人) を 遊ばしとくと (遊ばせておくと) もったい無いやんない (おいしいでしょう)。短い日に いちにちん (一日)で あれもして これもして おもとんのおに (思っているの)に 出来やせんのおん (出来ないの)に。ダンドリ 言うて 仕事する計画。仕事する手順 やなあ (です)。計画を上手に たてると 仕事な (が) 早い。
② ダンドリ 言うて な (のは) よけ (沢山) 寄って (打ち上げられて) 浜一杯 (一面) よんのを (寄るのを) ダンドリしとる (して居る) 言う (言います)。

たん 二人が (志 (甲賀))

…**たん** するな (志 (布施田))

…**たん** なのだ (安)

だんない 【形容詞】 大事なの転。構わない。差し支えない (志 (越賀、布施田、浜島、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、桑市、桑郡、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、久、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、北) [会話] そいな事なあ (そんな事は) 放つ といても ダンネエヤんかあ (かまいません) 言うてなあ そいな事言うたて (言っても) ダンネエわれ (かまわない) ほつときや (放っておけば) ええわれ 言う。ダンナイとか ダンネエ 言うのとなあ 放つ といても (ておいても) ええわれ 言う事を ダンナイ。

だんなかつたら 構わなければ だんねえ 参照

だんなし (旦那衆) 【名詞】 その地域の主だった人。金持ち。資産家。(志 (布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥、四、鈴市、鈴郡、安、一、松、多、上、阿、度、北、尾) [会話] 家に (で) 綺麗にしとる (して居る) 人を ダンナシ。ぜん (銭) の 無い のは ぜんなしや (です)。はいからで 漁師 も 行かな (なければ) 百姓 も せんとなあ (しないと)。

だんねえ 構わない、だんない参照

だんねえかい 構いませんか [会話] わたしゃ (私は) 下手糞 で ぶちよおほおやけど (だか) 私 な (が) したるわい (してあげます)。だいまあ (どれ) 下手糞 でも ダンネエカイ ダンナカツたら したるわい 言うて。

だんぬき 【名詞】 あこや貝を排卵させること。卵抜き [会話] あこや貝の 卵抜き、珠入れん (る) の ん (に) だん (卵) な (が) 有って 珠 な (が) 入れられ んでなあ ダンヌキ。

…**たん** 【接尾語】 1) してやるのだ (おんなしたんね、俺がしてやるのだ) 2) どうしたのだ (なしたんね)

だんねえ。**だんねえない**。**だんねえやんか**。**だんねえわい**。**だんねえわな** (女性語)。**だんねえわれ** だん ないの詛 1) 構わない。差し支えない。仕方がない。

(志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、一、松、多、度、伊) 2) 許してやる [会話]

① かません (構わない) 言う事を ダンネエ 言うね よつてんなあ (言うのだから)。
② そすと まあ そげな (そんな) 事したた (してしまった) ダンネエワレ 言うて、こらいたる (こらえてやる、許してやる) 言う事 やなあ (です)。まあ (もう) ええわれ (よろしい) 言う事 やなあ ダンネエ 言う事は ダンネエ 言うて。ダンネエワレ しゃあねえわれ (仕方がない) 言うてなあ。

たんねん (丹念) 【名詞】 【形容詞】 物事に細心の注意を払う事。十分に心を配ること。丹誠の念の意 (大言海)

だんねんかれ かまわないのか [会話] そげん (そんなに) しても ええんかれ (よいのですか) 言うの な (を) ダンネンカレ 言うてな

たんの 【名詞】 堪能。足んぬの転。十分満足する事。あきて来た。十分すぎて嫌だ。末尾母音の省略 (志 (布施田、志島)、張) [会話] タンノ した 言うて、あきた事 なあ (です)。タンノ した だ (しました) 今日 は 仕事 な (が) よけ (沢山) 有って、タンノ した なあ (しました) 言うて。よけ 何か うなじ (同じ) 事 しとると (して居ると) タンノ して来て 変った事 も したいなあ 思て (思つて) すんのを (するのを)、タンノ した 言うてなあ。飯 でも、うなじもん ぼつ か 喰うとると (食べて居ると) うたまあ タンノ や なあ (です)。うなじもん (物) ぼつか (ばかり) 喰 言うて。てこね (郷土料理) も 三日 続いて まあ タンノ や なあ、鮭 でも みかたぎ (三度) 喰 うと うも

おても (美味くても) まあ タンノや 言うてなあ (言います)。タンノする程 よばれたわい (御馳走になりました) 言うのは、充分に 腹一杯喰うと タンノする程よばれて (御馳走になって)。そして 遊んで 飽きて来ると、遊び タンノしたよお (しました) 言うて、遊ぶのも タンノして来んね (来るのです)。

たんのした 満足した。飽きた。(志、員) [会話] 芋飯 ばっか (ばかり) 食うたや (食べたら) タンノシテ、五目飯な (が) 食いたいわれ (食べたいです) 言うてな。仕事もまあ おんなし (同じ) 仕事ばっか しとて (して) タンノシタよお 言うてな。話でもなあ、あげな (あんな) 話ばっか (ばかり) 聞いて おら (俺は) タンノシタ、ねぶって (寝むくなって) 来たよお 言うてな。ぐじゃぐじゃと、どびんのつる、まあるよおな事 言うるとと (言っていると) みんな (皆が) タンノシテ 話や (は) 聞いとらんと (てなく) わがとな (自分達が) がやがや言うて喋って。

たんのする 満足する。飽きる。(員、三、鈴市、南) [会話] あんまりなあ (あまり) なあがいと (長いと) タンノスル。まあ、おぞげやなあ (いやだ) おもてくんなあ (思って来ます)。一番 短かい文、おせん泣かすな 馬 肥やせ それもあつさりと、ええやんかいなあ (よいでは有りませんか)

たんのせん 飽きない (員)

たんばしご 【名詞】 階段 (南) [会話] 階段の事をなあ ダンバシゴ。普通の屋根い (に) 掛けたりする梯子あ (は) 違うわい (違います) ただ 梯子言うわい (言います)。

たんばのり 海藻 (志)

たんばはおずき (たんばほづき) (丹波酸漿) 【名詞】 法螺の仔。てんぐにし卵、うみほうずき (志 (立神、甲賀、国府)) [会話] タンバホオズキ言うと 海に有るわい (有ります)。法螺の子か 何かの子やろなあ (でしょう)。法螺のこおやでえ (子です)。すごほおずき 言うのも有るしなあ なたほおずき 言うのも 有るしなあ。タンバホオズキは 団扇みたいな (のような) かた (形) の真ん中な (が) へっこんで そこに穴な (が) あつて。すごほおずき言うのは よっけ (沢山) 塊まってしとるし すご (蛆) みたい (のようです)。なぎなたほおずき 言うな (のは) 薙刀。それから むぎわらほおずき 言うのも 有るやんかい (有ります)。麦の形したのおな (のが) 麦な (が) よまし (よまし麦) の開いたよおなのおな (の

が) あれも 有るやんかい (有ります)。法螺がこお (子) やろ (でしょう)。皆 あれから われんねやろなあ (割れる。別れる。産まれる。)。波が立つと、もお (藻) に まぜって (混ぜて) 寄って来る (波打ち際に打ち上げられる) のも有るしなあ、海に 生えとる (て居る) 時も 有るし (有ります)。タンバホオズキ 貰うと 梅干しの汁で 染めてのお あれはよお (よく) 鳴て。すごほおずき言うのは すご (蛆) みたいん (のように) よっけん (沢山) なるの かたまって しとんの (しているのです)。あやのお (あれは) ちっさい (小さい) にしこな (螺が) へんねてや (産むのです)。なぎなたほおずき言うと 薙刀の格好しとんね (して居ます)。なぎなたほおずき言うのは よりあいにしな (が) 有るやんない (有るでしょう)。あのにしな (が) へるよおなのお (産むのようです)。おっきい (大きい) 法螺の子やら (か) 判らへんのお (判りません) タンバホオズキは。あの おっきい タンバホオズキは 法螺やろなあ (でしょう)。まないた歯に よお (よく) 似とる (て居る)。まないた歯 言うて 前歯やなあ (です)。前のにほ (二本) 上のにほ (二本) 河豚の歯に よお似とる (て居る)。

たんばら 【名詞】 大きな腹。段腹か。[会話] 仰向いて 腹ほして (出して) 足を広げて 手広げて 大の字になってなあ ダンバラかえしとると かわら (河原) い (へ) ぱちち干したよおん (ように) 寝とられ (寝て居る)。ぱちち言うのは ももひき (股引) やしなあ (です)。

たんばらかえす 腹を丸出しにして、仰向いて居る状態。

たんび (度) 【名詞】 たび。度の変化した語。ある動作の行われる、又ある状態にあるその時。(志、鳥 (答志)、三、伊賀地方、北) [会話] 来るタンビに 土産 もろてなあ (貰って) 言うなあ (言います)、来るタンビに 酒飲んどる (でいる) たらなあ (とか)。来るタンビに、かしん (菓子) もろて (貰って) 食うて (食べて)。来るたびに 言うのを タンビ、来る ごとと (ごと) 言うて、来る ごとと (ごと) なんやかや (いろいろ) もて (持って) 来てくれて言うてな。

たんびごと 【名詞】 度毎。その時いつも。その都度。[会話] 来るたびに 言や (言えば) ええねけどなあ (よいのだが)。タンビゴとニ 言うのは 来る時ごとに 言うねやろなあ (言うのでしょうか) 来る ごとと (たびに) 言うて、来るタビニ 言わせんね (言わないのです)。

たんびたんび 度ごとに、その都度

たんびに 度に、たびに、何度か繰り返された中の一回一回。ある状態に有った時、折。その時はいつも、たびたび、回数、度数。(桑市、鈴市、鈴郡、三、一、上、阿、張、名、伊) [会話] 来るタンビニ なんやかや (色々と) もて来て呉れて (持って来てくれて)。来るタンビニ なんやかや 珍し (珍しい) もん (物) 持て来て 呉れて、よばれんねよお (御馳走になります)。

だんびら (段平) 【名詞】 1) 刀。大刀。2) 無茶を言う [会話] ① だんべら 言うのを ダンビラ 言うんなあ (言うのです)、ダンビラ 振りまあして 言うて。② そして 鉄火、きんのをなあ (無茶 言うのを) ダンビラ 振って言うてなあ、酒のおで (飲んで) 鉄火 きる (無茶を言う) やんない (でしよう)、あやれ (あれ) ダンビラ 振りまあしとられ (まわしている) 言うて。ダンビラ 言うて、大きな刀の事を ダンビラ 言うて。

たんびん 度に その都度 たんびに に同じ

ダンブ 【名詞】 ランプ。(志、鳥、三、度)

だんぶくろ (段袋) 【名詞】 大きく膨れ上った筒形の状態 (蚊、蛭等が血を吸って太くなったような時)。段袋。だにふくろ (駄荷袋) の転。布製の大きな荷物袋。[会話] 蛭に吸われて ダンブクロ になつとる (なつて居る)。親はへちまのダンブクロ 言うの (のです)。ダンブクロ 言うのは 一杯になつとるの (なつて居るのを) 膨れて膨れて。かあ (蚊) な (が) ちい (血) 喰うて (吸つて) 尻な (が) まっか (真赤) ん (に) なつとんの (なつて居るのを) あや れ (あれ) 尻な (が) ダンブクロん なつとられ (なつて居る) 言うやんかい (言います)。袋やなしん (でなくて) なんやかやん (色々の物に) 嘯まれてすると、どどろびる (大きな蛭) でも 血一杯吸うと ダンブクロん (に) なつて言うやんない (言うでしょう)。あいなのおを (あんなのを) ダンブクロ や (と) 言うなあ (言います)。膨れあがつとるのをなあ (て居るのを)。そしてまあ やけずり (火傷) やらして (とくして) 水ぶくれになって ちんちろりん になつてくんの (来るのを) こやまあ (これは) ダンブクロん (に) なつて来た。あいな (あのような) 膨れかたすのなあ (するのを) ダンブクロ や (だ) 言うて (言います)。

だんべ (団平) 【名詞】 平たい荷舟。湾内で荷物の瀬取りをするものなど。伝馬舟。(志 (布施田、神明、立

神、安乗)、鳥、尾) [会話] ダンベえ 皆 貝積む やんない (でしよう)。貝積んだり 金網積んだり ダンベ であ ひらくたい (平な) 大きな ダンベや わい (です)。前の (太平洋側の) 漁師のと、ちごて (違って) ひらくと おて (平で) かたんでも (傾いても) めつたん (絶対に) かたがせん の (傾きません)。そして (そうして) ダンベ は ともどだけ (後ろの櫓だけ) しか (より) 無いやんかなあ (有りません)。そおすると わしら (私達) 汽船乗るとなあ 紀州の方へ行くとなあ 石炭を 焚きおつたのおで (焚いていたので) 石炭 積んでくんの (来るのです)。ダンベえ (へ) だまけん (一杯に) し といて (しておいて)。石炭 積んで来ると 汽船へなあ パクリ籠 (竹籠の一種) へ 入れ といて (ておいて) てえ (手) で こげん (手送り) すんの (するのが) 早い の な (のが) なるどて (並んで居て) パクリ籠へ入れとて (て居て) ピューピュー と 放んねてや (放るのです)。ダンベ 一杯積んで来といて (ておいて)。

たんべつ (反別) 【名詞】 一家で所有する土地の境界。土地の面積。[会話] 畑のタンベツ やなあ (とか)、家の土地でも 隣近所 で やしき (土地) の けえ かい (境界) 立てる時 (決定する時) タンベツ せ な (しなければ) 言うて それを タンベツ なあ (です)。

だんべら 【名詞】 1) 大きな刀、だんびらの訛 2) 無茶

たんぼ 【名詞】 真珠筏。(志 (鵜方、神明、立神、国府、安乗)) [会話] タンボ 言うて 真珠筏。松田 (真珠養殖場の名称) の ハイヤー や (と) 言うて はわ な (這わなければ) よお 歩かんね (歩けないのです) ひ と つつも (一つも、全く)。松田 の ハイヤー や よ つ て ん (だから) 言うて、婆ら ば つ か な (ばかりが) 貝 掃除 に 行く やんかい (行くのです)。そ す と (そうすると) タンボ 一つも よお 歩かんね やんかい (歩けないのです)。パール (浮き櫓) の、有 と こ 所 は よお 歩 く ね け ど (よく歩くのですが) ま ん な か (真ん中) 迄行くと、わ し わ し ほう ん (這います)。わ し ら (私は) 一 つ も (少しも) よお 歩 か ん で (歩けないのです) 早 よ (早く) 来 い ま あ (来なさい) 言うたてて (言つても)、さ つ そ く (急に) によお行かんの (行けなくて)。貝 つ ん の で (吊すので) み ん な な (皆が) 待 つ と も (て居ても) わ し ら ん な (私達のは) ほ お と て (這つて居て) な か な か よお 行 か ん ね や ん か い (行かないのです)。揺 れ て 来るとなあ。御木本 い (へ) 行 く と さ い ご (その時)

あの川へ 巡航船な (が) 通って来ると 揺つてくと (船を) むしりついとんね (しがみついています) タンポへ。

だんぼち 【**名詞**】海などで急に深くなって居る所。ぼち、ほら、洞、地面の凹凸のある凹部。[会話] ダンボチ い (へ) 飛び込んだ 言うてなあ へっこんどる (で居る) とこ (所) を ダンボチや (だ) 言うてなあ。ダンボチな (が) よけ (多く) 出けて (出来て居て) 言うてなあ。 ”ダンボチ かいて ひいらいて おおら (俺) な (が) せえ (身長) は こんだけや” (これだけだ《子供の遊び唄》) 言うて 飛び込みおったの (飛び込んで居ました。島の上から海中へ)。そして その おか (陸) でも ぼち (穴) な あい とて (あいて居て) たかぼち (高低) な 有るとこ (所) ダンボチや (だ) 言うてなあ、たかぼち 踏まれ (踏む) 言うてなあ。おぼま (小浜、地名) の ダンボチ で じょっく (いつも) 飛び込みおって (飛び込んで居て) そおすと (そうすると) 男の子な なあ (が)。“一で 芋屋の ねえさん (姉さん) な (が)” 言うて どぼん と 飛び込む と 次のな (人が) “二で 二階い (え) で 相談し” “三で 盃 さし出して” “四つ 夜中に 呼び込んで” “五つ いまき (腰巻き) を ひんまくり” “六つ むりやり (無理) 差し込んで” “七つ なんでも 気色よい” (なかなか抜けませんとも) “八つ やっぱり 抜けません” “九つ こじても 抜けません” “十で とおとお 抜けました” どっぼん 言うて みんななあ (皆が) 一人いつ (一人ずつ) 男の子な なあ (が) そげん 言うて 飛び込みおった (居たのです)。おなご (女) は そげな事 (そんな事) 言わせんねやけどなあ (言いませんが) 男の子な (が) 言うの (のを) 聞いて (て居て) 覚えとんね (て居るのです)。

たんぼのち 【**名詞**】たんぼの茎、根から出る白い液 (上、阿) [会話] タンポポノチ、ごんぼ (根) をなあ 切ると、しろい (白い) ちちな (が) じゃあじゃあと 出て来る それを 搾って 飲むと、白血病に ええね (よいのだ) 言うてなあ。

たんまに 時々、稀に、たまに、(志 (神明、立神、国府)、鳥 (鳥羽)、三、鈴市、安、久、一、張、伊、北) [会話] たまに来たのおに (のに)、ごっつお (御馳走) なと (でも) して 食わしたろかいなあ (食べさせてやろうか) 言うて、たまたま 来たのん (に) 言うて、タンマン (に) 来たのおに あいそ (愛想) もせんとのお (せずに) 言うて。ほっちらか

しととなあ (相手しないと) めづらし (珍しい) 盆 としよんがつ (正月) ん (に) タンマン 来るだけやれ (だ) 言うてなあ。

たんまり 【**副詞**】沢山、どっさり、十分満足なさま。[会話] タンマリ ため込んで 言うやんかい (言います)。沢山言う事なあ (です)。ため込んで来たなあ 言うてなあ、よっけ (沢山) ためとる (て居る) 事なあ。よっけ ためとる てわい (ためて居るそう) だ 言うたり (言ったり)、どっさり ためとる てわい 言うたり。あの家や (は) タンマリ ためこん どて まあ 言うてなあ。そげん (そんなに) 言うのを ごっぼり やられたよお (ごっそり 盗られた) 言うて。なんやかや (何彼) 盗まれたたり (てしまった) り そして (そうして) 台風 やてて (でも) 畑の もん (物) 風に やられたるやんない (倒されるでしょう)。まあ だいたい ごっぼり やられたたよお (てしまった) まあ ひまのかあやれ (大変だ) 言うて。だいたい ごっぼり 言うな (のは) 全部 なんも (何も) 残らず 根こそぎ やられたた (てしまった) 言うのを。まあ

だんまり (黙) 【**名詞**】黙っている事。ダマリ (黙) の音便 (大言海) [会話] ダンマリ 言うな、なつとももの言わんと おんの。

だんまりべ 【**名詞**】1) 音のしない屁 2) 黙って居て行動の大胆な人 [会話] 1) だまりもん (者) の 屁 は 臭い 言うて ダンマリべ は臭い。だまって おって (居て) すかすもんで (ので) 臭い。2) そして だま つとる (ている) もん (者) 程 なんか (何か) する 事は、大胆な事 すんの (するのです) へえ (屁) に例えるけどな (が)。する 事は、おっちゃん な (横着な) 大胆な事 すんねん なあ (するのです) だまりも ん (者) わ。

だんまりや (黙屋) 【**名詞**】無口のまゝで居る人。無口の人。

たんもれ 下さい。(志 (片田、志島、甲賀)、鳥 (答志)、伊) [会話] お手 タンモレ 飴 の糟タンモレ 言うて。てえ (手) 重ねて なんやかや 貰うよおん (に) になると。

たんもん (反物) 【**名詞**】反物。大人用着物の一着分に仕事げて有る和服用の織物。[会話] 着るもん (物)、反物をタンモン。

たんもんや 【**名詞**】呉服店 (熊) [会話] 今しゃ (今は) 呉服屋 やけど (だが) 昔や (は) タンモンヤ や (だ) 言うて、たんもん (反物) 売つとる (ている)

店。そすと、きり売りや(です)。たんもん で よ
お買わんと (買えなくて)、三尺売ってくれ (下
さい) 五尺売ってくれえ 言うて、袖口ん (に) すん
ん (するのに) 五寸売ってくれえ (下さい) 言うて。
惚れるなら 医者や坊主や教師は嫌い、縞の着物に小
倉帯、せるのまいかけ (前掛け) 粋な人言うて、タン
モンヤの 番頭さんを。

たんや。たんやれ【接尾語】 したのだ (桑郡、四、亀、
安、松、阿、度、北)

たんやわい。たんやわな (女性語)。 **たんやわれ【接**
尾語】 (し) たのだ。